

男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

平成28年3月
鹿児島市

目次

第1章 調査の概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査方法	3
3. 回収結果	3
4. 集計上の留意点	3
5. 統計上の用語について	3
第2章 調査結果	7
1. 回答者の属性	7
【F1】性別	7
【F2】年齢	7
【F3】職業	8
【F4】就労状況	8
【F5】婚姻状況	9
【F6】夫婦の就労形態	9
【F7】子どもの有無	10
2. 男女平等意識について	11
(1) 様々な分野における男女の地位の平等意識	11
(2) 社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識	17
(3) 男女が平等でない原因	21
(4) 男女が平等になるために重要なこと	24
(5) 夫婦同姓・別姓を選択できることに対する考え方	28
3. 家庭生活について	30
(1) 性別役割分担に対する考え方	30
(2) 性別役割分担に対する考え方に賛成する理由	34
(3) 日常生活における役割分担についての理想と実際	37
(4) 男性が家事、育児をすることについての考え	41
(5) 家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え	45
(6) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方の希望と現実	47
(7) 男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと	53
4. 社会活動・地域活動について	57
(1) 社会活動・地域活動への参加状況	57
(2) 女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと	60
5. 就労について	63
(1) (結婚、子育てを踏まえた)女性の仕事に対する考え	63
(2) 現実の働き方で「仕事を(一時的に)やめる」「仕事はもたない」を選んだ理由	66
(3) 職場での男女格差の有無	68
(4) 社会全体としての女性の働きやすさに対する考え	71
(5) 女性が働きにくいと思う理由	74
(6) 女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿	78

6. 教育について	82
(1) 子どもの育て方についての考え	82
(2) 男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと	85
7. 女性の政策参画について	87
(1) 方針・政策を決める際の女性の意見の反映度	87
(2) 政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由	93
(3) 女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること	96
8. 人権・暴力について	98
(1) ドメスティック・バイオレンスに対する考え方	98
(2) 配偶者等からのDVの被害経験の有無	103
(3) 配偶者等からのDVにより命の危険を感じたことの有無	107
(4) この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無	110
(5) 10歳代から20歳代における交際相手の有無	112
(6) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無	114
(7) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無	117
(8) DVにあった際の相談の有無	119
(9) DVにあった際、どこ(だれ)にも相談しなかった理由	121
(10) DVの未然防止にとって必要なこと	124
(11) メディアにおける性・暴力表現についての考え	127
9. 男女共同参画に関する用語	129
(1) 用語の認知度	129
10. 行政について	133
(1) 男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきこと	133
11. 自由意見	136
第3章 資料	147
調査票	147

第 1 章

調査の概要

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、平成22年度の意識調査以降、男女共同参画社会に向けた取組が進む中、市民の意識と実態がどのように変化してきているかを把握するとともに、28年度に行う第2次鹿児島市男女共同参画計画の見直しに向けて目標指標の達成状況等を把握し、今後の施策を検討するための基礎資料とするものである。

2. 調査方法

- | | |
|-----------|---------------------------------|
| (1) 調査対象者 | 鹿児島市在住の20歳以上の男女3,000人 |
| (2) 抽出方法 | 鹿児島市住民基本台帳から無作為抽出 |
| (3) 調査期間 | 平成27年9月4日(金)～平成27年9月25日(金) |
| (4) 調査方法 | 調査票による本人記入方式(郵送配布・郵送回収による郵送調査法) |

3. 回収結果

調査名	配布数	有効回答数	有効回収率
男女共同参画に関する市民意識調査	3,000人	1,452人	48.4%

4. 集計上の留意点

- (1) 集計結果は百分率で算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合がある
- (2) 複数回答の場合は、有効回答者実数より高くなっている場合がある。
- (3) 集計表中に、「年代」「性別」等の区分けをしているが、各区分に未記入データが含まれているため各区分の小計と、合計の数値が異なる場合がある。
- (4) 有意差検定には「 χ^2 乗検定」を用い、有意水準を5%（p値が0.05未満なら有意差あり）とする。
- (5) 分析コメントにおいては、検定により有意差が検出された項目に対してのみ「高い」「低い」「差がある」といった表現を用いている。

5. 統計上の用語について

母集団

調査対象となる数値、属性等の源泉となる集合全体のこと。

母数

母集団の分布を表現する数値のこと。

有意

「確率的に偶然とは考えにくく、意味があると考えられる」こと。

帰無仮説

検定の結果最終的に棄却されるべきもので、「母数Aと母数Bの間には差がない」という形の仮説。

p 値

帰無仮説の下で実際にデータから計算された統計量よりも極端な統計量が観測される確率。

有意水準

どの程度の正確さをもって帰無仮説を棄却するかを表す定数。有意水準5%で有意という場合は、「実際には偶然に過ぎないのに、誤って『意味がある』と判断している」可能性が最大で5%であるということ。

有意差

帰無仮説を「2つの母数に差がない」という形にした場合には、帰無仮説が棄却されることで「2つの母数の間には有意差がある」という結論が導かれる。

期待値（期待度数）

帰無仮説「2つの母数に差がない」が成立した時に期待される値（度数）

実測値（観測度数）

期待値（期待度数）に対し、実際に観測された値（度数）

χ^2 乗検定（カイ二乗検定）

期待値（期待度数）と実測値（観測度数）との差が誤差の範囲であるかを、 χ^2 乗値を用いて解析する検定手法。

χ^2 乗値（カイ二乗値）

期待値（期待度数）と実測値（観測度数）との差を表す指標。

$$\chi^2 \text{乗値} = \frac{(\text{実測値} - \text{期待値})^2}{\text{期待値}}$$

【参考】 本報告書で結果を引用した過去の調査

- ◆ 平成22年度 「男女共同参画に関する市民意識調査」（鹿児島市）
（20歳以上の男女3,000人、有効回答数1,395人）
※ 本文中では、「前回調査」と表記している
- ◆ 平成24年度 「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）
（20歳以上の男女5,000人、有効回答数3,033人）
※ 本文中では、「内閣府調査」と表記している
- ◆ 平成26年度 「女性の活躍推進に関する世論調査」（内閣府）
（20歳以上の男女5,000人、有効回答数3,037人）
※ 本文中では、「内閣府女性活躍推進調査」と表記している
- ◆ 平成26年度 「男女間における暴力に関する調査」（内閣府）
（20歳以上の男女5,000人、有効回答数3,544人）
※ 本文中では、「内閣府DV調査」と表記している
- ◇ 比較に使用した図表は、集計データを基に改めて作成しているため、前回調査及び内閣府調査時に公表されたものと異なる場合がある。

第 2 章

調 査 結 果

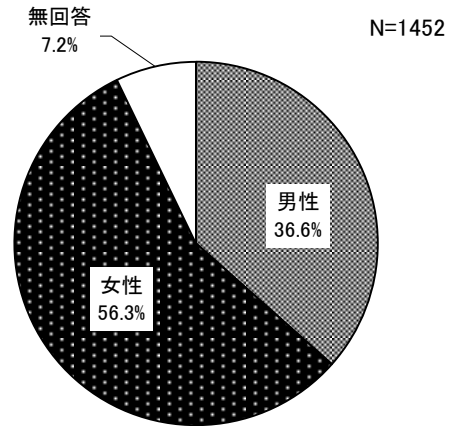
第2章 調査結果

1. 回答者の属性

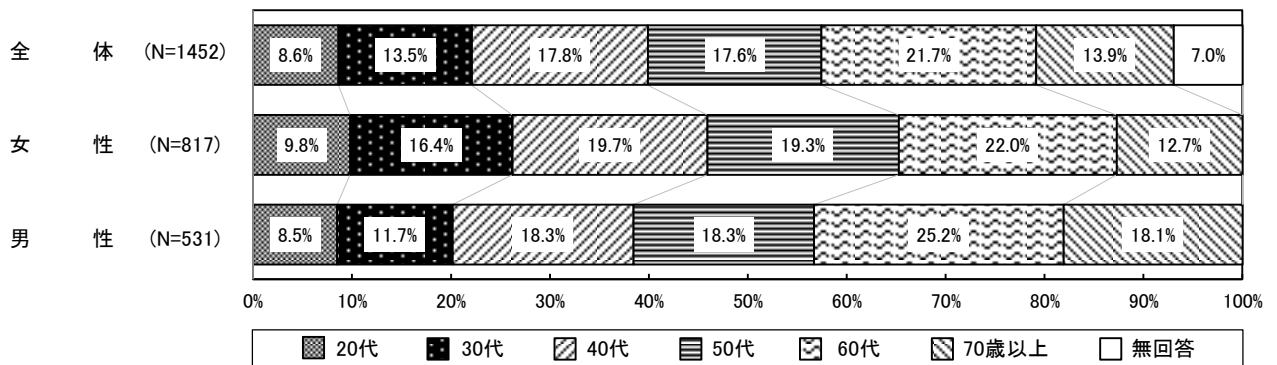
回答者 1,452 人の属性は以下の通り。

【F1】性別

	サンプル数	性別		
		女性	男性	無回答
全体	100.0%	56.3%	36.6%	7.2%
	1,452	817	531	104

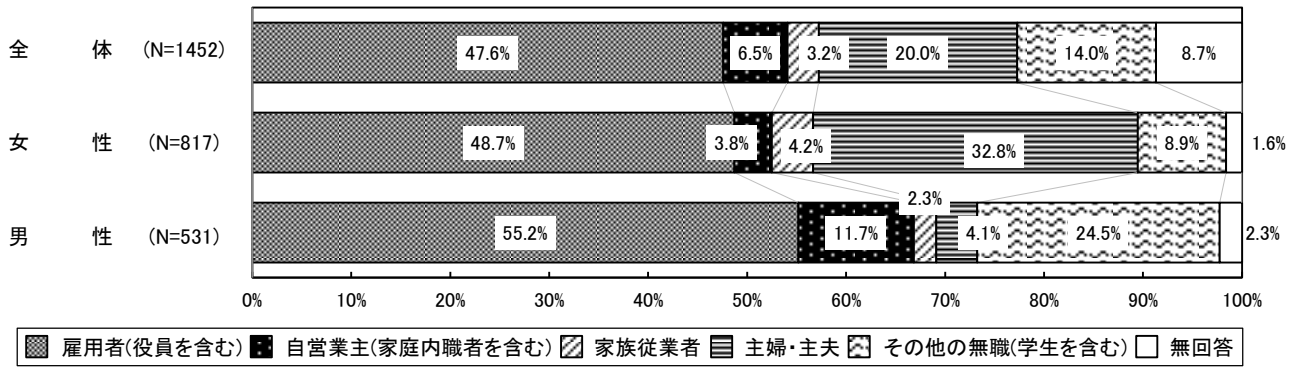


【F2】年齢



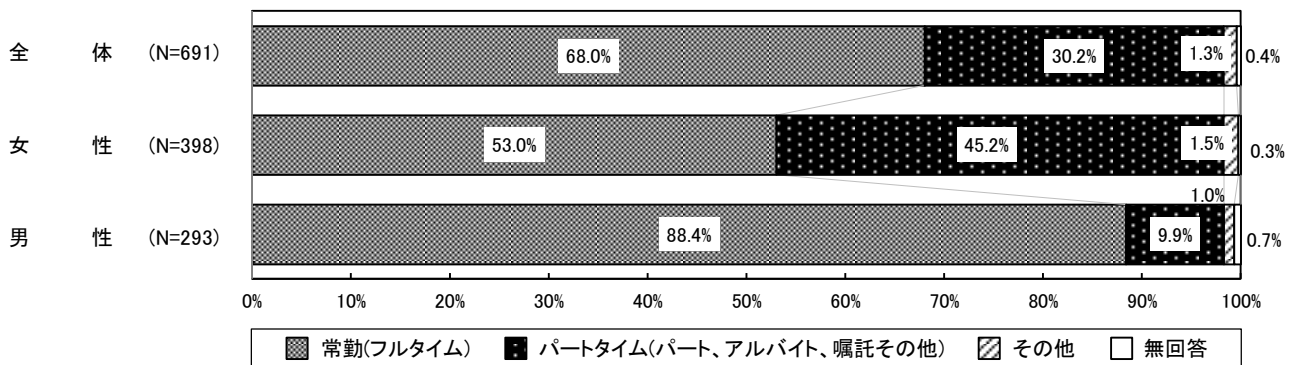
	サンプル数	年齢							
		20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答	
全体	100.0%	8.6%	13.5%	17.8%	17.6%	21.7%	13.9%	7.0%	
	1,452	125	196	258	255	315	202	101	
性別	女性	100.0%	9.8%	16.4%	19.7%	19.3%	22.0%	12.7%	0.0%
		817	80	134	161	158	180	104	0
	男性	100.0%	8.5%	11.7%	18.3%	18.3%	25.2%	18.1%	0.0%
		531	45	62	97	97	134	96	0
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	1.9%	97.1%	
	104	0	0	0	0	1	2	101	

【F3】 職業



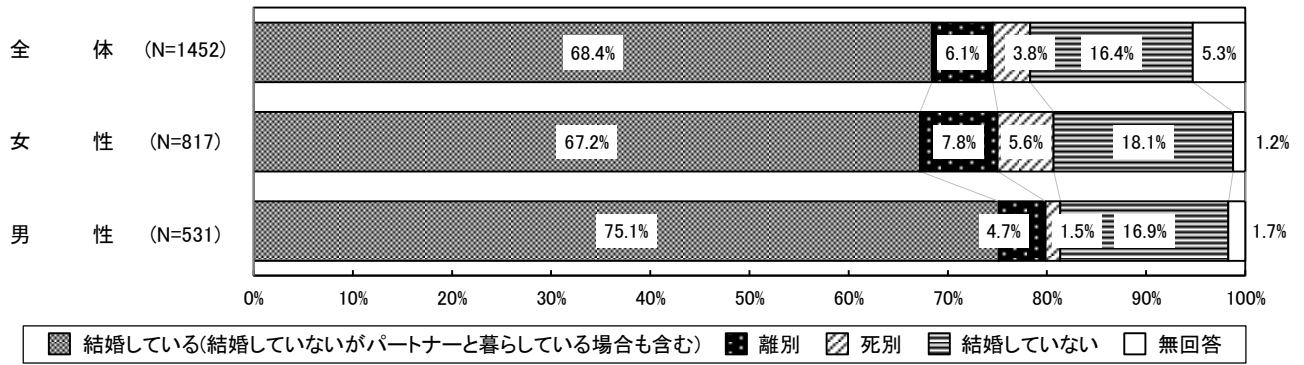
		サンプル数	職業					無回答
			雇用者(役員を含む)	自営業主(家庭内職者を含む)	家族従業者	主婦・主夫	その他の無職(学生を含む)	
全体		100.0% 1,452	47.6% 691	6.5% 94	3.2% 46	20.0% 291	14.0% 204	8.7% 126
性別	女性	100.0% 817	48.7% 398	3.8% 31	4.2% 34	32.8% 268	8.9% 73	1.6% 13
	男性	100.0% 531	55.2% 293	11.7% 62	2.3% 12	4.1% 22	24.5% 130	2.3% 12

【F4】 就労状況



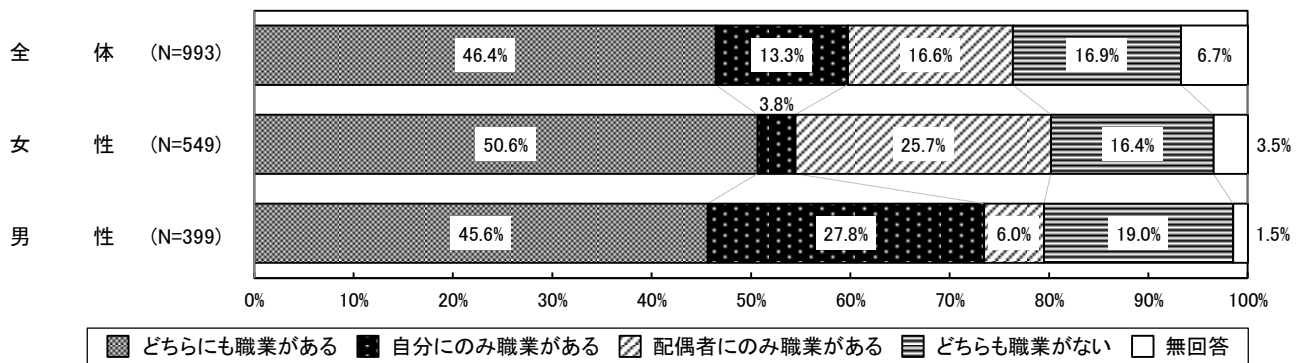
		サンプル数	就労状況			
			常勤(フルタイム)	パートタイム(パート、アルバイト、嘱託その他)	その他	無回答
全体		100.0% 691	68.0% 470	30.2% 209	1.3% 9	0.4% 3
性別	女性	100.0% 398	53.0% 211	45.2% 180	1.5% 6	0.3% 1
	男性	100.0% 293	88.4% 259	9.9% 29	1.0% 3	0.7% 2

【F5】婚姻状況



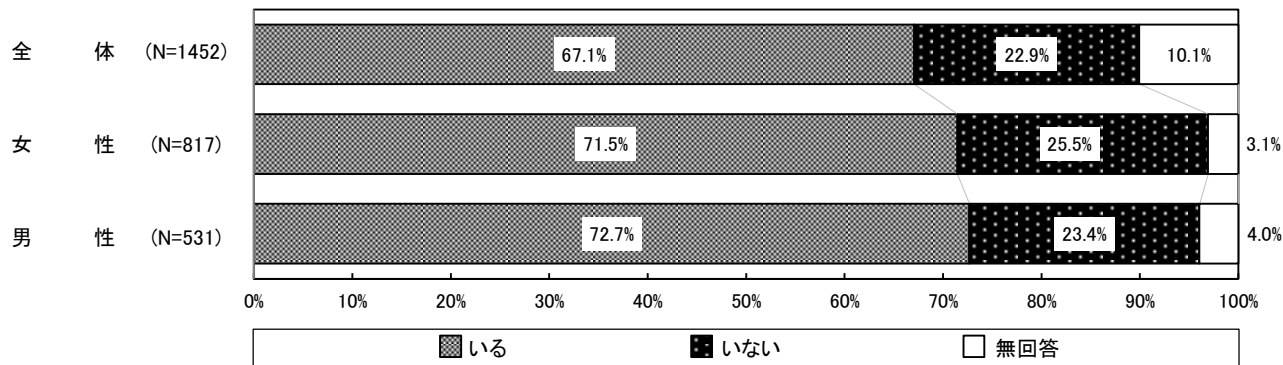
		サンプル数	婚姻状況				
			結婚している (結婚していないがパートナー と暮らしている 場合も含む)	離別	死別	結婚して いない	無回答
全体		100.0%	68.4%	6.1%	3.8%	16.4%	5.3%
		1,452	993	89	55	238	77
性別	女性	100.0%	67.2%	7.8%	5.6%	18.1%	1.2%
		817	549	64	46	148	10
男性	100.0%	75.1%	4.7%	1.5%	16.9%	1.7%	
	531	399	25	8	90	9	

【F6】夫婦の就労形態



		サンプル数	夫婦の就労形態				
			どちらにも職業 がある	自分のみ職業 がある	配偶者へのみ職 業がある	どちらも職業が ない	無回答
全体		100.0%	46.4%	13.3%	16.6%	16.9%	6.7%
		993	461	132	165	168	67
性別	女性	100.0%	50.6%	3.8%	25.7%	16.4%	3.5%
		549	278	21	141	90	19
男性	100.0%	45.6%	27.8%	6.0%	19.0%	1.5%	
	399	182	111	24	76	6	

【F7】子どもの有無



		サンプル数	子どもの有無		
			いる	いない	無回答
全体		100.0%	67.1%	22.9%	10.1%
		1,452	974	332	146
性別	女性	100.0%	71.5%	25.5%	3.1%
		817	584	208	25
	男性	100.0%	72.7%	23.4%	4.0%
		531	386	124	21

2. 男女平等意識について

(1) 様々な分野における男女の地位の平等意識

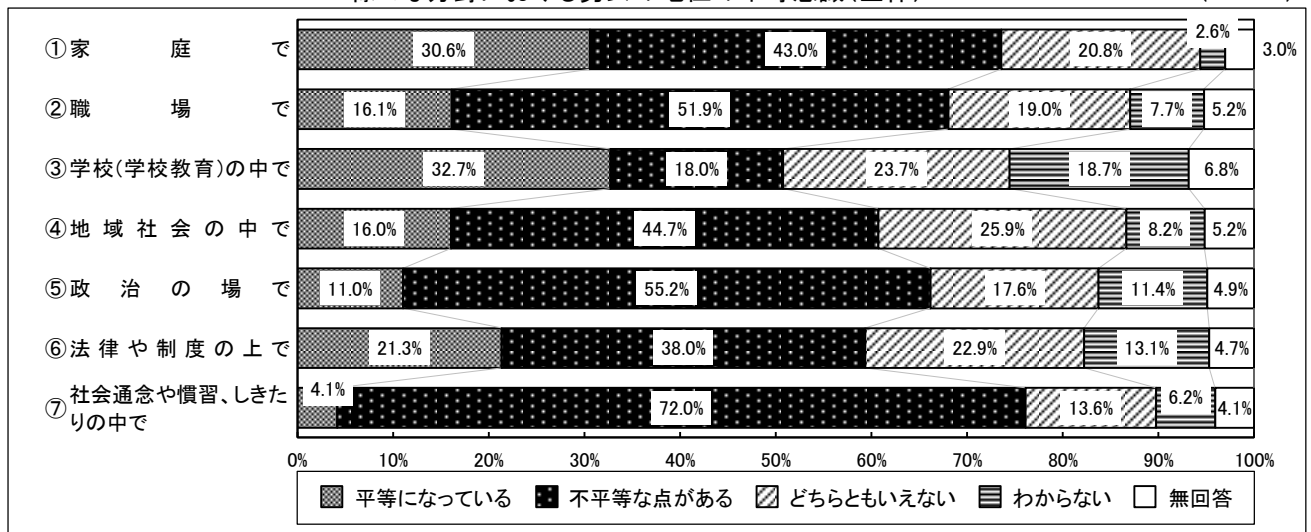
【問1】 男性と女性は憲法上では平等となっていますが、次にあげる①～⑦の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

～ 「社会通念や慣習、しきたりの中で」 不平等感が強い ～

様々な分野における男女の地位の平等意識についてみると、全体では「平等になっている」の割合は「③学校(学校教育)の中で」(32.7%)が最も高く、次いで、「①家庭で」(30.6%)、「⑥法律や制度の上で」(21.3%)となっており、「不平等な点がある」の割合は「⑦社会通念や慣習、しきたりの中で」(72.0%)が最も高く、次いで「⑤政治の場で」(55.2%)、「②職場で」(51.9%)となっている。①～⑦の項目の内、「平等になっている」が「不平等な点がある」を上回っているのは「③学校(学校教育)の中で」(平等になっている：32.7%、不平等な点がある：18.0%)のみで、それ以外の項目では「不平等な点がある」が「平等になっている」を上回っている。特に「⑦社会通念や慣習、しきたりの中で」(平等になっている：4.1%、不平等な点がある：72.0%)で差が大きくなっている。

様々な分野における男女の地位の平等意識(全体)

(N=1452)

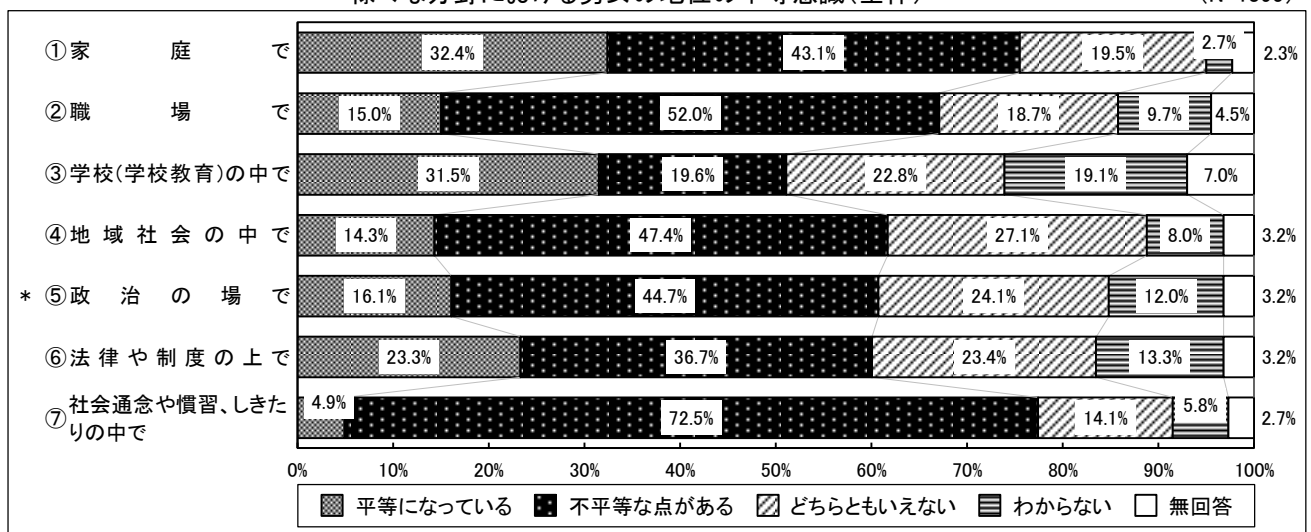


前回調査と比較すると、「⑤政治の場で」において「不平等な点がある」(今回：55.2%、前回：44.7%)の割合が増加しており、「平等になっている」(今回：11.0%、前回：16.1%)の割合は減少している。

【前回調査】

様々な分野における男女の地位の平等意識(全体)

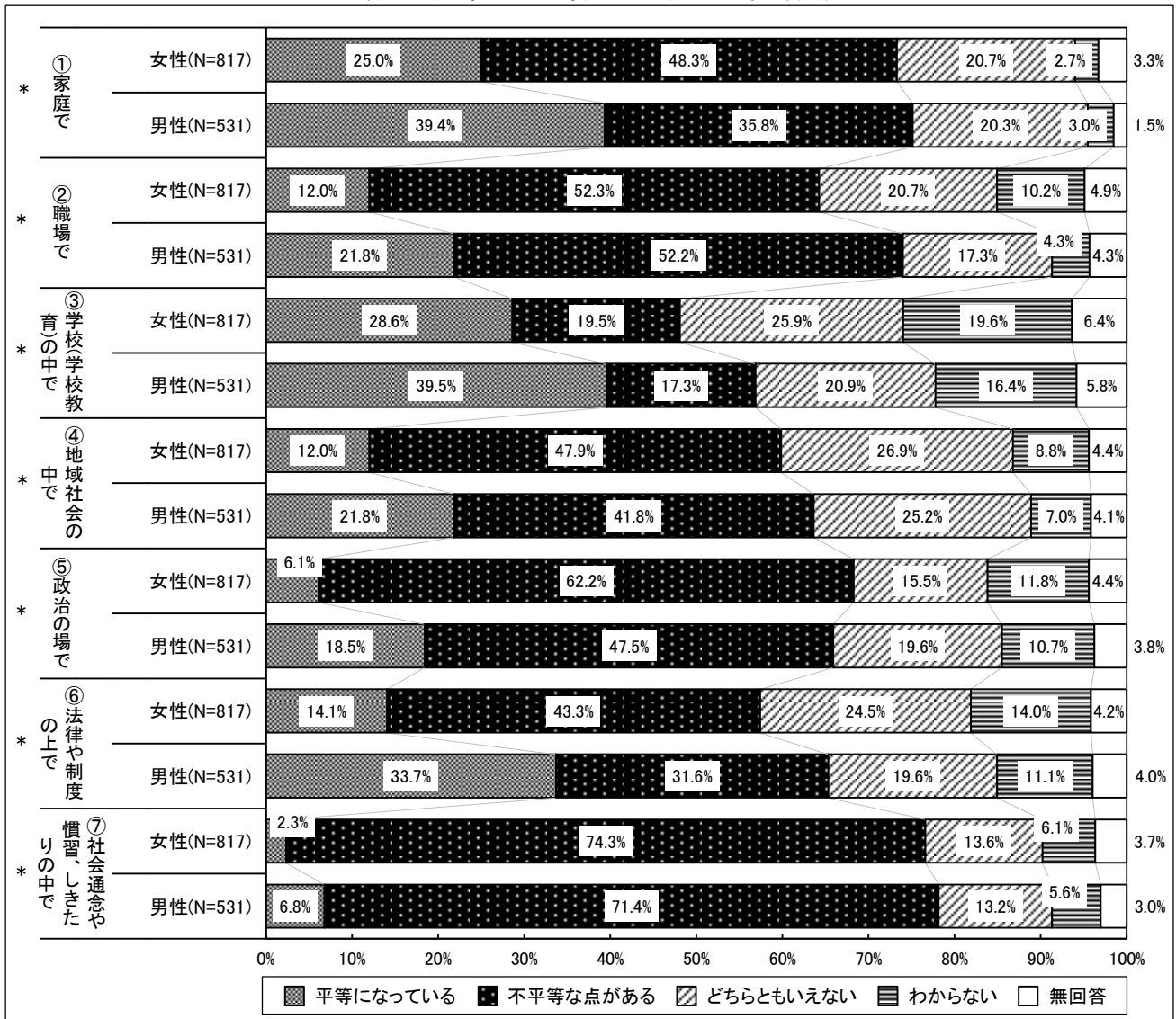
(N=1395)



*：今回調査と有意差あり

性別にみると、すべての項目において「平等になっている」の割合は男性が女性より高く、「不平等な点がある」の割合は女性が男性より高くなっている。特に、「⑥法律や制度の上で」、「⑤政治の場で」、「①家庭で」において、「平等になっている」でも「不平等な点がある」でも男女間の差が大きくなっている。

様々な分野における男女の地位の平等意識(性別)



*: 性別で有意差あり

様々な分野における男女の地位の平等意識(性・年代別) 1/4

	サンプル数	①家庭で					②職場で					
		平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	
全体	1,452	30.6%	43.0%	20.8%	2.6%	3.0%	16.1%	51.9%	19.0%	7.7%	5.2%	
		444	624	302	38	44	234	754	276	112	76	
性・年代別	女性計	100.0%	25.0%	48.3%	20.7%	2.7%	3.3%	12.0%	52.3%	20.7%	10.2%	4.9%
		817	204	395	169	22	27	98	427	169	83	40
	20代	100.0%	27.5%	45.0%	21.3%	3.8%	2.5%	16.3%	47.5%	25.0%	8.8%	2.5%
		80	22	36	17	3	2	13	38	20	7	2
	30代	100.0%	28.4%	46.3%	20.1%	3.0%	2.2%	18.7%	51.5%	17.9%	9.0%	3.0%
		134	38	62	27	4	3	25	69	24	12	4
	40代	100.0%	22.4%	52.2%	21.1%	3.1%	1.2%	15.5%	52.2%	20.5%	9.3%	2.5%
		161	36	84	34	5	2	25	84	33	15	4
	50代	100.0%	25.3%	52.5%	18.4%	1.3%	2.5%	12.7%	57.0%	21.5%	7.0%	1.9%
		158	40	83	29	2	4	20	90	34	11	3
	60代	100.0%	19.4%	46.7%	25.0%	2.8%	6.1%	5.6%	54.4%	21.7%	10.0%	8.3%
		180	35	84	45	5	11	10	98	39	18	15
	70歳以上	100.0%	31.7%	44.2%	16.3%	2.9%	4.8%	4.8%	46.2%	18.3%	19.2%	11.5%
		104	33	46	17	3	5	5	48	19	20	12
	男性計	100.0%	39.4%	35.8%	20.3%	3.0%	1.5%	21.8%	52.2%	17.3%	4.3%	4.3%
		531	209	190	108	16	8	116	277	92	23	23
	20代	100.0%	35.6%	37.8%	26.7%	0.0%	0.0%	31.1%	46.7%	20.0%	0.0%	2.2%
		45	16	17	12	0	0	14	21	9	0	1
	30代	100.0%	27.4%	38.7%	30.6%	3.2%	0.0%	17.7%	56.5%	22.6%	3.2%	0.0%
	62	17	24	19	2	0	11	35	14	2	0	
40代	100.0%	34.0%	38.1%	21.6%	6.2%	0.0%	14.4%	59.8%	20.6%	4.1%	1.0%	
	97	33	37	21	6	0	14	58	20	4	1	
50代	100.0%	41.2%	40.2%	15.5%	2.1%	1.0%	28.9%	55.7%	14.4%	0.0%	1.0%	
	97	40	39	15	2	1	28	54	14	0	1	
60代	100.0%	44.8%	32.1%	17.9%	2.2%	3.0%	22.4%	53.0%	15.7%	4.5%	4.5%	
	134	60	43	24	3	4	30	71	21	6	6	
70歳以上	100.0%	44.8%	31.3%	17.7%	3.1%	3.1%	19.8%	39.6%	14.6%	11.5%	14.6%	
	96	43	30	17	3	3	19	38	14	11	14	

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

様々な分野における男女の地位の平等意識(性・年代別) 2/4

	サンプル数	③学校(学校教育)の中で					④地域社会の中で					
		平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	
全体	100.0% 1,452	32.7% 475	18.0% 262	23.7% 344	18.7% 272	6.8% 99	16.0% 233	44.7% 649	25.9% 376	8.2% 119	5.2% 75	
性・年代別	女性計	100.0% 817	28.6% 234	19.5% 159	25.9% 212	19.6% 160	6.4% 52	12.0% 98	47.9% 391	26.9% 220	8.8% 72	4.4% 36
	20代	100.0% 80	36.3% 29	25.0% 20	21.3% 17	13.8% 11	3.8% 3	13.8% 11	47.5% 38	21.3% 17	15.0% 12	2.5% 2
	30代	100.0% 134	29.9% 40	21.6% 29	28.4% 38	17.2% 23	3.0% 4	13.4% 18	49.3% 66	23.9% 32	10.4% 14	3.0% 4
	40代	100.0% 161	34.2% 55	16.8% 27	27.3% 44	19.9% 32	1.9% 3	12.4% 20	49.7% 80	30.4% 49	5.0% 8	2.5% 4
	50代	100.0% 158	29.7% 47	20.3% 32	29.1% 46	14.6% 23	6.3% 10	8.9% 14	55.7% 88	24.1% 38	8.9% 14	2.5% 4
	60代	100.0% 180	19.4% 35	18.3% 33	29.4% 53	20.6% 37	12.2% 22	8.9% 16	43.3% 78	32.2% 58	7.8% 14	7.8% 14
	70歳以上	100.0% 104	26.9% 28	17.3% 18	13.5% 14	32.7% 34	9.6% 10	18.3% 19	39.4% 41	25.0% 26	9.6% 10	7.7% 8
	男性計	100.0% 531	39.5% 210	17.3% 92	20.9% 111	16.4% 87	5.8% 31	21.8% 116	41.8% 222	25.2% 134	7.0% 37	4.1% 22
	20代	100.0% 45	51.1% 23	26.7% 12	13.3% 6	6.7% 3	2.2% 1	28.9% 13	31.1% 14	24.4% 11	13.3% 6	2.2% 1
	30代	100.0% 62	27.4% 17	25.8% 16	27.4% 17	19.4% 12	0.0% 0	12.9% 8	43.5% 27	33.9% 21	9.7% 6	0.0% 0
	40代	100.0% 97	33.0% 32	16.5% 16	28.9% 28	18.6% 18	3.1% 3	10.3% 10	49.5% 48	33.0% 32	6.2% 6	1.0% 1
	50代	100.0% 97	45.4% 44	18.6% 18	17.5% 17	15.5% 15	3.1% 3	27.8% 27	45.4% 44	20.6% 20	3.1% 3	3.1% 3
	60代	100.0% 134	43.3% 58	14.2% 19	21.6% 29	14.9% 20	6.0% 8	26.9% 36	39.6% 53	20.9% 28	8.2% 11	4.5% 6
	70歳以上	100.0% 96	37.5% 36	11.5% 11	14.6% 14	19.8% 19	16.7% 16	22.9% 22	37.5% 36	22.9% 22	5.2% 5	11.5% 11

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

様々な分野における男女の地位の平等意識(性・年代別) 3/4

	サンプル数	⑤政治の場で					⑥法律や制度の上で					
		平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	
全体	100.0% 1,452	11.0% 160	55.2% 801	17.6% 255	11.4% 165	4.9% 71	21.3% 310	38.0% 552	22.9% 332	13.1% 190	4.7% 68	
性・年代別	女性計	100.0% 817	6.1% 50	62.2% 508	15.5% 127	11.8% 96	4.4% 36	14.1% 115	43.3% 354	24.5% 200	14.0% 114	4.2% 34
	20代	100.0% 80	7.5% 6	66.3% 53	10.0% 8	13.8% 11	2.5% 2	18.8% 15	42.5% 34	21.3% 17	15.0% 12	2.5% 2
	30代	100.0% 134	6.0% 8	68.7% 92	13.4% 18	9.0% 12	3.0% 4	9.7% 13	50.0% 67	24.6% 33	13.4% 18	2.2% 3
	40代	100.0% 161	5.6% 9	68.9% 111	18.0% 29	5.6% 9	1.9% 3	14.3% 23	51.6% 83	24.2% 39	8.1% 13	1.9% 3
	50代	100.0% 158	5.1% 8	66.5% 105	15.2% 24	10.8% 17	2.5% 4	10.8% 17	47.5% 75	27.2% 43	12.0% 19	2.5% 4
	60代	100.0% 180	6.7% 12	58.3% 105	13.3% 24	13.3% 24	8.3% 15	12.8% 23	38.9% 70	25.6% 46	14.4% 26	8.3% 15
	70歳以上	100.0% 104	6.7% 7	40.4% 42	23.1% 24	22.1% 23	7.7% 8	23.1% 24	24.0% 25	21.2% 22	25.0% 26	6.7% 7
	男性計	100.0% 531	18.5% 98	47.5% 252	19.6% 104	10.7% 57	3.8% 20	33.7% 179	31.6% 168	19.6% 104	11.1% 59	4.0% 21
	20代	100.0% 45	13.3% 6	51.1% 23	17.8% 8	13.3% 6	4.4% 2	26.7% 12	42.2% 19	13.3% 6	15.6% 7	2.2% 1
	30代	100.0% 62	12.9% 8	48.4% 30	27.4% 17	11.3% 7	0.0% 0	17.7% 11	40.3% 25	25.8% 16	16.1% 10	0.0% 0
	40代	100.0% 97	11.3% 11	54.6% 53	20.6% 20	13.4% 13	0.0% 0	30.9% 30	33.0% 32	24.7% 24	10.3% 10	1.0% 1
	50代	100.0% 97	21.6% 21	48.5% 47	21.6% 21	7.2% 7	1.0% 1	38.1% 37	34.0% 33	16.5% 16	10.3% 10	1.0% 1
	60代	100.0% 134	26.1% 35	46.3% 62	13.4% 18	8.2% 11	6.0% 8	35.1% 47	29.1% 39	20.1% 27	8.2% 11	7.5% 10
	70歳以上	100.0% 96	17.7% 17	38.5% 37	20.8% 20	13.5% 13	9.4% 9	43.8% 42	20.8% 20	15.6% 15	11.5% 11	8.3% 8

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

様々な分野における男女の地位の平等意識(性・年代別) 4/4

	サンプル数	⑦社会通念や慣習、しきたりの中で					
		平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	
全体	100.0% 1,452	4.1% 60	72.0% 1,045	13.6% 198	6.2% 90	4.1% 59	
性・年代別	女性計	100.0% 817	2.3% 19	74.3% 607	13.6% 111	6.1% 50	3.7% 30
	20代	100.0% 80	2.5% 2	78.8% 63	11.3% 9	5.0% 4	2.5% 2
	30代	100.0% 134	0.7% 1	77.6% 104	12.7% 17	6.7% 9	2.2% 3
	40代	100.0% 161	1.2% 2	78.3% 126	13.7% 22	5.0% 8	1.9% 3
	50代	100.0% 158	0.6% 1	79.1% 125	13.9% 22	4.4% 7	1.9% 3
	60代	100.0% 180	3.3% 6	71.7% 129	13.9% 25	4.4% 8	6.7% 12
	70歳以上	100.0% 104	6.7% 7	57.7% 60	15.4% 16	13.5% 14	6.7% 7
	男性計	100.0% 531	6.8% 36	71.4% 379	13.2% 70	5.6% 30	3.0% 16
	20代	100.0% 45	0.0% 0	73.3% 33	11.1% 5	15.6% 7	0.0% 0
	30代	100.0% 62	6.5% 4	66.1% 41	17.7% 11	9.7% 6	0.0% 0
	40代	100.0% 97	2.1% 2	78.4% 76	14.4% 14	5.2% 5	0.0% 0
	50代	100.0% 97	9.3% 9	78.4% 76	9.3% 9	2.1% 2	1.0% 1
	60代	100.0% 134	9.0% 12	71.6% 96	10.4% 14	3.7% 5	5.2% 7
	70歳以上	100.0% 96	9.4% 9	59.4% 57	17.7% 17	5.2% 5	8.3% 8

—% : 各属性内での回答割合が最も高い

(2) 社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識

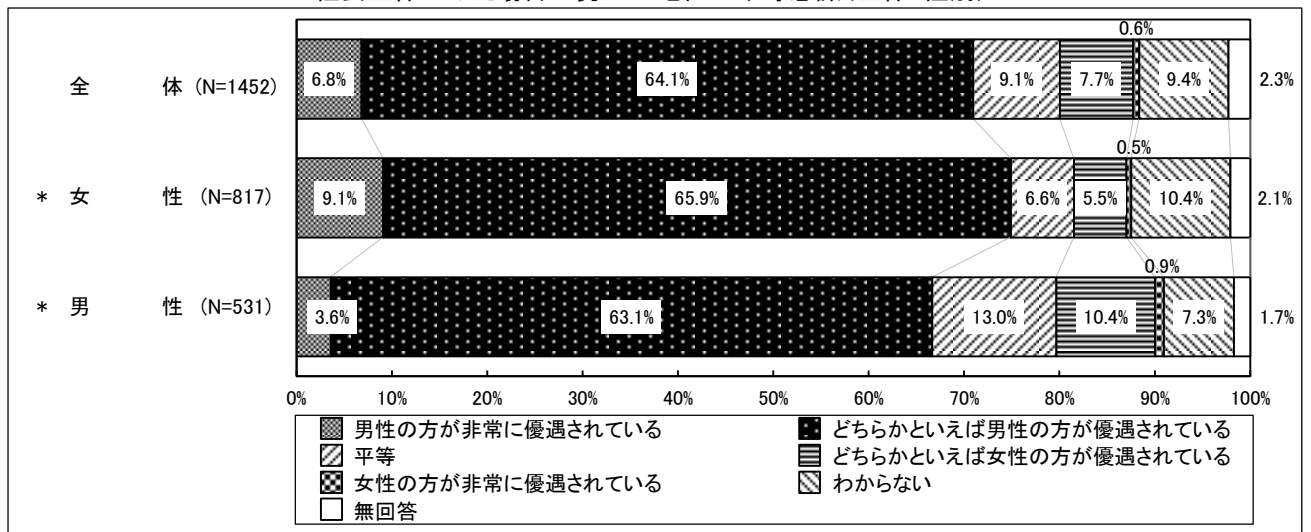
【問2】 社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。

～ 『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回る ～

社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識についてみると、全体では『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）が70.9%、『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）が8.3%となっており、『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回っている。

性別にみると、『男性優遇』（女性：75.0%、男性：66.7%）の割合は女性が男性より高く、『女性優遇』（女性：6.0%、男性：11.3%）の割合は男性が女性より高くなっている。また、「平等」（女性：6.6%、男性：13.0%）の割合は男性が女性より高くなっている。

社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識(全体・性別)

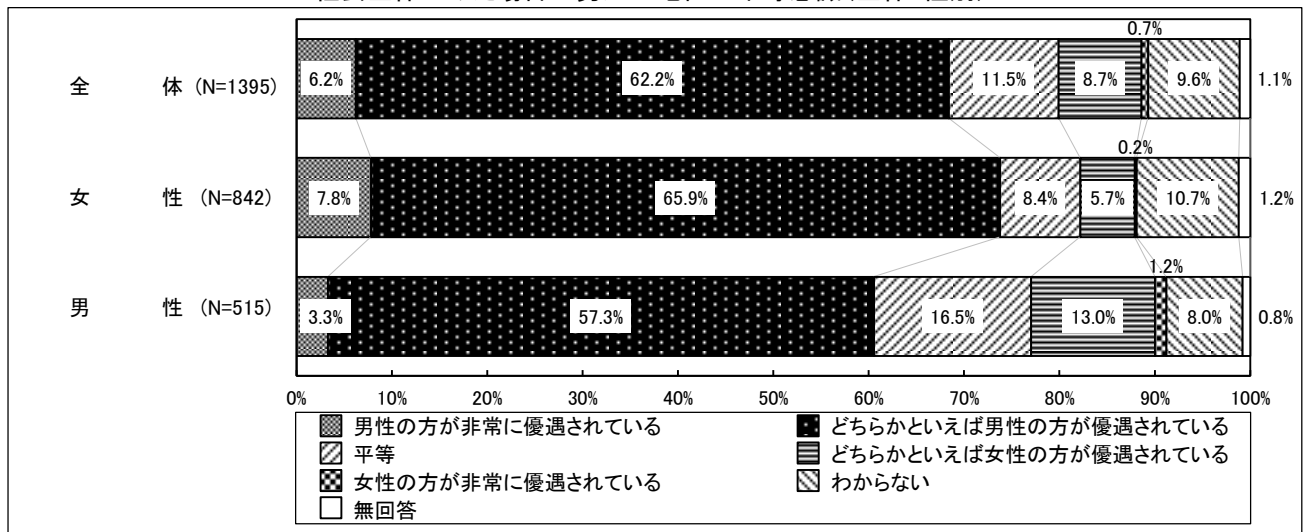


*：性別で有意差あり

前回調査との比較では、有意差はみられなかった。

【前回調査】

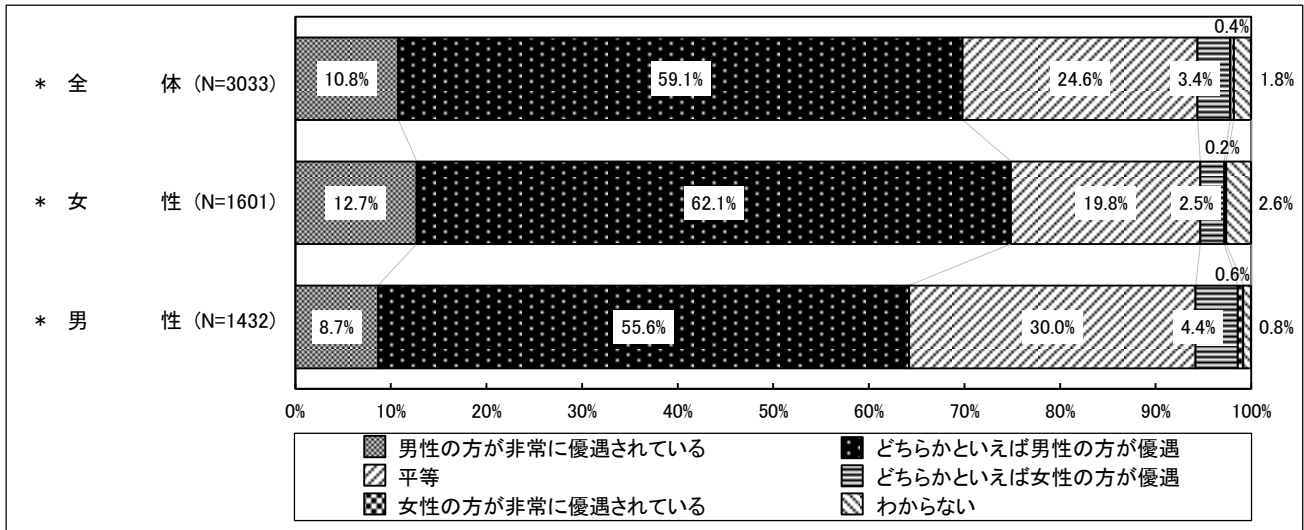
社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識(全体・性別)



内閣府調査と比較すると、全体、男女ともに鹿児島市は「平等」の割合が低く、『女性優遇』の割合が高くなっている。

【内閣府調査】

社会全体における男女の地位の平等感(全体・性別)

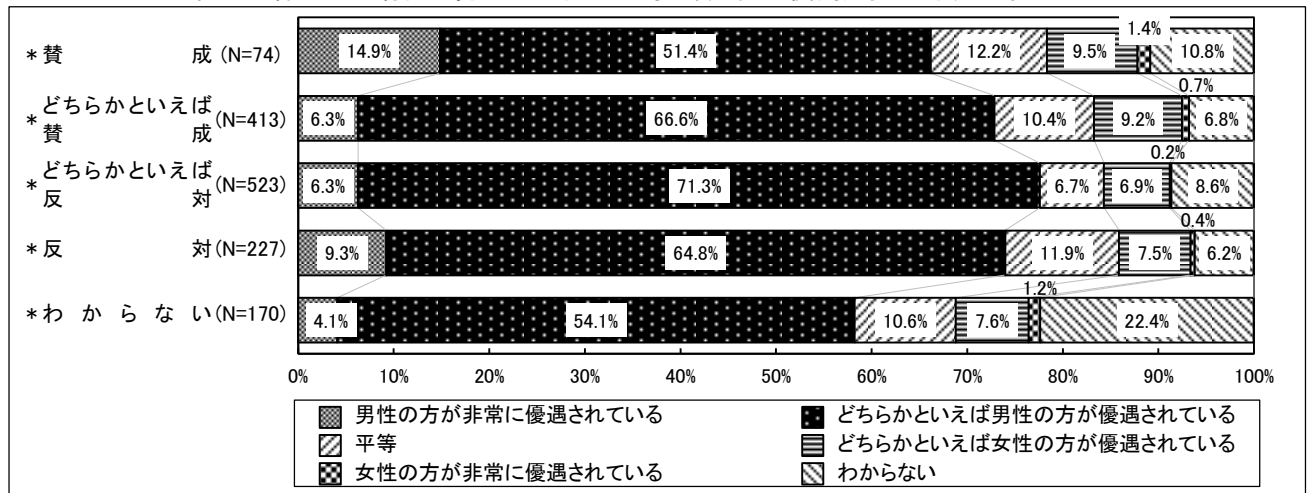


* : 鹿児島市調査と有意差あり

性別役割分担に対する考え方（問6「男性は仕事、女性は家庭」という考え方）別にみると、性別役割分担に『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）の人は『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）の人より、『男性優遇』と答えた割合が高く、『女性優遇』『平等』の割合は低くなっている。

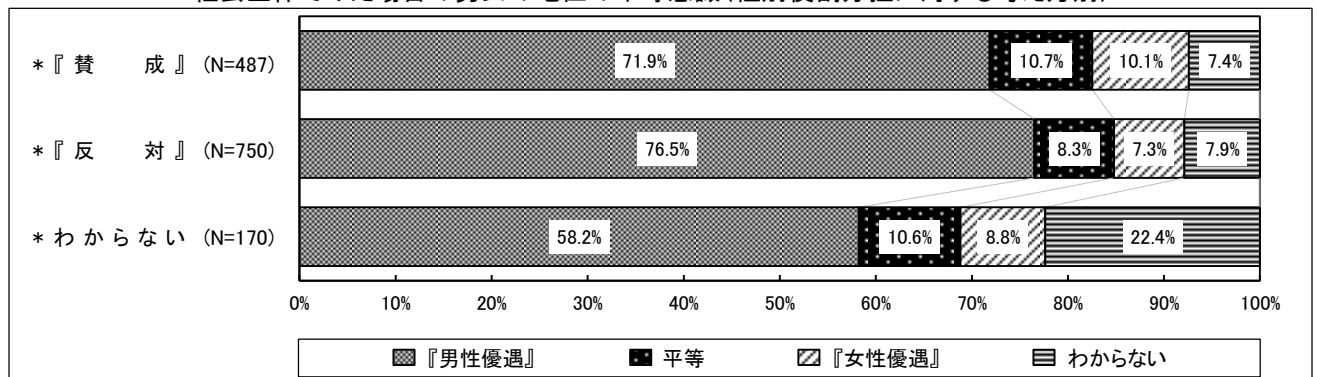
		サンプル数	社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識						
			『男性優遇』		平等	『女性優遇』		わからない	
			男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている		どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている		
全体		1,407	98	925	132	111	8	133	
性別役割分担に	『賛成』	賛成	74	11	38	9	7	1	8
		どちらかといえば賛成	413	26	275	43	38	3	28
	『反対』	どちらかといえば反対	523	33	373	35	36	1	45
		反対	227	21	147	27	17	1	14
		わからない	170	7	92	18	13	2	38

社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識(性別役割分担に対する考え方別)



*：性別役割分担に対する考え方別で有意差あり

社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識(性別役割分担に対する考え方別)



*：性別役割分担に対する考え方別で有意差あり

『賛成』(N=487) = 「賛成」(N=74) + 「どちらかといえば賛成」(N=413)
 『反対』(N=750) = 「反対」(N=227) + 「どちらかといえば反対」(N=523)
 『男性優遇』 = 「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
 『女性優遇』 = 「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

※ 以降本報告書では、性的役割分担の考え方に「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合計したものを『賛成』とし、「反対」、「どちらかといえば反対」を合計したものを『反対』とする。

社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識(性・年代別)

	サンプル数	社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識							
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	
全体	100.0%	6.8%	64.1%	9.1%	7.7%	0.6%	9.4%	2.3%	
	1,452	99	931	132	112	9	136	33	
性・年代別	女性 計	100.0%	9.1%	65.9%	6.6%	5.5%	0.5%	10.4%	2.1%
		817	74	538	54	45	4	85	17
	20代	100.0%	5.0%	58.8%	13.8%	7.5%	0.0%	11.3%	3.8%
		80	4	47	11	6	0	9	3
	30代	100.0%	9.0%	65.7%	5.2%	6.7%	0.7%	10.4%	2.2%
		134	12	88	7	9	1	14	3
	40代	100.0%	7.5%	64.6%	6.8%	7.5%	0.6%	12.4%	0.6%
		161	12	104	11	12	1	20	1
	50代	100.0%	9.5%	67.7%	5.1%	3.8%	1.3%	10.1%	2.5%
		158	15	107	8	6	2	16	4
	60代	100.0%	12.2%	67.8%	5.0%	3.9%	0.0%	8.9%	2.2%
		180	22	122	9	7	0	16	4
	70歳以上	100.0%	8.7%	67.3%	7.7%	4.8%	0.0%	9.6%	1.9%
		104	9	70	8	5	0	10	2
	男性 計	100.0%	3.6%	63.1%	13.0%	10.4%	0.9%	7.3%	1.7%
		531	19	335	69	55	5	39	9
	20代	100.0%	6.7%	57.8%	6.7%	17.8%	0.0%	11.1%	0.0%
		45	3	26	3	8	0	5	0
30代	100.0%	3.2%	51.6%	9.7%	19.4%	0.0%	16.1%	0.0%	
	62	2	32	6	12	0	10	0	
40代	100.0%	2.1%	59.8%	8.2%	12.4%	1.0%	15.5%	1.0%	
	97	2	58	8	12	1	15	1	
50代	100.0%	6.2%	56.7%	16.5%	10.3%	4.1%	4.1%	2.1%	
	97	6	55	16	10	4	4	2	
60代	100.0%	2.2%	76.9%	11.9%	6.0%	0.0%	1.5%	1.5%	
	134	3	103	16	8	0	2	2	
70歳以上	100.0%	3.1%	63.5%	20.8%	5.2%	0.0%	3.1%	4.2%	
	96	3	61	20	5	0	3	4	

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

(3) 男女が平等でない原因

【問3】 問1で「不平等な点がある」、問2で「1. 2. 4. 5.」のいずれかを選んだ方におたずねします。その主な原因はどこにあると思いますか。(複数回答)

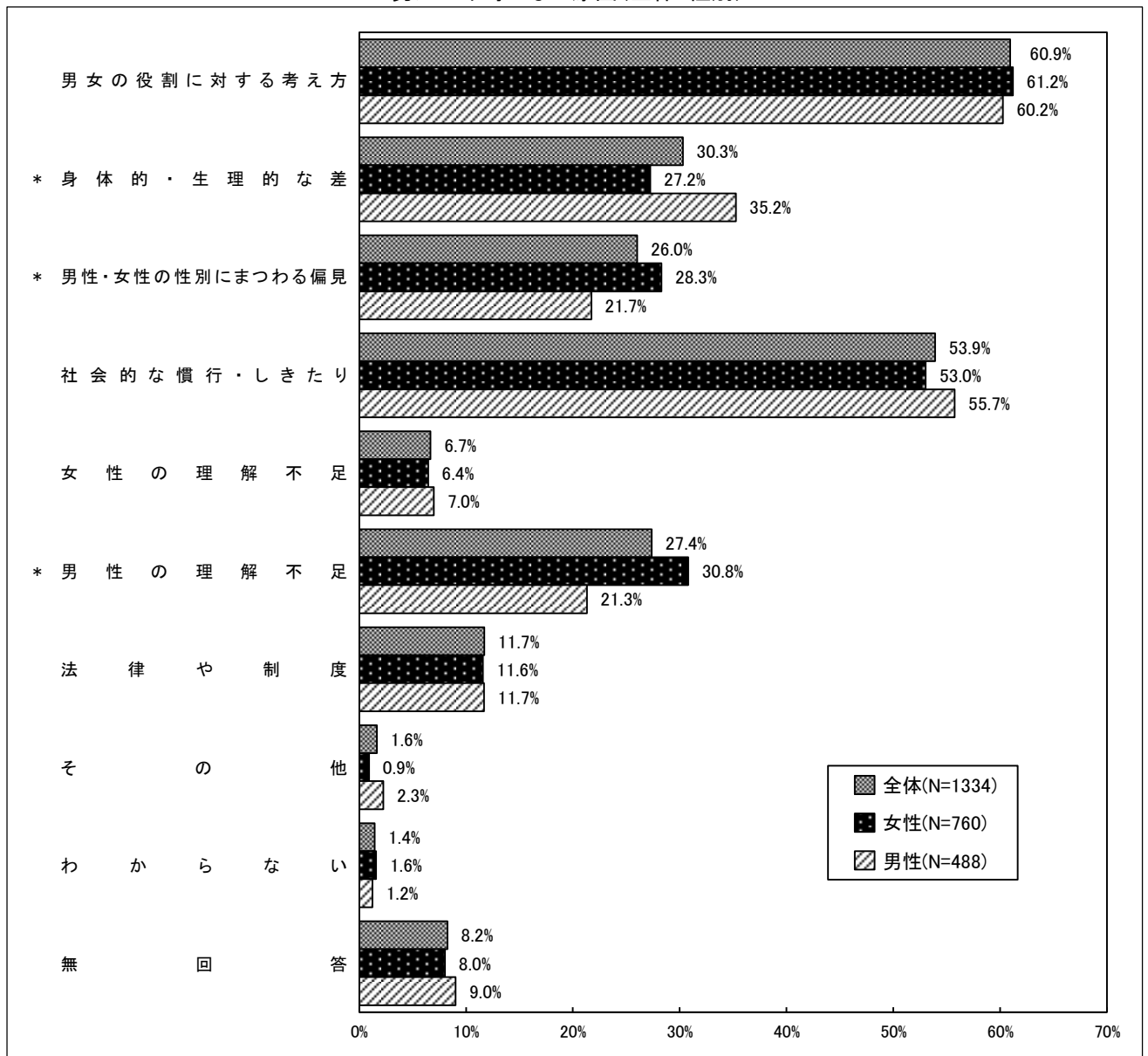
- ※問2の選択肢 1. 男性の方が非常に優遇されている
 2. どちらかといえば男性の方が優遇されている
 4. どちらかといえば女性の方が優遇されている
 5. 女性の方が非常に優遇されている

～ 「男女の役割に対する考え方」「社会的な慣行・しきたり」が原因と考える人が多い ～

男女が平等でない原因についてみると、全体では「男女の役割に対する考え方」(60.9%)の割合が最も高く、次いで「社会的な慣行・しきたり」(53.9%)、「身体的・生理的な差」(30.3%)となっている。

性別にみると、「男性の理解不足」(女性：30.8%、男性：21.3%)と「男性・女性の性別にまつわる偏見」(女性：28.3%、男性：21.7%)で女性の割合が男性より高く、「身体的・生理的な差」(女性：27.2%、男性：35.2%)で男性の割合が女性より高くなっている。

男女が平等でない原因(全体・性別)

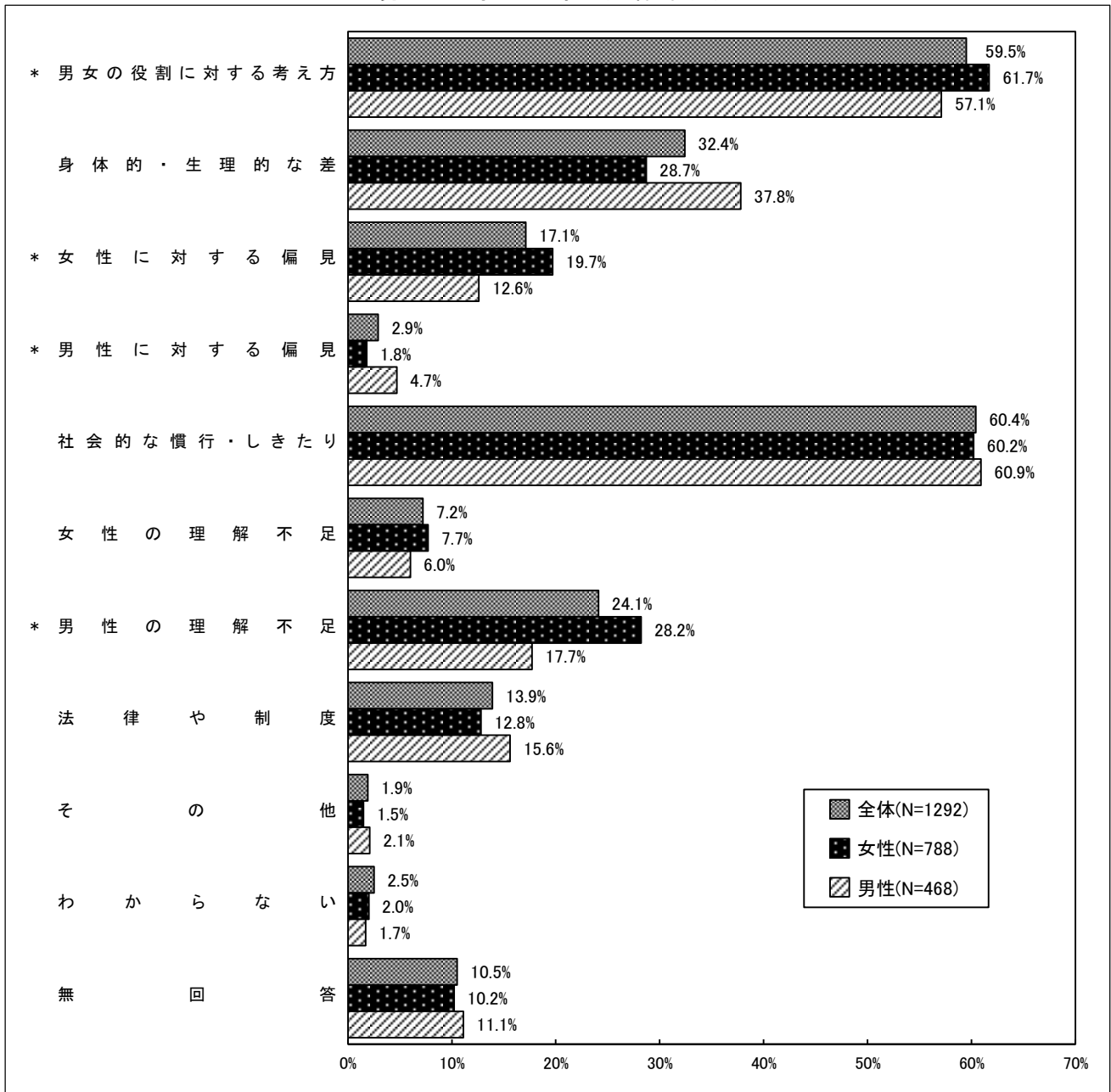


*：性別で有意差あり

前回調査と比較すると、全体では「男性・女性の性別にまつわる偏見」(今回：26.0%、前回：17.1% (「女性に対する偏見」)／2.9%(「男性に対する偏見」))、「男性の理解不足」(今回：27.4%、前回：24.1%)、「男女の役割に対する考え方」(今回：60.9%、前回：59.5%)の割合が増加している。

【前回調査】

男女が平等でない原因(全体・性別)



* : 今回調査と有意差あり

※ 前回調査の「男性に対する偏見」と「女性に対する偏見」は、今回調査の「男性・女性の性別にまつわる偏見」と比較している。

男女が平等でない原因(性・年代・性別役割分担に対する考え方別)(複数回答)

		サンプル数	男女が平等でない原因									無回答
			男女の役割に対する考え方	身体的・生理的な差	男性・女性の性別にまつわる偏見	社会的な慣行・しきたり	女性の理解不足	男性の理解不足	法律や制度	その他	わからない	
全体		100.0%	60.9%	30.3%	26.0%	53.9%	6.7%	27.4%	11.7%	1.6%	1.4%	8.2%
		1,334	813	404	347	719	89	365	156	22	19	110
性・年代別	女性計	100.0%	61.2%	27.2%	28.3%	53.0%	6.4%	30.8%	11.6%	0.9%	1.6%	8.0%
		760	465	207	215	403	49	234	88	7	12	61
	20代	100.0%	60.0%	33.3%	30.7%	49.3%	2.7%	24.0%	12.0%	0.0%	1.3%	13.3%
		75	45	25	23	37	2	18	9	0	1	10
	30代	100.0%	53.2%	36.5%	27.0%	50.0%	5.6%	31.7%	12.7%	1.6%	0.8%	5.6%
		126	67	46	34	63	7	40	16	2	1	7
	40代	100.0%	61.3%	24.7%	22.7%	58.7%	6.0%	31.3%	10.7%	0.0%	0.7%	10.7%
		150	92	37	34	88	9	47	16	0	1	16
	50代	100.0%	64.2%	25.7%	33.1%	53.4%	4.1%	33.1%	13.5%	2.0%	0.0%	5.4%
		148	95	38	49	79	6	49	20	3	0	8
	60代	100.0%	64.5%	25.3%	28.9%	56.0%	9.6%	33.7%	10.2%	0.6%	2.4%	7.2%
		166	107	42	48	93	16	56	17	1	4	12
	70歳以上	100.0%	62.1%	20.0%	28.4%	45.3%	9.5%	25.3%	10.5%	1.1%	5.3%	8.4%
		95	59	19	27	43	9	24	10	1	5	8
	男性計	100.0%	60.2%	35.2%	21.7%	55.7%	7.0%	21.3%	11.7%	2.3%	1.2%	9.0%
		488	294	172	106	272	34	104	57	11	6	44
20代	100.0%	65.9%	38.6%	29.5%	54.5%	4.5%	15.9%	15.9%	0.0%	2.3%	6.8%	
	44	29	17	13	24	2	7	7	0	1	3	
30代	100.0%	55.4%	41.1%	26.8%	42.9%	8.9%	21.4%	8.9%	3.6%	0.0%	7.1%	
	56	31	23	15	24	5	12	5	2	0	4	
40代	100.0%	61.7%	36.2%	17.0%	57.4%	5.3%	14.9%	10.6%	2.1%	2.1%	10.6%	
	94	58	34	16	54	5	14	10	2	2	10	
50代	100.0%	59.1%	34.1%	21.6%	69.3%	5.7%	20.5%	10.2%	3.4%	1.1%	6.8%	
	88	52	30	19	61	5	18	9	3	1	6	
60代	100.0%	58.4%	32.8%	19.2%	52.0%	8.8%	24.0%	16.0%	3.2%	1.6%	7.2%	
	125	73	41	24	65	11	30	20	4	2	9	
70歳以上	100.0%	63.0%	33.3%	23.5%	54.3%	7.4%	28.4%	7.4%	0.0%	0.0%	14.8%	
	81	51	27	19	44	6	23	6	0	0	12	
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0%	58.7%	34.1%	20.1%	54.4%	5.2%	21.6%	12.1%	2.2%	1.3%	9.9%
		463	272	158	93	252	24	100	56	10	6	46
	『反対』	100.0%	63.0%	28.1%	31.4%	54.3%	7.8%	32.3%	11.0%	1.1%	1.1%	6.7%
716		451	201	225	389	56	231	79	8	8	48	
わからない	100.0%	55.9%	27.6%	18.6%	51.0%	4.8%	22.8%	13.8%	2.1%	3.4%	11.0%	
	145	81	40	27	74	7	33	20	3	5	16	

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

(4) 男女が平等になるために重要なこと

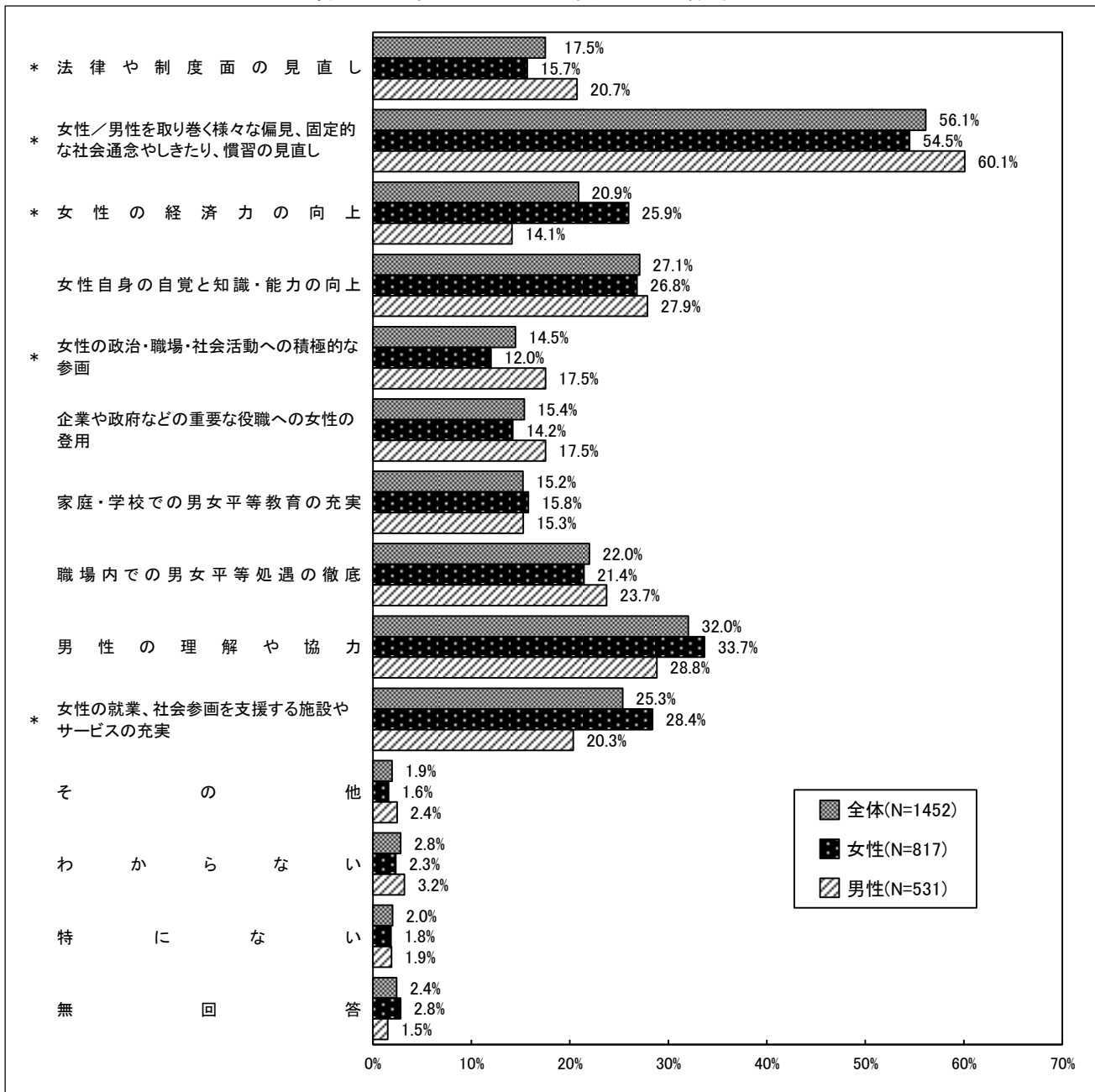
【問4】 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが重要であると思いますか。(複数回答)

～ 女性や男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直しが必要 ～

男女が平等になるために重要なことについてみると、全体では「女性／男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」(56.1%)の割合が最も高く、次いで「男性の理解や協力」(32.0%)、「女性自身の自覚と知識・能力の向上」(27.1%)となっている。

性別にみると、「女性の経済力の向上」(女性：25.9%、男性：14.1%)と「女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実」(女性：28.4%、男性：20.3%)で女性の割合が男性より高く、「女性／男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」(女性：54.5%、男性：60.1%)、「女性の政治・職場・社会活動への積極的な参画」(女性：12.0%、男性：17.5%)、「法律や制度面の見直し」(女性：15.7%、男性：20.7%)で男性の割合が女性より高くなっている。

男女が平等になるために重要なこと(全体・性別)

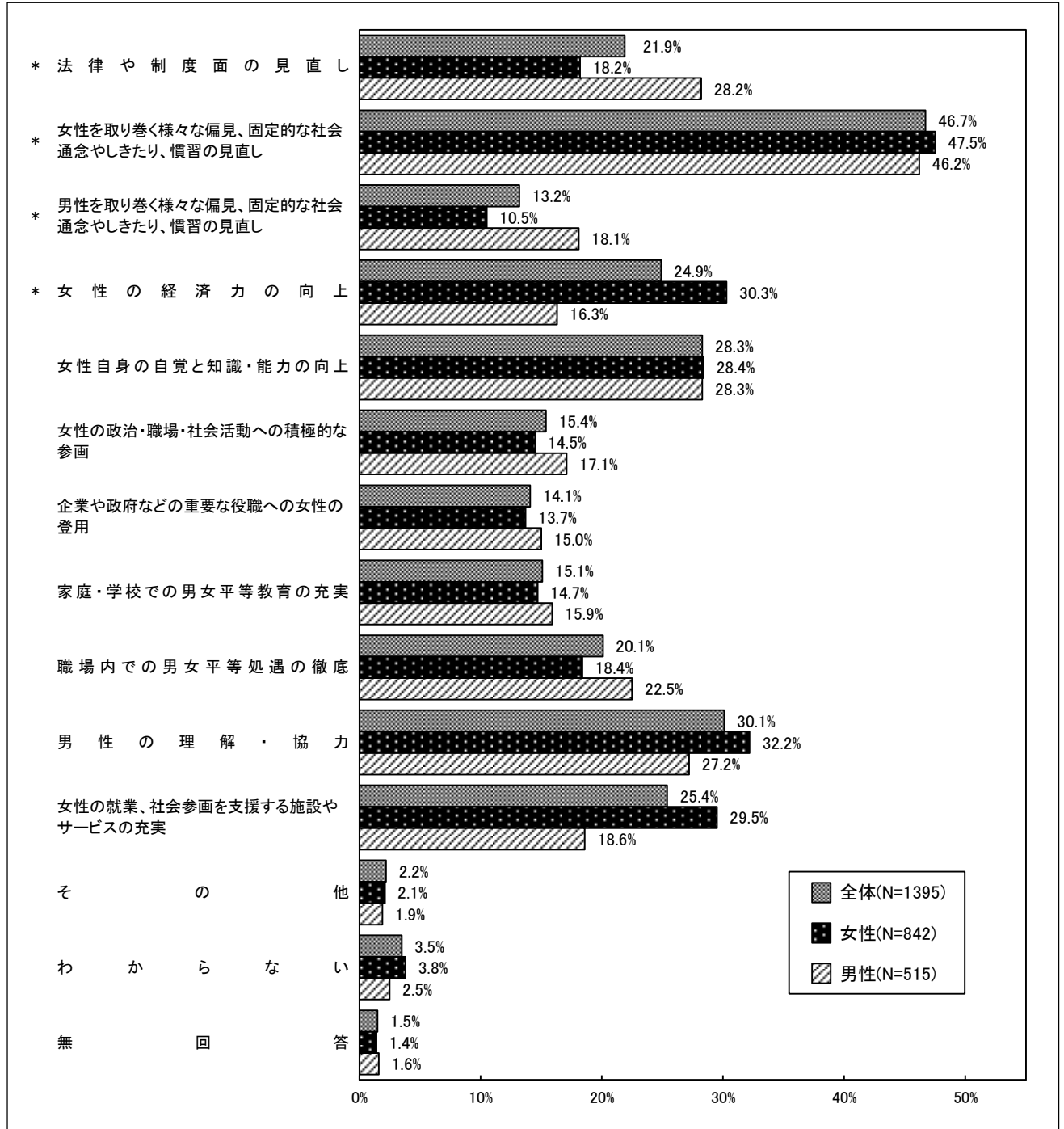


*：性別で有意差あり

前回調査と比較すると、全体では「女性／男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」(今回：56.1%、前回：46.7% (「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」) / 13.2% (「男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」)) の割合は増加し、「女性の経済力の向上」(今回：20.9%、前回：24.9%)、「法律や制度面の見直し」(今回：17.5%、前回：21.9%) の割合が減少している。

【前回調査】

男女が平等になるために重要なこと(全体・性別)



* : 今回調査と有意差あり

※ 前回調査の「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」と「男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」は、今回調査の「女性／男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」と比較している。

男女が平等になるために重要なこと(性・年代別)(複数回答) 1/2

		男女が平等になるために重要なこと							
		法律や制度面の見直し	女性／男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し	女性の経済力の向上	女性自身の自覚と知識・能力の向上	女性の政治・職場・社会活動への積極的な参画	企業や政府などの重要な役職への女性の登用	家庭・学校での男女平等教育の充実	
全体	100.0%	17.5%	56.1%	20.9%	27.1%	14.5%	15.4%	15.2%	
	1,452	254	815	303	393	210	223	221	
性・年代別	女性計	100.0%	15.7%	54.5%	25.9%	26.8%	12.0%	14.2%	15.8%
		817	128	445	212	219	98	116	129
	20代	100.0%	15.0%	58.8%	20.0%	11.3%	12.5%	20.0%	20.0%
		80	12	47	16	9	10	16	16
	30代	100.0%	14.2%	54.5%	26.9%	19.4%	9.0%	11.2%	15.7%
		134	19	73	36	26	12	15	21
	40代	100.0%	18.0%	58.4%	24.8%	23.6%	8.7%	12.4%	14.9%
		161	29	94	40	38	14	20	24
	50代	100.0%	19.0%	51.9%	32.3%	28.5%	14.6%	12.0%	15.2%
		158	30	82	51	45	23	19	24
	60代	100.0%	14.4%	55.6%	27.2%	33.9%	12.2%	18.3%	17.2%
		180	26	100	49	61	22	33	31
	70歳以上	100.0%	11.5%	47.1%	19.2%	38.5%	16.3%	12.5%	12.5%
		104	12	49	20	40	17	13	13
	男性計	100.0%	20.7%	60.1%	14.1%	27.9%	17.5%	17.5%	15.3%
		531	110	319	75	148	93	93	81
20代	100.0%	26.7%	66.7%	11.1%	17.8%	13.3%	24.4%	24.4%	
	45	12	30	5	8	6	11	11	
30代	100.0%	22.6%	53.2%	12.9%	24.2%	12.9%	8.1%	9.7%	
	62	14	33	8	15	8	5	6	
40代	100.0%	23.7%	66.0%	13.4%	16.5%	18.6%	16.5%	18.6%	
	97	23	64	13	16	18	16	18	
50代	100.0%	15.5%	59.8%	13.4%	28.9%	12.4%	19.6%	10.3%	
	97	15	58	13	28	12	19	10	
60代	100.0%	23.1%	60.4%	15.7%	33.6%	20.9%	14.2%	11.9%	
	134	31	81	21	45	28	19	16	
70歳以上	100.0%	15.6%	55.2%	15.6%	37.5%	21.9%	24.0%	20.8%	
	96	15	53	15	36	21	23	20	

____% : 各属性内での回答割合が最も高い

男女が平等になるために重要なこと(性・年代別)(複数回答) 2/2

	サンプル数	男女が平等になるために重要なこと							
		職場内での男女平等処遇の徹底	男性の理解や協力	女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実	その他	わからない	特にない	無回答	
全体	100.0% 1,452	22.0% 319	32.0% 465	25.3% 368	1.9% 28	2.8% 41	2.0% 29	2.4% 35	
性・年代別	女性計	100.0% 817	21.4% 175	33.7% 275	28.4% 232	1.6% 13	2.3% 19	1.8% 15	2.8% 23
	20代	100.0% 80	22.5% 18	31.3% 25	28.8% 23	1.3% 1	1.3% 1	0.0% 0	3.8% 3
	30代	100.0% 134	22.4% 30	38.1% 51	36.6% 49	3.7% 5	0.7% 1	1.5% 2	2.2% 3
	40代	100.0% 161	18.6% 30	36.6% 59	29.8% 48	1.9% 3	1.9% 3	1.9% 3	2.5% 4
	50代	100.0% 158	20.9% 33	31.0% 49	24.1% 38	1.9% 3	1.9% 3	1.9% 3	3.8% 6
	60代	100.0% 180	23.9% 43	30.6% 55	27.2% 49	0.0% 0	3.3% 6	1.1% 2	1.7% 3
	70歳以上	100.0% 104	20.2% 21	34.6% 36	24.0% 25	1.0% 1	4.8% 5	4.8% 5	3.8% 4
	男性計	100.0% 531	23.7% 126	28.8% 153	20.3% 108	2.4% 13	3.2% 17	1.9% 10	1.5% 8
	20代	100.0% 45	22.2% 10	35.6% 16	11.1% 5	2.2% 1	2.2% 1	0.0% 0	0.0% 0
	30代	100.0% 62	29.0% 18	38.7% 24	27.4% 17	4.8% 3	6.5% 4	0.0% 0	3.2% 2
	40代	100.0% 97	22.7% 22	35.1% 34	16.5% 16	2.1% 2	3.1% 3	1.0% 1	0.0% 0
	50代	100.0% 97	19.6% 19	27.8% 27	23.7% 23	3.1% 3	1.0% 1	1.0% 1	3.1% 3
	60代	100.0% 134	23.9% 32	23.9% 32	23.9% 32	1.5% 2	2.2% 3	3.0% 4	0.7% 1
	70歳以上	100.0% 96	26.0% 25	20.8% 20	15.6% 15	2.1% 2	5.2% 5	4.2% 4	2.1% 2

(5) 夫婦同姓・別姓を選択できることに対する考え方

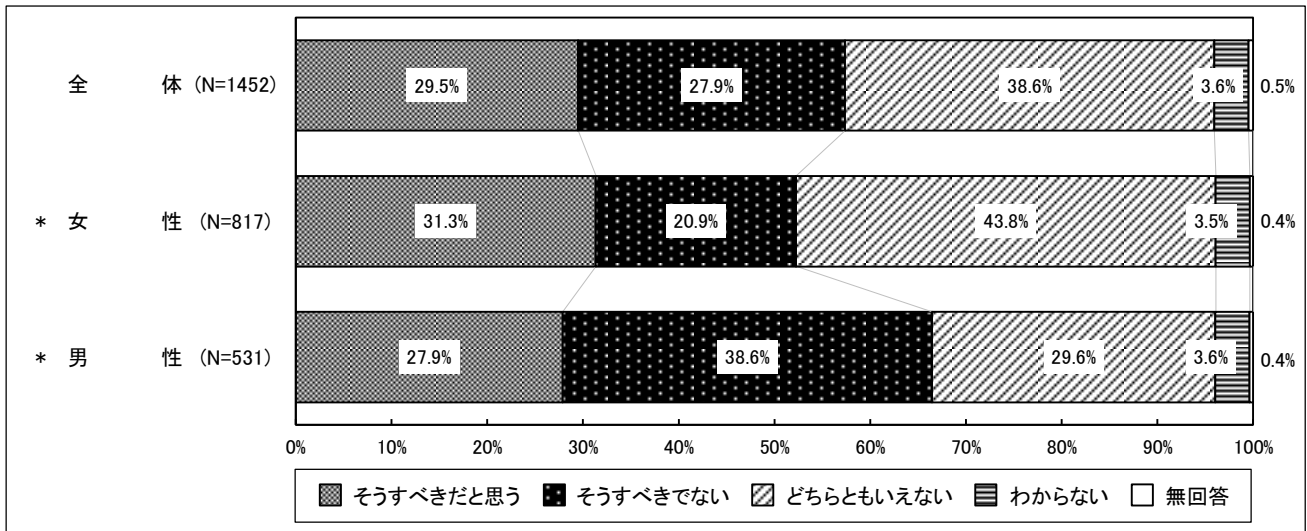
【問5】 現在の法律では、夫または妻のどちらかの姓を選び、夫婦は同じ姓を名乗るようになっていますが、「夫婦は同じ姓を名乗る」か「別々の姓を名乗る」か選択できるようにすることについてどう思いますか。

～ 「そうすべきだと思う」と「そうすべきでない」がほぼ同じ割合 ～

夫婦同姓・別姓を選択できるようにすることに対する考えについてみると、全体では「どちらともいえない」(38.6%)の割合が最も高く、次いで「そうすべきだと思う」(29.5%)、「そうすべきでない」(27.9%)となっている。

性別にみると、「そうすべきだと思う」(女性：31.3%、男性：27.9%)と「どちらともいえない」(女性：43.8%、男性：29.6%)の割合は女性が男性より高く、「そうすべきでない」(女性：20.9%、男性：38.6%)の割合は男性が女性より高くなっている。

夫婦同姓・別姓を選択できることに対する考え方(全体・性別)

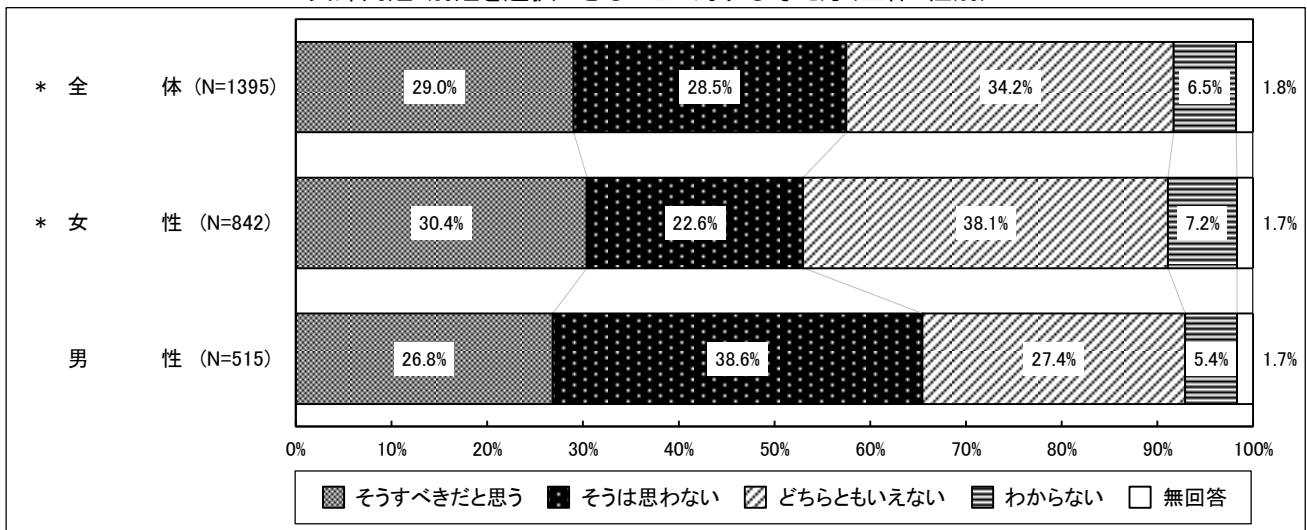


*：性別で有意差あり

前回調査と比較すると、全体と女性について有意差がみられ、いずれも「そうすべきだと思う」「どちらともいえない」の割合が増加し、「そうすべきでない」「わからない」の割合が減少している。

【前回調査】

夫婦同姓・別姓を選択できることに対する考え方(全体・性別)



*：今回調査と有意差あり

夫婦同姓・別姓を選択できることに対する考え方(性・年代・婚姻状況別)

		サンプル数	夫婦同姓・別姓を選択できることに対する考え					
			そうすべきだと思う	そうすべきでない	どちらともいえない	わからない	無回答	
全体		100.0% 1,452	29.5% 428	27.9% 405	38.6% 560	3.6% 52	0.5% 7	
性・年代別	女性計	100.0% 817	31.3% 256	20.9% 171	43.8% 358	3.5% 29	0.4% 3	
	20代	100.0% 80	32.5% 26	18.8% 15	42.5% 34	5.0% 4	1.3% 1	
	30代	100.0% 134	34.3% 46	17.2% 23	45.5% 61	3.0% 4	0.0% 0	
	40代	100.0% 161	34.2% 55	13.7% 22	48.4% 78	3.1% 5	0.6% 1	
	50代	100.0% 158	33.5% 53	19.6% 31	43.7% 69	3.2% 5	0.0% 0	
	60代	100.0% 180	27.2% 49	24.4% 44	45.6% 82	2.8% 5	0.0% 0	
	70歳以上	100.0% 104	26.0% 27	34.6% 36	32.7% 34	5.8% 6	1.0% 1	
	男性計	100.0% 531	27.9% 148	38.6% 205	29.6% 157	3.6% 19	0.4% 2	
	20代	100.0% 45	37.8% 17	35.6% 16	20.0% 9	4.4% 2	2.2% 1	
	30代	100.0% 62	14.5% 9	40.3% 25	37.1% 23	6.5% 4	1.6% 1	
	40代	100.0% 97	20.6% 20	34.0% 33	42.3% 41	3.1% 3	0.0% 0	
	50代	100.0% 97	34.0% 33	30.9% 30	29.9% 29	5.2% 5	0.0% 0	
	60代	100.0% 134	28.4% 38	45.5% 61	23.1% 31	3.0% 4	0.0% 0	
	70歳以上	100.0% 96	32.3% 31	41.7% 40	25.0% 24	1.0% 1	0.0% 0	
	性・婚姻状況別	女性計	100.0% 817	31.3% 256	20.9% 171	43.8% 358	3.5% 29	0.4% 3
		結婚している	100.0% 549	30.2% 166	23.5% 129	43.0% 236	2.9% 16	0.4% 2
結婚していない		100.0% 258	34.5% 89	15.1% 39	45.0% 116	5.0% 13	0.4% 1	
男性計		100.0% 531	27.9% 148	38.6% 205	29.6% 157	3.6% 19	0.4% 2	
結婚している		100.0% 399	27.1% 108	40.1% 160	29.6% 118	3.0% 12	0.3% 1	
結婚していない		100.0% 123	29.3% 36	35.0% 43	29.3% 36	5.7% 7	0.8% 1	

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

3. 家庭生活について

(1) 性別役割分担に対する考え方

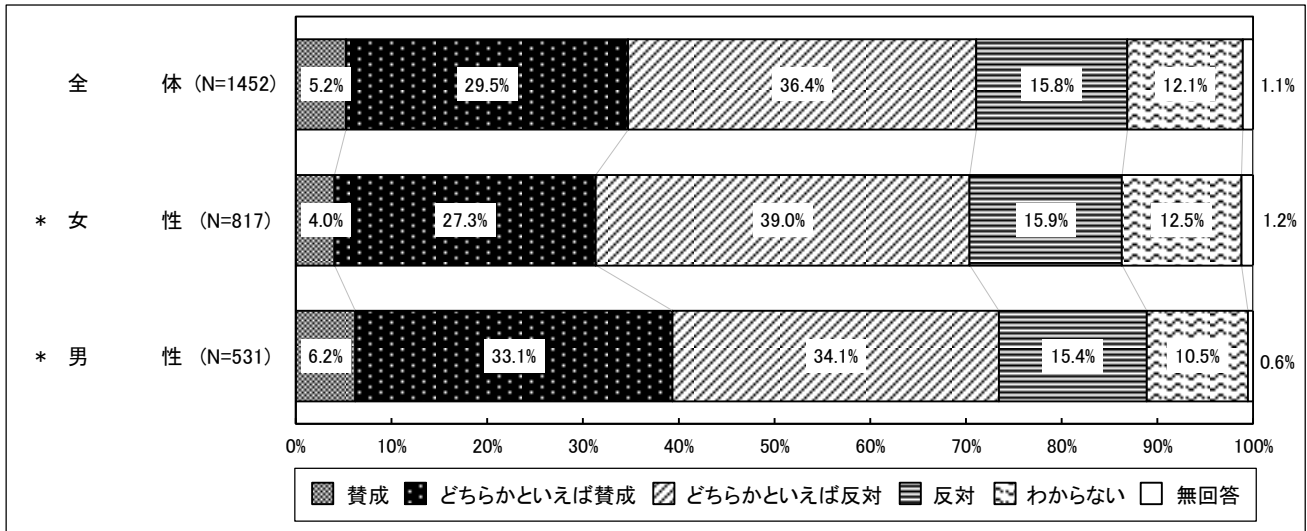
【問6】 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてどう思いますか。

～ 『反対』が『賛成』を上回る ～

「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担に対する考え方についてみると、全体では『賛成』（『賛成』+「どちらかといえば賛成」）が34.7%、『反対』（『反対』+「どちらかといえば反対」）が52.2%となっており、『反対』が『賛成』を上回っている。

性別にみると、『賛成』（女性：31.3%、男性：39.3%）の割合は男性が女性より高く、『反対』（女性：54.9%、男性：49.5%）の割合は女性が男性より高くなっている。

性別役割分担に対する考え方(全体・性別)

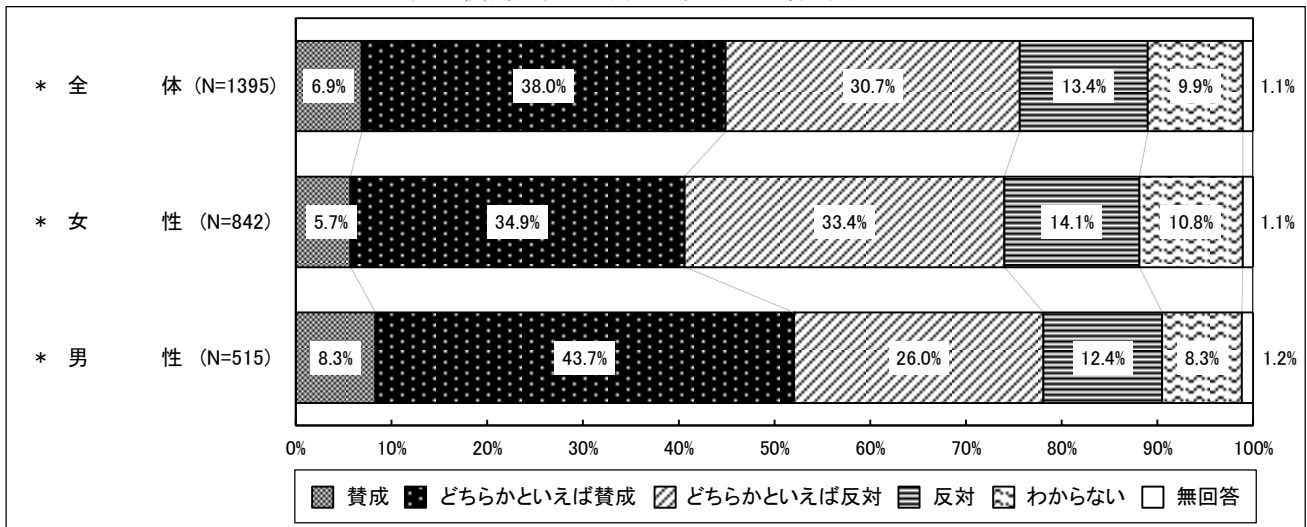


*：性別で有意差あり

前回調査と比較すると、全体、男女ともに『賛成』の割合が減少し、『反対』と「わからない」の割合が増加している。

【前回調査】

性別役割分担に対する考え方(全体・性別)

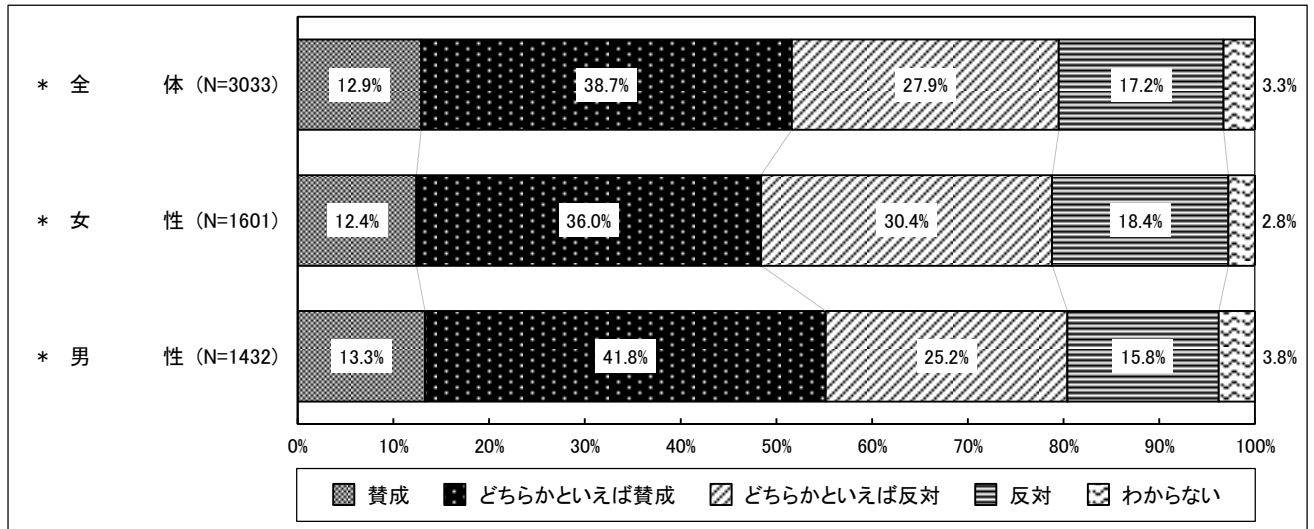


*：今回調査と有意差あり

内閣府調査と比較すると、全体、男女ともに『賛成』の割合が内閣府より低く、『反対』と「わからない」の割合が内閣府より高くなっている。

【内閣府調査】

性別役割分担に対する考え方(全体・性別)

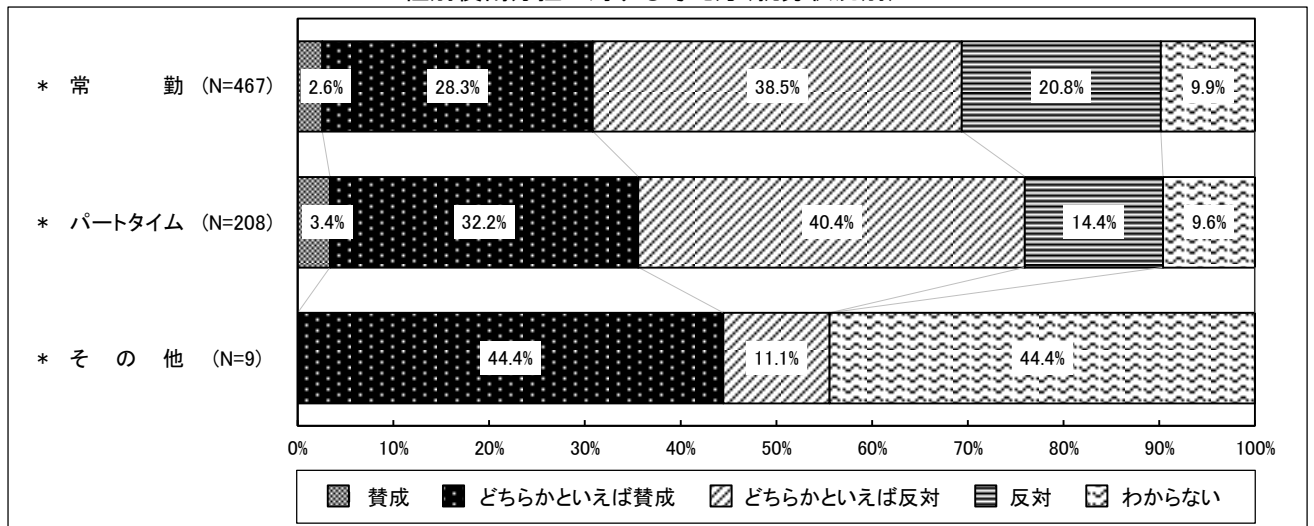


* : 鹿児島市調査と有意差あり

就労状況別にみると、「常勤」は「パートタイム」と比較し『賛成』(常勤 : 30.9%、パートタイム : 35.6%) の割合が低く、『反対』(常勤 : 59.3%、パートタイム : 54.8%) の割合が高くなっている。

	サンプル数	性別役割分担に対する考え方					
		『賛成』		『反対』		わからない	
		賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対		
全体	687	19	203	266	128	71	
就労状況	常勤	467	12	132	180	97	46
	パートタイム	208	7	67	84	30	20
	その他	9	0	4	1	0	4

性別役割分担に対する考え方(就労状況別)

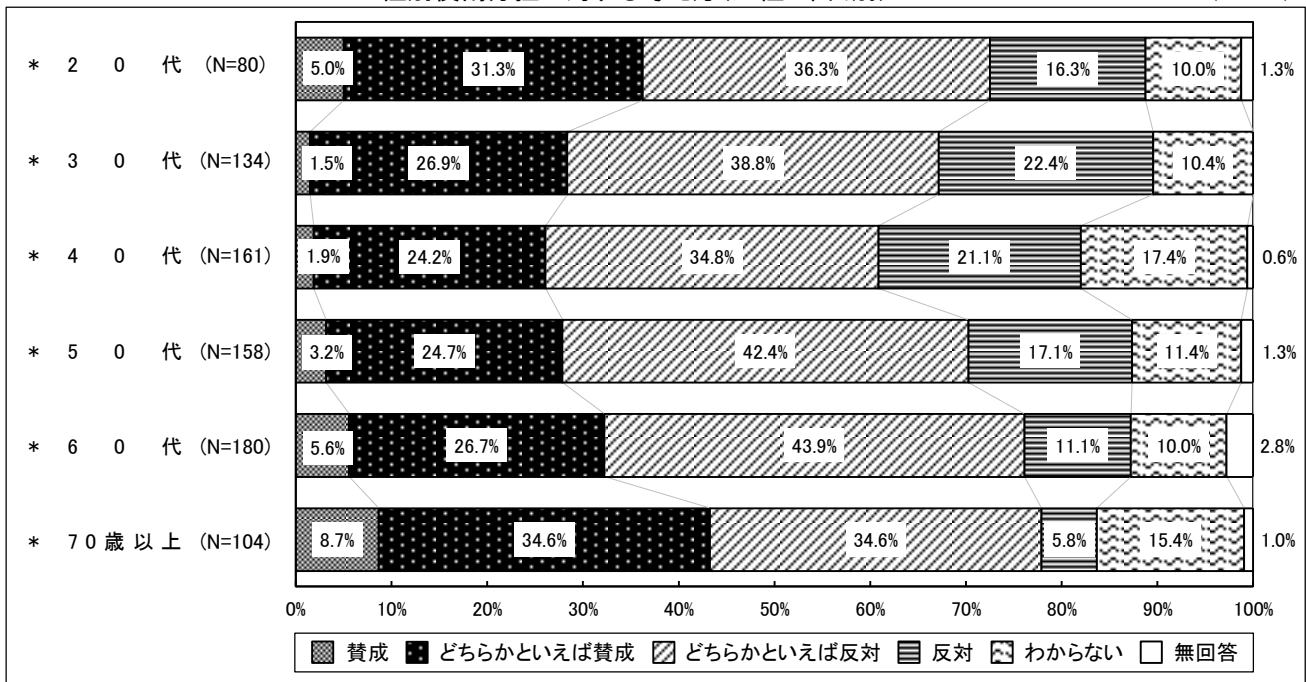


* : 就労状況別で有意差あり

性・年代別にみると、男女とも70歳以上で『賛成』の割合が最も高くなっており、男性は60代以上、女性は70歳以上で『賛成』の割合が『反対』を上回っている。

性別役割分担に対する考え方(女性・年代別)

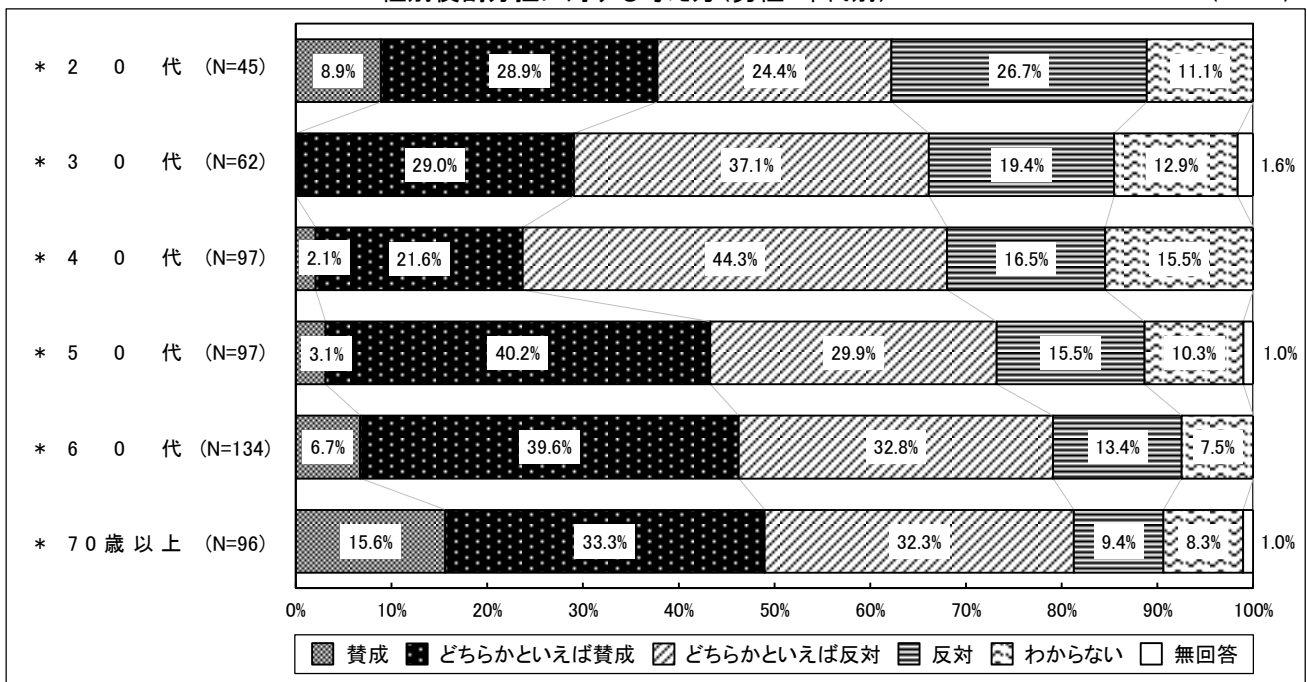
(N=817)



*: 年代別で有意差あり

性別役割分担に対する考え方(男性・年代別)

(N=531)



*: 年代別で有意差あり

性別役割分担に対する考え方(性・年代別)

	サンプル数	性別役割分担に対する考え方						
		賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答	
全体	100.0% 1,452	5.2% 76	29.5% 428	36.4% 528	15.8% 229	12.1% 175	1.1% 16	
性・年代別	女性計	100.0% 817	4.0% 33	27.3% 223	39.0% 319	15.9% 130	12.5% 102	1.2% 10
	20代	100.0% 80	5.0% 4	31.3% 25	36.3% 29	16.3% 13	10.0% 8	1.3% 1
	30代	100.0% 134	1.5% 2	26.9% 36	38.8% 52	22.4% 30	10.4% 14	0.0% 0
	40代	100.0% 161	1.9% 3	24.2% 39	34.8% 56	21.1% 34	17.4% 28	0.6% 1
	50代	100.0% 158	3.2% 5	24.7% 39	42.4% 67	17.1% 27	11.4% 18	1.3% 2
	60代	100.0% 180	5.6% 10	26.7% 48	43.9% 79	11.1% 20	10.0% 18	2.8% 5
	70歳以上	100.0% 104	8.7% 9	34.6% 36	34.6% 36	5.8% 6	15.4% 16	1.0% 1
	男性計	100.0% 531	6.2% 33	33.1% 176	34.1% 181	15.4% 82	10.5% 56	0.6% 3
	20代	100.0% 45	8.9% 4	28.9% 13	24.4% 11	26.7% 12	11.1% 5	0.0% 0
	30代	100.0% 62	0.0% 0	29.0% 18	37.1% 23	19.4% 12	12.9% 8	1.6% 1
	40代	100.0% 97	2.1% 2	21.6% 21	44.3% 43	16.5% 16	15.5% 15	0.0% 0
	50代	100.0% 97	3.1% 3	40.2% 39	29.9% 29	15.5% 15	10.3% 10	1.0% 1
	60代	100.0% 134	6.7% 9	39.6% 53	32.8% 44	13.4% 18	7.5% 10	0.0% 0
	70歳以上	100.0% 96	15.6% 15	33.3% 32	32.3% 31	9.4% 9	8.3% 8	1.0% 1

※ : 各属性内での回答割合が最も高い

(2) 性別役割分担に対する考え方に賛成する理由

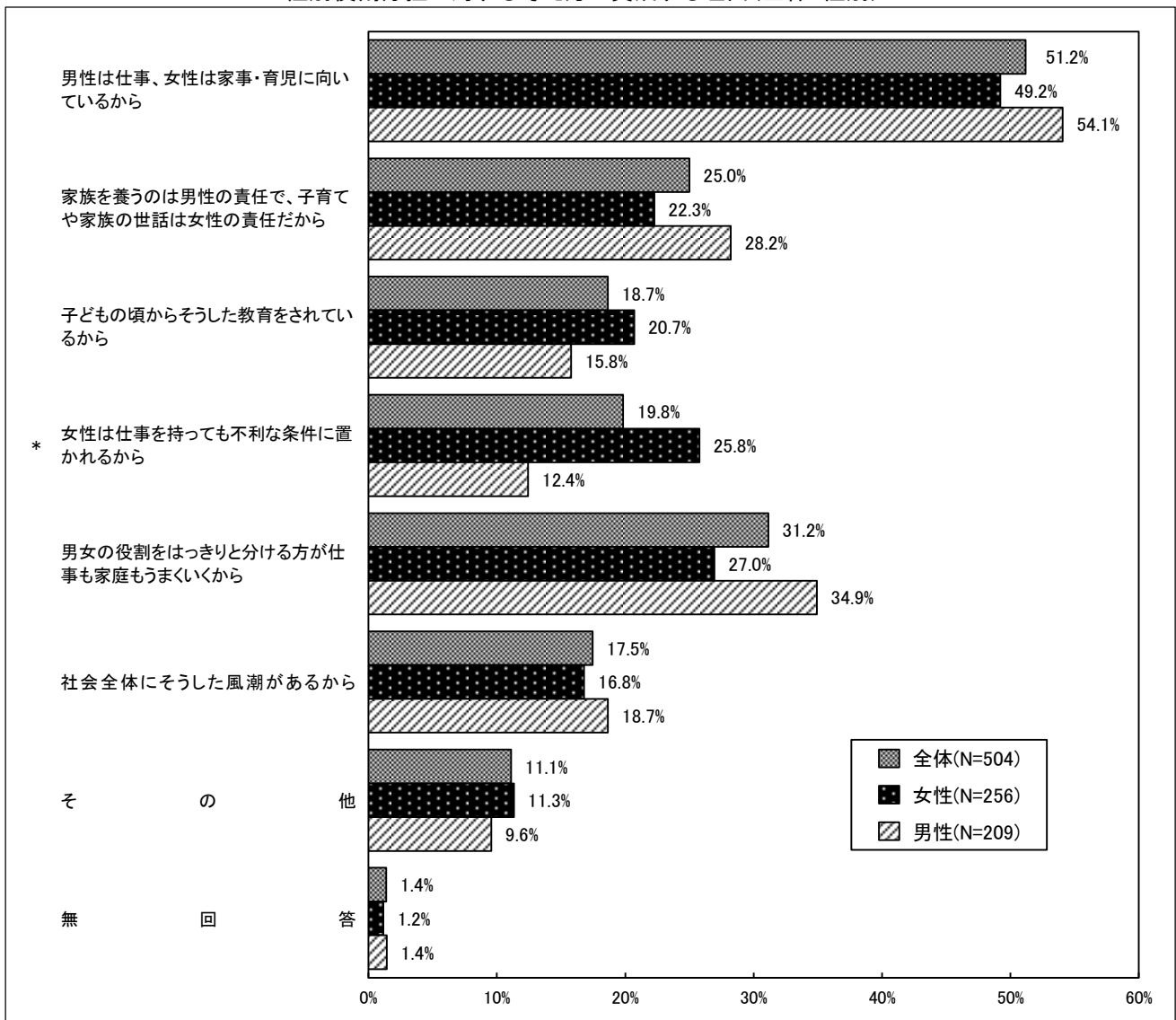
【問7】 問6で「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。(複数回答)

～ 男性は仕事、女性は家事・育児に向いていると回答した人は5割 ～

性別役割分担に対する考え方に賛成する理由をみると、全体では「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」(51.2%)の割合が最も高く、次いで「男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」(31.2%)、「家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから」(25.0%)となっている。

性別にみると、「女性は仕事を持ってても不利な条件に置かれるから」(女性：25.8%、男性：12.4%)で女性の割合が男性より高くなっている。

性別役割分担に対する考え方に賛成する理由(全体・性別)

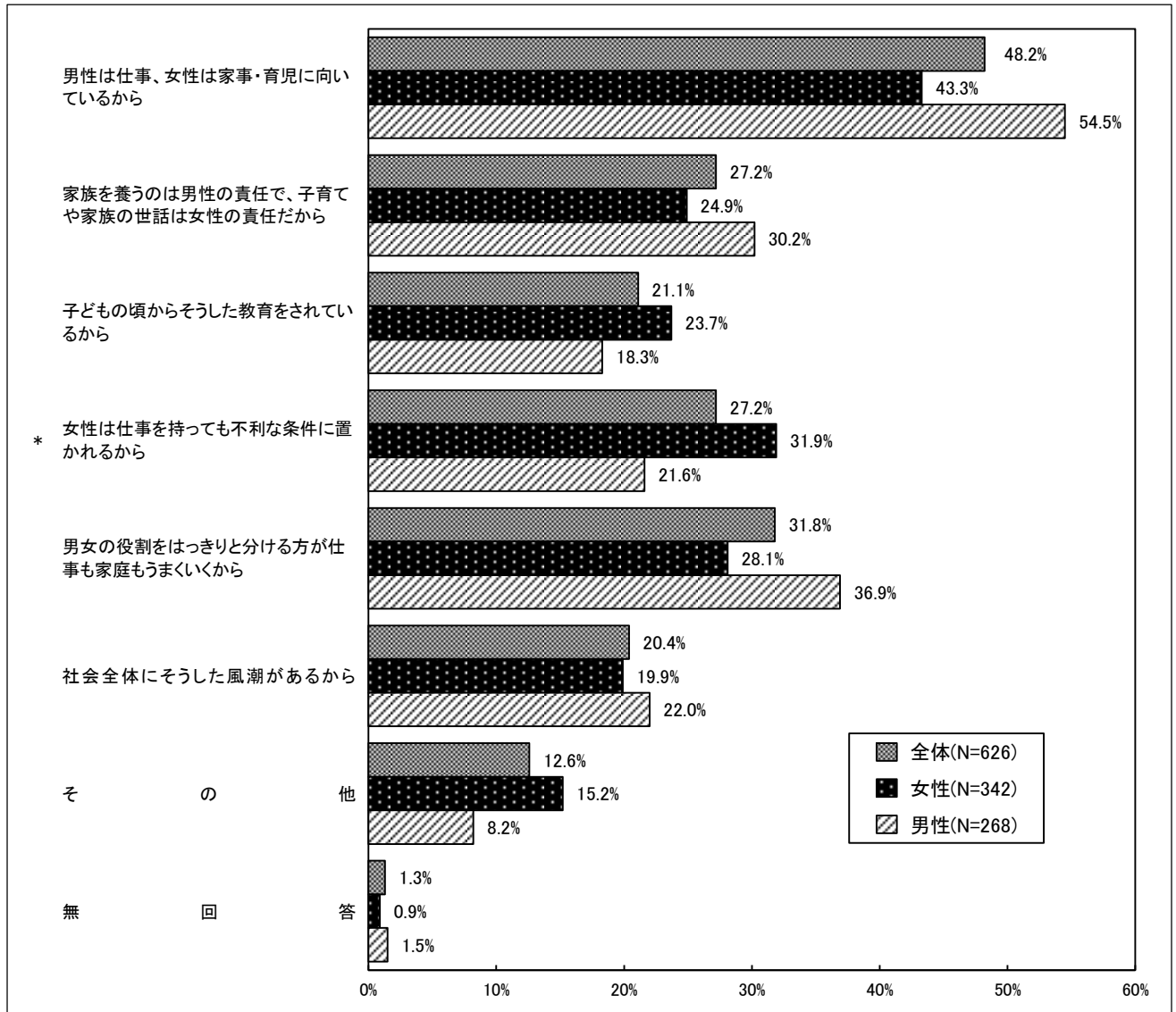


*：性別で有意差あり

前回調査と比較すると、全体では「女性は仕事を持って不利な条件に置かれるから」(今回:19.8%、前回:27.2%)の割合が減少している。

【前回調査】

性別役割分担に対する考え方に賛成する理由(全体・性別)



* : 今回調査と有意差あり

性別役割分担に対する考え方に賛成する理由(性・年代・配偶者の有無別)(複数回答)

	サンプル数	性別役割分担に対する考え方に賛成する理由								
		から 事 男性は仕事、女性 ・育児に向いている は家	話 家族を養うのは男性 任で、子育てや家族の 責任は女性の責任だ から	ら 子どもの頃からそう した教育をされている か	から 女性の仕事を持つて も不利な条件に置かれ る	庭 もうまくいくから	と 男女の役割をはつきり と分ける方が仕事も家	潮 社会全体にそうした風 があるから	そ その他	無 回答
全体	100.0%	51.2%	25.0%	18.7%	19.8%	31.2%	17.5%	11.1%	1.4%	
	504	258	126	94	100	157	88	56	7	
性・年代別	女性計	100.0%	49.2%	22.3%	20.7%	25.8%	27.0%	16.8%	11.3%	1.2%
		256	126	57	53	66	69	43	29	3
	20代	100.0%	51.7%	20.7%	6.9%	44.8%	24.1%	24.1%	6.9%	0.0%
		29	15	6	2	13	7	7	2	0
	30代	100.0%	60.5%	26.3%	10.5%	21.1%	21.1%	15.8%	13.2%	0.0%
		38	23	10	4	8	8	6	5	0
	40代	100.0%	40.5%	7.1%	14.3%	21.4%	21.4%	11.9%	16.7%	0.0%
		42	17	3	6	9	9	5	7	0
	50代	100.0%	36.4%	22.7%	15.9%	31.8%	25.0%	15.9%	13.6%	2.3%
		44	16	10	7	14	11	7	6	1
	60代	100.0%	51.7%	24.1%	25.9%	25.9%	32.8%	17.2%	8.6%	1.7%
		58	30	14	15	15	19	10	5	1
	70歳以上	100.0%	55.6%	31.1%	42.2%	15.6%	33.3%	17.8%	8.9%	2.2%
		45	25	14	19	7	15	8	4	1
	男性計	100.0%	54.1%	28.2%	15.8%	12.4%	34.9%	18.7%	9.6%	1.4%
		209	113	59	33	26	73	39	20	3
	20代	100.0%	41.2%	23.5%	11.8%	17.6%	47.1%	29.4%	11.8%	0.0%
		17	7	4	2	3	8	5	2	0
30代	100.0%	38.9%	5.6%	5.6%	11.1%	55.6%	16.7%	0.0%	0.0%	
	18	7	1	1	2	10	3	0	0	
40代	100.0%	60.9%	8.7%	13.0%	30.4%	39.1%	21.7%	17.4%	0.0%	
	23	14	2	3	7	9	5	4	0	
50代	100.0%	42.9%	23.8%	11.9%	9.5%	31.0%	16.7%	19.0%	0.0%	
	42	18	10	5	4	13	7	8	0	
60代	100.0%	51.6%	41.9%	24.2%	4.8%	32.3%	21.0%	6.5%	0.0%	
	62	32	26	15	3	20	13	4	0	
70歳以上	100.0%	74.5%	34.0%	14.9%	14.9%	27.7%	12.8%	4.3%	6.4%	
	47	35	16	7	7	13	6	2	3	
性・配偶者の有無別	女性計	100.0%	49.2%	22.3%	20.7%	25.8%	27.0%	16.8%	11.3%	1.2%
		256	126	57	53	66	69	43	29	3
	結婚している	100.0%	49.4%	21.1%	23.9%	24.4%	25.6%	15.6%	10.6%	1.7%
		180	89	38	43	44	46	28	19	3
	結婚していない	100.0%	51.4%	22.9%	12.9%	30.0%	30.0%	17.1%	12.9%	0.0%
		70	36	16	9	21	21	12	9	0
男性計	100.0%	54.1%	28.2%	15.8%	12.4%	34.9%	18.7%	9.6%	1.4%	
	209	113	59	33	26	73	39	20	3	
結婚している	100.0%	56.4%	30.9%	17.6%	12.1%	32.1%	19.4%	7.9%	1.2%	
	165	93	51	29	20	53	32	13	2	
結婚していない	100.0%	46.5%	16.3%	9.3%	11.6%	44.2%	16.3%	16.3%	2.3%	
	43	20	7	4	5	19	7	7	1	

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

(3) 日常生活における役割分担についての理想と実際

日常生活における役割分担についておたずねします。

- 【問8】 (1) ①～⑧について、あなたの理想とする分担をお答えください。
 (2) 結婚している方、結婚してはいるがパートナーと暮らしている方におたずねします。①～⑧について、実際にあなたの家庭では主にだれが分担していますか。

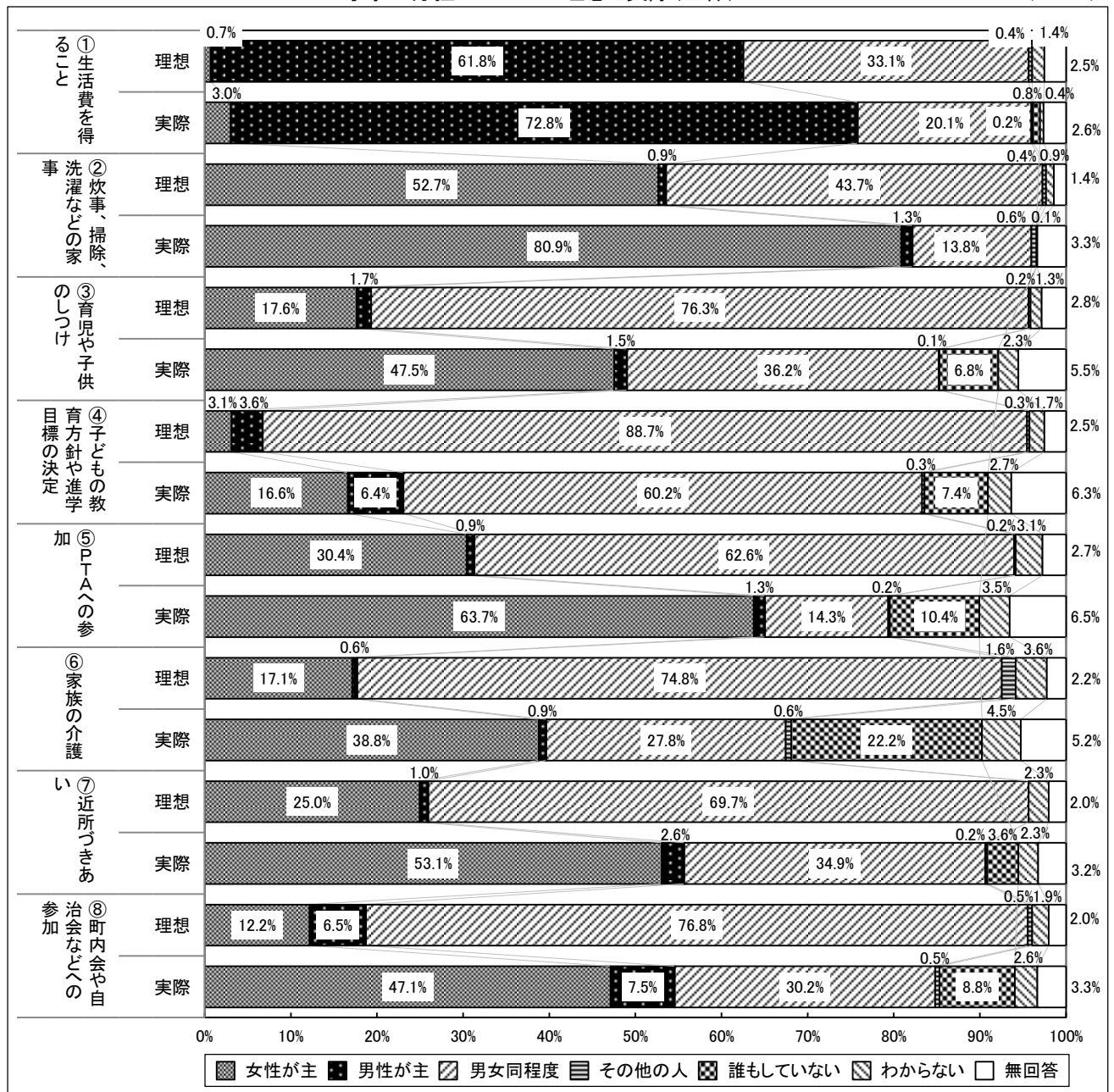
～ 理想は「男女同程度」が多いが、実際に多くを担っているのは女性 ～

日常生活における役割分担についてみると、理想では「①生活費を得ること」と「②炊事、掃除、洗濯などの家事」を除いて、「男女同程度」が6割を上回っている。

実際では、「①生活費を得ること」の「男性が主」(72.8%)、「④子どもの教育方針や進学目標の決定」の「男女同程度」(60.2%)を除いて、「女性が主」の割合が高くなっている。

家事の分担についての理想と実際(全体)

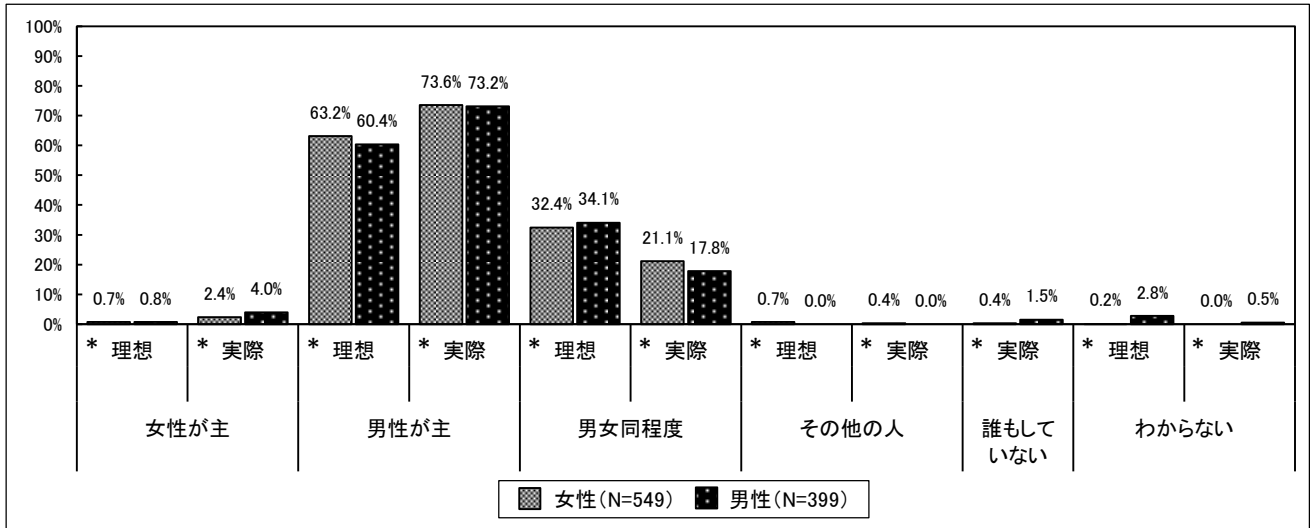
(N=993)



性別にみると、理想では「①生活費を得ること」の「男性が主」、「②炊事、掃除、洗濯などの家事」の「女性が主」を除いて「男女同程度」の割合が男女ともに最も高くなっている。

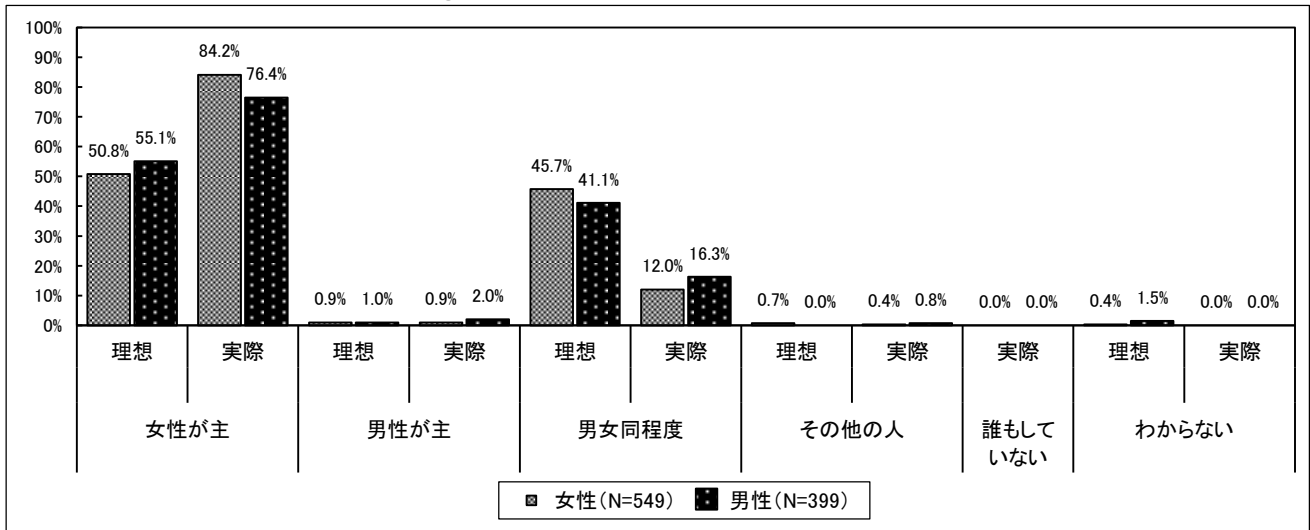
実際では、「④子どもの教育方針や進学目標の決定」は「男女同程度」、「①生活費を得ること」は「男性が主」、「②炊事、掃除、洗濯などの家事」、「⑤PTAへの参加」、「⑦近所づきあい」は「女性が主」の割合が男女ともに最も高くなっている。一方、「③育児や子どものしつけ」、「⑥家族の介護」、「⑧町内会や自治会などへの参加」では、女性は「女性が主」、男性は「男女同程度」と答えた割合が最も高く、男女間の差がみられる。

①生活費を得ること(性別)

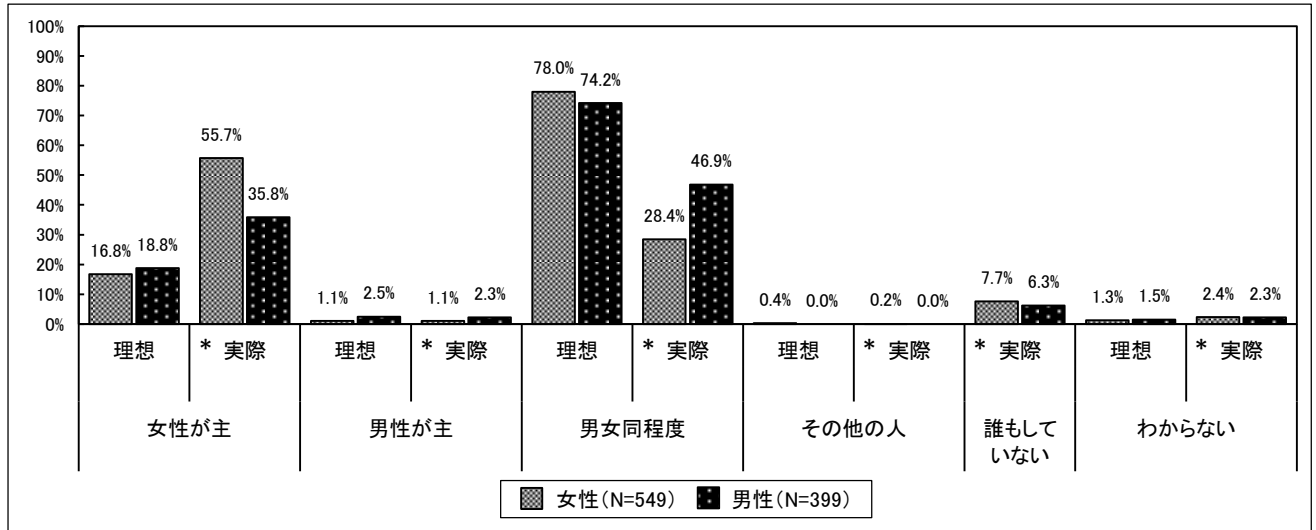


* : 性別で有意差あり

②炊事、掃除、洗濯などの家事(性別)

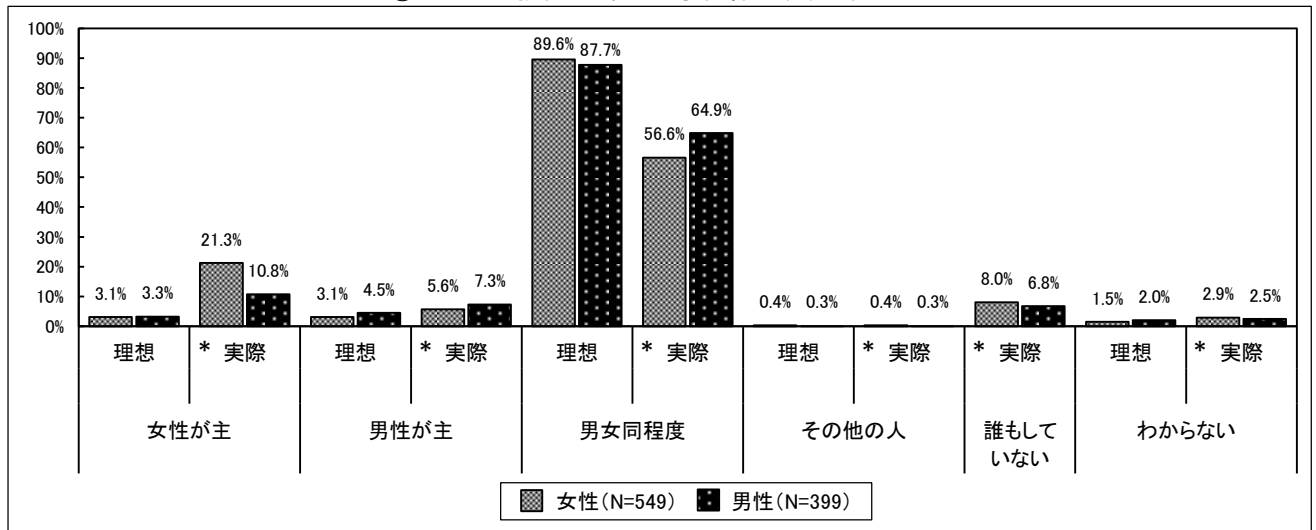


③育児や子どものしつけ(性別)



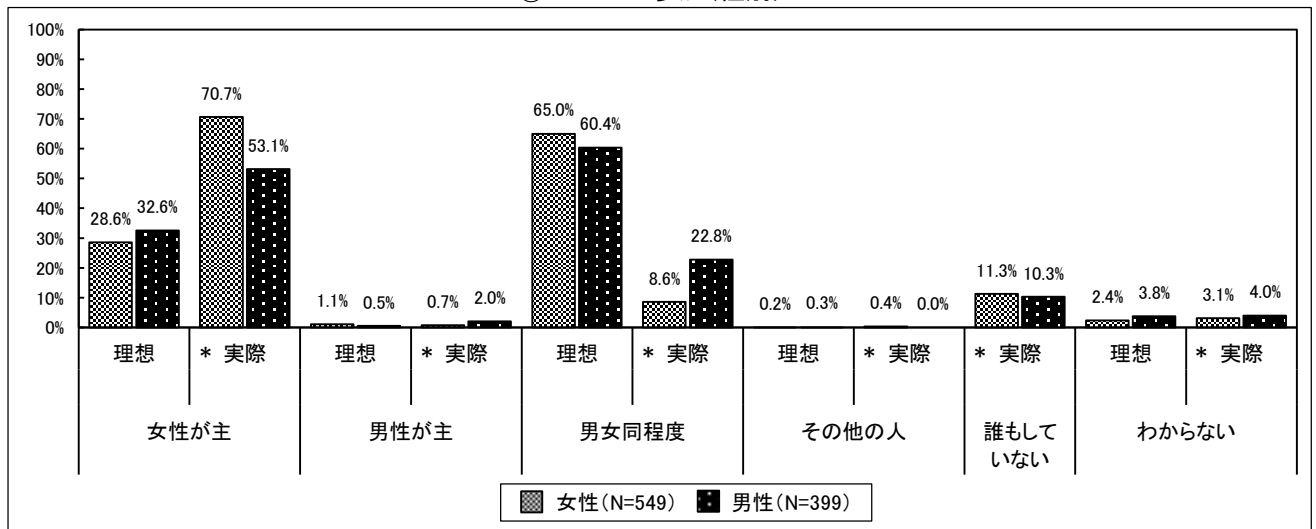
* : 性別で有意差あり

④子どもの教育方針や進学目標の決定(性別)



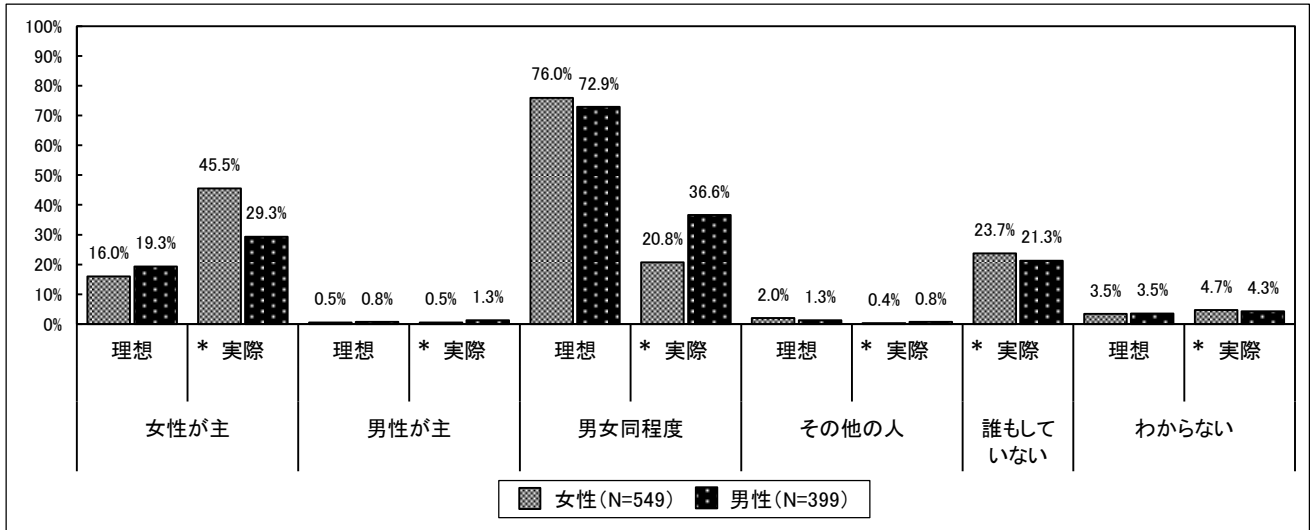
* : 性別で有意差あり

⑤PTAへの参加(性別)



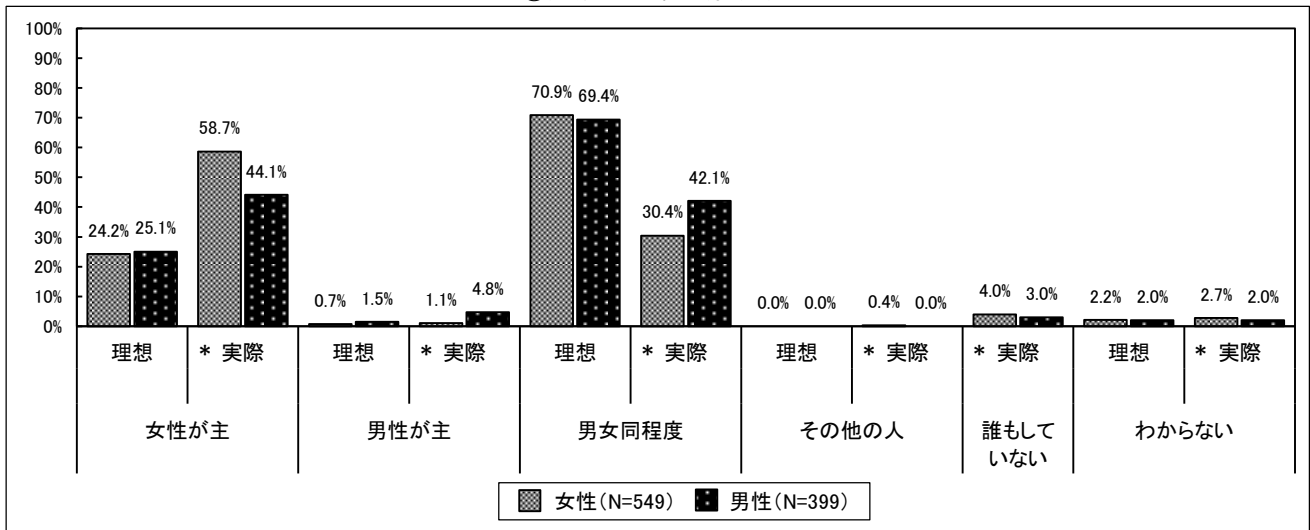
* : 性別で有意差あり

⑥ 家族の介護(性別)



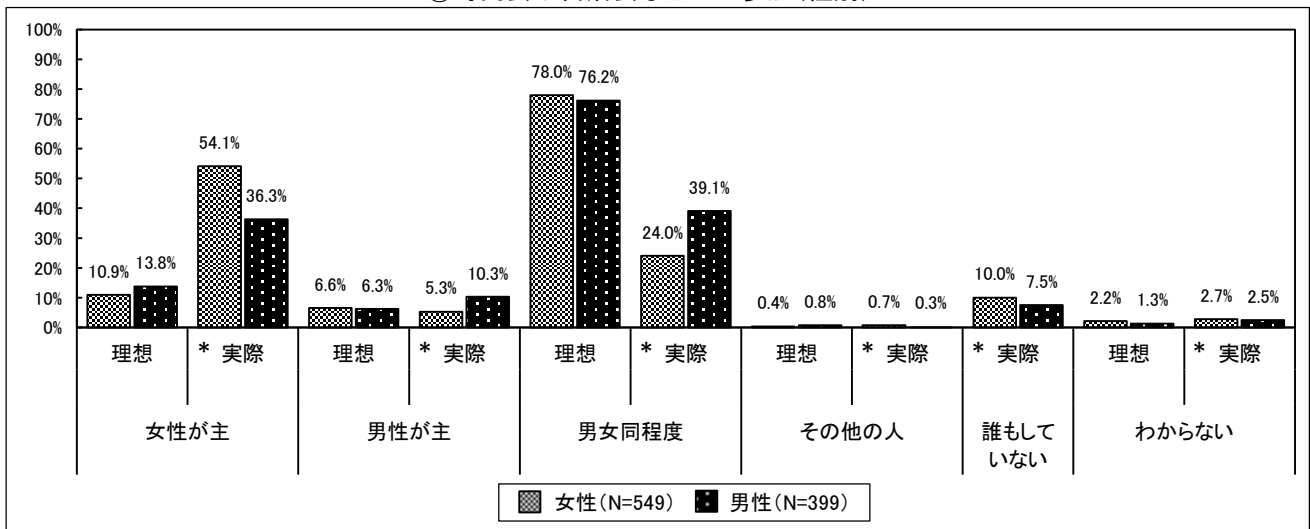
*: 性別で有意差あり

⑦ 近所づきあい(性別)



*: 性別で有意差あり

⑧ 町内会や自治会などへの参加(性別)



*: 性別で有意差あり

(4) 男性が家事、育児をすることについての考え

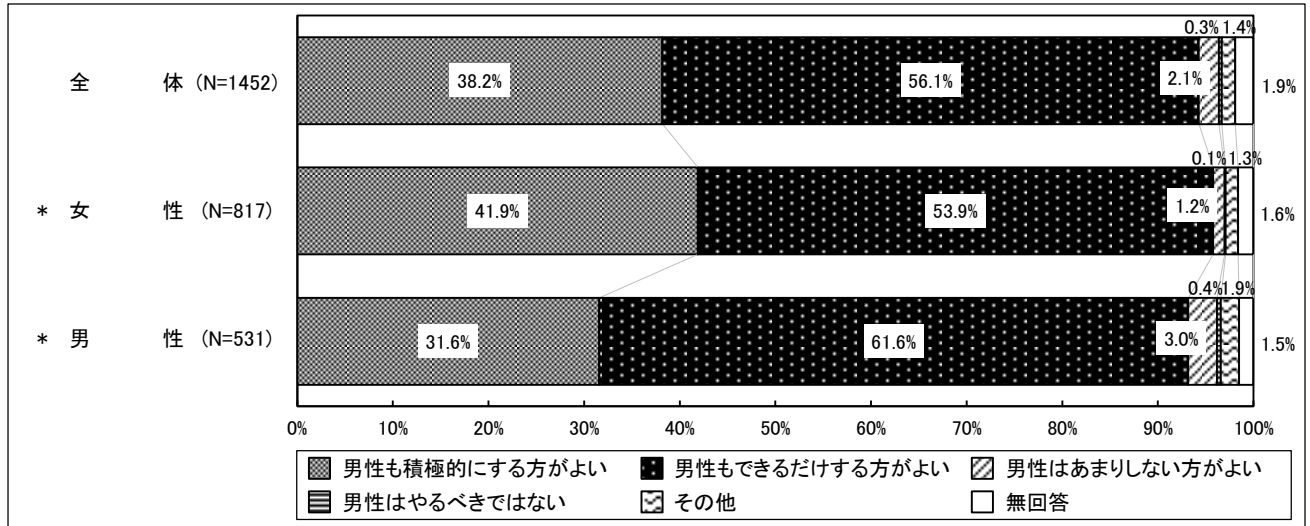
【問9】 男性が家事、育児などをする事についてどう思いますか。

～ 男女とも9割が肯定的 ～

男性が家事、育児をすることについての考えをみると、全体では「男性もできるだけする方がよい」(56.1%)の割合が最も高く、次いで「男性も積極的にする方がよい」(38.2%)となっている。

性別にみると、女性は男性と比較し「男性も積極的にする方がよい」(女性：41.9%、男性：31.6%)の割合が高く、「男性もできるだけする方がよい」(女性：53.9%、男性：61.6%)を合わせると、女性は95.8%、男性は93.2%となっている。

男性が家事、育児をすることについての考え(全体・性別)

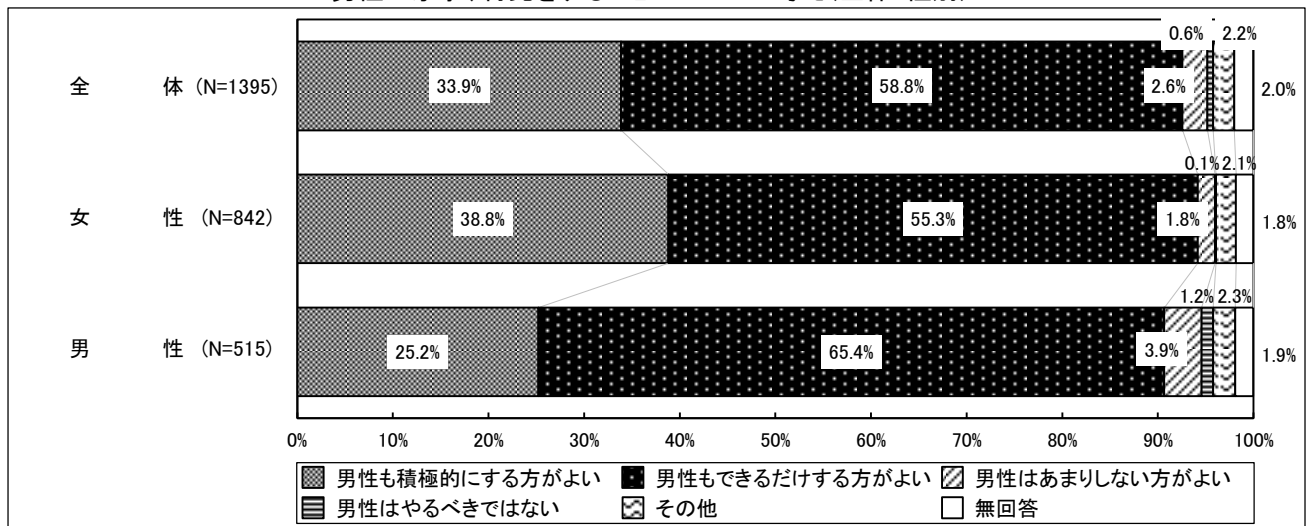


*：性別で有意差あり

前回調査との比較では、有意差はみられなかった。

【前回調査】

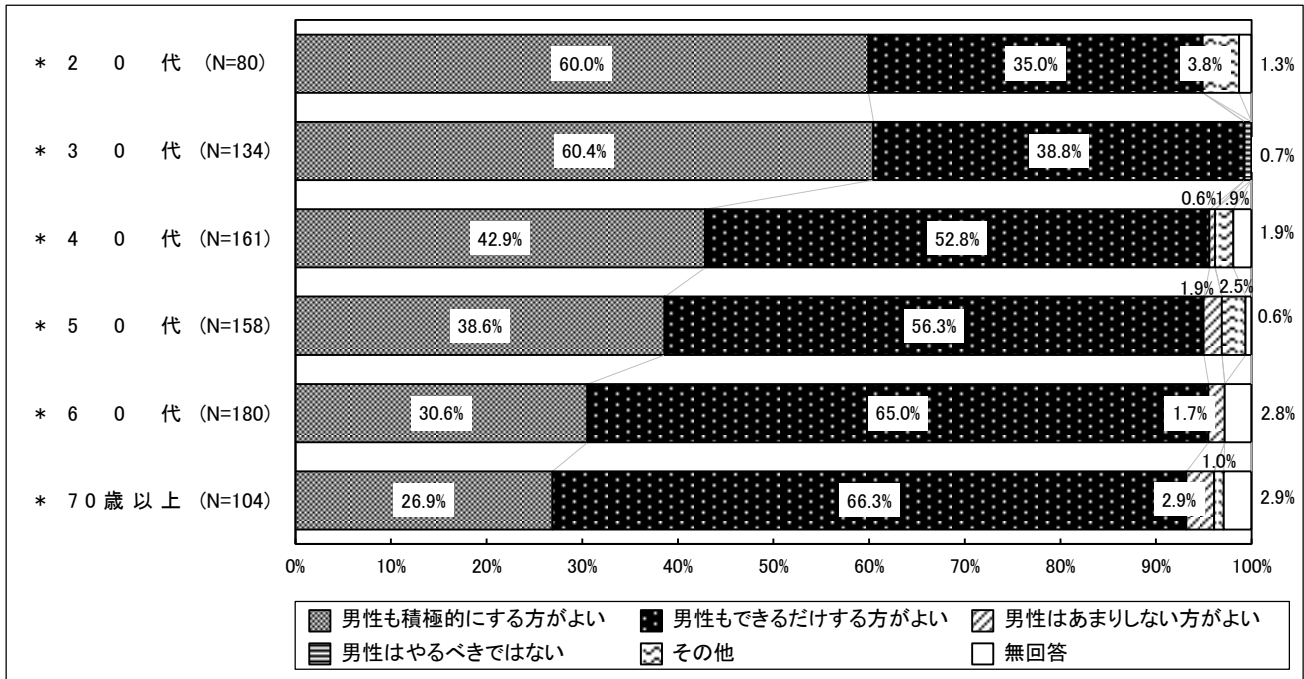
男性が家事、育児をすることについての考え(全体・性別)



性・年代別にみると、女性は年代が上がるにつれ「男性も積極的にする方がよい」の割合が低くなり、「男性もできるだけする方がよい」の割合は40代以上で高くなっている。男性は「男性も積極的にする方がよい」が20代（55.6%）で最も高くなっているが、30代（37.1%）では18.5ポイント低くなっている。

男性が家事、育児をすることについての考え(女性・年代別)

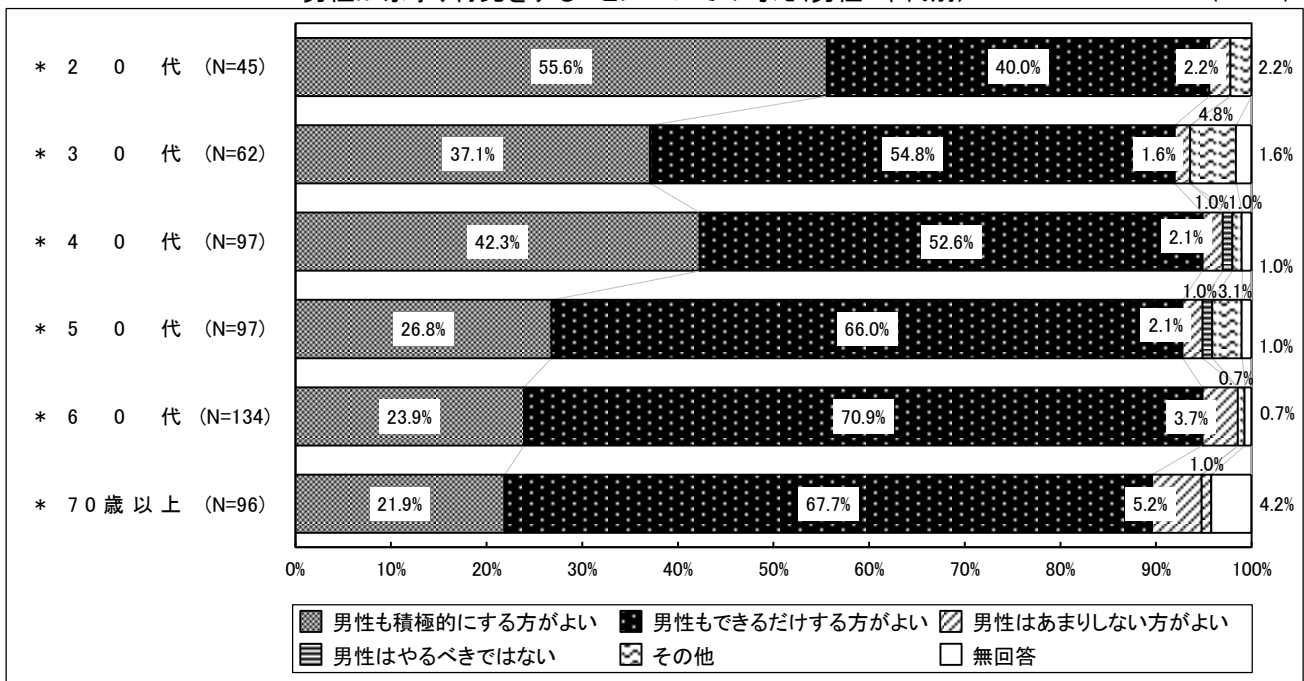
(N=817)



* : 年代別で有意差あり

男性が家事、育児をすることについての考え(男性・年代別)

(N=531)



* : 年代別で有意差あり

男性が家事、育児をすることについての考え(性・年代別)

	サンプル数	男性が家事、育児をすることについての考え						
		男性も積極的にする方がよい	男性もできるだけする方がよい	男性はあまりしない方がよい	男性はやるべきでない	その他	無回答	
全体	100.0%	38.2%	56.1%	2.1%	0.3%	1.4%	1.9%	
	1,452	555	815	30	4	21	27	
性・年代別	女性計	100.0%	41.9%	53.9%	1.2%	0.1%	1.3%	1.6%
		817	342	440	10	1	11	13
	20代	100.0%	60.0%	35.0%	0.0%	0.0%	3.8%	1.3%
		80	48	28	0	0	3	1
	30代	100.0%	60.4%	38.8%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%
		134	81	52	0	1	0	0
	40代	100.0%	42.9%	52.8%	0.6%	0.0%	1.9%	1.9%
		161	69	85	1	0	3	3
	50代	100.0%	38.6%	56.3%	1.9%	0.0%	2.5%	0.6%
		158	61	89	3	0	4	1
	60代	100.0%	30.6%	65.0%	1.7%	0.0%	0.0%	2.8%
		180	55	117	3	0	0	5
	70歳以上	100.0%	26.9%	66.3%	2.9%	0.0%	1.0%	2.9%
		104	28	69	3	0	1	3
	男性計	100.0%	31.6%	61.6%	3.0%	0.4%	1.9%	1.5%
		531	168	327	16	2	10	8
	20代	100.0%	55.6%	40.0%	2.2%	0.0%	2.2%	0.0%
		45	25	18	1	0	1	0
	30代	100.0%	37.1%	54.8%	1.6%	0.0%	4.8%	1.6%
	62	23	34	1	0	3	1	
40代	100.0%	42.3%	52.6%	2.1%	1.0%	1.0%	1.0%	
	97	41	51	2	1	1	1	
50代	100.0%	26.8%	66.0%	2.1%	1.0%	3.1%	1.0%	
	97	26	64	2	1	3	1	
60代	100.0%	23.9%	70.9%	3.7%	0.0%	0.7%	0.7%	
	134	32	95	5	0	1	1	
70歳以上	100.0%	21.9%	67.7%	5.2%	0.0%	1.0%	4.2%	
	96	21	65	5	0	1	4	

____% : 各属性内での回答割合が最も高い

男性が家事、育児をすることについての考え
 (性・配偶者の有無・夫婦の就労形態・子の有無・性別役割分担に対する考え方別)

		サンプル数	男性が家事、育児をすることについての考え					
			男性も積極的にする方がよい	男性もできるだけだけする方がよい	男性はあまりしない方がよい	男性はやるべきでない	その他	無回答
性・配偶者の有無別	女性 計	100.0%	41.9%	53.9%	1.2%	0.1%	1.3%	1.6%
		817	342	440	10	1	11	13
	結婚している	100.0%	41.9%	54.1%	1.1%	0.2%	1.3%	1.5%
		549	230	297	6	1	7	8
	結婚していない	100.0%	35.6%	56.7%	2.2%	0.0%	5.6%	0.0%
		258	111	135	4	0	4	4
男性 計	100.0%	31.6%	61.6%	3.0%	0.4%	1.9%	1.5%	
	531	168	327	16	2	10	8	
結婚している	100.0%	30.6%	63.4%	3.3%	0.3%	1.3%	1.3%	
	399	122	253	13	1	5	5	
結婚していない	100.0%	35.6%	56.7%	2.2%	0.0%	5.6%	0.0%	
	123	44	70	2	1	5	1	
夫婦の就労形態別	どちらにも職業がある	100.0%	43.6%	52.9%	1.3%	0.2%	0.9%	1.1%
		461	201	244	6	1	4	5
	自分にもみ職業がある	100.0%	32.6%	60.6%	2.3%	0.8%	2.3%	1.5%
		132	43	80	3	1	3	2
配偶者にもみ職業がある	100.0%	38.2%	57.6%	1.2%	0.0%	1.8%	1.2%	
	165	63	95	2	0	3	2	
どちらも職業がない	100.0%	25.0%	69.0%	3.0%	0.0%	0.6%	2.4%	
	168	42	116	5	0	1	4	
子の有無別	いる	100.0%	36.2%	58.9%	1.7%	0.3%	1.1%	1.6%
		974	353	574	17	3	11	16
いない	100.0%	43.1%	50.9%	2.1%	0.0%	2.7%	1.2%	
	332	143	169	7	0	9	4	
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0%	24.8%	67.7%	3.4%	0.6%	1.8%	1.8%
		504	125	341	17	3	9	9
	『反対』	100.0%	48.7%	47.7%	1.2%	0.0%	0.9%	1.5%
	757	369	361	9	0	7	11	
わからない	100.0%	34.3%	57.7%	2.3%	0.6%	2.3%	2.9%	
	175	60	101	4	1	4	5	

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

(5) 家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え

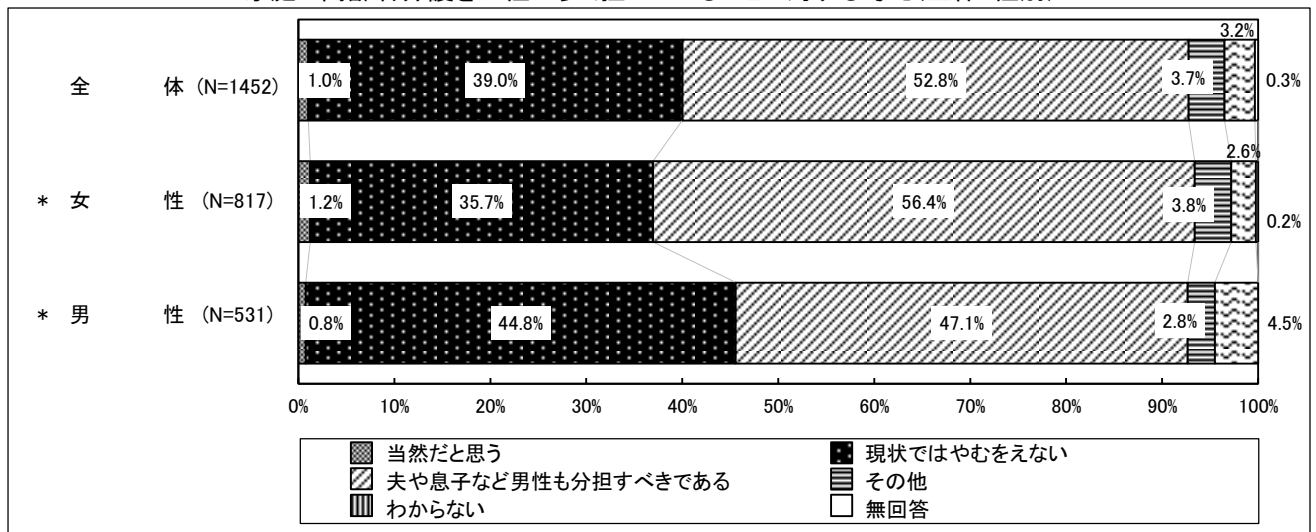
【問10】 現在、家庭での高齢者介護は、多くの場合女性が担っていますが、これについてどう思いますか。

～ 男性も分担すべきと考える人が5割 ～

家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考えについてみると、全体では「夫や息子など男性も分担すべきである」(52.8%)の割合が最も高く、次いで「現状ではやむをえない」(39.0%)となっている。

性別にみると、「夫や息子など男性も分担すべきである」(女性：56.4%、男性：47.1%)の割合は女性が男性より高く、「現状ではやむをえない」(女性：35.7%、男性：44.8%)の割合は男性が女性より高くなっている。

家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え(全体・性別)

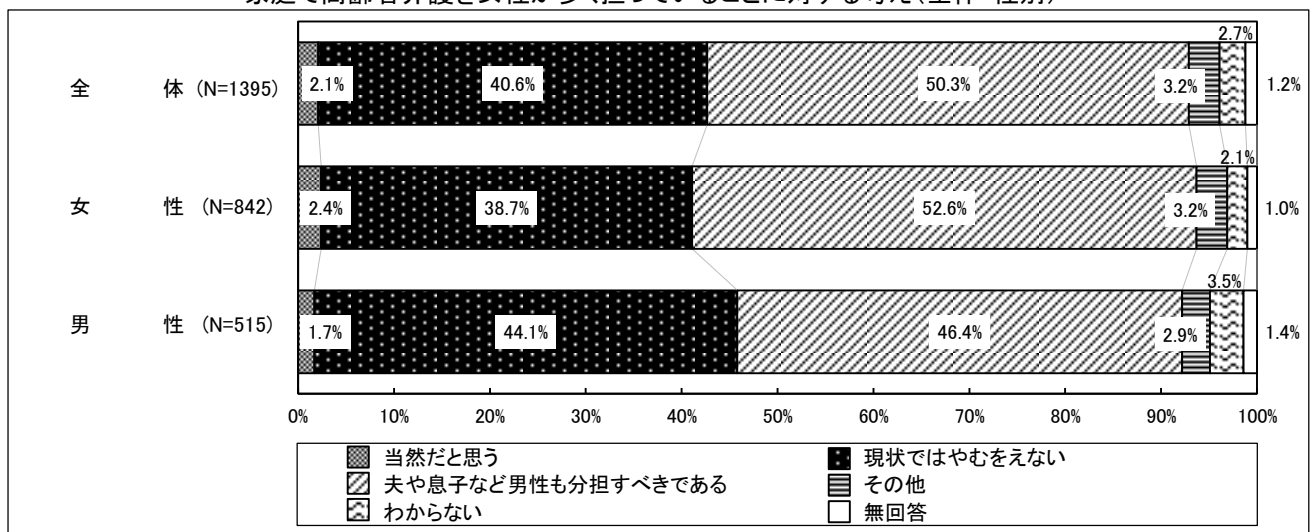


*：性別で有意差あり

前回調査との比較では、有意差はみられなかった。

【前回調査】

家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え(全体・性別)



家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え(性・年代別)

	サンプル数	家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え						
		当然だと思う	現状ではやむをえない	夫や息子など男性も分担すべきである	その他	わからない	無回答	
全体	100.0%	1.0%	39.0%	52.8%	3.7%	3.2%	0.3%	
	1,452	15	566	766	54	46	5	
性・年代別	女性計	100.0%	1.2%	35.7%	56.4%	3.8%	2.6%	0.2%
		817	10	292	461	31	21	2
	20代	100.0%	0.0%	33.8%	62.5%	1.3%	2.5%	0.0%
			80	0	27	50	1	2
	30代	100.0%	0.7%	29.1%	63.4%	4.5%	2.2%	0.0%
			134	1	39	85	6	3
	40代	100.0%	0.0%	29.2%	61.5%	5.0%	3.7%	0.6%
			161	0	47	99	8	6
	50代	100.0%	1.3%	38.0%	56.3%	2.5%	1.9%	0.0%
			158	2	60	89	4	3
	60代	100.0%	2.2%	40.6%	50.0%	3.9%	2.8%	0.6%
			180	4	73	90	7	5
	70歳以上	100.0%	2.9%	44.2%	46.2%	4.8%	1.9%	0.0%
			104	3	46	48	5	2
	男性計	100.0%	0.8%	44.8%	47.1%	2.8%	4.5%	0.0%
		531	4	238	250	15	24	0
	20代	100.0%	4.4%	46.7%	37.8%	2.2%	8.9%	0.0%
			45	2	21	17	1	4
	30代	100.0%	0.0%	41.9%	43.5%	6.5%	8.1%	0.0%
			62	0	26	27	4	5
40代	100.0%	0.0%	41.2%	48.5%	3.1%	7.2%	0.0%	
		97	0	40	47	3	7	0
50代	100.0%	0.0%	41.2%	53.6%	1.0%	4.1%	0.0%	
		97	0	40	52	1	4	0
60代	100.0%	0.7%	44.8%	50.7%	2.2%	1.5%	0.0%	
		134	1	60	68	3	2	0
70歳以上	100.0%	1.0%	53.1%	40.6%	3.1%	2.1%	0.0%	
		96	1	51	39	3	2	0

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

(6) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方の希望と現実

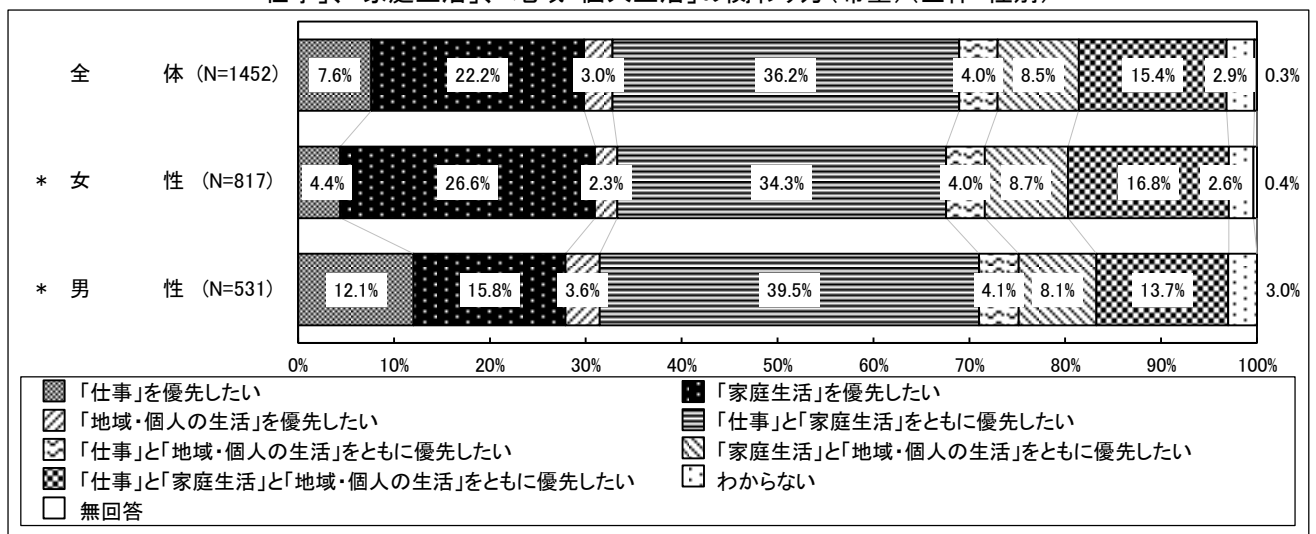
【問11】 生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についておたずねします。

～ 仕事と家庭生活をともに優先したいが、現実では女性は「家庭生活」、男性は「仕事」を優先 ～

(1) あなたの希望に最も近いものはどれですか。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の優先度の希望についてみると、全体では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい(36.2%)の割合が最も高く、次いで「家庭生活」を優先したい(22.2%)、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい(15.4%)となっている。
性別にみると「家庭生活」を優先したい(女性：26.6%、男性：15.8%)で女性の割合が男性より高く、「仕事」を優先したい(女性：4.4%、男性12.1%)で男性の割合が女性より高くなっている。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(希望)(全体・性別)

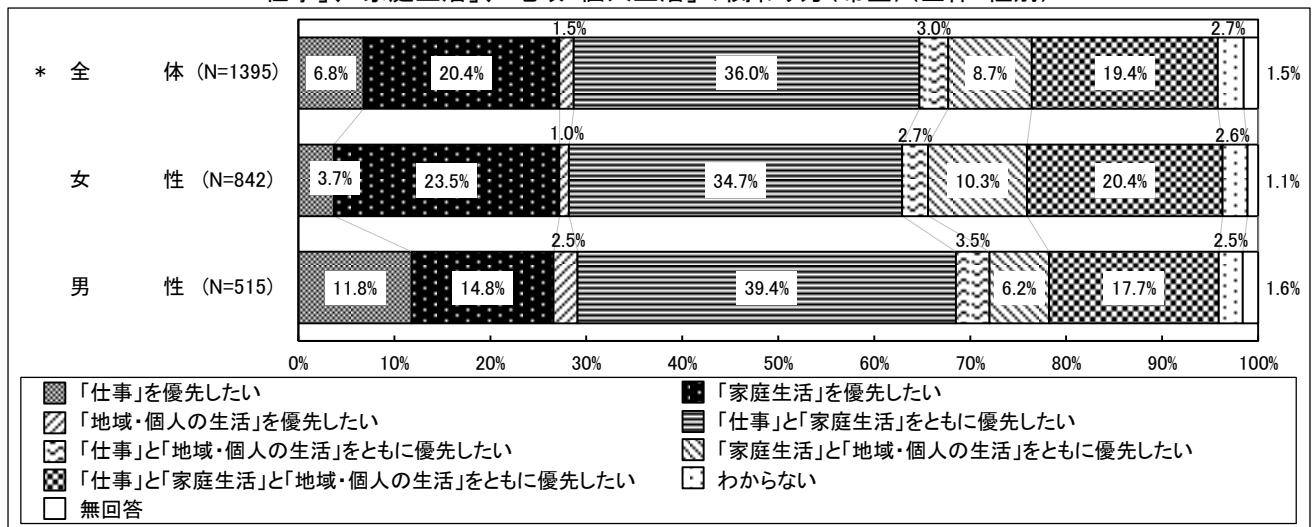


*：性別で有意差あり

前回調査と比較すると、全体について有意差がみられ、「地域・個人の生活」を優先したい(今回：3.0%、前回：1.5%)の割合が増加し、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい(今回：15.4%、前回：19.4%)の割合が減少している。

【前回調査】

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(希望)(全体・性別)

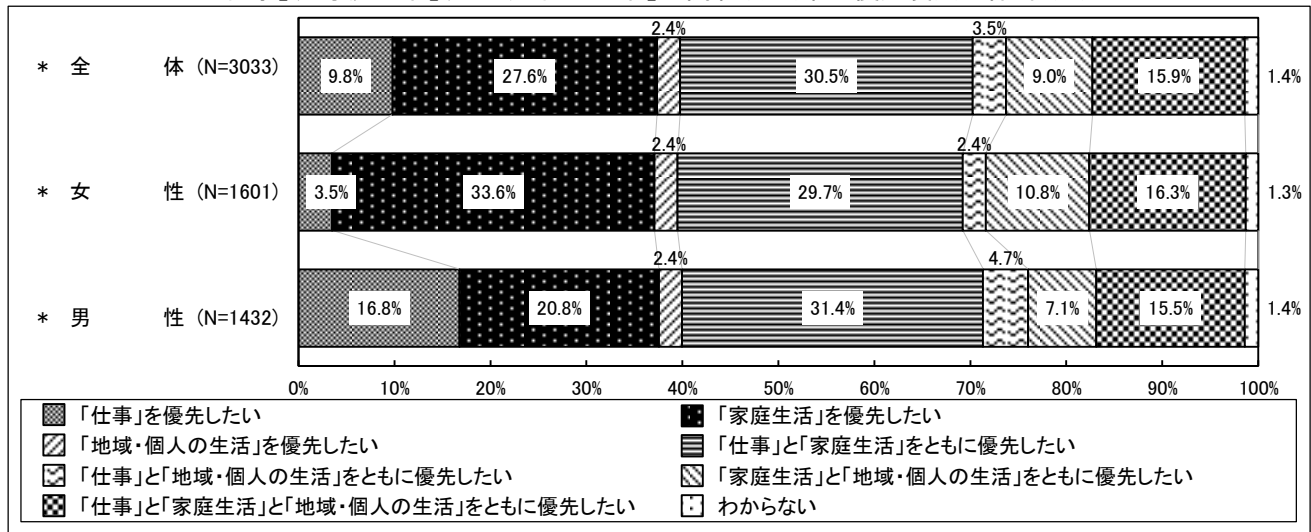


*：今回調査と有意差あり

内閣府調査と比較すると、全体、男女ともに「家庭生活」を優先したい（全体・鹿児島市：22.2%、内閣府：27.6%）、（女性・鹿児島市：26.6%、内閣府：33.6%）、（男性・鹿児島市：15.8%、内閣府：20.8%）で鹿児島市の割合が内閣府より低くなっている。

【内閣府調査】

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望優先度）（全体・性別）



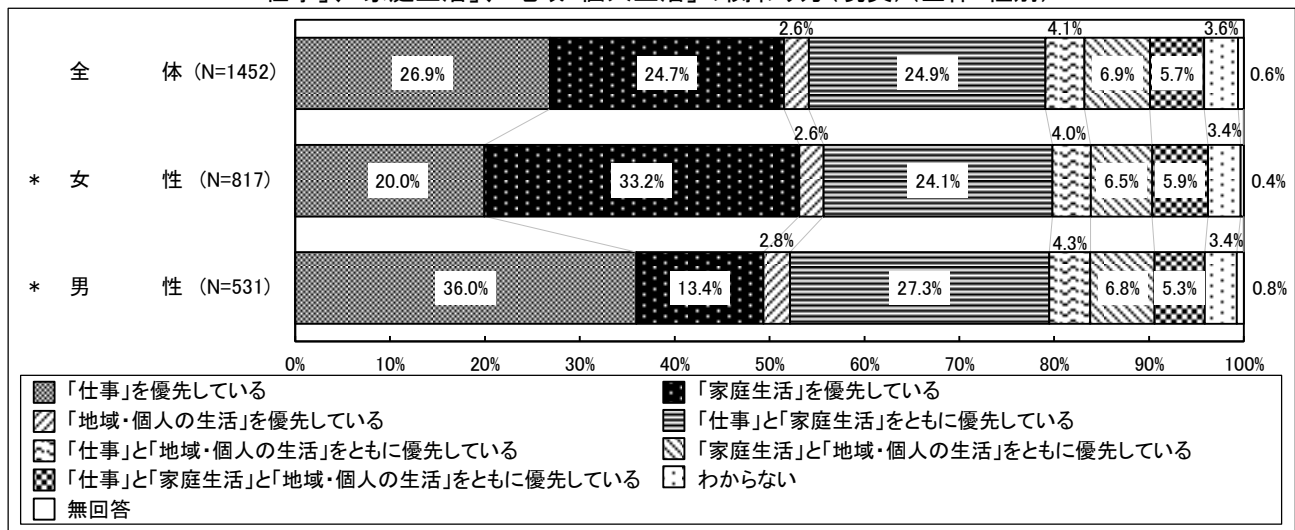
*：鹿児島市調査と有意差あり

(2) それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人活動」の優先度の現実についてみると、全体では「仕事」を優先している（26.9%）の割合が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（24.9%）、「家庭生活」を優先している（24.7%）となっている。

性別にみると、「家庭生活」を優先している（女性：33.2%、男性：13.4%）で女性の割合が男性より高く、「仕事」を優先している（女性：20.0%、男性：36.0%）で男性の割合が女性より高くなっている。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（現実）（全体・性別）

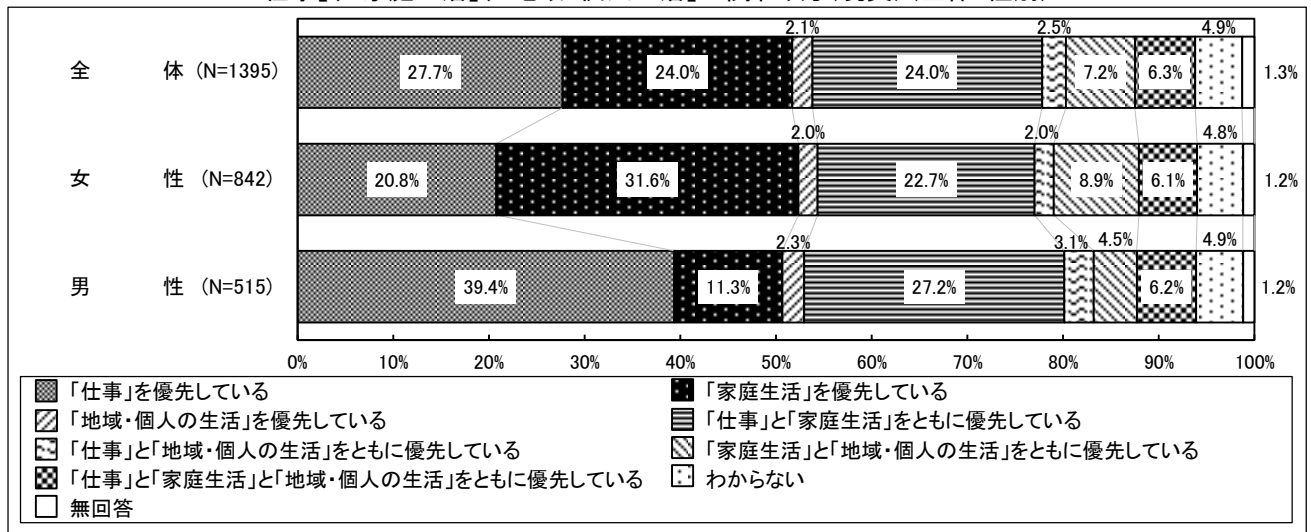


*：性別で有意差あり

前回調査との比較では、有意差はみられなかった。

【前回調査】

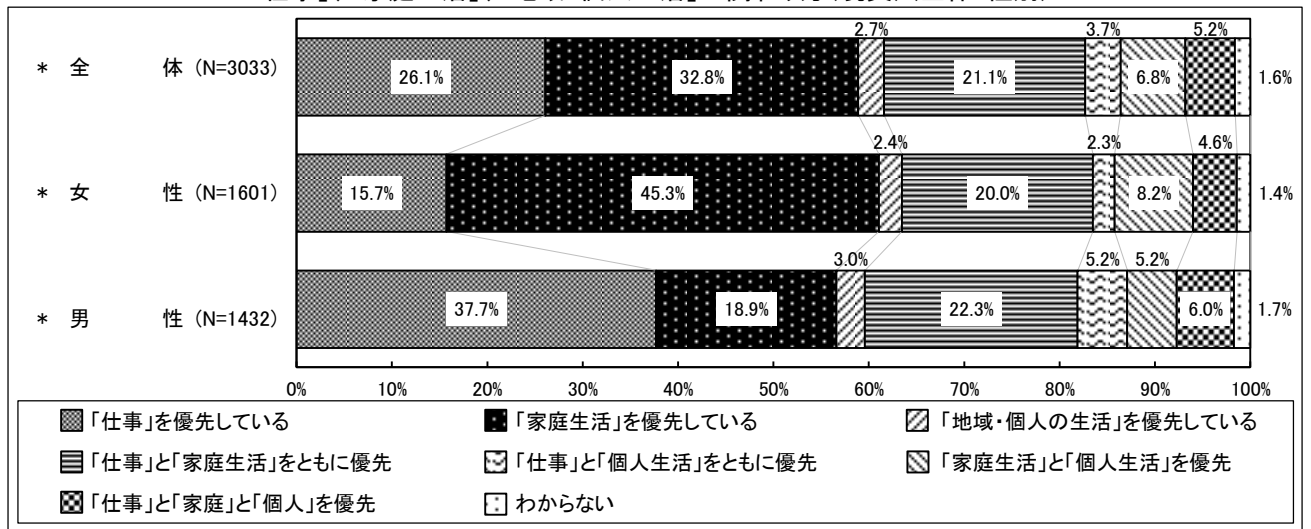
「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(現実)(全体・性別)



内閣府調査と比較すると、全体、男女ともに「家庭生活」を優先している(全体・鹿児島市:24.7%、内閣府:32.8%)、(女性・鹿児島市:33.2%、内閣府:45.3%)、(男性・鹿児島市:13.4%、内閣府:18.9%)で鹿児島市の割合が内閣府より低くなっている。

【内閣府調査】

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(現実)(全体・性別)

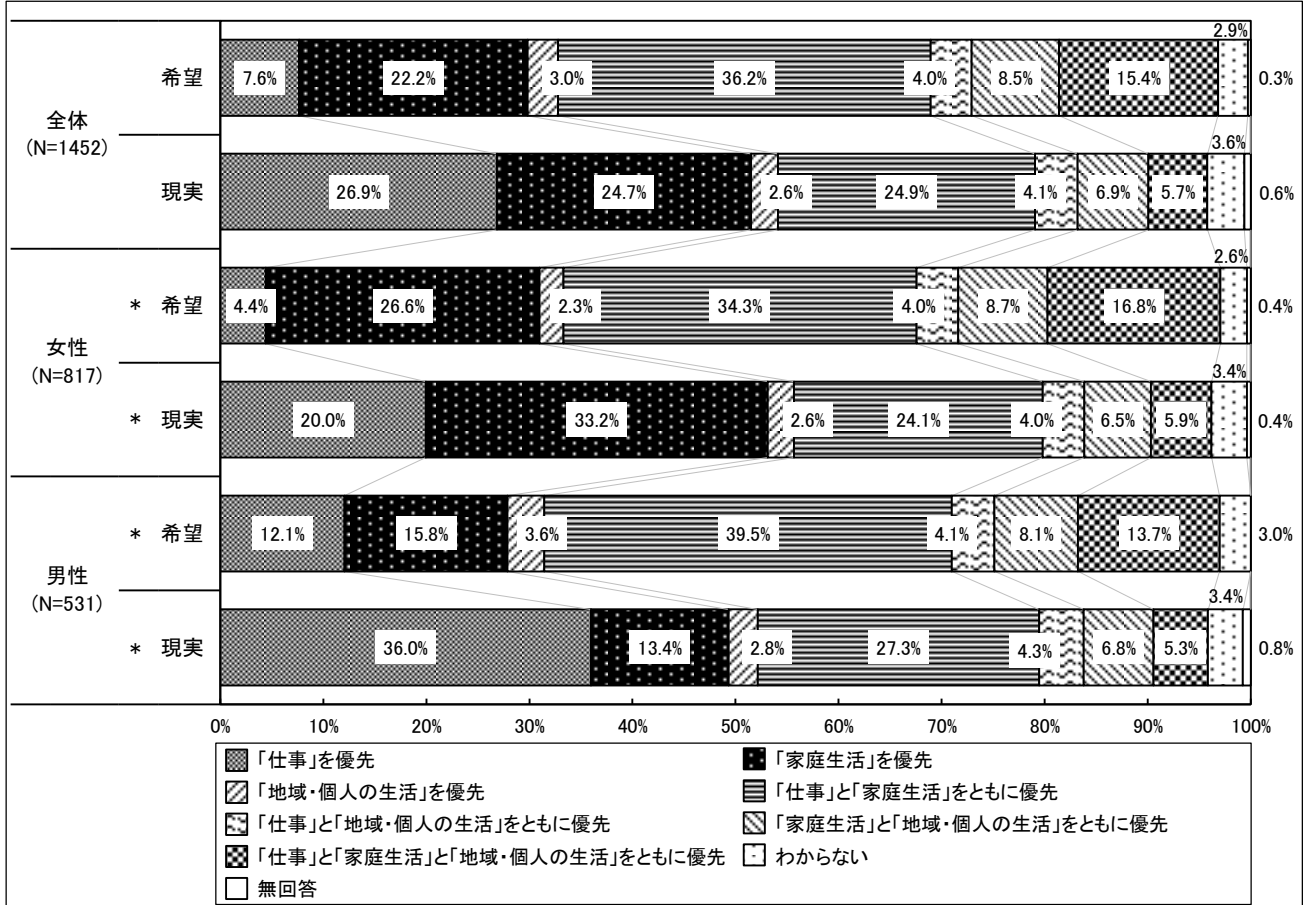


* : 鹿児島市調査と有意差あり

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の優先度の希望と現実についてみると、全体では「仕事」を優先」の割合は希望（7.6%）に対して現実（26.9%）が高くなっており、一方、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先」（希望：36.2%、現実：24.9%）と「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」（希望：15.4%、現実：5.7%）では希望に対して現実は低くなっている。

性別にみると、「家庭生活」を優先」については、女性は希望（26.6%）より現実（33.2%）が高く、男性は希望（15.8%）より現実（13.4%）が低くなっている。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(希望と現実)(全体・性別)



* : 性別で有意差あり

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(希望)(性・年代別)

	サンプル数	「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(希望)									
		「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答	
全体	100.0%	7.6%	22.2%	3.0%	36.2%	4.0%	8.5%	15.4%	2.9%	0.3%	
	1,452	111	322	43	525	58	123	224	42	4	
性・年代別	女性計	100.0%	4.4%	26.6%	2.3%	34.3%	4.0%	8.7%	16.8%	2.6%	0.4%
		817	36	217	19	280	33	71	137	21	3
	20代	100.0%	0.0%	28.8%	5.0%	27.5%	6.3%	11.3%	13.8%	7.5%	0.0%
		80	0	23	4	22	5	9	11	6	0
	30代	100.0%	2.2%	30.6%	4.5%	32.1%	6.7%	7.5%	13.4%	3.0%	0.0%
		134	3	41	6	43	9	10	18	4	0
	40代	100.0%	1.2%	32.9%	0.0%	38.5%	3.7%	5.0%	16.1%	1.9%	0.6%
		161	2	53	0	62	6	8	26	3	1
	50代	100.0%	3.2%	22.8%	3.2%	43.0%	1.9%	6.3%	18.4%	0.6%	0.6%
		158	5	36	5	68	3	10	29	1	1
	60代	100.0%	5.6%	23.9%	1.1%	35.0%	4.4%	11.1%	17.2%	1.1%	0.6%
		180	10	43	2	63	8	20	31	2	1
	70歳以上	100.0%	15.4%	20.2%	1.9%	21.2%	1.9%	13.5%	21.2%	4.8%	0.0%
		104	16	21	2	22	2	14	22	5	0
	男性計	100.0%	12.1%	15.8%	3.6%	39.5%	4.1%	8.1%	13.7%	3.0%	0.0%
		531	64	84	19	210	22	43	73	16	0
	20代	100.0%	11.1%	15.6%	6.7%	40.0%	4.4%	6.7%	6.7%	8.9%	0.0%
	45	5	7	3	18	2	3	3	4	0	
30代	100.0%	0.0%	12.9%	4.8%	48.4%	1.6%	6.5%	17.7%	8.1%	0.0%	
	62	0	8	3	30	1	4	11	5	0	
40代	100.0%	6.2%	19.6%	3.1%	38.1%	9.3%	7.2%	14.4%	2.1%	0.0%	
	97	6	19	3	37	9	7	14	2	0	
50代	100.0%	15.5%	11.3%	2.1%	45.4%	4.1%	1.0%	19.6%	1.0%	0.0%	
	97	15	11	2	44	4	1	19	1	0	
60代	100.0%	14.9%	14.2%	3.0%	40.3%	4.5%	8.2%	12.7%	2.2%	0.0%	
	134	20	19	4	54	6	11	17	3	0	
70歳以上	100.0%	18.8%	20.8%	4.2%	28.1%	0.0%	17.7%	9.4%	1.0%	0.0%	
	96	18	20	4	27	0	17	9	1	0	

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(現実)(性・年代別)

	サンプル数	「仕事」、「家族生活」、「地域・個人生活」の関わり方(現実)									
		「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	わからない	無回答	
全体	100.0%	26.9%	24.7%	2.6%	24.9%	4.1%	6.9%	5.7%	3.6%	0.6%	
	1,452	390	358	38	362	60	100	83	52	9	
性・年代別	女性計	100.0%	20.0%	33.2%	2.6%	24.1%	4.0%	6.5%	5.9%	3.4%	0.4%
		817	163	271	21	197	33	53	48	28	3
	20代	100.0%	40.0%	20.0%	7.5%	15.0%	5.0%	2.5%	1.3%	7.5%	1.3%
		80	32	16	6	12	4	2	1	6	1
	30代	100.0%	22.4%	31.3%	1.5%	29.1%	4.5%	3.7%	3.7%	3.7%	0.0%
		134	30	42	2	39	6	5	5	5	0
	40代	100.0%	19.3%	32.9%	0.6%	31.7%	1.9%	4.3%	6.2%	2.5%	0.6%
		161	31	53	1	51	3	7	10	4	1
	50代	100.0%	19.0%	33.5%	2.5%	28.5%	4.4%	2.5%	7.6%	1.9%	0.0%
		158	30	53	4	45	7	4	12	3	0
	60代	100.0%	13.9%	35.6%	2.2%	22.8%	6.1%	10.0%	5.0%	3.9%	0.6%
		180	25	64	4	41	11	18	9	7	1
	70歳以上	100.0%	14.4%	41.3%	3.8%	8.7%	1.9%	16.3%	10.6%	2.9%	0.0%
		104	15	43	4	9	2	17	11	3	0
	男性計	100.0%	36.0%	13.4%	2.8%	27.3%	4.3%	6.8%	5.3%	3.4%	0.8%
		531	191	71	15	145	23	36	28	18	4
	20代	100.0%	40.0%	8.9%	15.6%	15.6%	8.9%	0.0%	4.4%	6.7%	0.0%
45		18	4	7	7	4	0	2	3	0	
30代	100.0%	32.3%	8.1%	1.6%	41.9%	0.0%	3.2%	4.8%	8.1%	0.0%	
	62	20	5	1	26	0	2	3	5	0	
40代	100.0%	47.4%	7.2%	2.1%	20.6%	11.3%	3.1%	2.1%	5.2%	1.0%	
	97	46	7	2	20	11	3	2	5	1	
50代	100.0%	49.5%	4.1%	0.0%	33.0%	4.1%	0.0%	6.2%	2.1%	1.0%	
	97	48	4	0	32	4	0	6	2	1	
60代	100.0%	29.9%	16.4%	1.5%	29.1%	3.0%	10.4%	8.2%	1.5%	0.0%	
	134	40	22	2	39	4	14	11	2	0	
70歳以上	100.0%	19.8%	30.2%	3.1%	21.9%	0.0%	17.7%	4.2%	1.0%	2.1%	
	96	19	29	3	21	0	17	4	1	2	

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

(7) 男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと

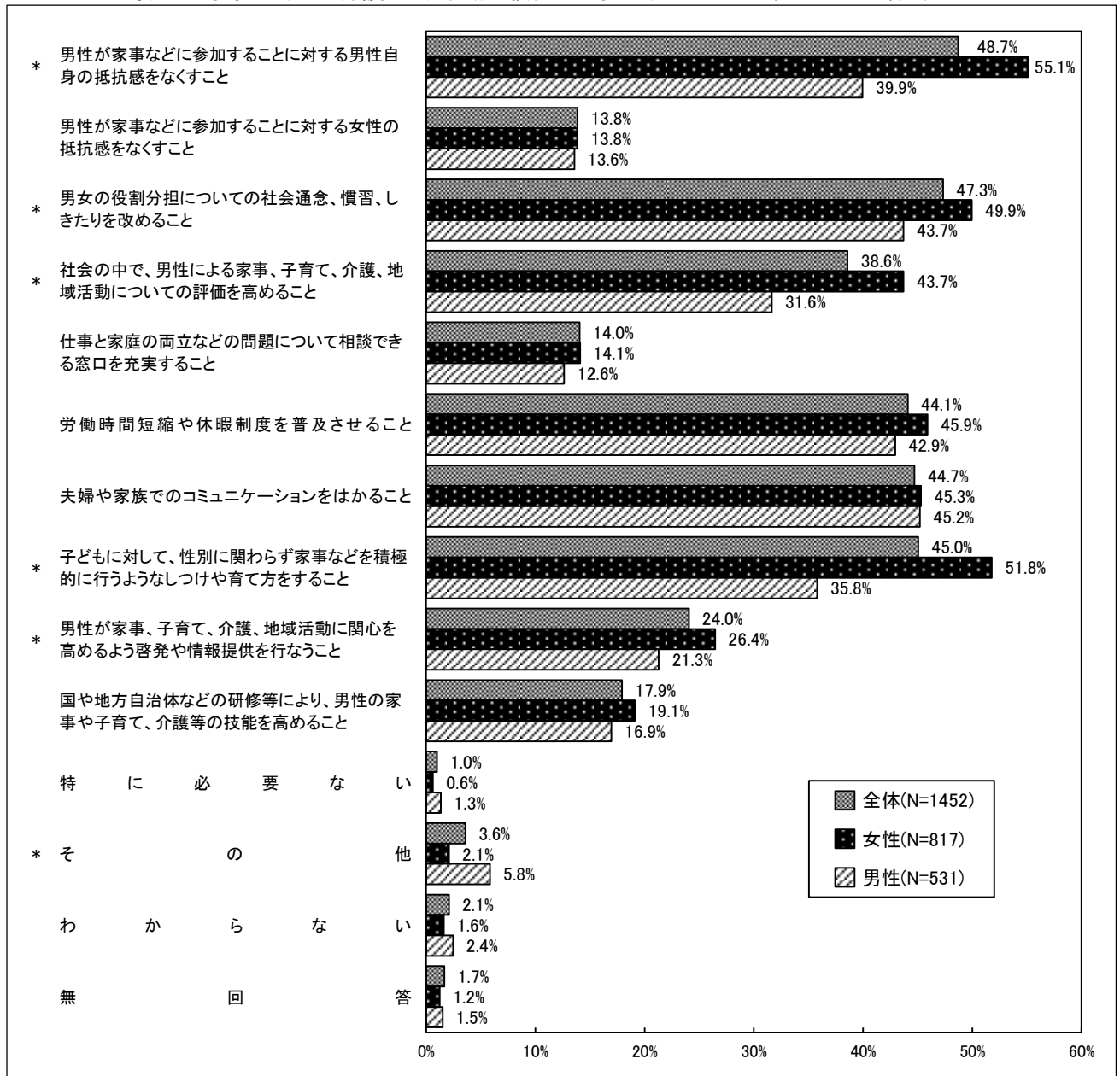
【問12】 今後、男女がともに家事や子育て、介護、地域活動に積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

～ 男性自身の抵抗感をなくすことや男女の役割分担についての社会通念を改める必要がある ～

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なことについてみると、全体では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(48.7%)の割合が最も高く、次いで「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(47.3%)、「子どもに対して、性別に関わらず家事などを積極的に行うようしつけや育て方をすること」(45.0%)となっている。

性別にみると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(女性：55.1%、男性：39.9%)、「子どもに対して、性別に関わらず家事などを積極的に行うようしつけや育て方をすること」(女性：51.8%、男性：35.8%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(女性：49.9%、男性：43.7%)、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること」(女性：43.7%、男性：31.6%)、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行なうこと」(女性：26.4%、男性：21.3%)で女性の割合が男性より高くなっている。

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと(全体・性別)

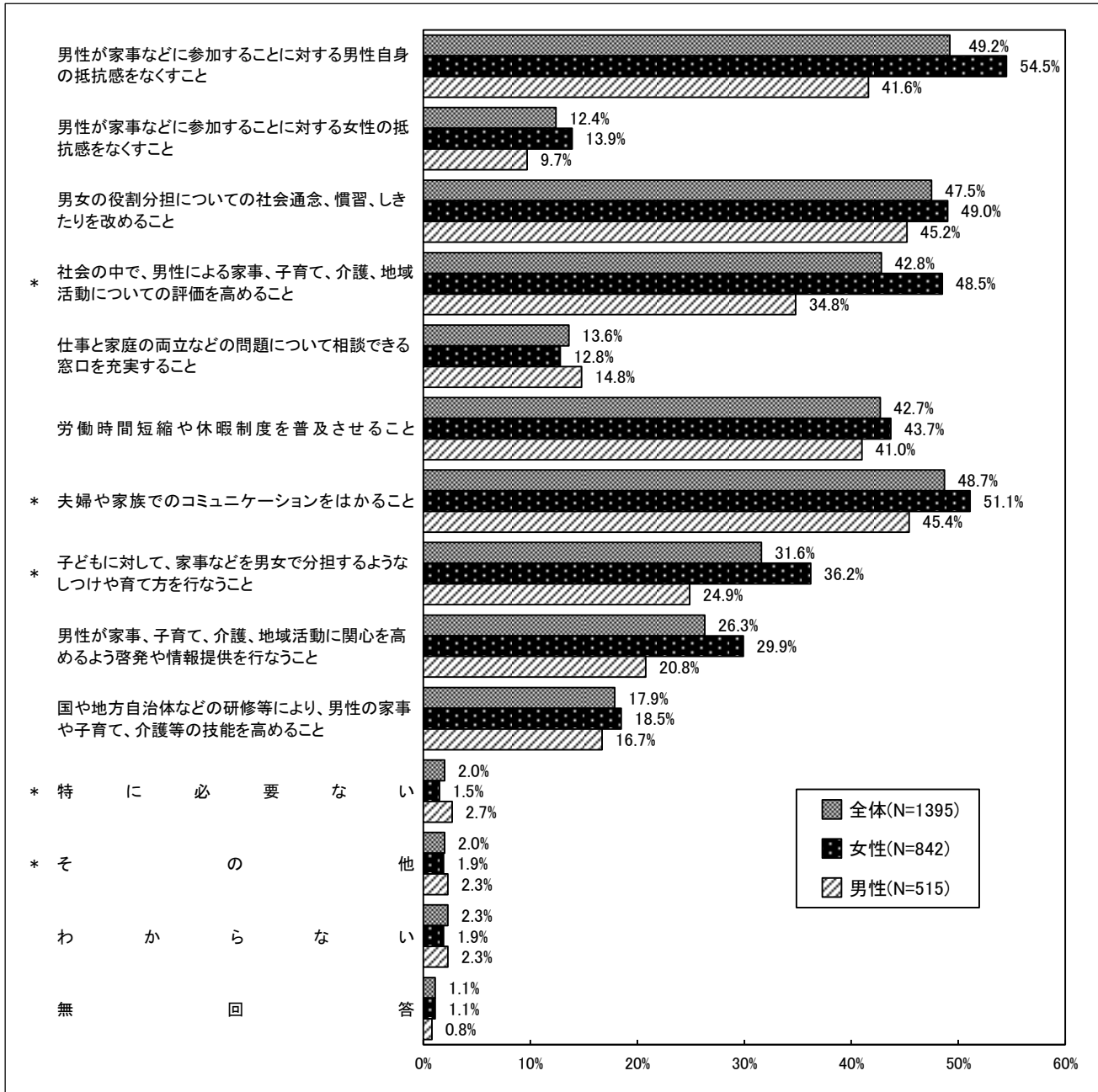


*：性別で有意差あり

前回調査と比較すると、全体では「子どもに対して、性別に関わらず家事などを積極的に行うようなしつけや育て方をすること」(今回：45.0%、前回：31.6%)と「その他」(今回：3.6%、前回：2.0%)の割合が増加し、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること」(今回：38.6%、前回：42.8%)、「夫婦や家族でのコミュニケーションをはかること」(今回：44.7%、前回：48.7%)、「特にない」(今回：1.0%、前回：2.0%)の割合が減少している。

【前回調査】

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと(全体・性別)



* : 前回調査と有意差あり

※ 前回調査の「子どもに対して、家事などを男女で分担するようなしつけや育て方を行なうこと」の項目は、今回調査の「子どもに対して、性別に関わらず家事などを積極的に行うようなしつけや育て方をすること」と比較している。

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと

(性・年代・性別役割分担に対する考え方別)(複数回答) 1/2

		サンプル数	男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと							
			男性が家事などに参加することに 対する男性自身の抵抗感をなくす こと	男性が家事などに参加することに 対する女性の抵抗感をなくすこと	男女の役割分担についての社会通 念、慣習、しきたりを改めること	社会の中で、男性による家事、子 育て、介護、地域活動についての 評価を高めること	仕事と家庭の両立などの問題につ いて相談できる窓口を充実するこ と	労働時間短縮や休暇制度を普及さ せること	夫婦や家族でのコミュニケーション をはかること	
全体		100.0% 1,452	48.7% 707	13.8% 201	47.3% 687	38.6% 560	14.0% 204	44.1% 640	44.7% 649	
性・年代別	女性計	100.0% 817	55.1% 450	13.8% 113	49.9% 408	43.7% 357	14.1% 115	45.9% 375	45.3% 370	
	20代	100.0% 80	57.5% 46	13.8% 11	47.5% 38	53.8% 43	15.0% 12	65.0% 52	51.3% 41	
	30代	100.0% 134	58.2% 78	11.9% 16	47.8% 64	56.0% 75	18.7% 25	61.2% 82	47.0% 63	
	40代	100.0% 161	54.7% 88	9.3% 15	50.9% 82	44.7% 72	14.3% 23	49.1% 79	43.5% 70	
	50代	100.0% 158	56.3% 89	17.1% 27	55.7% 88	42.4% 67	12.0% 19	43.7% 69	41.8% 66	
	60代	100.0% 180	53.3% 96	16.1% 29	45.6% 82	35.6% 64	12.2% 22	34.4% 62	43.9% 79	
	70歳以上	100.0% 104	51.0% 53	14.4% 15	51.9% 54	34.6% 36	13.5% 14	29.8% 31	49.0% 51	
	男性計	100.0% 531	39.9% 212	13.6% 72	43.7% 232	31.6% 168	12.6% 67	42.9% 228	45.2% 240	
	20代	100.0% 45	37.8% 17	8.9% 4	40.0% 18	31.1% 14	22.2% 10	60.0% 27	44.4% 20	
	30代	100.0% 62	38.7% 24	8.1% 5	41.9% 26	43.5% 27	9.7% 6	58.1% 36	46.8% 29	
	40代	100.0% 97	36.1% 35	13.4% 13	47.4% 46	37.1% 36	11.3% 11	52.6% 51	46.4% 45	
	50代	100.0% 97	39.2% 38	15.5% 15	43.3% 42	36.1% 35	13.4% 13	38.1% 37	40.2% 39	
	60代	100.0% 134	41.8% 56	16.4% 22	43.3% 58	23.9% 32	10.4% 14	37.3% 50	43.3% 58	
	70歳以上	100.0% 96	43.8% 42	13.5% 13	43.8% 42	25.0% 24	13.5% 13	28.1% 27	51.0% 49	
	性別役割分担に 対する考え方	『賛成』	100.0% 504	43.1% 217	14.1% 71	40.3% 203	30.8% 155	11.7% 59	38.1% 192	46.4% 234
		『反対』	100.0% 757	55.1% 417	13.9% 105	53.1% 402	44.9% 340	15.1% 114	51.0% 386	43.6% 330
わからない		100.0% 175	38.3% 67	13.1% 23	44.6% 78	36.0% 63	17.1% 30	33.1% 58	45.1% 79	

____% : 各属性内での回答割合が最も高い

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと
(性・年代・性別役割分担に対する考え別)(複数回答) 2/2

		サンプル数	男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと							
			ついでに家事などを行うこと	子どもに対して、性別に関わらず積極的に取り組むこと	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	特に必要ない	その他	わからない	無回答
全体		100.0% 1,452	45.0% 654	24.0% 349	17.9% 260	1.0% 14	3.6% 52	2.1% 30	1.7% 24	
性・年代別	女性計	100.0% 817	51.8% 423	26.4% 216	19.1% 156	0.6% 5	2.1% 17	1.6% 13	1.2% 10	
	20代	100.0% 80	50.0% 40	27.5% 22	17.5% 14	0.0% 0	1.3% 1	1.3% 1	0.0% 0	
	30代	100.0% 134	49.3% 66	25.4% 34	18.7% 25	0.7% 1	1.5% 2	0.7% 1	0.7% 1	
	40代	100.0% 161	44.7% 72	29.2% 47	16.1% 26	0.6% 1	3.7% 6	1.2% 2	0.0% 0	
	50代	100.0% 158	53.2% 84	31.0% 49	20.3% 32	0.0% 0	1.9% 3	0.6% 1	1.9% 3	
	60代	100.0% 180	57.8% 104	23.3% 42	19.4% 35	0.6% 1	1.7% 3	1.7% 3	2.8% 5	
	70歳以上	100.0% 104	54.8% 57	21.2% 22	23.1% 24	1.9% 2	1.9% 2	4.8% 5	1.0% 1	
	男性計	100.0% 531	35.8% 190	21.3% 113	16.9% 90	1.3% 7	5.8% 31	2.4% 13	1.5% 8	
	20代	100.0% 45	35.6% 16	28.9% 13	17.8% 8	4.4% 2	8.9% 4	4.4% 2	2.2% 1	
	30代	100.0% 62	27.4% 17	17.7% 11	14.5% 9	0.0% 0	9.7% 6	1.6% 1	0.0% 0	
	40代	100.0% 97	32.0% 31	18.6% 18	18.6% 18	1.0% 1	7.2% 7	0.0% 0	2.1% 2	
	50代	100.0% 97	38.1% 37	18.6% 18	14.4% 14	1.0% 1	9.3% 9	4.1% 4	0.0% 0	
	60代	100.0% 134	37.3% 50	20.9% 28	15.7% 21	0.7% 1	2.2% 3	3.7% 5	1.5% 2	
	70歳以上	100.0% 96	40.6% 39	26.0% 25	20.8% 20	2.1% 2	2.1% 2	1.0% 1	3.1% 3	
	性別役割分担に対する考え別	『賛成』	100.0% 504	42.5% 214	19.6% 99	14.5% 73	2.2% 11	3.8% 19	1.4% 7	1.6% 8
		『反対』	100.0% 757	48.9% 370	28.0% 212	20.6% 156	0.3% 2	3.2% 24	1.2% 9	1.1% 8
わからない		100.0% 175	36.6% 64	20.0% 35	16.6% 29	0.6% 1	5.1% 9	7.4% 13	2.3% 4	

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

4. 社会活動・地域活動について

(1) 社会活動・地域活動への参加状況

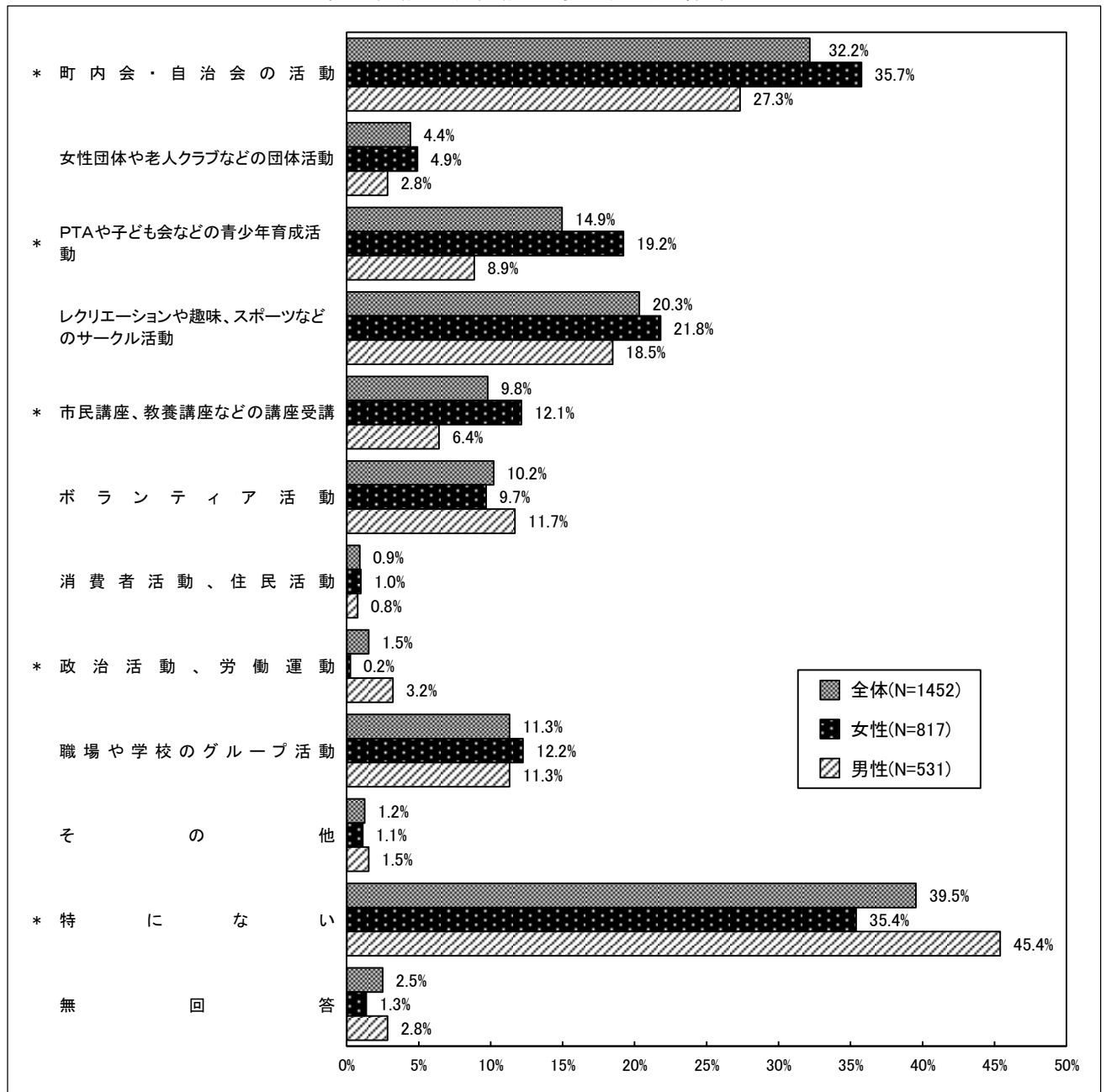
【問13】 あなたは現在、次のような活動に参加していますか。(複数回答)

～ 全体の4割は参加していない。最も参加が多いのは町内会・自治会の活動 ～

社会活動・地域活動への参加状況についてみると、全体では「特にない」(39.5%)の割合が最も高く、次いで「町内会・自治会の活動」(32.2%)、「レクリエーションや趣味、スポーツなどのサークル活動」(20.3%)となっている。

性別にみると、「町内会・自治会の活動」(女性：35.7%、男性：27.3%)、「PTAや子ども会などの青少年育成活動」(女性：19.2%、男性：8.9%)、「市民講座、教養講座などの講座受講」(女性：12.1%、男性：6.4%)で女性の割合が男性より高く、「特にない」(女性：35.4%、男性：45.4%)、「政治活動、労働運動」(女性：0.2%、男性：3.2%)で男性の割合が女性より高くなっている。

社会活動・地域活動への参加状況(全体・性別)



*：性別で有意差あり

社会活動・地域活動への参加状況(性・年代・配偶者の有無・性別役割分担に対する考え方別)(複数回答) 1/2

		サンプル数	社会活動・地域活動への参加状況						
			町内会・自治会の活動	女性団体や老人クラブなどの団体活動	P T A や子ども会などの青少年育成活動	レクリエーションや趣味、スポーツなどのサークル活動	市民講座、教養講座などの講座受講	ボランティア活動	
全体		100.0% 1,452	32.2% 467	4.4% 64	14.9% 217	20.3% 295	9.8% 142	10.2% 148	
性・年代別	女性計	100.0% 817	35.7% 292	4.9% 40	19.2% 157	21.8% 178	12.1% 99	9.7% 79	
	20代	100.0% 80	7.5% 6	2.5% 2	7.5% 6	15.0% 12	5.0% 4	8.8% 7	
	30代	100.0% 134	30.6% 41	0.7% 1	32.8% 44	19.4% 26	9.0% 12	6.0% 8	
	40代	100.0% 161	45.3% 73	1.2% 2	49.7% 80	11.2% 18	9.9% 16	5.6% 9	
	50代	100.0% 158	38.0% 60	1.3% 2	11.4% 18	20.9% 33	12.7% 20	6.3% 10	
	60代	100.0% 180	38.3% 69	7.2% 13	3.9% 7	31.1% 56	16.7% 30	15.0% 27	
	70歳以上	100.0% 104	41.3% 43	19.2% 20	1.9% 2	31.7% 33	16.3% 17	17.3% 18	
	男性計	100.0% 531	27.3% 145	2.8% 15	8.9% 47	18.5% 98	6.4% 34	11.7% 62	
	20代	100.0% 45	13.3% 6	0.0% 0	6.7% 3	13.3% 6	6.7% 3	4.4% 2	
	30代	100.0% 62	21.0% 13	0.0% 0	11.3% 7	16.1% 10	1.6% 1	4.8% 3	
	40代	100.0% 97	26.8% 26	2.1% 2	20.6% 20	18.6% 18	3.1% 3	9.3% 9	
	50代	100.0% 97	29.9% 29	2.1% 2	8.2% 8	13.4% 13	2.1% 2	15.5% 15	
	60代	100.0% 134	25.4% 34	2.2% 3	6.7% 9	12.7% 17	4.5% 6	12.7% 17	
	70歳以上	100.0% 96	38.5% 37	8.3% 8	0.0% 0	35.4% 34	19.8% 19	16.7% 16	
	性・配偶者の有無別	女性計	100.0% 817	35.7% 292	4.9% 40	19.2% 157	21.8% 178	12.1% 99	9.7% 79
		結婚している	100.0% 549	43.0% 236	4.7% 26	25.1% 138	24.4% 134	12.0% 66	9.8% 54
結婚していない		100.0% 258	19.8% 51	5.0% 13	7.0% 18	15.9% 41	12.4% 32	9.3% 24	
男性計		100.0% 531	27.3% 145	2.8% 15	8.9% 47	18.5% 98	6.4% 34	11.7% 62	
結婚している		100.0% 399	32.3% 129	3.3% 13	11.0% 44	21.3% 85	7.5% 30	12.8% 51	
結婚していない		100.0% 123	11.4% 14	1.6% 2	1.6% 2	9.8% 12	3.3% 4	8.1% 10	
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0% 504	32.9% 166	6.3% 32	12.7% 64	20.8% 105	10.1% 51	12.9% 65	
	『反対』	100.0% 757	33.2% 251	3.2% 24	16.5% 125	20.7% 157	10.4% 79	8.9% 67	
	わからない	100.0% 175	25.1% 44	3.4% 6	15.4% 27	17.7% 31	6.3% 11	6.9% 12	

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

社会活動・地域活動への参加状況(性・年代・配偶者の有無・性別役割分担に対する考え方別)(複数回答) 2/2

		サンプル数	社会活動・地域活動への参加状況					無回答	
			消費者活動、住民活動	政治活動、労働運動	職場や学校のグループ活動	その他	特にない		
全体		100.0% 1,452	0.9% 13	1.5% 22	11.3% 164	1.2% 18	39.5% 574	2.5% 36	
性・年代別	女性計	100.0% 817	1.0% 8	0.2% 2	12.2% 100	1.1% 9	35.4% 289	1.3% 11	
	20代	100.0% 80	2.5% 2	0.0% 0	25.0% 20	0.0% 0	48.8% 39	3.8% 3	
	30代	100.0% 134	0.0% 0	0.0% 0	14.2% 19	0.7% 1	41.8% 56	1.5% 2	
	40代	100.0% 161	0.6% 1	0.0% 0	16.8% 27	0.0% 0	27.3% 44	0.6% 1	
	50代	100.0% 158	1.3% 2	0.6% 1	12.0% 19	1.3% 2	36.1% 57	1.9% 3	
	60代	100.0% 180	1.1% 2	0.6% 1	7.2% 13	1.7% 3	33.3% 60	1.1% 2	
	70歳以上	100.0% 104	1.0% 1	0.0% 0	1.9% 2	2.9% 3	31.7% 33	0.0% 0	
	男性計	100.0% 531	0.8% 4	3.2% 17	11.3% 60	1.5% 8	45.4% 241	2.8% 15	
	20代	100.0% 45	2.2% 1	2.2% 1	22.2% 10	0.0% 0	53.3% 24	4.4% 2	
	30代	100.0% 62	0.0% 0	4.8% 3	24.2% 15	3.2% 2	43.5% 27	3.2% 2	
	40代	100.0% 97	1.0% 1	4.1% 4	10.3% 10	0.0% 0	43.3% 42	4.1% 4	
	50代	100.0% 97	1.0% 1	4.1% 4	16.5% 16	1.0% 1	52.6% 51	1.0% 1	
	60代	100.0% 134	0.0% 0	2.2% 3	6.7% 9	0.7% 1	51.5% 69	1.5% 2	
	70歳以上	100.0% 96	1.0% 1	2.1% 2	0.0% 0	4.2% 4	29.2% 28	4.2% 4	
	性・配偶者の有無別	女性計	100.0% 817	1.0% 8	0.2% 2	12.2% 100	1.1% 9	35.4% 289	1.3% 11
		結婚している	100.0% 549	1.1% 6	0.2% 1	9.8% 54	1.3% 7	29.1% 160	1.1% 6
結婚していない		100.0% 258	0.4% 1	0.4% 1	17.8% 46	0.4% 1	49.6% 128	1.6% 4	
男性計		100.0% 531	0.8% 4	3.2% 17	11.3% 60	1.5% 8	45.4% 241	2.8% 15	
結婚している		100.0% 399	0.8% 3	2.8% 11	12.0% 48	1.5% 6	40.6% 162	3.0% 12	
結婚していない		100.0% 123	0.8% 1	4.9% 6	8.1% 10	1.6% 2	62.6% 77	0.8% 1	
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0% 504	1.2% 6	1.8% 9	10.5% 53	1.4% 7	40.1% 202	2.4% 12	
	『反対』	100.0% 757	0.7% 5	1.5% 11	12.0% 91	1.3% 10	38.2% 289	2.0% 15	
	わからない	100.0% 175	1.1% 2	1.1% 2	10.9% 19	0.0% 0	44.6% 78	4.0% 7	

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

(2) 女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと

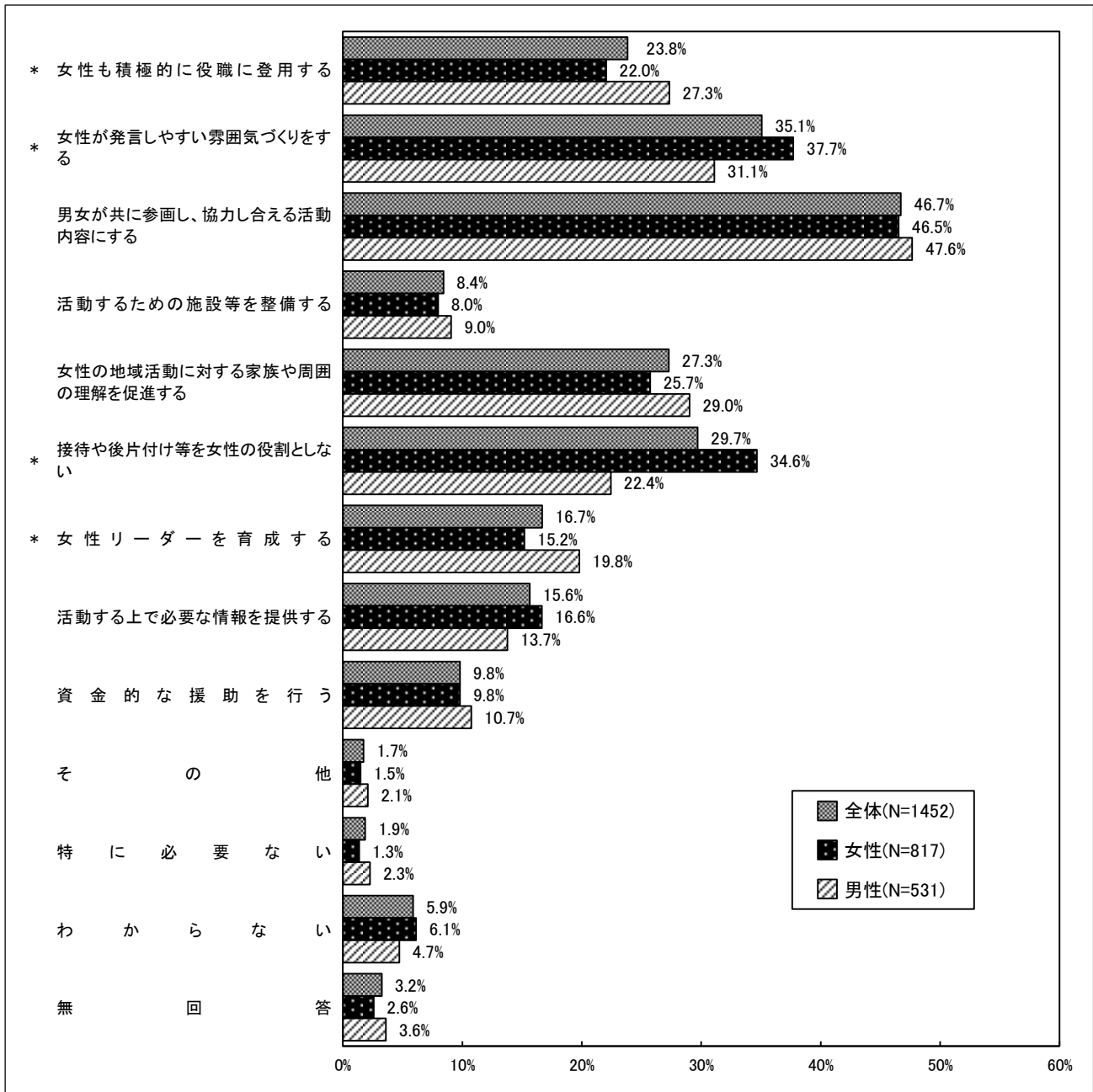
【問14】 特に、女性が社会活動・地域活動に参画していく上ではどのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

～ 「男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする」が最も多い ～

女性が社会活動・地域活動等に参画していく上で必要なことについてみると、全体では「男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする」(46.7%)の割合が最も高く、次いで「女性が発言しやすい雰囲気づくりをする」(35.1%)、「接待や後片付け等を女性の役割としない」(29.7%)となっている。

性別にみると、「女性が発言しやすい雰囲気づくりをする」(女性：37.7%、男性：31.1%)、「接待や後片付け等を女性の役割としない」(女性：34.6%、男性：22.4%)で女性の割合が男性より高く、「女性も積極的に役職に登用する」(女性：22.0%、男性：27.3%)、「女性リーダーを育成する」(女性：15.2%、男性：19.8%)で男性の割合が女性より高くなっている。

女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと(全体・性別)



* : 性別で有意差あり

女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと(性・年代別)(複数回答) 1/2

		女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと							
		女性も積極的に役職に登用する	女性が発言しやすい雰囲気づくりをする	男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする	活動するための施設等を整備する	女性の地域活動に対する家族や周囲の理解を促進する	接待や後片付け等を女性の役割としない	女性リーダーを育成する	
全体	100.0%	23.8%	35.1%	46.7%	8.4%	27.3%	29.7%	16.7%	
	1,452	346	509	678	122	396	431	242	
性・年代別	女性計	100.0%	22.0%	37.7%	46.5%	8.0%	25.7%	34.6%	15.2%
	817	180	308	380	65	210	283	124	
	20代	100.0%	27.5%	46.3%	41.3%	11.3%	20.0%	43.8%	17.5%
		80	22	37	33	9	16	35	14
	30代	100.0%	27.6%	38.8%	43.3%	7.5%	23.1%	36.6%	16.4%
		134	37	52	58	10	31	49	22
	40代	100.0%	19.9%	36.6%	47.8%	4.3%	21.1%	37.9%	16.1%
		161	32	59	77	7	34	61	26
	50代	100.0%	19.6%	42.4%	48.1%	8.9%	26.6%	32.3%	19.6%
		158	31	67	76	14	42	51	31
	60代	100.0%	18.3%	34.4%	47.8%	7.2%	30.6%	30.6%	11.7%
		180	33	62	86	13	55	55	21
	70歳以上	100.0%	24.0%	29.8%	48.1%	11.5%	30.8%	30.8%	9.6%
		104	25	31	50	12	32	32	10
	男性計	100.0%	27.3%	31.1%	47.6%	9.0%	29.0%	22.4%	19.8%
	531	145	165	253	48	154	119	105	
	20代	100.0%	37.8%	53.3%	40.0%	4.4%	26.7%	22.2%	17.8%
		45	17	24	18	2	12	10	8
	30代	100.0%	19.4%	29.0%	50.0%	6.5%	22.6%	27.4%	22.6%
		62	12	18	31	4	14	17	14
40代	100.0%	23.7%	27.8%	46.4%	11.3%	28.9%	18.6%	17.5%	
	97	23	27	45	11	28	18	17	
50代	100.0%	23.7%	24.7%	50.5%	12.4%	25.8%	27.8%	25.8%	
	97	23	24	49	12	25	27	25	
60代	100.0%	26.1%	30.6%	50.0%	9.7%	26.1%	21.6%	14.9%	
	134	35	41	67	13	35	29	20	
70歳以上	100.0%	36.5%	32.3%	44.8%	6.3%	41.7%	18.8%	21.9%	
	96	35	31	43	6	40	18	21	

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと(性・年代別)(複数回答) 2/2

		サンプル数	女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと					無回答
			活動する上で必要な情報を提供する	資金的な援助を行う	その他	特に必要ない	わからない	
全体		100.0%	15.6%	9.8%	1.7%	1.9%	5.9%	3.2%
		1,452	227	142	25	27	85	47
性・年代別	女性 計	100.0%	16.6%	9.8%	1.5%	1.3%	6.1%	2.6%
		817	136	80	12	11	50	21
	20代	100.0%	3.8%	7.5%	1.3%	0.0%	5.0%	6.3%
		80	3	6	1	0	4	5
	30代	100.0%	6.7%	15.7%	2.2%	0.7%	5.2%	1.5%
		134	9	21	3	1	7	2
	40代	100.0%	14.3%	13.0%	2.5%	0.0%	6.8%	1.9%
		161	23	21	4	0	11	3
	50代	100.0%	14.6%	8.9%	1.3%	1.3%	5.7%	1.9%
		158	23	14	2	2	9	3
	60代	100.0%	32.2%	6.1%	1.1%	2.2%	4.4%	3.3%
		180	58	11	2	4	8	6
	70歳以上	100.0%	19.2%	6.7%	0.0%	3.8%	10.6%	1.9%
		104	20	7	0	4	11	2
	男性 計	100.0%	13.7%	10.7%	2.1%	2.3%	4.7%	3.6%
		531	73	57	11	12	25	19
20代	100.0%	11.1%	8.9%	4.4%	2.2%	4.4%	2.2%	
	45	5	4	2	1	2	1	
30代	100.0%	9.7%	14.5%	1.6%	0.0%	6.5%	3.2%	
	62	6	9	1	0	4	2	
40代	100.0%	15.5%	11.3%	3.1%	3.1%	5.2%	3.1%	
	97	15	11	3	3	5	3	
50代	100.0%	12.4%	10.3%	2.1%	2.1%	4.1%	2.1%	
	97	12	10	2	2	4	2	
60代	100.0%	16.4%	12.7%	1.5%	2.2%	6.0%	4.5%	
	134	22	17	2	3	8	6	
70歳以上	100.0%	13.5%	6.3%	1.0%	3.1%	2.1%	5.2%	
	96	13	6	1	3	2	5	

5. 就労について

(1) (結婚、子育てを踏まえた) 女性の仕事に対する考え

【問15】 女性の仕事についてのあなたの考えをおたずねします。自分の理想と現実において、あなたの考えに一番近いものは1～7のうちどれですか。なお、男性の場合はあなたのパートナー（いない場合はいと仮定して）についてお答えください。

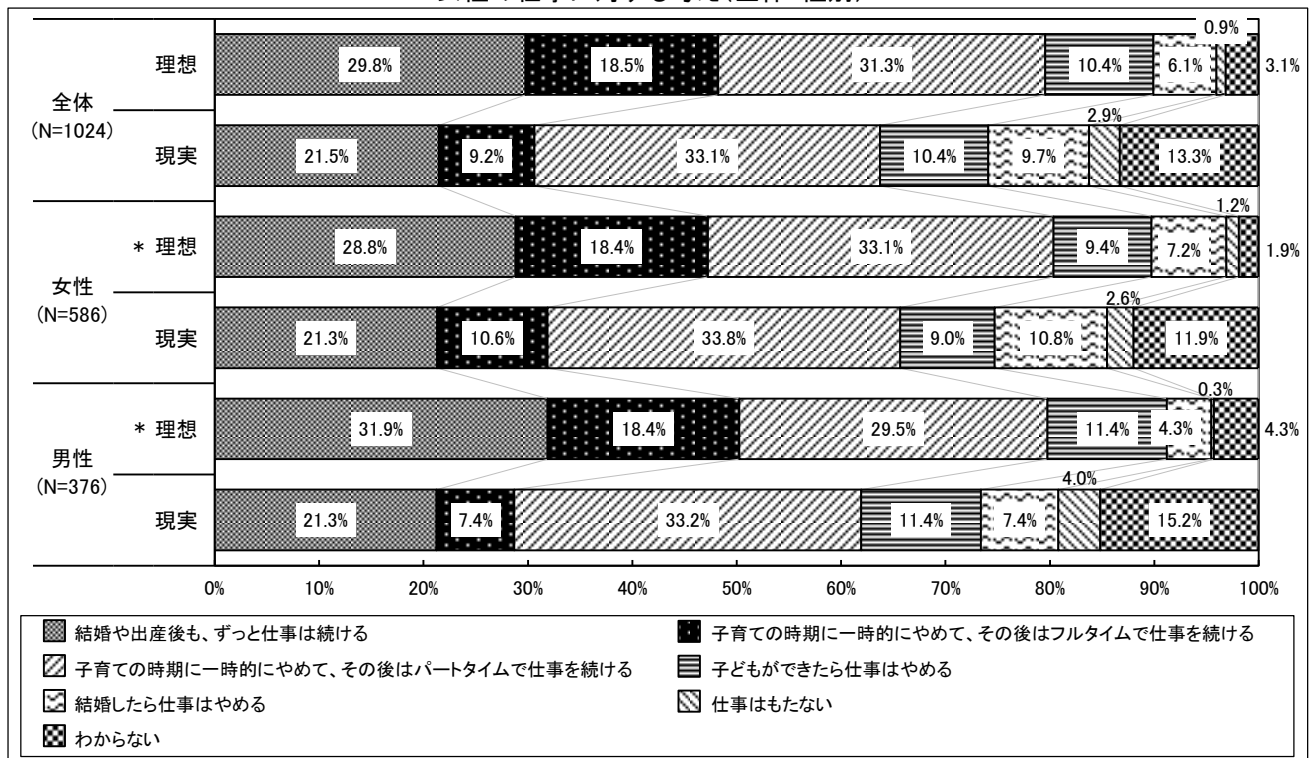
～ 女性が仕事を続けることには8割の人が肯定的 ～

女性の仕事に対する考えについてみると、理想は、全体では「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」(31.3%)の割合が最も高く、次いで「結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける」(29.8%)、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」(18.5%)となっている。

現実には、全体では「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」(33.1%)が最も高く、次いで「結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける」(21.5%)、「子どもができれば仕事はやめる」(10.4%)となっている。

男女ともに「結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける」、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」を理想としても、現実の割合は理想より低くなっている。

女性の仕事に対する考え(全体・性別)



* : 性別で有意差あり

※ 本設問では、「理想」、「現実」の両方について回答があった1024人を対象に集計している。

女性の仕事に対する考え(①理想)(性・年代別)

	サンプル数	①理想							
		結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける	子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける	子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける	子どもができればたら仕事はやめる	結婚したら仕事はやめる	仕事はもたない	わからない	
全体	100.0% 1,024	29.8% 305	18.5% 189	31.3% 321	10.4% 106	6.1% 62	0.9% 9	3.1% 32	
性・年代別	女性計	100.0% 586	28.8% 169	18.4% 108	33.1% 194	9.4% 55	7.2% 42	1.2% 7	1.9% 11
	20代	100.0% 64	21.9% 14	21.9% 14	34.4% 22	12.5% 8	6.3% 4	1.6% 1	1.6% 1
	30代	100.0% 107	25.2% 27	18.7% 20	36.4% 39	11.2% 12	3.7% 4	0.9% 1	3.7% 4
	40代	100.0% 133	33.8% 45	14.3% 19	34.6% 46	9.8% 13	4.5% 6	2.3% 3	0.8% 1
	50代	100.0% 116	28.4% 33	25.0% 29	27.6% 32	8.6% 10	6.9% 8	0.9% 1	2.6% 3
	60代	100.0% 115	26.1% 30	15.7% 18	36.5% 42	8.7% 10	11.3% 13	0.0% 0	1.7% 2
	70歳以上	100.0% 51	39.2% 20	15.7% 8	25.5% 13	3.9% 2	13.7% 7	2.0% 1	0.0% 0
	男性計	100.0% 376	31.9% 120	18.4% 69	29.5% 111	11.4% 43	4.3% 16	0.3% 1	4.3% 16
	20代	100.0% 36	22.2% 8	22.2% 8	38.9% 14	11.1% 4	0.0% 0	0.0% 0	5.6% 2
	30代	100.0% 54	38.9% 21	22.2% 12	22.2% 12	11.1% 6	5.6% 3	0.0% 0	0.0% 0
	40代	100.0% 72	40.3% 29	13.9% 10	30.6% 22	8.3% 6	4.2% 3	0.0% 0	2.8% 2
	50代	100.0% 68	26.5% 18	26.5% 18	26.5% 18	11.8% 8	4.4% 3	1.5% 1	2.9% 2
	60代	100.0% 96	28.1% 27	11.5% 11	35.4% 34	14.6% 14	5.2% 5	0.0% 0	5.2% 5
	70歳以上	100.0% 50	34.0% 17	20.0% 10	22.0% 11	10.0% 5	4.0% 2	0.0% 0	10.0% 5

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

女性の仕事に対する考え(②現実)(性・年代別)

	サンプル数	②現実							
		結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける	子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける	子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける	子どもができれば仕事はやめる	結婚したら仕事はやめる	仕事はもたない	わからない	
全体	100.0% 1,024	21.5% 220	9.2% 94	33.1% 339	10.4% 106	9.7% 99	2.9% 30	13.3% 136	
性・年代別	女性 計	100.0% 586	21.3% 125	10.6% 62	33.8% 198	9.0% 53	10.8% 63	2.6% 15	11.9% 70
	20代	100.0% 64	4.7% 3	10.9% 7	35.9% 23	9.4% 6	3.1% 2	3.1% 2	32.8% 21
	30代	100.0% 107	23.4% 25	9.3% 10	25.2% 27	15.0% 16	7.5% 8	1.9% 2	17.8% 19
	40代	100.0% 133	29.3% 39	12.0% 16	33.8% 45	8.3% 11	5.3% 7	2.3% 3	9.0% 12
	50代	100.0% 116	20.7% 24	12.9% 15	40.5% 47	6.0% 7	13.8% 16	0.0% 0	6.0% 7
	60代	100.0% 115	18.3% 21	12.2% 14	34.8% 40	8.7% 10	18.3% 21	3.5% 4	4.3% 5
	70歳以上	100.0% 51	25.5% 13	0.0% 0	31.4% 16	5.9% 3	17.6% 9	7.8% 4	11.8% 6
	男性 計	100.0% 376	21.3% 80	7.4% 28	33.2% 125	11.4% 43	7.4% 28	4.0% 15	15.2% 57
	20代	100.0% 36	16.7% 6	11.1% 4	33.3% 12	5.6% 2	0.0% 0	2.8% 1	30.6% 11
	30代	100.0% 54	22.2% 12	13.0% 7	14.8% 8	16.7% 9	9.3% 5	0.0% 0	24.1% 13
	40代	100.0% 72	30.6% 22	5.6% 4	31.9% 23	11.1% 8	0.0% 0	5.6% 4	15.3% 11
	50代	100.0% 68	14.7% 10	5.9% 4	51.5% 35	8.8% 6	8.8% 6	1.5% 1	8.8% 6
	60代	100.0% 96	19.8% 19	6.3% 6	32.3% 31	12.5% 12	11.5% 11	7.3% 7	10.4% 10
	70歳以上	100.0% 50	22.0% 11	6.0% 3	32.0% 16	12.0% 6	12.0% 6	4.0% 2	12.0% 6

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

(2) 現実の働き方で「仕事を(一時的に)やめる」「仕事はもたない」を選んだ理由

【問16】 問15の「②現実」で、2～6を選んだ方におたずねします。その理由は何ですか。(複数回答)

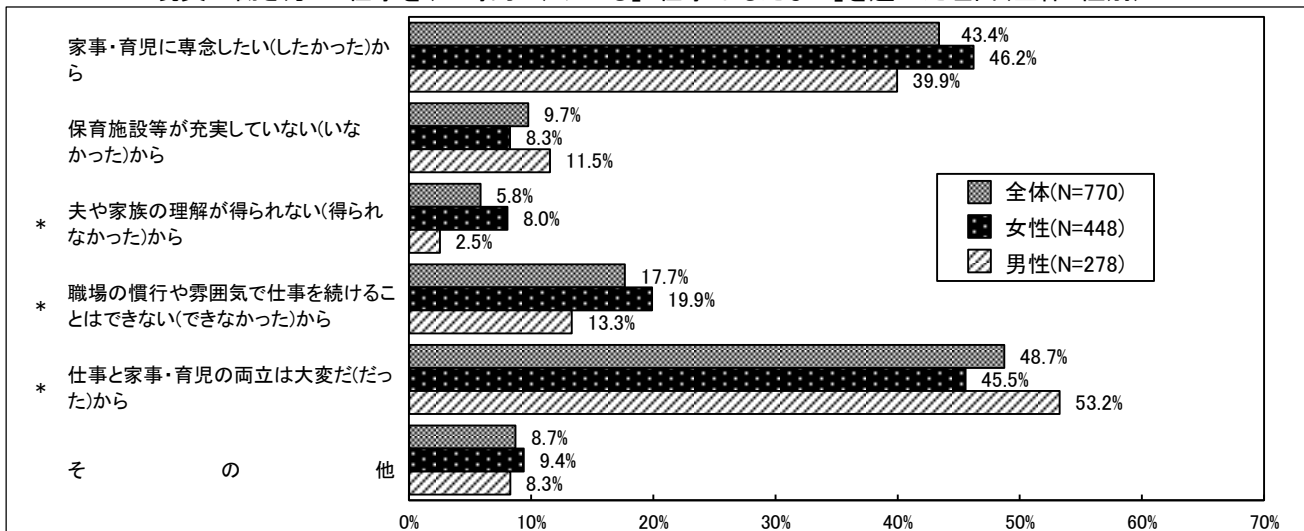
- ※問15の選択肢 2. 子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
 3. 子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
 4. 子どもができたなら仕事はやめる
 5. 結婚したら仕事はやめる
 6. 仕事はもたない

～ 「仕事と家事・育児の両立は大変」「家事・育児に専念したい」が多い ～

現実の働き方で「仕事を(一時的に)やめる」「仕事はもたない」を選んだ理由をみると、全体では「仕事と家事・育児の両立は大変だ(だった)から」(48.7%)が最も高く、次いで「家事・育児に専念したい(したかった)から」(43.4%)、「職場の慣行や雰囲気の仕事は続けることはできない(できなかった)から」(17.7%)となっている。

性別にみると、「職場の慣行や雰囲気の仕事は続けることはできない(できなかった)から」(女性：19.9%、男性：13.3%)、「夫や家族の理解が得られない(得られなかった)から」(女性：8.0%、男性：2.5%)で女性の割合が男性より高く、「仕事と家事・育児の両立は大変だ(だった)から」(女性：45.5%、男性：53.2%)で男性の割合が女性より高くなっている。

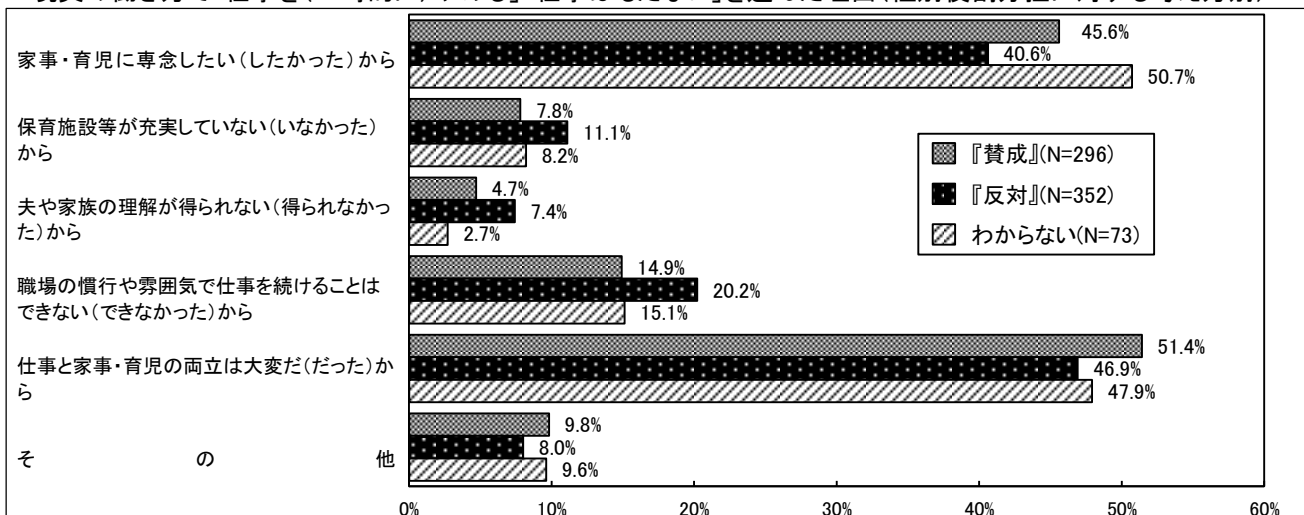
現実の働き方で「仕事を(一時的に)やめる」「仕事はもたない」を選んだ理由(全体・性別)



*：性別で有意差あり

性別役割分担に対する考え方別では、有意差はみられなかった。

現実の働き方で「仕事を(一時的に)やめる」「仕事はもたない」を選んだ理由(性別役割分担に対する考え方別)



※ 『賛成』、『反対』については、19ページ参照。

現実の働き方で「仕事を(一時的に)やめる」「仕事はもたない」を選んだ理由

(性・年代・性別役割分担に対する考え方別)(複数回答)

		サンプル数	現実の働き方で「仕事を(一時的に)やめる」「仕事はもたない」を選んだ理由						無回答
			家事・育児に専念したい(したかった)から	保育施設等が充実していない(いなかった)から	夫や家族の理解が得られない(得られなかった)から	職場の慣行や雰囲気(できなかった)から	仕事と家事・育児の両立は大変だ(だった)から	その他	
全体		100.0% 770	43.4% 334	9.7% 75	5.8% 45	17.7% 136	48.7% 375	8.7% 67	4.0% 31
性・年代別	女性計	100.0% 448	46.2% 207	8.3% 37	8.0% 36	19.9% 89	45.5% 204	9.4% 42	3.3% 15
	20代	100.0% 47	42.6% 20	17.0% 8	10.6% 5	25.5% 12	40.4% 19	8.5% 4	2.1% 1
	30代	100.0% 74	48.6% 36	12.2% 9	9.5% 7	28.4% 21	44.6% 33	9.5% 7	5.4% 4
	40代	100.0% 92	43.5% 40	5.4% 5	3.3% 3	19.6% 18	45.7% 42	14.1% 13	0.0% 0
	50代	100.0% 96	52.1% 50	7.3% 7	8.3% 8	22.9% 22	50.0% 48	8.3% 8	0.0% 0
	60代	100.0% 98	45.9% 45	6.1% 6	11.2% 11	11.2% 11	48.0% 47	8.2% 8	6.1% 6
	70歳以上	100.0% 41	39.0% 16	4.9% 2	4.9% 2	12.2% 5	36.6% 15	4.9% 2	9.8% 4
	男性計	100.0% 278	39.9% 111	11.5% 32	2.5% 7	13.3% 37	53.2% 148	8.3% 23	4.7% 13
	20代	100.0% 23	52.2% 12	4.3% 1	0.0% 0	8.7% 2	52.2% 12	8.7% 2	0.0% 0
	30代	100.0% 32	43.8% 14	21.9% 7	3.1% 1	15.6% 5	59.4% 19	6.3% 2	0.0% 0
	40代	100.0% 52	46.2% 24	5.8% 3	0.0% 0	5.8% 3	61.5% 32	3.8% 2	7.7% 4
	50代	100.0% 59	35.6% 21	15.3% 9	3.4% 2	15.3% 9	49.2% 29	13.6% 8	3.4% 2
	60代	100.0% 73	35.6% 26	8.2% 6	2.7% 2	16.4% 12	53.4% 39	8.2% 6	4.1% 3
	70歳以上	100.0% 39	35.9% 14	15.4% 6	5.1% 2	15.4% 6	43.6% 17	7.7% 3	10.3% 4
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0% 296	45.6% 135	7.8% 23	4.7% 14	14.9% 44	51.4% 152	9.8% 29	3.4% 10
	『反対』	100.0% 352	40.6% 143	11.1% 39	7.4% 26	20.2% 71	46.9% 165	8.0% 28	4.5% 16
	わからない	100.0% 73	50.7% 37	8.2% 6	2.7% 2	15.1% 11	47.9% 35	9.6% 7	2.7% 2

—% : 各属性内での回答割合が最も高い

(3) 職場での男女格差の有無

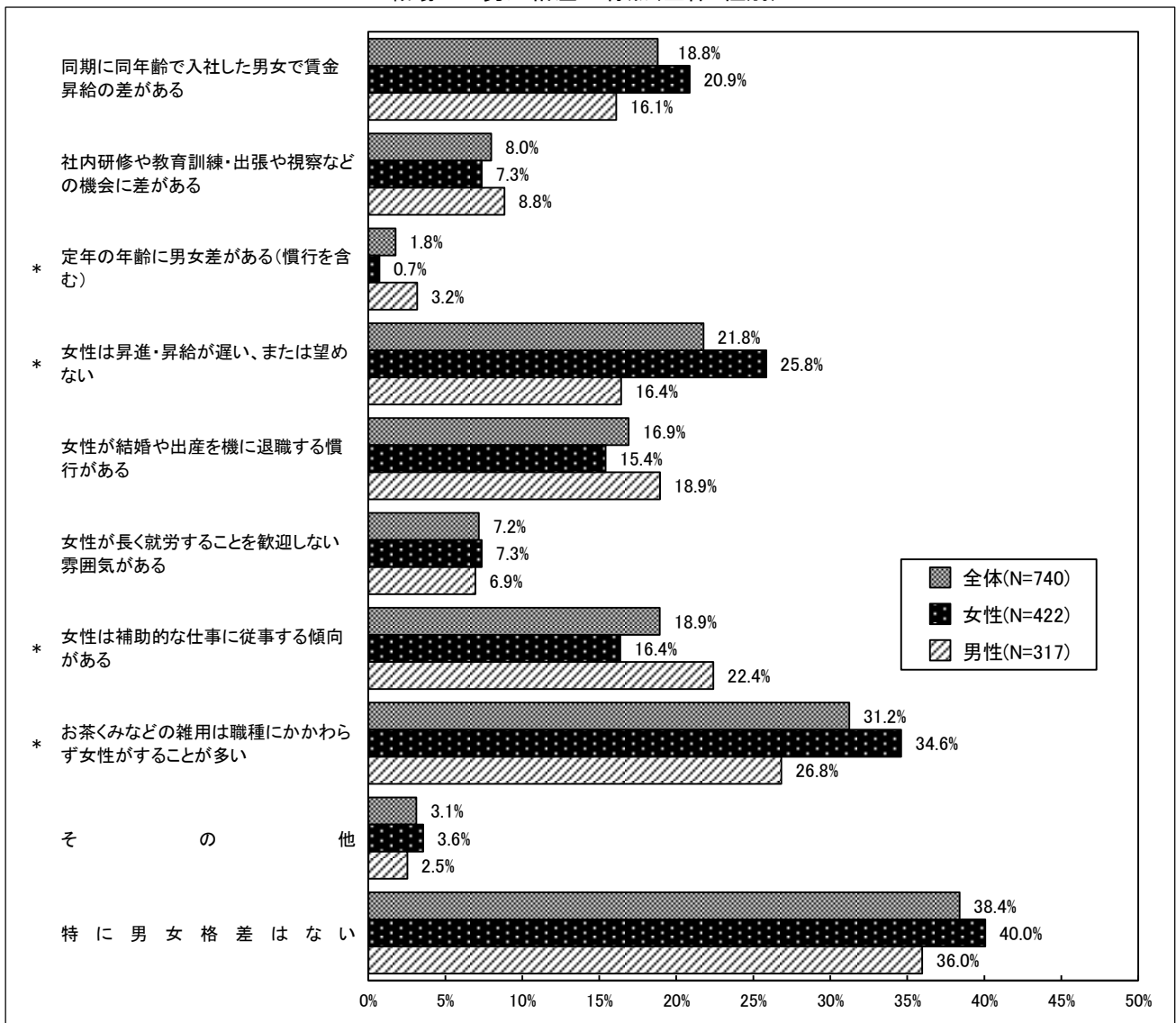
【問17】 働いている方（パートタイマー、派遣、アルバイトをしている学生も含む）におたずねします。あなたの職場で現在次のような男女格差がありますか。該当するものに○をつけてください。（複数回答）

～ 「特に男女格差はない」と答えた人は約4割 ～

職場での男女格差の有無についてみると、全体では「特に男女格差はない」（38.4%）の割合が最も高く、次いで「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」（31.2%）、「女性は昇進・昇給が遅い、または望めない」（21.8%）となっている。

性別にみると、「お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い」（女性：34.6%、男性：26.8%）、「女性は昇進・昇給が遅い、または望めない」（女性：25.8%、男性：16.4%）で女性の割合が男性より高く、「女性は補助的な仕事に従事する傾向がある」（女性：16.4%、男性：22.4%）、「定年の年齢に男女差がある（慣行を含む）」（女性：0.7%、男性：3.2%）で男性の割合が女性より高くなっている。

職場での男女格差の有無(全体・性別)

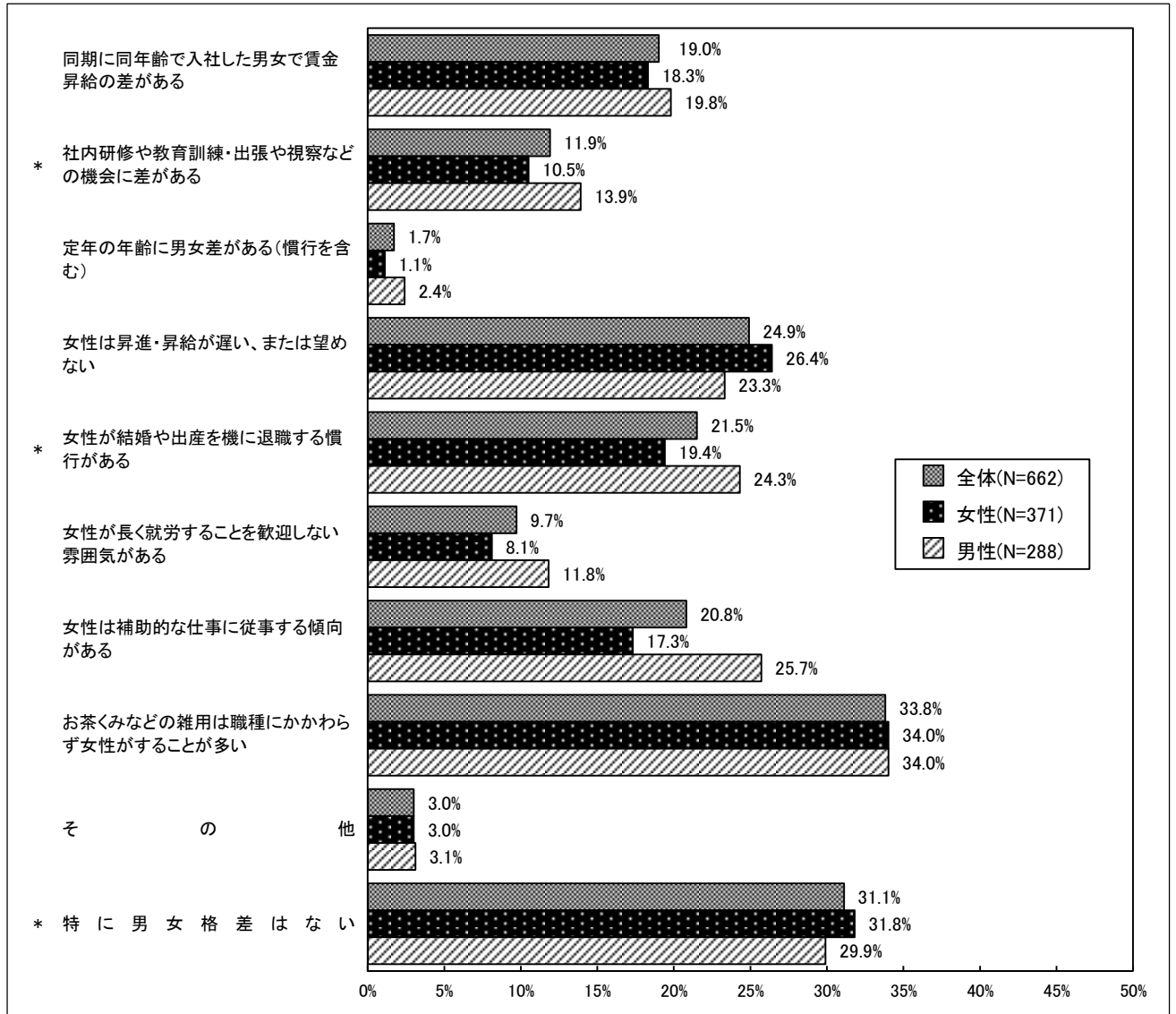


*：性別で有意差あり

前回調査と比較すると、全体では「特に男女格差はない」（今回：38.4%、前回：31.1%）の割合が増加しており、「女性が結婚や出産を機に退職する慣行がある」（今回：16.9%、前回：21.5%）、「社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある」（今回：8.0%、前回：11.9%）の割合が減少している。

【前回調査】

職場での男女格差の有無(全体・性別)



* : 今回調査と有意差あり

職場での男女格差の有無(性・年代別)(複数回答)

	サンプル数	職場での男女格差の有無										
		同期に同年齢で入社した男女で賃金昇給の差がある	社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある	定年の年齢に男女差がある(慣行を含む)	女性は昇進・昇給が遅い、または望めない	女性が結婚や出産を機に退職する慣行がある	女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある	女性は補助的な仕事に従事する傾向がある	お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い	その他	特に男女格差はない	
全体	100.0% 740	18.8% 139	8.0% 59	1.8% 13	21.8% 161	16.9% 125	7.2% 53	18.9% 140	31.2% 231	3.1% 23	38.4% 284	
性・年代別	女性計	100.0% 422	20.9% 88	7.3% 31	0.7% 3	25.8% 109	15.4% 65	7.3% 31	16.4% 69	34.6% 146	3.6% 15	40.0% 169
	20代	100.0% 49	20.4% 10	8.2% 4	0.0% 0	38.8% 19	34.7% 17	6.1% 3	18.4% 9	32.7% 16	2.0% 1	32.7% 16
	30代	100.0% 92	17.4% 16	12.0% 11	0.0% 0	29.3% 27	23.9% 22	7.6% 7	17.4% 16	35.9% 33	1.1% 1	38.0% 35
	40代	100.0% 115	18.3% 21	4.3% 5	0.0% 0	19.1% 22	9.6% 11	5.2% 6	14.8% 17	40.0% 46	6.1% 7	43.5% 50
	50代	100.0% 109	18.3% 20	6.4% 7	0.0% 0	23.9% 26	10.1% 11	7.3% 8	15.6% 17	30.3% 33	5.5% 6	42.2% 46
	60代	100.0% 49	36.7% 18	6.1% 3	6.1% 3	26.5% 13	8.2% 4	14.3% 7	18.4% 9	26.5% 13	0.0% 0	36.7% 18
	70歳以上	100.0% 8	37.5% 3	12.5% 1	0.0% 0	25.0% 2	0.0% 0	0.0% 0	12.5% 1	62.5% 5	0.0% 0	50.0% 4
	男性計	100.0% 317	16.1% 51	8.8% 28	3.2% 10	16.4% 52	18.9% 60	6.9% 22	22.4% 71	26.8% 85	2.5% 8	36.0% 114
	20代	100.0% 28	17.9% 5	10.7% 3	3.6% 1	3.6% 1	32.1% 9	7.1% 2	21.4% 6	28.6% 8	7.1% 2	32.1% 9
	30代	100.0% 51	11.8% 6	11.8% 6	2.0% 1	7.8% 4	25.5% 13	3.9% 2	23.5% 12	29.4% 15	3.9% 2	41.2% 21
	40代	100.0% 77	22.1% 17	5.2% 4	2.6% 2	22.1% 17	22.1% 17	9.1% 7	16.9% 13	36.4% 28	1.3% 1	31.2% 24
	50代	100.0% 83	14.5% 12	6.0% 5	1.2% 1	16.9% 14	10.8% 9	8.4% 7	21.7% 18	19.3% 16	2.4% 2	41.0% 34
	60代	100.0% 60	13.3% 8	11.7% 7	3.3% 2	20.0% 12	15.0% 9	3.3% 2	26.7% 16	21.7% 13	1.7% 1	35.0% 21
	70歳以上	100.0% 18	16.7% 3	16.7% 3	16.7% 3	22.2% 4	16.7% 3	11.1% 2	33.3% 6	27.8% 5	0.0% 0	27.8% 5

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

(4) 社会全体としての女性の働きやすさに対する考え

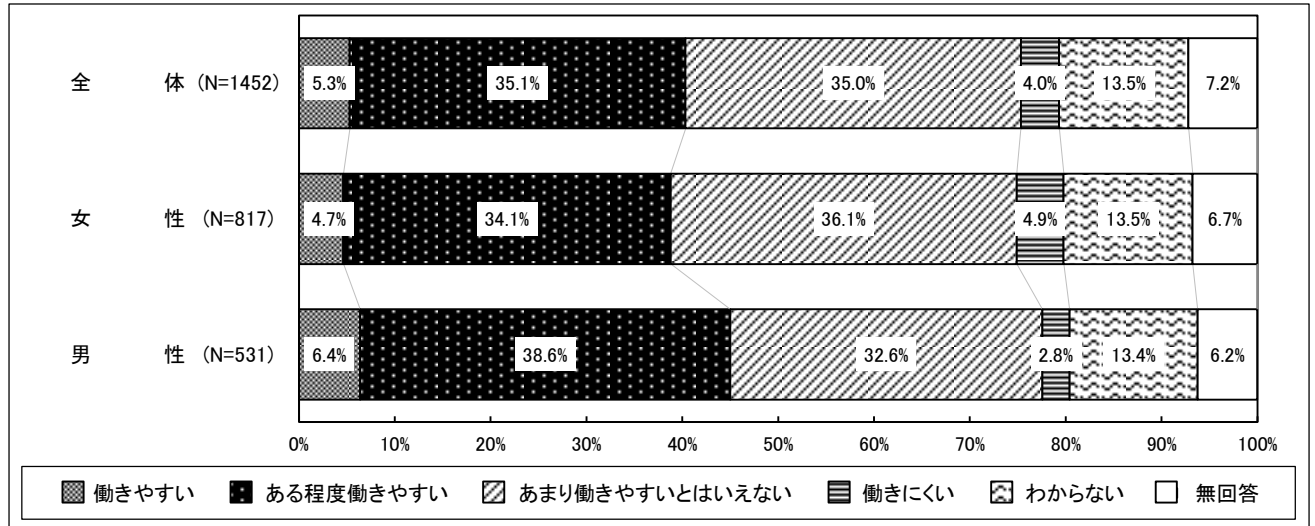
【問18】 社会全体として女性が働きやすい状況にあると思いますか。

～ 『働きやすい』と『働きにくい』がほぼ同じ割合～

社会全体としての女性の働きやすさに対する考えについてみると、全体では『働きやすい』（「働きやすい」＋「ある程度働きやすい」）が40.4%、『働きにくい』（「働きにくい」＋「あまり働きやすいとはいえない」）が39.0%で、ほぼ同じ割合となっている。

性別で有意差はみられなかったが、女性は『働きにくい』（41.0%）が『働きやすい』（38.8%）より高く、男性は『働きやすい』（45.0%）が『働きにくい』（35.4%）より高くなっている。

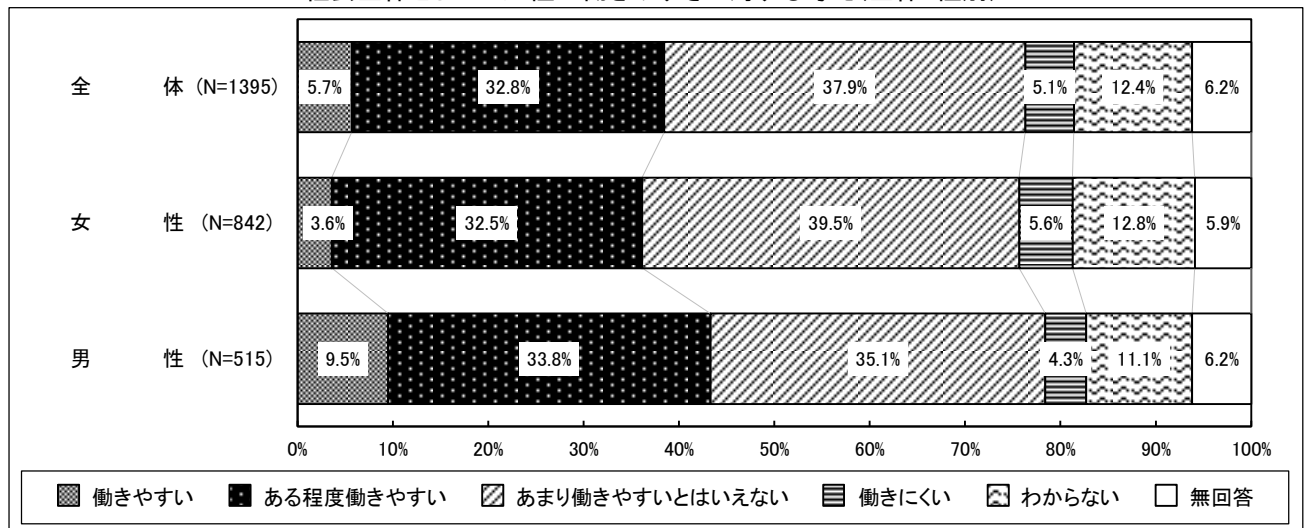
社会全体としての女性の働きやすさに対する考え(全体・性別)



前回調査との比較では、有意差はみられなかった。

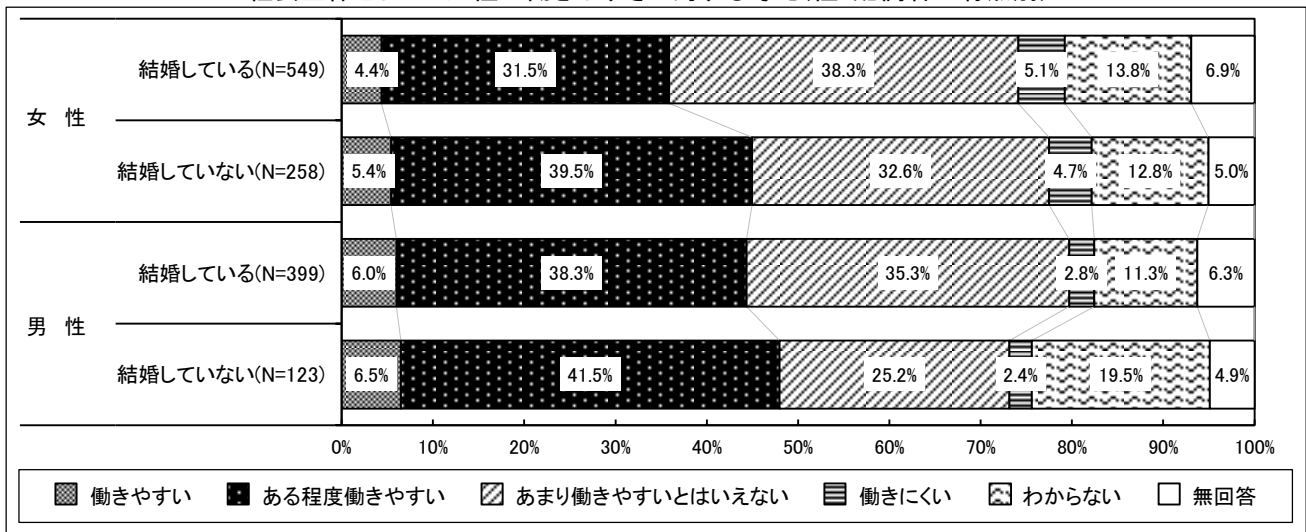
【前回調査】

社会全体としての女性の働きやすさに対する考え(全体・性別)



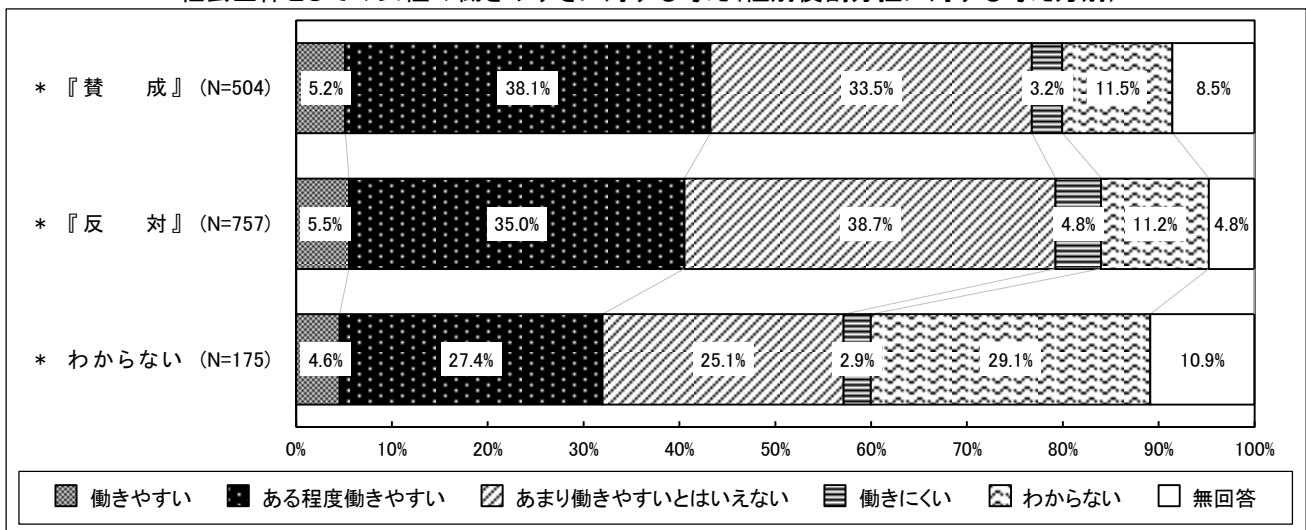
配偶者の有無別で有意差はみられなかったが、「結婚している」女性では『働きやすい』(35.9%)より『働きにくい』(43.4%)の割合が高くなっている。

社会全体としての女性の働きやすさに対する考え(性・配偶者の有無別)



性別役割分担に対する考え方別にみると、『働きやすい』の割合が『賛成』43.3%、『反対』40.5%と、『賛成』が『反対』より高くなっている。一方、『働きにくい』の割合は『賛成』36.7%、『反対』43.5%と、『反対』が『賛成』より高くなっている。

社会全体としての女性の働きやすさに対する考え(性別役割分担に対する考え方別)



* : 性別役割分担に対する考え方別で有意差あり

※ 『賛成』、『反対』については、19 ページ参照。

年代別では、女性の「30代」「40代」「50代」と男性の「30代」で『働きにくい』の割合が『働きやすい』より高くなっている。

社会全体としての女性の働きやすさに対する考え(性・年代・配偶者の有無・性別役割分担に対する考え方別)

		サンプル数	社会全体としての女性の働きやすさに対する考え					無回答	
			働きやすい	ある程度働きやすい	あまり働かない いやというほど	働きにくい	わからない		
全体		100.0% 1,452	5.3% 77	35.1% 509	35.0% 508	4.0% 58	13.5% 196	7.2% 104	
性・年代別	女性計	100.0% 817	4.7% 38	34.1% 279	36.1% 295	4.9% 40	13.5% 110	6.7% 55	
	20代	100.0% 80	7.5% 6	41.3% 33	32.5% 26	8.8% 7	8.8% 7	1.3% 1	
	30代	100.0% 134	2.2% 3	29.9% 40	45.5% 61	10.4% 14	11.9% 16	0.0% 0	
	40代	100.0% 161	5.6% 9	32.3% 52	46.0% 74	3.1% 5	11.8% 19	1.2% 2	
	50代	100.0% 158	3.2% 5	31.6% 50	41.8% 66	3.8% 6	14.6% 23	5.1% 8	
	60代	100.0% 180	7.2% 13	33.9% 61	27.2% 49	3.3% 6	16.1% 29	12.2% 22	
	70歳以上	100.0% 104	1.9% 2	41.3% 43	18.3% 19	1.9% 2	15.4% 16	21.2% 22	
	男性計	100.0% 531	6.4% 34	38.6% 205	32.6% 173	2.8% 15	13.4% 71	6.2% 33	
	20代	100.0% 45	13.3% 6	33.3% 15	31.1% 14	4.4% 2	17.8% 8	0.0% 0	
	30代	100.0% 62	9.7% 6	32.3% 20	45.2% 28	3.2% 2	8.1% 5	1.6% 1	
	40代	100.0% 97	3.1% 3	43.3% 42	34.0% 33	3.1% 3	15.5% 15	1.0% 1	
	50代	100.0% 97	4.1% 4	39.2% 38	40.2% 39	4.1% 4	9.3% 9	3.1% 3	
	60代	100.0% 134	6.0% 8	42.5% 57	29.1% 39	1.5% 2	14.2% 19	6.7% 9	
	70歳以上	100.0% 96	7.3% 7	34.4% 33	20.8% 20	2.1% 2	15.6% 15	19.8% 19	
	性・配偶者の有無別	女性計	100.0% 817	4.7% 38	34.1% 279	36.1% 295	4.9% 40	13.5% 110	6.7% 55
		結婚している	100.0% 549	4.4% 24	31.5% 173	38.3% 210	5.1% 28	13.8% 76	6.9% 38
結婚していない		100.0% 258	5.4% 14	39.5% 102	32.6% 84	4.7% 12	12.8% 33	5.0% 13	
男性計		100.0% 531	6.4% 34	38.6% 205	32.6% 173	2.8% 15	13.4% 71	6.2% 33	
結婚している		100.0% 399	6.0% 24	38.3% 153	35.3% 141	2.8% 11	11.3% 45	6.3% 25	
結婚していない		100.0% 123	6.5% 8	41.5% 51	25.2% 31	2.4% 3	19.5% 24	4.9% 6	
性別役割分担 に対する考え方	『賛成』	100.0% 504	5.2% 26	38.1% 192	33.5% 169	3.2% 16	11.5% 58	8.5% 43	
	『反対』	100.0% 757	5.5% 42	35.0% 265	38.7% 293	4.8% 36	11.2% 85	4.8% 36	
	わからない	100.0% 175	4.6% 8	27.4% 48	25.1% 44	2.9% 5	29.1% 51	10.9% 19	

____% : 各属性内での回答割合が最も高い

(5) 女性が働きにくいと思う理由

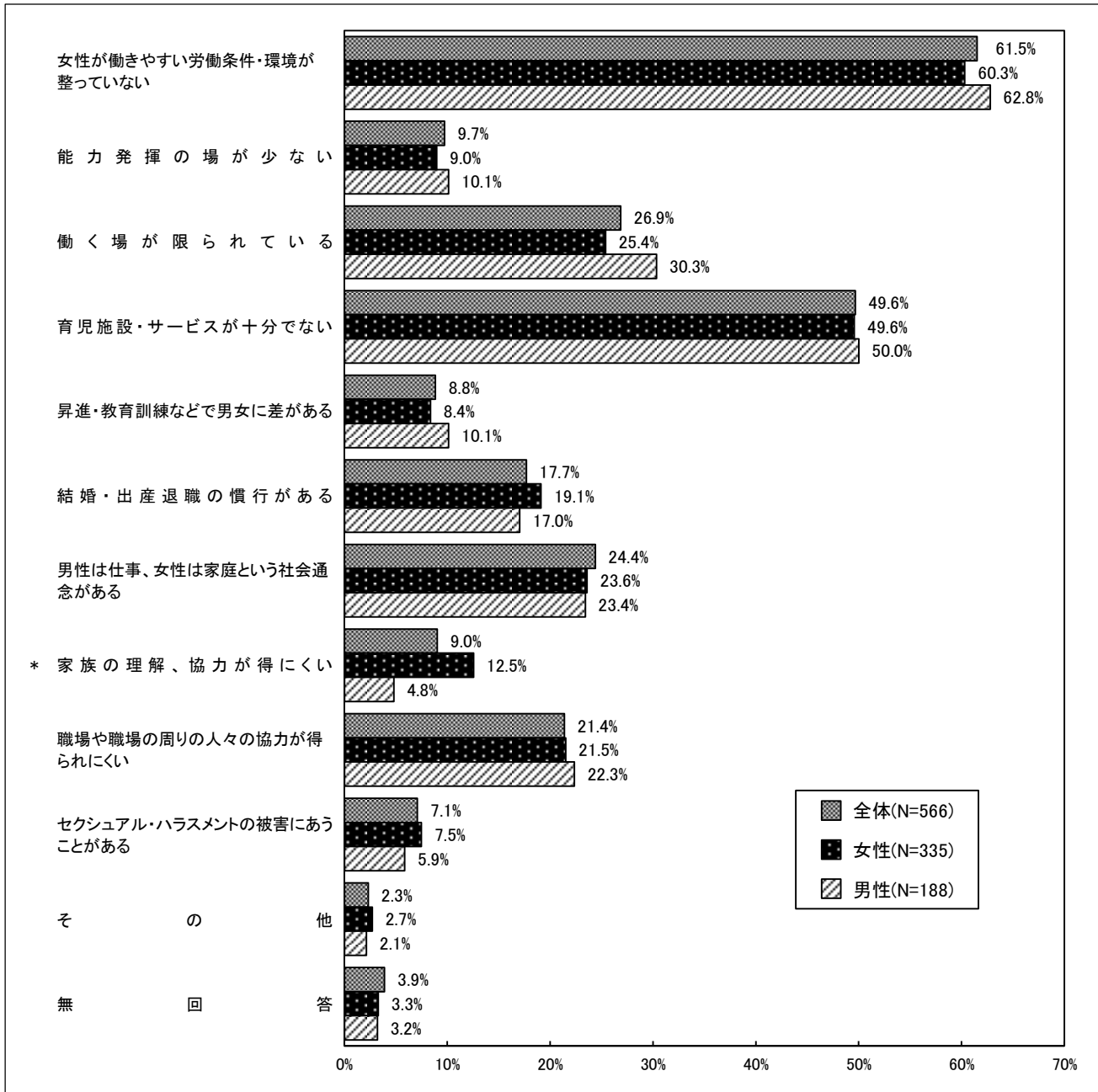
【問19】 問18で「あまり働きやすいとはいえない」「働きにくい」と答えた方におたずねします。そう思う理由は何ですか。

～ 「労働条件・環境が整っていない」「育児施設・サービスが十分でない」との回答が多い ～

女性が働きにくいと思う理由についてみると、全体では「女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない」(61.5%)の割合が最も高く、次いで「育児施設・サービスが十分でない」(49.6%)、「働く場が限られている」(26.9%)となっている。

性別にみると、「家族の理解、協力が得にくい」(女性：12.5%、男性：4.8%)で女性の割合が男性より高くなっている。

女性が働きにくいと思う理由(全体・性別)

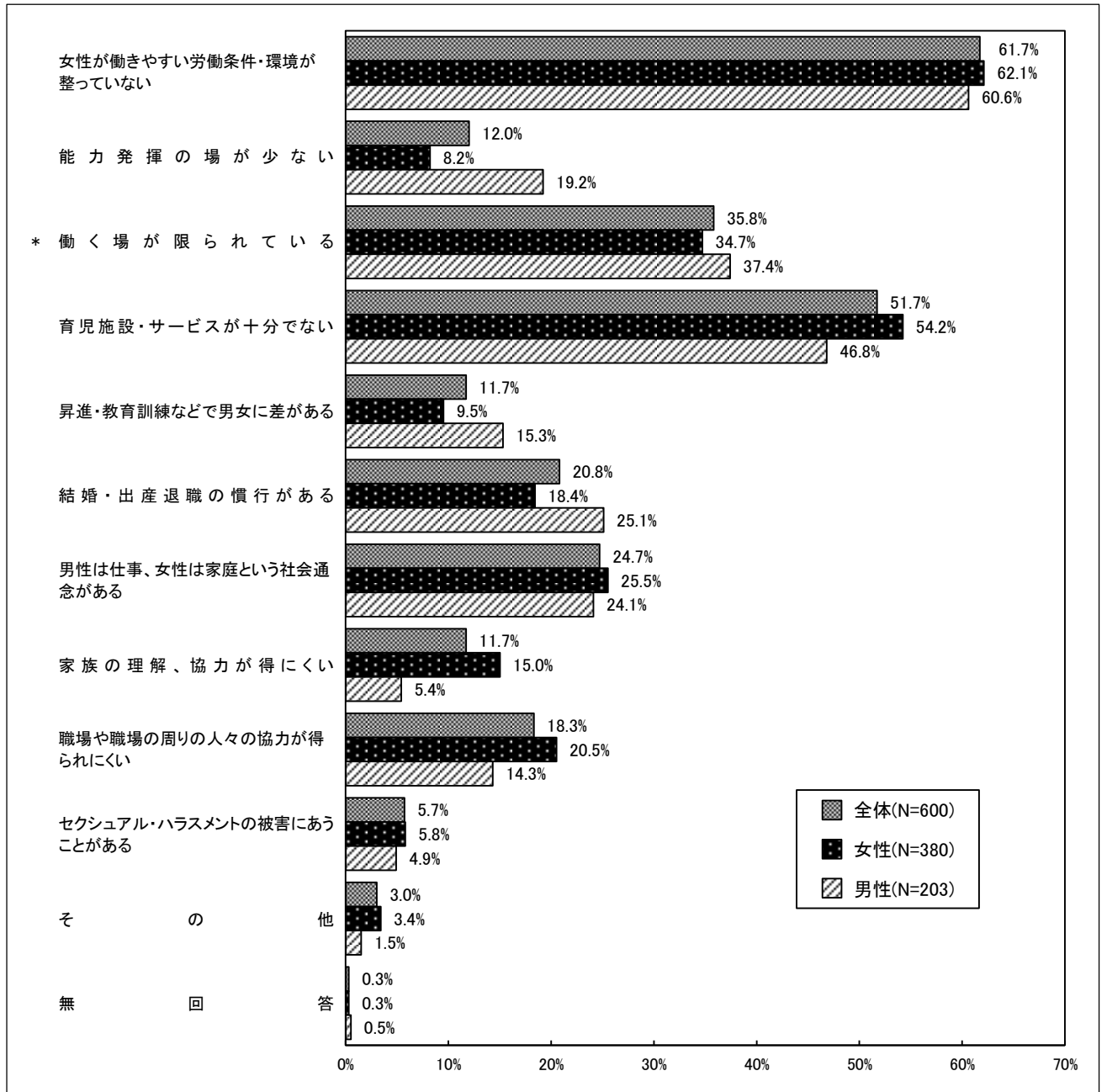


*：性別で有意差あり

前回調査と比較すると、全体では「働く場が限られている」(今回：26.9%、前回：35.8%)の割合が減少している。

【前回調査】

女性が働きにくいと思う理由(全体・性別)



* : 今回調査と有意差あり

女性が働きにくいと思う理由(性・年代・性別役割分担に対する考え方別)(複数回答) 1/2

		サンプル数	女性が働きにくいと思う理由					結婚・出産退職の慣行がある	
			女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない	能力発揮の場が少ない	働く場が限られている	育児施設・サービスが十分でない	昇進・教育訓練などで男女に差がある		
全体		100.0% 566	61.5% 348	9.7% 55	26.9% 152	49.6% 281	8.8% 50	17.7% 100	
性・年代別	女性計	100.0% 335	60.3% 202	9.0% 30	25.4% 85	49.6% 166	8.4% 28	19.1% 64	
	20代	100.0% 33	45.5% 15	15.2% 5	18.2% 6	36.4% 12	15.2% 5	27.3% 9	
	30代	100.0% 75	53.3% 40	8.0% 6	17.3% 13	62.7% 47	12.0% 9	22.7% 17	
	40代	100.0% 79	62.0% 49	5.1% 4	34.2% 27	49.4% 39	5.1% 4	13.9% 11	
	50代	100.0% 72	66.7% 48	9.7% 7	29.2% 21	44.4% 32	8.3% 6	12.5% 9	
	60代	100.0% 55	63.6% 35	9.1% 5	25.5% 14	56.4% 31	1.8% 1	23.6% 13	
	70歳以上	100.0% 21	71.4% 15	14.3% 3	19.0% 4	23.8% 5	14.3% 3	23.8% 5	
	男性計	100.0% 188	62.8% 118	10.1% 19	30.3% 57	50.0% 94	10.1% 19	17.0% 32	
	20代	100.0% 16	56.3% 9	6.3% 1	25.0% 4	62.5% 10	12.5% 2	31.3% 5	
	30代	100.0% 30	50.0% 15	6.7% 2	23.3% 7	53.3% 16	3.3% 1	16.7% 5	
	40代	100.0% 36	66.7% 24	13.9% 5	22.2% 8	44.4% 16	8.3% 3	19.4% 7	
	50代	100.0% 43	65.1% 28	7.0% 3	34.9% 15	46.5% 20	11.6% 5	11.6% 5	
	60代	100.0% 41	65.9% 27	12.2% 5	36.6% 15	56.1% 23	14.6% 6	17.1% 7	
	70歳以上	100.0% 22	68.2% 15	13.6% 3	36.4% 8	40.9% 9	9.1% 2	13.6% 3	
	性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0% 185	54.6% 101	11.4% 21	28.6% 53	44.9% 83	9.7% 18	20.0% 37
		『反対』	100.0% 329	64.4% 212	8.5% 28	25.8% 85	52.3% 172	8.2% 27	15.8% 52
わからない		100.0% 49	65.3% 32	12.2% 6	26.5% 13	51.0% 25	6.1% 3	22.4% 11	

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

女性が働きにくいと思う理由(性・年代・性別役割分担に対する考え方別)(複数回答) 2/2

		サンプル数	女性が働きにくいと思う理由					無回答
			男性は仕事、女性は家庭という社会通念がある	家族の理解、協力が得にくい	職場や職場の周りの人々の協力が得られにくい	セクシュアル・ハラスメントの被害にあうことがある	その他	
全体		100.0%	24.4%	9.0%	21.4%	7.1%	2.3%	3.9%
		566	138	51	121	40	13	22
性・年代別	女性計	100.0%	23.6%	12.5%	21.5%	7.5%	2.7%	3.3%
		335	79	42	72	25	9	11
	20代	100.0%	36.4%	3.0%	27.3%	3.0%	6.1%	9.1%
		33	12	1	9	1	2	3
	30代	100.0%	22.7%	6.7%	25.3%	5.3%	2.7%	2.7%
		75	17	5	19	4	2	2
	40代	100.0%	17.7%	19.0%	29.1%	6.3%	2.5%	1.3%
		79	14	15	23	5	2	1
	50代	100.0%	25.0%	13.9%	15.3%	9.7%	2.8%	2.8%
		72	18	10	11	7	2	2
	60代	100.0%	23.6%	12.7%	10.9%	12.7%	1.8%	3.6%
		55	13	7	6	7	1	2
	70歳以上	100.0%	23.8%	19.0%	19.0%	4.8%	0.0%	4.8%
		21	5	4	4	1	0	1
	男性計	100.0%	23.4%	4.8%	22.3%	5.9%	2.1%	3.2%
		188	44	9	42	11	4	6
	20代	100.0%	18.8%	0.0%	12.5%	18.8%	6.3%	0.0%
		16	3	0	2	3	1	0
	30代	100.0%	20.0%	3.3%	26.7%	6.7%	3.3%	6.7%
		30	6	1	8	2	1	2
40代	100.0%	19.4%	13.9%	22.2%	5.6%	0.0%	5.6%	
	36	7	5	8	2	0	2	
50代	100.0%	30.2%	0.0%	23.3%	7.0%	0.0%	2.3%	
	43	13	0	10	3	0	1	
60代	100.0%	24.4%	4.9%	24.4%	0.0%	2.4%	0.0%	
	41	10	2	10	0	1	0	
70歳以上	100.0%	22.7%	4.5%	18.2%	4.5%	4.5%	4.5%	
	22	5	1	4	1	1	1	
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0%	24.3%	7.6%	20.5%	5.9%	2.7%	3.8%
		185	45	14	38	11	5	7
	『反対』	100.0%	26.4%	9.1%	21.0%	7.3%	2.4%	4.3%
		329	87	30	69	24	8	14
わからない	100.0%	12.2%	14.3%	28.6%	10.2%	0.0%	2.0%	
	49	6	7	14	5	0	1	

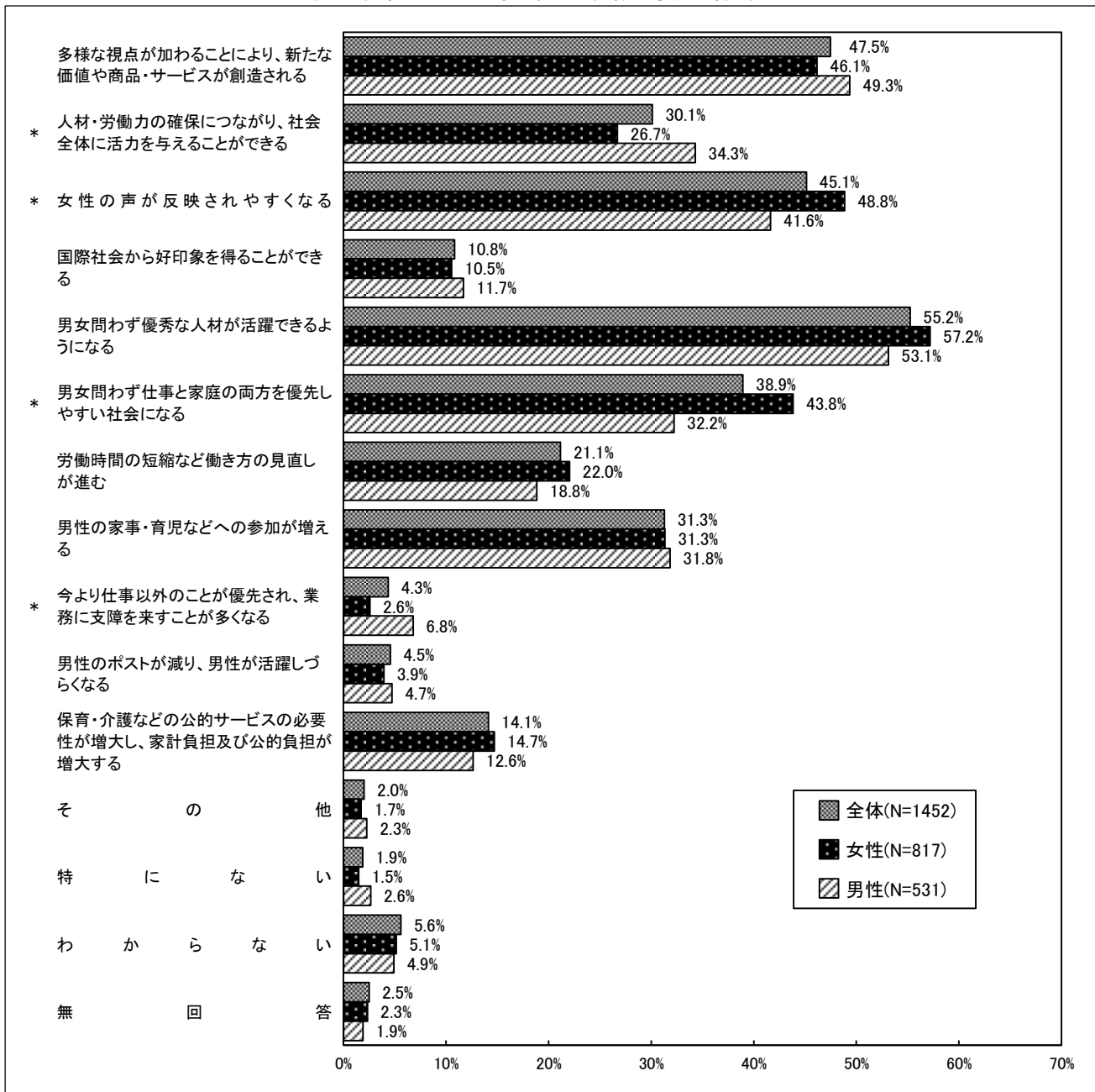
(6) 女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿

【問20】 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(複数回答)

～ 「男女問わず優秀な人材が活躍」「新たな価値や商品・サービスが創造される」との回答が多い ～

女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿についてみると、全体では「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」(55.2%)の割合が最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(47.5%)、「女性の声が反映されやすくなる」(45.1%)となっている。性別にみると、「女性の声が反映されやすくなる」(女性：48.8%、男性：41.6%)、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」(女性：43.8%、男性：32.2%)で女性の割合が男性より高くなっている。一方、「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」(女性：26.7%、男性：34.3%)、「今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる」(女性：2.6%、男性：6.8%)で男性の割合が女性より高くなっている。

女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿(全体・性別)

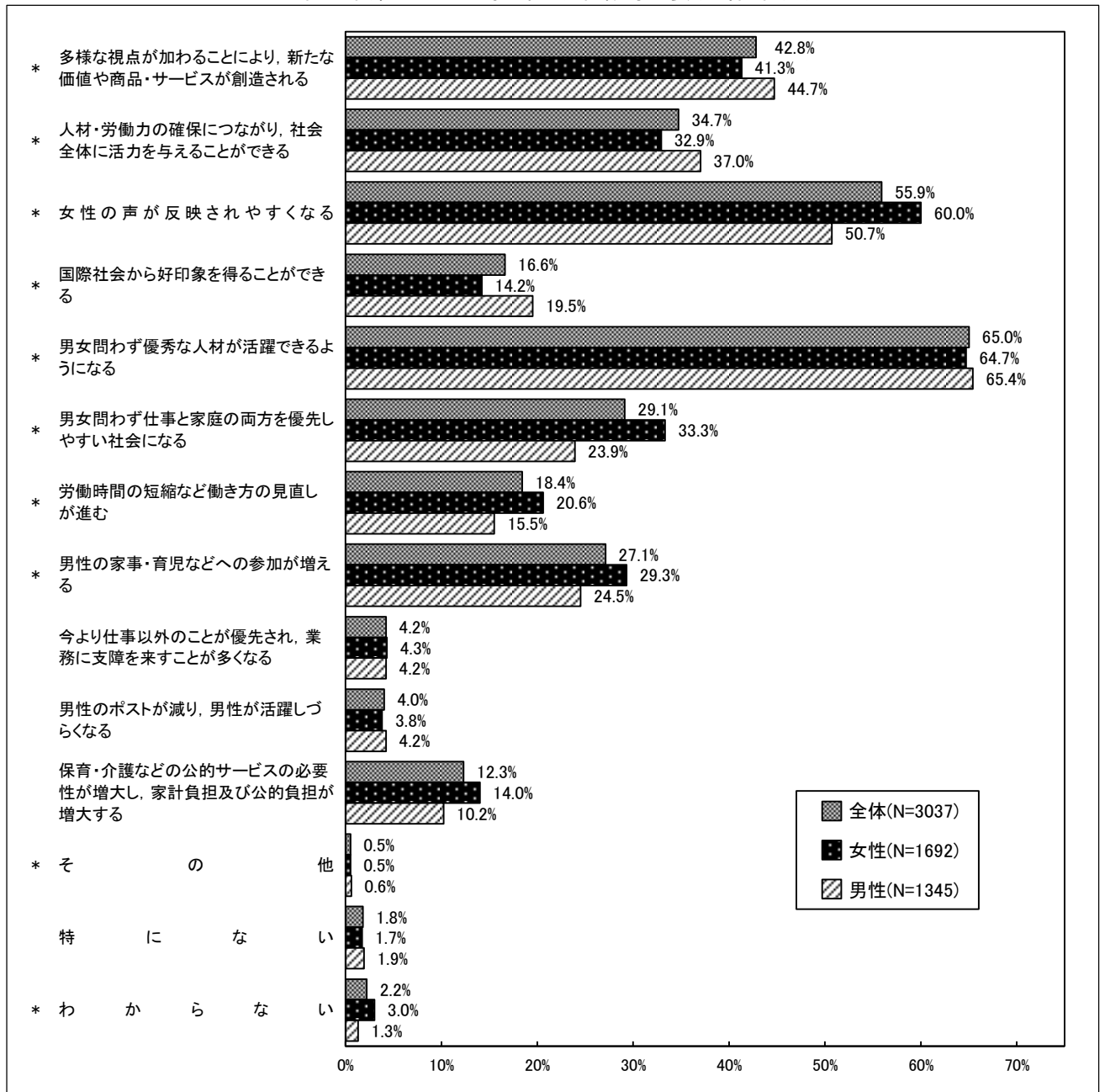


* : 性別で有意差あり

内閣府女性活躍推進調査と比較すると、全体では「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」(鹿児島市：38.9%、内閣府：29.1%)、「多様な視点加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(鹿児島市：47.5%、内閣府：42.8%)、「男性の家事・育児などへの参加が増える」(鹿児島市：31.3%、内閣府：27.1%)、「労働時間の短縮など働き方の見直しが進む」(鹿児島市：21.1%、内閣府：18.4%)の割合が内閣府より高くなっている。一方、「女性の声が反映されやすくなる」(鹿児島市：45.1%、内閣府：55.9%)、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」(鹿児島市：55.2%、内閣府：65.0%)、「国際社会から好印象を得ることができる」(鹿児島市：10.8%、内閣府：16.6%)、「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」(鹿児島市：30.1%、内閣府：34.7%)の割合は内閣府より低くなっている。

【内閣府女性活躍推進調査】

女性の活躍が進んだ時の社会・組織等の姿(全体・性別)



* : 鹿児島市調査と有意差あり

女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿(性・年代別)(複数回答) 1/2

	サンプル数	女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿								
		多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	女性の声が反映されやすくなる	国際社会から好印象を得ることができる	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	男性の家事・育児などへの参加が増える	
全体	100.0% 1,452	47.5% 689	30.1% 437	45.1% 655	10.8% 157	55.2% 802	38.9% 565	21.1% 307	31.3% 454	
性・年代別	女性 計	100.0% 817	46.1% 377	26.7% 218	48.8% 399	10.5% 86	57.2% 467	43.8% 358	22.0% 180	31.3% 256
	20代	100.0% 80	52.5% 42	18.8% 15	57.5% 46	16.3% 13	63.8% 51	47.5% 38	22.5% 18	35.0% 28
	30代	100.0% 134	50.0% 67	22.4% 30	49.3% 66	12.7% 17	55.2% 74	46.3% 62	25.4% 34	33.6% 45
	40代	100.0% 161	47.8% 77	19.9% 32	46.6% 75	11.8% 19	54.0% 87	50.3% 81	23.0% 37	30.4% 49
	50代	100.0% 158	50.0% 79	31.0% 49	55.1% 87	10.1% 16	61.4% 97	42.4% 67	18.4% 29	31.6% 50
	60代	100.0% 180	38.3% 69	28.3% 51	47.8% 86	6.7% 12	56.7% 102	40.6% 73	22.2% 40	29.4% 53
	70歳以上	100.0% 104	41.3% 43	39.4% 41	37.5% 39	8.7% 9	53.8% 56	35.6% 37	21.2% 22	29.8% 31
	男性 計	100.0% 531	49.3% 262	34.3% 182	41.6% 221	11.7% 62	53.1% 282	32.2% 171	18.8% 100	31.8% 169
	20代	100.0% 45	51.1% 23	17.8% 8	51.1% 23	6.7% 3	55.6% 25	37.8% 17	28.9% 13	42.2% 19
	30代	100.0% 62	53.2% 33	21.0% 13	37.1% 23	12.9% 8	46.8% 29	37.1% 23	21.0% 13	32.3% 20
	40代	100.0% 97	54.6% 53	30.9% 30	39.2% 38	19.6% 19	52.6% 51	34.0% 33	21.6% 21	32.0% 31
	50代	100.0% 97	45.4% 44	30.9% 30	47.4% 46	6.2% 6	50.5% 49	33.0% 32	14.4% 14	27.8% 27
	60代	100.0% 134	49.3% 66	43.3% 58	32.1% 43	11.2% 15	52.2% 70	27.6% 37	16.4% 22	32.1% 43
	70歳以上	100.0% 96	44.8% 43	44.8% 43	50.0% 48	11.5% 11	60.4% 58	30.2% 29	17.7% 17	30.2% 29

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿(性・年代別)(複数回答) 2/2

	サンプル数	女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿							
		今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	保育・介護などの公的サービスが増え、家計負担及び公的負担が増大する	その他	特になし	わからない	無回答	
全体	100.0% 1,452	4.3% 63	4.5% 66	14.1% 205	2.0% 29	1.9% 27	5.6% 81	2.5% 36	
性・年代別	女性計	100.0% 817	2.6% 21	3.9% 32	14.7% 120	1.7% 14	1.5% 12	5.1% 42	2.3% 19
	20代	100.0% 80	5.0% 4	5.0% 4	25.0% 20	3.8% 3	1.3% 1	1.3% 1	1.3% 1
	30代	100.0% 134	3.7% 5	3.0% 4	10.4% 14	0.7% 1	0.0% 0	4.5% 6	0.7% 1
	40代	100.0% 161	5.0% 8	3.7% 6	14.3% 23	3.7% 6	1.2% 2	8.1% 13	0.6% 1
	50代	100.0% 158	0.6% 1	5.1% 8	13.9% 22	0.0% 0	2.5% 4	2.5% 4	1.3% 2
	60代	100.0% 180	1.7% 3	2.8% 5	15.0% 27	1.1% 2	2.2% 4	5.0% 9	4.4% 8
	70歳以上	100.0% 104	0.0% 0	4.8% 5	13.5% 14	1.9% 2	1.0% 1	8.7% 9	5.8% 6
	男性計	100.0% 531	6.8% 36	4.7% 25	12.6% 67	2.3% 12	2.6% 14	4.9% 26	1.9% 10
	20代	100.0% 45	8.9% 4	8.9% 4	11.1% 5	4.4% 2	2.2% 1	4.4% 2	0.0% 0
	30代	100.0% 62	8.1% 5	4.8% 3	6.5% 4	4.8% 3	3.2% 2	3.2% 2	1.6% 1
	40代	100.0% 97	10.3% 10	9.3% 9	14.4% 14	2.1% 2	4.1% 4	4.1% 4	0.0% 0
	50代	100.0% 97	5.2% 5	3.1% 3	15.5% 15	3.1% 3	2.1% 2	7.2% 7	1.0% 1
	60代	100.0% 134	3.0% 4	3.0% 4	15.7% 21	1.5% 2	2.2% 3	6.0% 8	2.2% 3
	70歳以上	100.0% 96	8.3% 8	2.1% 2	8.3% 8	0.0% 0	2.1% 2	3.1% 3	5.2% 5

6. 教育について

(1) 子どもの育て方についての考え

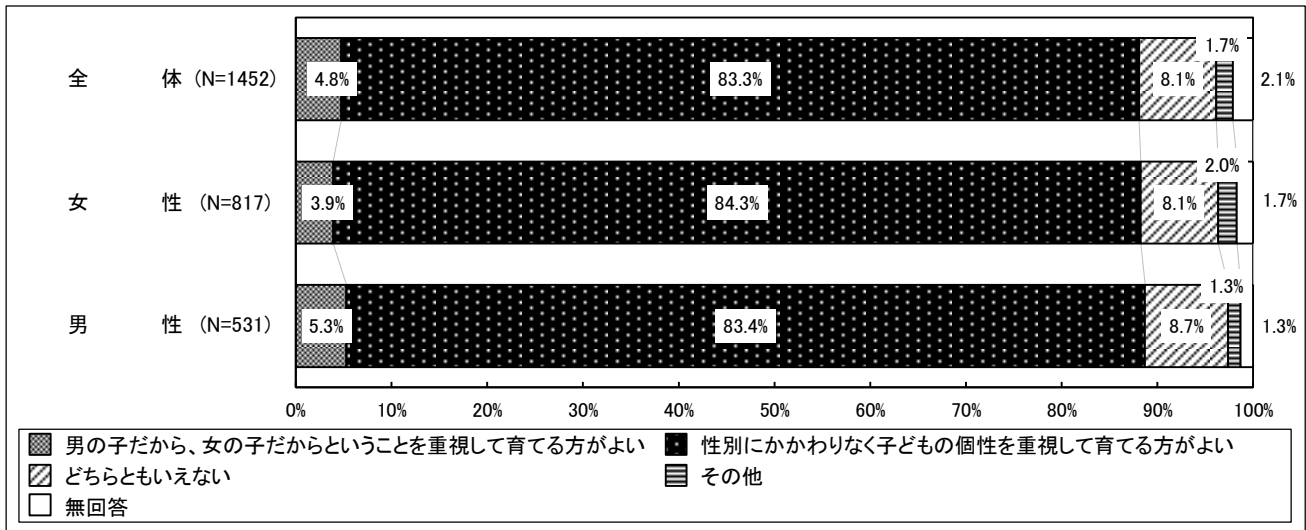
【問21】 子どもの育て方についてのあなたの考えをおたずねします。

～ 「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」と考える人は8割 ～

子どもの育て方についての考えについてみると、全体、男女ともに「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」が8割を超えている。

性別での有意差はみられなかった。

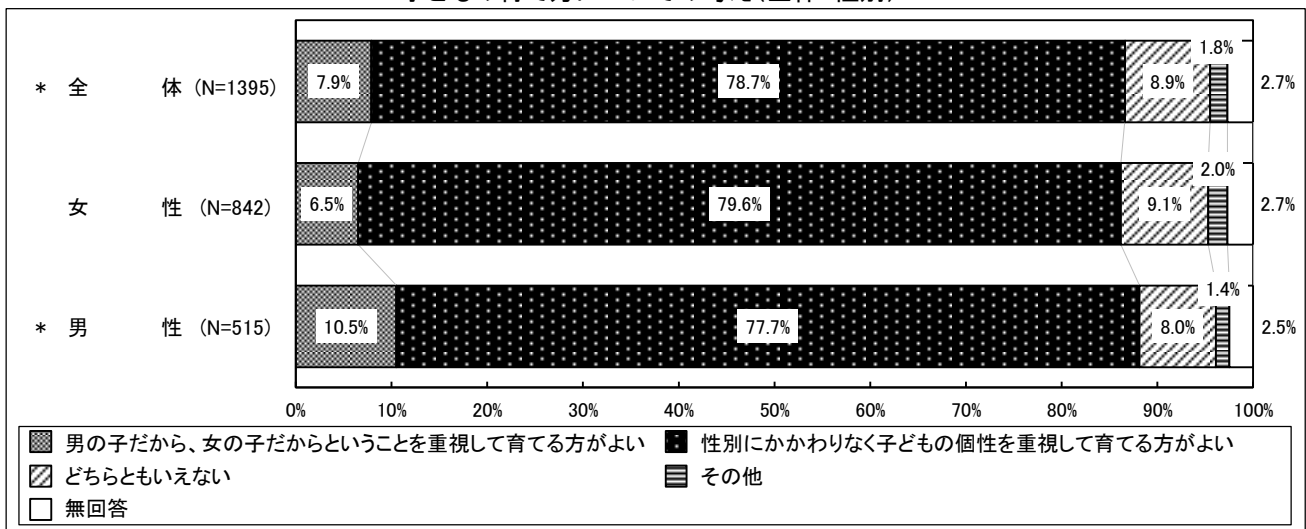
子どもの育て方についての考え(全体・性別)



前回調査と比較すると、全体と男性について有意差がみられ、いずれも「男の子だから、女の子だからということ」を重視して育てる方がよい（全体・今回：4.8%、前回：7.9%）（男性・今回：5.3%、前回：10.5%）の割合が減少し、「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」（全体・今回：83.3%、前回：78.7%）（男性・今回：83.4%、前回：77.7%）の割合が増加している。

【前回調査】

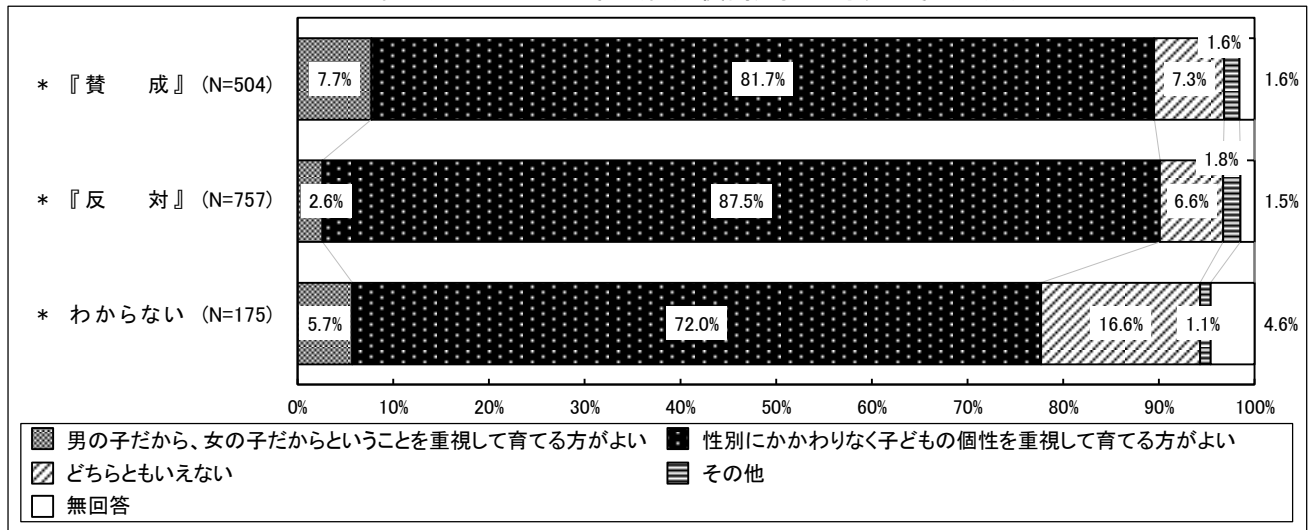
子どもの育て方についての考え(全体・性別)



*：今回調査と有意差あり

性別役割分担に対する考え方別にみると、「男の子だから、女の子だからということを重視して育てる方がよい」(『賛成』: 7.7%、『反対』: 2.6%) の割合は『賛成』が『反対』より高く、「性別にかかわらず子供の個性を重視して育てる方がよい」(『賛成』: 81.7%、『反対』: 87.5%) の割合は『反対』が『賛成』より高くなっている。

子どもの育て方についての考え(性別役割分担に対する考え方別)



* : 性別役割分担に対する考え方別で有意差あり

※ 『賛成』、『反対』については、19 ページ参照。

子どもの育て方についての考え(性・年代・性別役割分担に対する考え方別)

		サンプル数	子どもの育て方についての考え					
			男の子だから、女の子だからということを重視して育てる方がよい	個性を重視して育てる方がよい	性別にかかわらず子どもに個性を重視して育てる方がよい	どちらともいえない	その他	無回答
全体		100.0% 1,452	4.8% 69	83.3% 1,210	8.1% 117	1.7% 25	2.1% 31	
性・年代別	女性計	100.0% 817	3.9% 32	84.3% 689	8.1% 66	2.0% 16	1.7% 14	
	20代	100.0% 80	0.0% 0	91.3% 73	7.5% 6	0.0% 0	1.3% 1	
	30代	100.0% 134	3.7% 5	88.1% 118	6.0% 8	2.2% 3	0.0% 0	
	40代	100.0% 161	3.1% 5	83.2% 134	10.6% 17	3.1% 5	0.0% 0	
	50代	100.0% 158	5.1% 8	81.6% 129	8.9% 14	3.2% 5	1.3% 2	
	60代	100.0% 180	3.9% 7	83.3% 150	6.7% 12	1.7% 3	4.4% 8	
	70歳以上	100.0% 104	6.7% 7	81.7% 85	8.7% 9	0.0% 0	2.9% 3	
	男性計	100.0% 531	5.3% 28	83.4% 443	8.7% 46	1.3% 7	1.3% 7	
	20代	100.0% 45	6.7% 3	84.4% 38	6.7% 3	2.2% 1	0.0% 0	
	30代	100.0% 62	0.0% 0	85.5% 53	12.9% 8	1.6% 1	0.0% 0	
	40代	100.0% 97	5.2% 5	77.3% 75	13.4% 13	2.1% 2	2.1% 2	
	50代	100.0% 97	8.2% 8	79.4% 77	10.3% 10	2.1% 2	0.0% 0	
	60代	100.0% 134	6.0% 8	87.3% 117	5.2% 7	0.0% 0	1.5% 2	
	70歳以上	100.0% 96	4.2% 4	86.5% 83	5.2% 5	1.0% 1	3.1% 3	
	性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0% 504	7.7% 39	81.7% 412	7.3% 37	1.6% 8	1.6% 8
		『反対』	100.0% 757	2.6% 20	87.5% 662	6.6% 50	1.8% 14	1.5% 11
		わからない	100.0% 175	5.7% 10	72.0% 126	16.6% 29	1.1% 2	4.6% 8

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

(2) 男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと

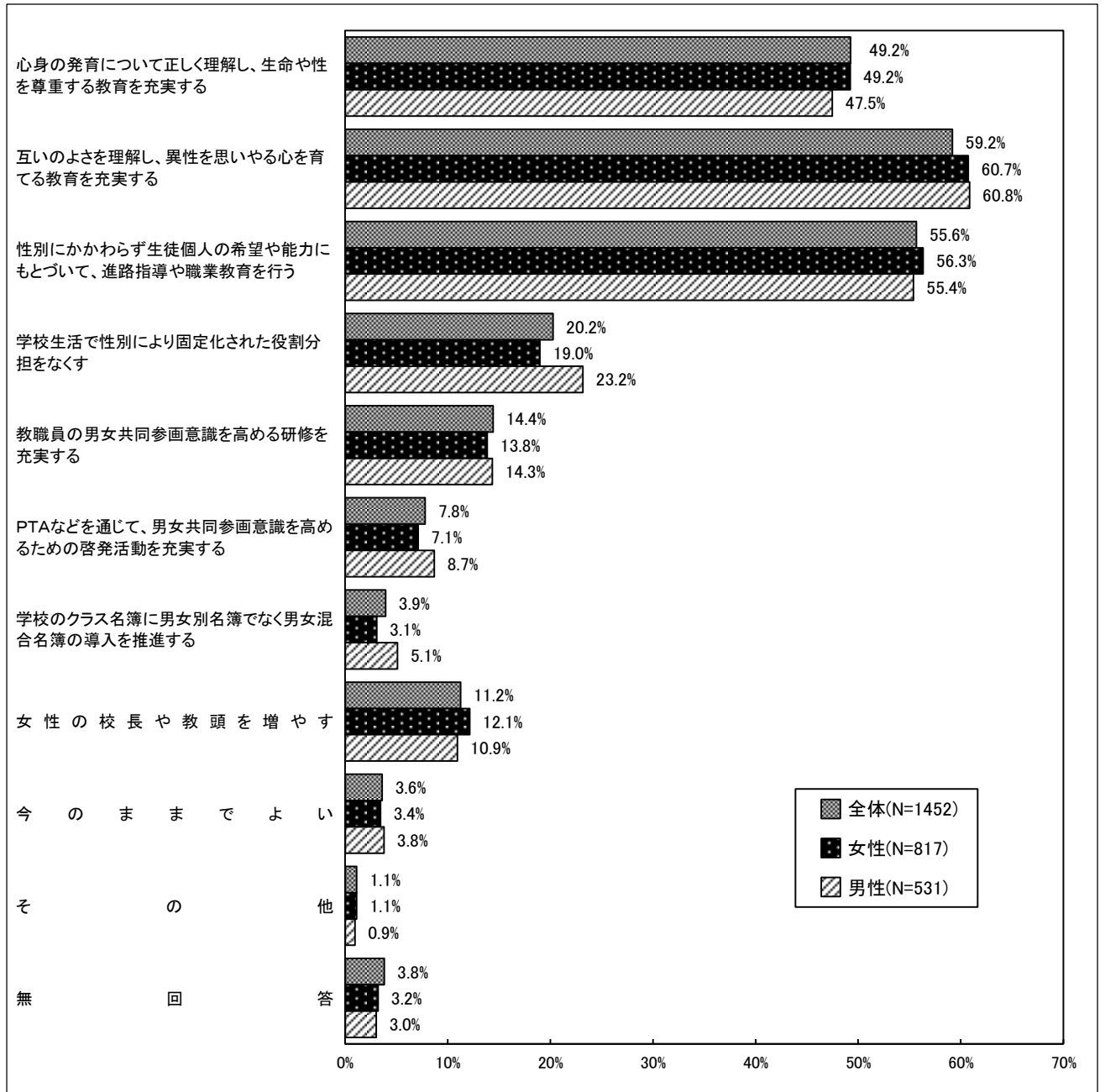
【問22】 男女共同参画社会を実現するために、学校教育の場でどのようなことが大切だと思いますか。(複数回答)

～ 異性への思いやりや、個人の希望や能力に基づいた進路指導・職業教育 ～

男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なことについてみると、全体では「互いのよさを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する」(59.2%)の割合が最も高く、次いで「性別にかかわらず生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う」(55.6%)、「心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する」(49.2%)となっている。

性別では、有意差はみられなかった。

男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと(全体・性別)



男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと(性・年代別)(複数回答)

	サンプル数	男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと											
		心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する	互いのよさを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する	性別にかかわらず生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う	学校生活で性別により固定化された役割分担をなくす	教職員の男女共同参画意識を高める研修を充実する	P.T.Aなどを通じて、男女共同参画意識を高めるための啓発活動を充実する	学校のクラス名簿に男女別名簿でなく男女混合名簿の導入を推進する	女性の校長や教頭を増やす	今のままでよい	その他	無回答	
全体	100.0% 1,452	49.2% 715	59.2% 859	55.6% 808	20.2% 294	14.4% 209	7.8% 113	3.9% 57	11.2% 163	3.6% 52	1.1% 16	3.8% 55	
性・年代別	女性計	100.0% 817	49.2% 402	60.7% 496	56.3% 460	19.0% 155	13.8% 113	7.1% 58	3.1% 25	12.1% 99	3.4% 28	1.1% 9	3.2% 26
	20代	100.0% 80	33.8% 27	61.3% 49	67.5% 54	21.3% 17	11.3% 9	1.3% 1	10.0% 8	16.3% 13	2.5% 2	0.0% 0	2.5% 2
	30代	100.0% 134	42.5% 57	71.6% 96	56.0% 75	22.4% 30	8.2% 11	6.7% 9	2.2% 3	12.7% 17	4.5% 6	2.2% 3	0.0% 0
	40代	100.0% 161	58.4% 94	57.1% 92	50.9% 82	16.1% 26	11.2% 18	4.3% 7	3.1% 5	13.7% 22	5.6% 9	2.5% 4	0.6% 1
	50代	100.0% 158	50.0% 79	60.1% 95	62.0% 98	21.5% 34	19.0% 30	7.6% 12	1.9% 3	11.4% 18	2.5% 4	0.6% 1	1.3% 2
	60代	100.0% 180	49.4% 89	57.8% 104	51.1% 92	18.9% 34	14.4% 26	8.3% 15	1.7% 3	12.2% 22	1.7% 3	0.6% 1	8.3% 15
	70歳以上	100.0% 104	53.8% 56	57.7% 60	56.7% 59	13.5% 14	18.3% 19	13.5% 14	2.9% 3	6.7% 7	3.8% 4	0.0% 0	5.8% 6
	男性計	100.0% 531	47.5% 252	60.8% 323	55.4% 294	23.2% 123	14.3% 76	8.7% 46	5.1% 27	10.9% 58	3.8% 20	0.9% 5	3.0% 16
	20代	100.0% 45	44.4% 20	62.2% 28	46.7% 21	40.0% 18	15.6% 7	6.7% 3	13.3% 6	11.1% 5	0.0% 0	2.2% 1	0.0% 0
	30代	100.0% 62	43.5% 27	59.7% 37	51.6% 32	25.8% 16	12.9% 8	3.2% 2	6.5% 4	17.7% 11	3.2% 2	0.0% 0	1.6% 1
	40代	100.0% 97	55.7% 54	63.9% 62	54.6% 53	16.5% 16	7.2% 7	7.2% 7	5.2% 5	9.3% 9	2.1% 2	2.1% 2	2.1% 2
	50代	100.0% 97	47.4% 46	62.9% 61	54.6% 53	29.9% 29	12.4% 12	6.2% 6	6.2% 6	14.4% 14	2.1% 2	1.0% 1	2.1% 2
	60代	100.0% 134	44.8% 60	55.2% 74	59.0% 79	21.6% 29	17.2% 23	11.2% 15	2.2% 3	6.7% 9	6.7% 9	0.7% 1	3.0% 4
	70歳以上	100.0% 96	46.9% 45	63.5% 61	58.3% 56	15.6% 15	19.8% 19	13.5% 13	3.1% 3	10.4% 10	5.2% 5	0.0% 0	7.3% 7

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

7. 女性の政策参画について

(1) 方針・政策を決める際の女性の意見の反映度

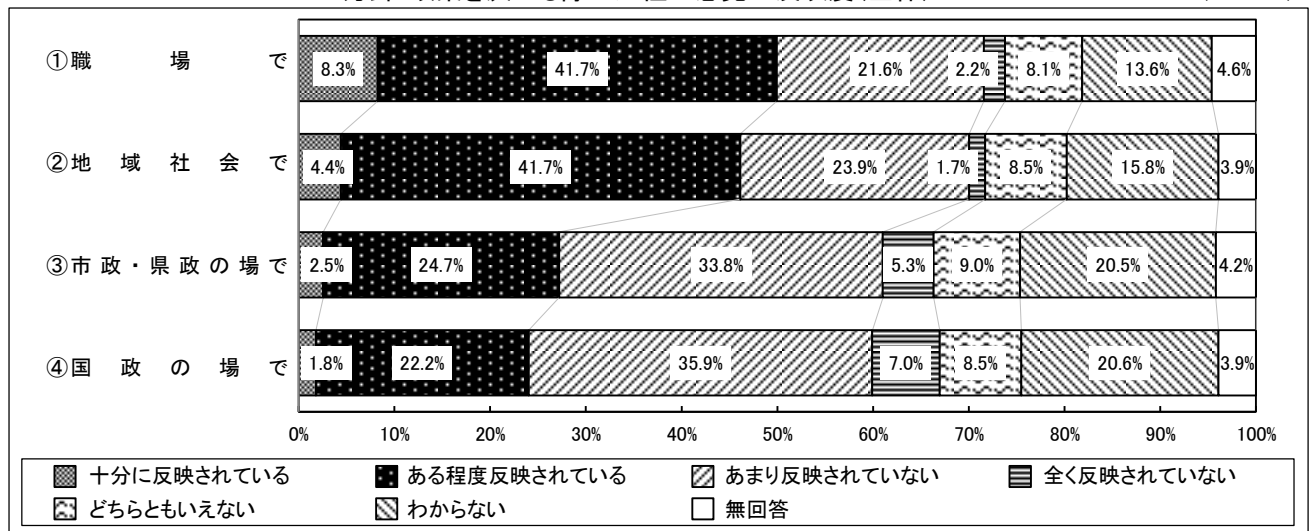
【問23】 次の①～④の各分野でその方針や政策を決めるとき、女性の意見はどの程度反映されていると思いますか。

～ 職場・地域社会で意見の反映度が高く、政治の場では低い ～

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度についてみると、「①職場で」（『反映されている』：50.0%、『反映されていない』：23.8%）と「②地域社会で」（『反映されている』：46.1%、『反映されていない』：25.6%）では『反映されている』の割合が高い。一方、「③市政・県政の場で」（『反映されている』：27.2%、『反映されていない』：39.1%）と「④国政の場で」（『反映されている』：24.0%、『反映されていない』：42.9%）では『反映されていない』の割合が高い。

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度(全体)

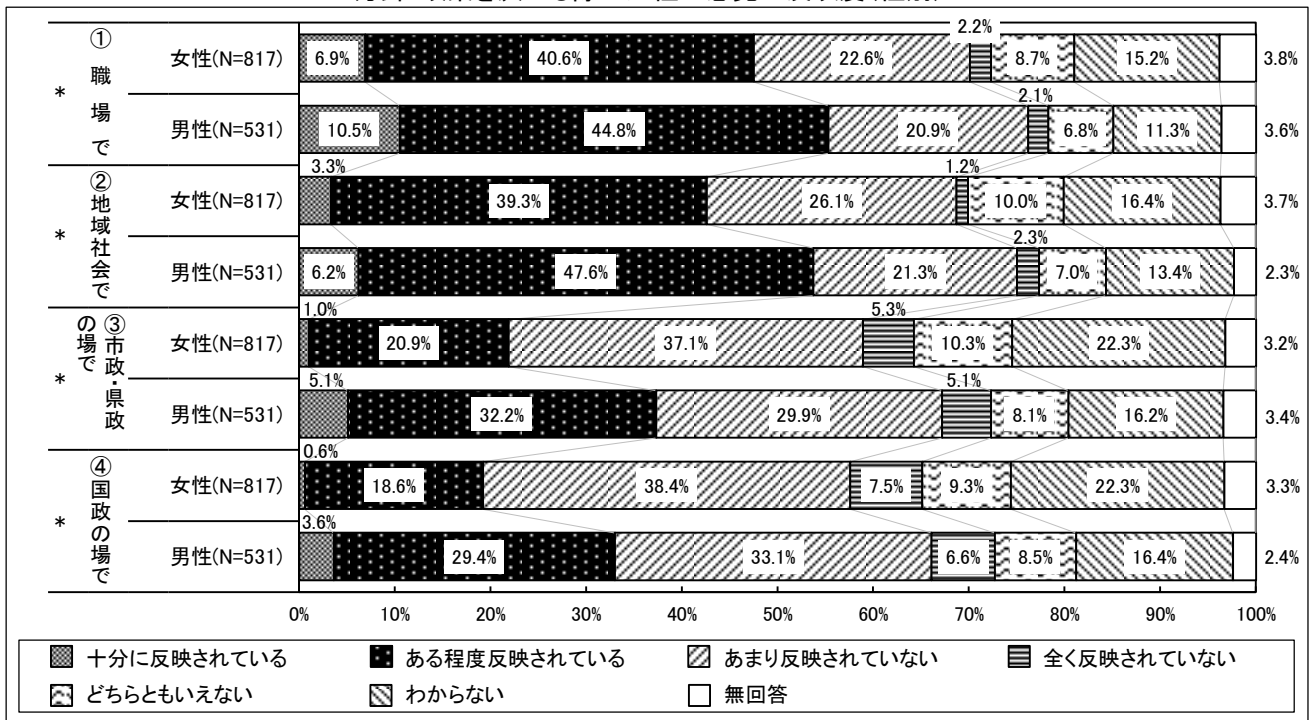
(N=1452)



※ 『反映されている』 = 十分に反映されている + ある程度反映されている
 『反映されていない』 = あまり反映されていない + 全く反映されていない

性別にみると、①～④すべての項目で、『反映されている』の割合は、男性の方が女性より高くなっている。

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度(性別)



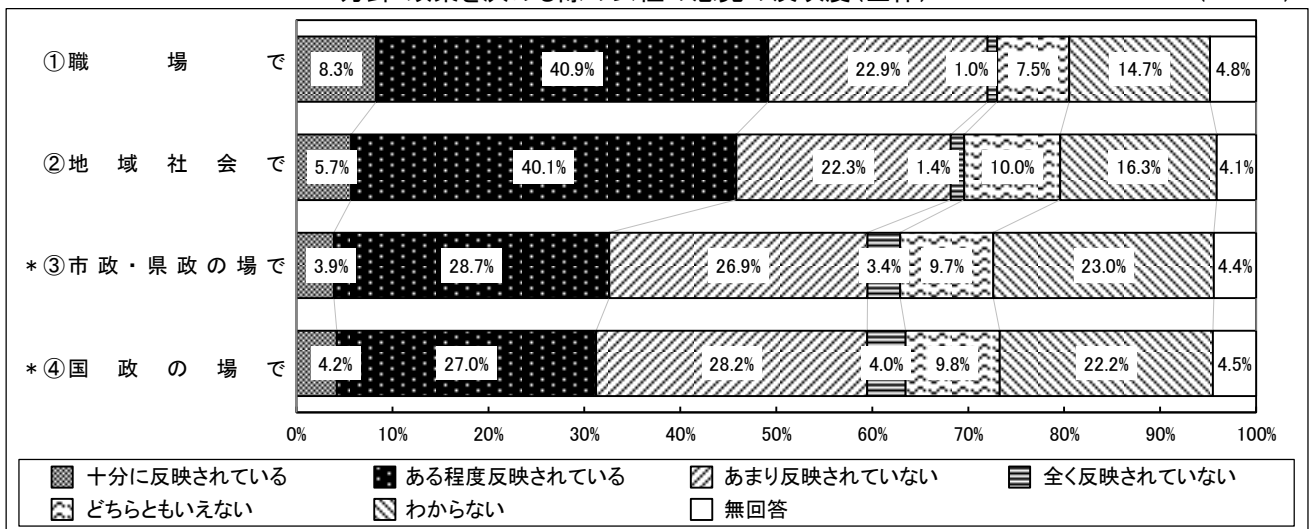
*: 性別で有意差あり

前回調査と比較すると、「③市政・県政の場で」と「④国政の場で」で有意差がみられ、いずれも『反映されている』(「③市政・県政の場で」・今回:27.2%、前回:32.6%)、(「④国政の場で」・今回:24.0%、前回:31.2%)の割合が減少し、『反映されていない』(「③市政・県政の場で」・今回:39.1%、前回:30.3%)、(「④国政の場で」・今回:42.9%、前回:32.2%)の割合は増加している。

【前回調査】

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度(全体)

(N=1395)



*: 今回調査と有意差あり

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度(性・年代・性別役割分担に対する考え方別) 1/4

		サンプル数	①職場で						無回答
			十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	
全体		100.0%	8.3%	41.7%	21.6%	2.2%	8.1%	13.6%	4.6%
		1,452	120	605	314	32	117	197	67
性・年代別	女性計	100.0%	6.9%	40.6%	22.6%	2.2%	8.7%	15.2%	3.8%
		817	56	332	185	18	71	124	31
	20代	100.0%	13.8%	46.3%	25.0%	2.5%	6.3%	6.3%	0.0%
		80	11	37	20	2	5	5	0
	30代	100.0%	9.7%	44.0%	18.7%	4.5%	9.0%	14.2%	0.0%
		134	13	59	25	6	12	19	0
	40代	100.0%	8.1%	39.8%	26.1%	1.2%	9.9%	14.3%	0.6%
		161	13	64	42	2	16	23	1
	50代	100.0%	5.1%	45.6%	26.6%	2.5%	7.6%	9.5%	3.2%
		158	8	72	42	4	12	15	5
	60代	100.0%	5.6%	35.6%	22.2%	1.7%	11.1%	17.8%	6.1%
		180	10	64	40	3	20	32	11
	70歳以上	100.0%	1.0%	34.6%	15.4%	1.0%	5.8%	28.8%	13.5%
		104	1	36	16	1	6	30	14
	男性計	100.0%	10.5%	44.8%	20.9%	2.1%	6.8%	11.3%	3.6%
		531	56	238	111	11	36	60	19
20代	100.0%	20.0%	31.1%	24.4%	0.0%	11.1%	13.3%	0.0%	
	45	9	14	11	0	5	6	0	
30代	100.0%	11.3%	45.2%	21.0%	4.8%	3.2%	12.9%	1.6%	
	62	7	28	13	3	2	8	1	
40代	100.0%	14.4%	41.2%	21.6%	0.0%	9.3%	13.4%	0.0%	
	97	14	40	21	0	9	13	0	
50代	100.0%	10.3%	54.6%	22.7%	4.1%	4.1%	4.1%	0.0%	
	97	10	53	22	4	4	4	0	
60代	100.0%	6.0%	47.0%	23.9%	1.5%	7.5%	8.2%	6.0%	
	134	8	63	32	2	10	11	8	
70歳以上	100.0%	8.3%	41.7%	12.5%	2.1%	6.3%	18.8%	10.4%	
	96	8	40	12	2	6	18	10	
性別役割分担 に対する考え方	『賛成』	100.0%	6.9%	44.0%	19.8%	2.4%	7.5%	14.1%	5.2%
		504	35	222	100	12	38	71	26
	『反対』	100.0%	9.5%	42.4%	24.0%	2.6%	7.5%	11.0%	2.9%
		757	72	321	182	20	57	83	22
わからない	100.0%	7.4%	31.4%	18.3%	0.0%	12.0%	24.6%	6.3%	
	175	13	55	32	0	21	43	11	

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度(性・年代・性別役割分担に対する考え方別) 2/4

		サンプル数	②地域社会で						無回答
			十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	
全体		100.0% 1,452	4.4% 64	41.7% 606	23.9% 347	1.7% 24	8.5% 124	15.8% 230	3.9% 57
性・年代別	女性計	100.0% 817	3.3% 27	39.3% 321	26.1% 213	1.2% 10	10.0% 82	16.4% 134	3.7% 30
	20代	100.0% 80	3.8% 3	40.0% 32	23.8% 19	3.8% 3	12.5% 10	16.3% 13	0.0% 0
	30代	100.0% 134	2.2% 3	42.5% 57	26.9% 36	0.7% 1	9.0% 12	18.7% 25	0.0% 0
	40代	100.0% 161	2.5% 4	37.9% 61	32.9% 53	1.2% 2	8.7% 14	16.1% 26	0.6% 1
	50代	100.0% 158	0.6% 1	40.5% 64	29.1% 46	1.9% 3	9.5% 15	14.6% 23	3.8% 6
	60代	100.0% 180	5.0% 9	39.4% 71	20.6% 37	0.6% 1	12.8% 23	13.9% 25	7.8% 14
	70歳以上	100.0% 104	6.7% 7	34.6% 36	21.2% 22	0.0% 0	7.7% 8	21.2% 22	8.7% 9
	男性計	100.0% 531	6.2% 33	47.6% 253	21.3% 113	2.3% 12	7.0% 37	13.4% 71	2.3% 12
	20代	100.0% 45	8.9% 4	35.6% 16	20.0% 9	2.2% 1	6.7% 3	26.7% 12	0.0% 0
	30代	100.0% 62	3.2% 2	45.2% 28	22.6% 14	1.6% 1	6.5% 4	19.4% 12	1.6% 1
	40代	100.0% 97	7.2% 7	44.3% 43	21.6% 21	2.1% 2	7.2% 7	17.5% 17	0.0% 0
	50代	100.0% 97	5.2% 5	50.5% 49	26.8% 26	2.1% 2	10.3% 10	5.2% 5	0.0% 0
	60代	100.0% 134	6.0% 8	50.7% 68	23.9% 32	1.5% 2	3.7% 5	10.4% 14	3.7% 5
	70歳以上	100.0% 96	7.3% 7	51.0% 49	11.5% 11	4.2% 4	8.3% 8	11.5% 11	6.3% 6
	性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0% 504	6.9% 35	43.8% 221	20.6% 104	2.4% 12	7.5% 38	14.3% 72
『反対』		100.0% 757	3.2% 24	42.4% 321	27.9% 211	1.3% 10	8.6% 65	14.7% 111	2.0% 15
わからない		100.0% 175	2.9% 5	33.1% 58	17.1% 30	1.1% 2	12.0% 21	26.9% 47	6.9% 12

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度(性・年代・性別役割分担に対する考え方別) 3/4

		サンプル数	③市政・県政の場で						無回答
			十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	
全体		100.0%	2.5%	24.7%	33.8%	5.3%	9.0%	20.5%	4.2%
		1,452	37	358	491	77	131	297	61
性・年代別	女性計	100.0%	1.0%	20.9%	37.1%	5.3%	10.3%	22.3%	3.2%
		817	8	171	303	43	84	182	26
	20代	100.0%	1.3%	22.5%	36.3%	6.3%	8.8%	25.0%	0.0%
		80	1	18	29	5	7	20	0
	30代	100.0%	0.7%	17.9%	42.5%	7.5%	10.4%	20.9%	0.0%
		134	1	24	57	10	14	28	0
	40代	100.0%	0.0%	17.4%	44.1%	8.7%	11.2%	18.0%	0.6%
		161	0	28	71	14	18	29	1
	50代	100.0%	0.0%	21.5%	39.2%	3.2%	10.8%	21.5%	3.8%
		158	0	34	62	5	17	34	6
	60代	100.0%	1.1%	25.6%	31.7%	2.8%	10.6%	22.8%	5.6%
		180	2	46	57	5	19	41	10
	70歳以上	100.0%	3.8%	20.2%	26.0%	3.8%	8.7%	28.8%	8.7%
		104	4	21	27	4	9	30	9
	男性計	100.0%	5.1%	32.2%	29.9%	5.1%	8.1%	16.2%	3.4%
		531	27	171	159	27	43	86	18
	20代	100.0%	4.4%	20.0%	35.6%	2.2%	6.7%	31.1%	0.0%
45		2	9	16	1	3	14	0	
30代	100.0%	3.2%	22.6%	27.4%	9.7%	11.3%	22.6%	3.2%	
	62	2	14	17	6	7	14	2	
40代	100.0%	6.2%	24.7%	36.1%	4.1%	7.2%	20.6%	1.0%	
	97	6	24	35	4	7	20	1	
50代	100.0%	3.1%	40.2%	34.0%	7.2%	9.3%	6.2%	0.0%	
	97	3	39	33	7	9	6	0	
60代	100.0%	7.5%	34.3%	29.9%	5.2%	6.0%	11.9%	5.2%	
	134	10	46	40	7	8	16	7	
70歳以上	100.0%	4.2%	40.6%	18.8%	2.1%	9.4%	16.7%	8.3%	
	96	4	39	18	2	9	16	8	
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0%	3.0%	31.5%	28.6%	4.6%	8.1%	19.6%	4.6%
		504	15	159	144	23	41	99	23
	『反対』	100.0%	2.1%	21.7%	40.2%	6.6%	8.1%	18.9%	2.5%
		757	16	164	304	50	61	143	19
わからない	100.0%	3.4%	18.3%	23.4%	2.3%	14.9%	31.4%	6.3%	
	175	6	32	41	4	26	55	11	

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度(性・年代・性別役割分担に対する考え別) 4/4

		サンプル数	④国政の場で						無回答
			十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	
全体		100.0% 1,452	1.8% 26	22.2% 323	35.9% 521	7.0% 102	8.5% 124	20.6% 299	3.9% 57
性・年代別	女性計	100.0% 817	0.6% 5	18.6% 152	38.4% 314	7.5% 61	9.3% 76	22.3% 182	3.3% 27
	20代	100.0% 80	0.0% 0	17.5% 14	45.0% 36	6.3% 5	6.3% 5	25.0% 20	0.0% 0
	30代	100.0% 134	0.7% 1	14.2% 19	41.0% 55	13.4% 18	9.0% 12	21.6% 29	0.0% 0
	40代	100.0% 161	0.0% 0	14.3% 23	44.7% 72	11.8% 19	10.6% 17	18.0% 29	0.6% 1
	50代	100.0% 158	0.0% 0	16.5% 26	44.3% 70	4.4% 7	10.8% 17	20.9% 33	3.2% 5
	60代	100.0% 180	1.7% 3	23.3% 42	31.1% 56	5.0% 9	10.6% 19	22.8% 41	5.6% 10
	70歳以上	100.0% 104	1.0% 1	26.9% 28	24.0% 25	2.9% 3	5.8% 6	28.8% 30	10.6% 11
	男性計	100.0% 531	3.6% 19	29.4% 156	33.1% 176	6.6% 35	8.5% 45	16.4% 87	2.4% 13
	20代	100.0% 45	2.2% 1	22.2% 10	31.1% 14	6.7% 3	4.4% 2	33.3% 15	0.0% 0
	30代	100.0% 62	3.2% 2	21.0% 13	30.6% 19	12.9% 8	11.3% 7	19.4% 12	1.6% 1
	40代	100.0% 97	4.1% 4	22.7% 22	36.1% 35	8.2% 8	8.2% 8	20.6% 20	0.0% 0
	50代	100.0% 97	1.0% 1	38.1% 37	38.1% 37	9.3% 9	7.2% 7	6.2% 6	0.0% 0
	60代	100.0% 134	4.5% 6	33.6% 45	33.6% 45	3.7% 5	7.5% 10	12.7% 17	4.5% 6
	70歳以上	100.0% 96	5.2% 5	30.2% 29	27.1% 26	2.1% 2	11.5% 11	17.7% 17	6.3% 6
性別役割分担に対する考え別	『賛成』	100.0% 504	2.0% 10	28.6% 144	31.5% 159	6.2% 31	6.5% 33	20.6% 104	4.6% 23
	『反対』	100.0% 757	1.6% 12	19.7% 149	41.5% 314	8.5% 64	8.2% 62	18.5% 140	2.1% 16
	わからない	100.0% 175	2.3% 4	15.4% 27	26.3% 46	4.0% 7	14.9% 26	31.4% 55	5.7% 10

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

(2) 政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由

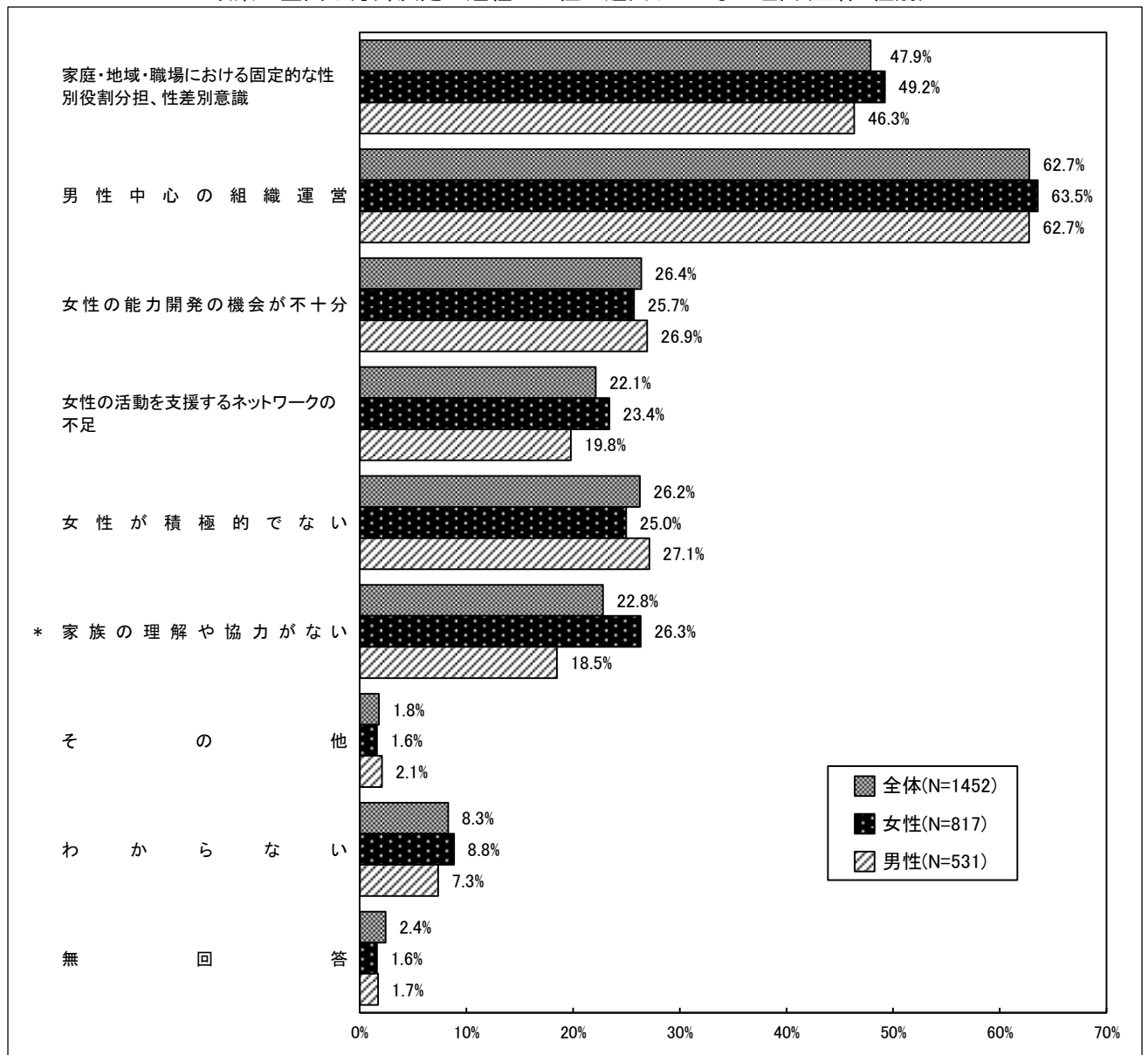
【問24】 現在、わが国の政策や方針決定過程への女性の参画状況は先進国の中で特に低くなっています。政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由はなんだと思いますか。(複数回答)

～ 「男性中心の組織運営」と6割が回答 ～

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由についてみると、全体では「男性中心の組織運営」(62.7%)の割合が最も高く、次いで「家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識」(47.9%)、「女性の能力開発の機会が不十分」(26.4%)となっている。

性別にみると、「家族の理解や協力が無い」(女性：26.3%、男性：18.5%)で女性の割合が男性より高くなっている。

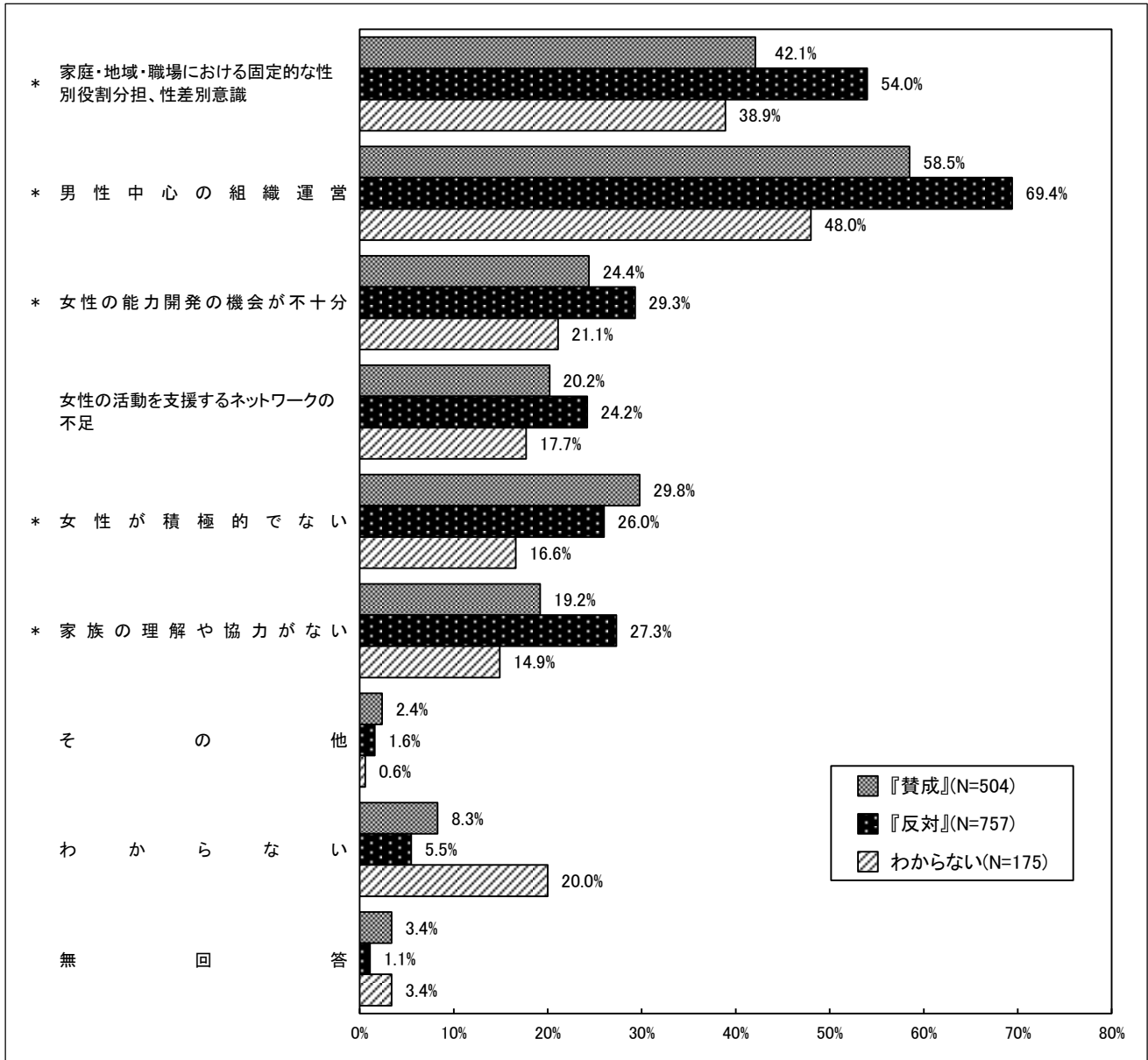
政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由(全体・性別)



*：性別で有意差あり

性別役割分担に対する考え方別にみると、「女性が積極的でない」(『賛成』: 29.8%、『反対』: 26.0%)では『賛成』の割合が『反対』より高いが、「家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識」(『賛成』: 42.1%、『反対』: 54.0%)、「男性中心の組織運営」(『賛成』: 58.5%、『反対』: 69.4%)、「女性の能力開発の機会が不十分」(『賛成』: 24.4%、『反対』: 29.3%)、「家族の理解や協力がいない」(『賛成』: 19.2%、『反対』: 27.3%)では『反対』の割合が『賛成』より高くなっている。

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由(性別役割分担に対する考え方別)



*: 性別役割分担に対する考え方別で有意差あり

※ 『賛成』、『反対』については、19 ページ参照。

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由
(性・年代・性別役割分担に対する考え方別)(複数回答)

		サンプル数	政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由								無回答	
			家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識	男性中心の組織運営	女性の能力開発の機会が不十分	女性の活動を支援するネットワークの不足	女性が積極的でない	家族の理解や協力がでない	その他	わからない		
全体		100.0% 1,452	47.9% 695	62.7% 911	26.4% 383	22.1% 321	26.2% 381	22.8% 331	1.8% 26	8.3% 120	2.4% 35	
性・年代別	女性 計	100.0% 817	49.2% 402	63.5% 519	25.7% 210	23.4% 191	25.0% 204	26.3% 215	1.6% 13	8.8% 72	1.6% 13	
	20代	100.0% 80	61.3% 49	63.8% 51	18.8% 15	17.5% 14	28.8% 23	20.0% 16	1.3% 1	3.8% 3	2.5% 2	
	30代	100.0% 134	54.5% 73	67.9% 91	23.9% 32	26.1% 35	21.6% 29	28.4% 38	1.5% 2	6.7% 9	0.0% 0	
	40代	100.0% 161	48.4% 78	68.3% 110	21.7% 35	23.0% 37	21.7% 35	24.2% 39	1.9% 3	10.6% 17	0.0% 0	
	50代	100.0% 158	53.2% 84	69.6% 110	27.2% 43	29.7% 47	20.3% 32	28.5% 45	1.9% 3	5.7% 9	1.3% 2	
	60代	100.0% 180	43.9% 79	62.2% 112	27.8% 50	18.9% 34	27.8% 50	30.6% 55	1.7% 3	10.0% 18	3.3% 6	
	70歳以上	100.0% 104	37.5% 39	43.3% 45	33.7% 35	23.1% 24	33.7% 35	21.2% 22	1.0% 1	15.4% 16	2.9% 3	
	男性 計	100.0% 531	46.3% 246	62.7% 333	26.9% 143	19.8% 105	27.1% 144	18.5% 98	2.1% 11	7.3% 39	1.7% 9	
	20代	100.0% 45	57.8% 26	71.1% 32	22.2% 10	17.8% 8	20.0% 9	13.3% 6	4.4% 2	4.4% 2	0.0% 0	
	30代	100.0% 62	45.2% 28	51.6% 32	25.8% 16	27.4% 17	12.9% 8	17.7% 11	8.1% 5	8.1% 5	1.6% 1	
	40代	100.0% 97	50.5% 49	63.9% 62	18.6% 18	13.4% 13	18.6% 18	16.5% 16	1.0% 1	9.3% 9	0.0% 0	
	50代	100.0% 97	48.5% 47	66.0% 64	26.8% 26	20.6% 20	32.0% 31	23.7% 23	3.1% 3	4.1% 4	0.0% 0	
	60代	100.0% 134	43.3% 58	62.7% 84	30.6% 41	21.6% 29	38.1% 51	17.2% 23	0.0% 0	4.5% 6	3.7% 5	
	70歳以上	100.0% 96	39.6% 38	61.5% 59	33.3% 32	18.8% 18	28.1% 27	19.8% 19	0.0% 0	13.5% 13	3.1% 3	
	性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0% 504	42.1% 212	58.5% 295	24.4% 123	20.2% 102	29.8% 150	19.2% 97	2.4% 12	8.3% 42	3.4% 17
		『反対』	100.0% 757	54.0% 409	69.4% 525	29.3% 222	24.2% 183	26.0% 197	27.3% 207	1.6% 12	5.5% 42	1.1% 8
わからない		100.0% 175	38.9% 68	48.0% 84	21.1% 37	17.7% 31	16.6% 29	14.9% 26	0.6% 1	20.0% 35	3.4% 6	

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

(3) 女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること

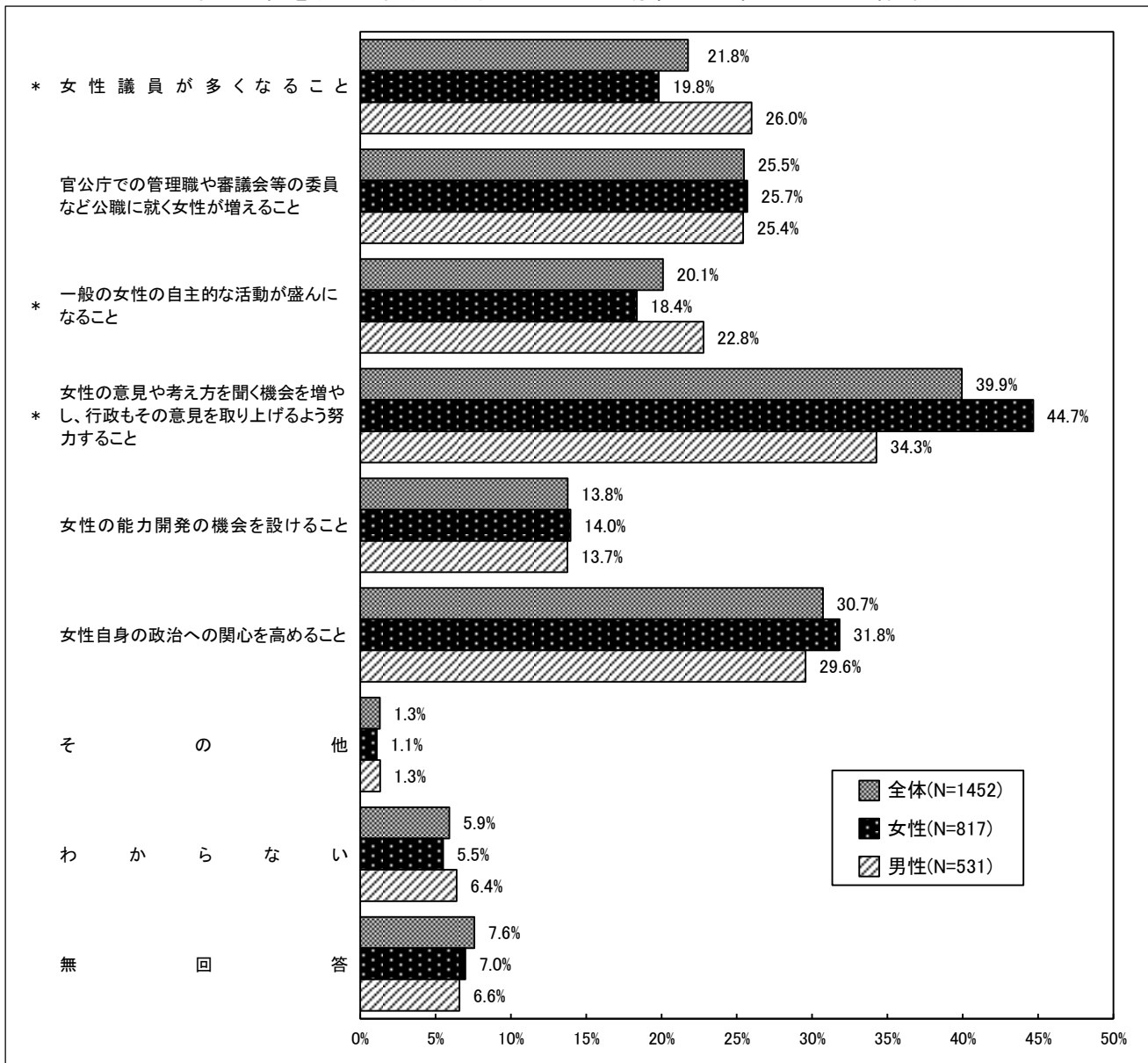
【問25】 女性の意見を政治や行政に十分反映させるためには、どのようなことが最も効果があると思いますか。(複数回答)

～ 女性の意見を聞く機会を増やすことや女性が政治への関心を高めること ～

女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われることについてみると、全体では「女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること」(39.9%)の割合が最も高く、次いで、「女性自身の政治への関心を高めること」(30.7%)、「官公庁での管理職や審議会等の委員など公職に就く女性が増えること」(25.5%)となっている。

性別にみると、「女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること」(女性:44.7%、男性:34.3%)で女性の割合が男性より高く、「女性議員が多くなること」(女性:19.8%、男性:26.0%)、「女性自身が政治への関心を高めること」(女性:31.8%、男性:29.6%)で女性の割合が男性より高くなっている。

女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること(全体・性別)



* : 性別で有意差あり

女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること
(性・年代・性別役割分担に対する考え別)(複数回答)

		サンプル数	女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること								無回答
			女性議員が多くなること	官公庁での管理職や審議会等委員など公職に就く女性が増えること	一般の女性の自主的な活動が盛んになること	女性自身の政治への関心を高めること	女性自身の能力開発の機会を設けること	女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること	女性自身	その他	
全体		100.0% 1,452	21.8% 316	25.5% 370	20.1% 292	39.9% 580	13.8% 200	30.7% 446	1.3% 19	5.9% 86	7.6% 110
性・年代別	女性計	100.0% 817	19.8% 162	25.7% 210	18.4% 150	44.7% 365	14.0% 114	31.8% 260	1.1% 9	5.5% 45	7.0% 57
	20代	100.0% 80	25.0% 20	22.5% 18	20.0% 16	43.8% 35	15.0% 12	23.8% 19	1.3% 1	3.8% 3	8.8% 7
	30代	100.0% 134	19.4% 26	25.4% 34	16.4% 22	51.5% 69	11.2% 15	27.6% 37	2.2% 3	6.0% 8	3.7% 5
	40代	100.0% 161	17.4% 28	29.8% 48	16.1% 26	43.5% 70	14.3% 23	32.9% 53	1.2% 2	4.3% 7	6.2% 10
	50代	100.0% 158	22.2% 35	31.6% 50	19.0% 30	36.7% 58	13.9% 22	29.1% 46	0.6% 1	7.6% 12	7.6% 12
	60代	100.0% 180	18.3% 33	21.7% 39	20.0% 36	45.6% 82	17.2% 31	36.7% 66	0.6% 1	5.0% 9	7.2% 13
	70歳以上	100.0% 104	19.2% 20	20.2% 21	19.2% 20	49.0% 51	10.6% 11	37.5% 39	1.0% 1	5.8% 6	9.6% 10
	男性計	100.0% 531	26.0% 138	25.4% 135	22.8% 121	34.3% 182	13.7% 73	29.6% 157	1.3% 7	6.4% 34	6.6% 35
	20代	100.0% 45	31.1% 14	33.3% 15	15.6% 7	40.0% 18	8.9% 4	24.4% 11	0.0% 0	2.2% 1	6.7% 3
	30代	100.0% 62	19.4% 12	17.7% 11	16.1% 10	41.9% 26	17.7% 11	27.4% 17	4.8% 3	9.7% 6	1.6% 1
	40代	100.0% 97	23.7% 23	25.8% 25	20.6% 20	28.9% 28	11.3% 11	32.0% 31	1.0% 1	8.2% 8	7.2% 7
	50代	100.0% 97	30.9% 30	28.9% 28	20.6% 20	36.1% 35	11.3% 11	33.0% 32	2.1% 2	4.1% 4	6.2% 6
	60代	100.0% 134	23.1% 31	24.6% 33	27.6% 37	29.1% 39	17.9% 24	30.6% 41	0.7% 1	6.7% 9	7.5% 10
	70歳以上	100.0% 96	29.2% 28	24.0% 23	28.1% 27	37.5% 36	12.5% 12	26.0% 25	0.0% 0	6.3% 6	8.3% 8
性別役割分担 に対する考え方	『賛成』	100.0% 504	20.2% 102	21.8% 110	21.8% 110	37.7% 190	13.5% 68	31.2% 157	2.0% 10	6.3% 32	8.9% 45
	『反対』	100.0% 757	24.4% 185	30.4% 230	18.9% 143	41.5% 314	13.3% 101	29.5% 223	0.9% 7	4.5% 34	6.5% 49
	わからない	100.0% 175	15.4% 27	14.3% 25	20.6% 36	41.1% 72	17.1% 30	34.3% 60	1.1% 2	10.9% 19	6.9% 12

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

8. 人権・暴力について

(1) ドメスティック・バイオレンスに対する考え方

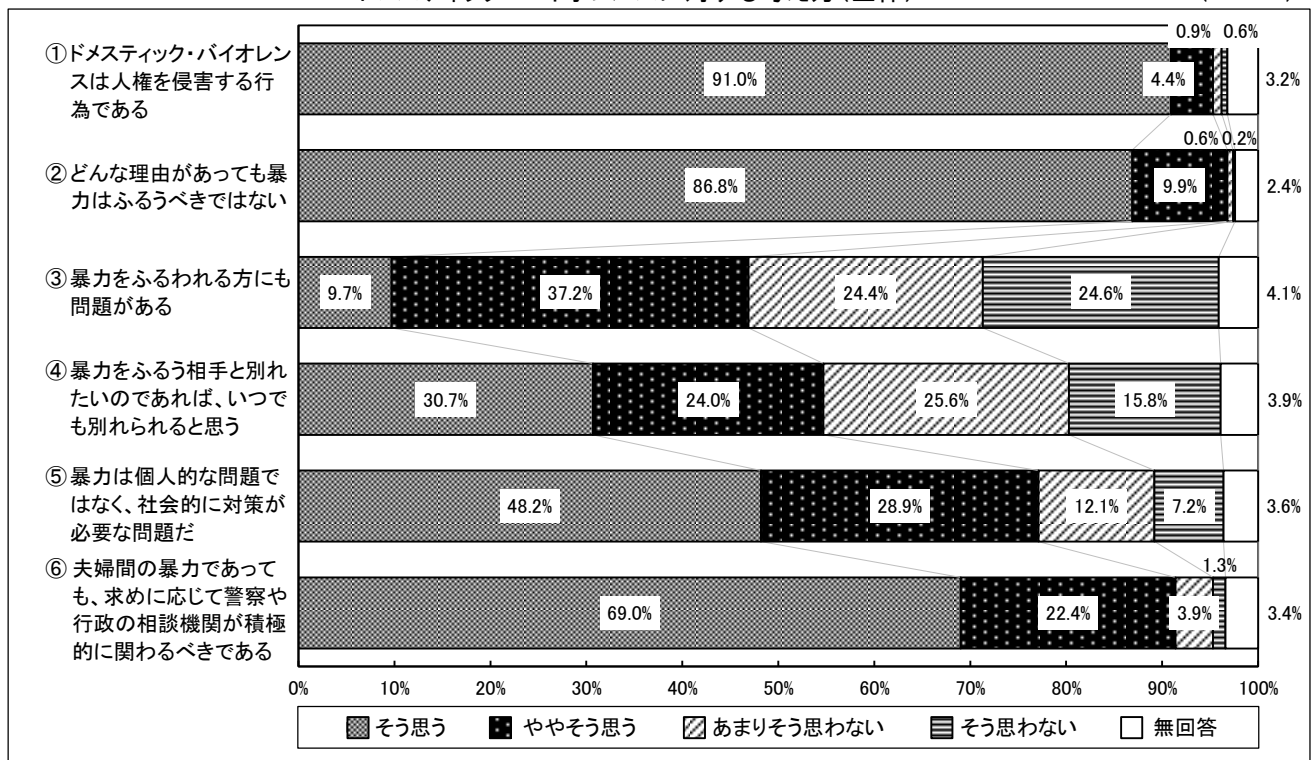
【問26】 配偶者等からの暴力は、多くの場合、女性が被害者となっています。このような配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、あなたはどのように思いますか。

～ 9割超の人が「どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」と考えている ～

ドメスティック・バイオレンス（DV）に対する考え方についてみると、全体では『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）の割合は「②どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」（96.7%）が最も高く、次いで「①ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為である」（95.4%）、「⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである」（91.4%）となっている。一方、「③暴力をふるわれる方にも問題がある」という考え方には約5割（46.9%）の人が『そう思う』と答えている。

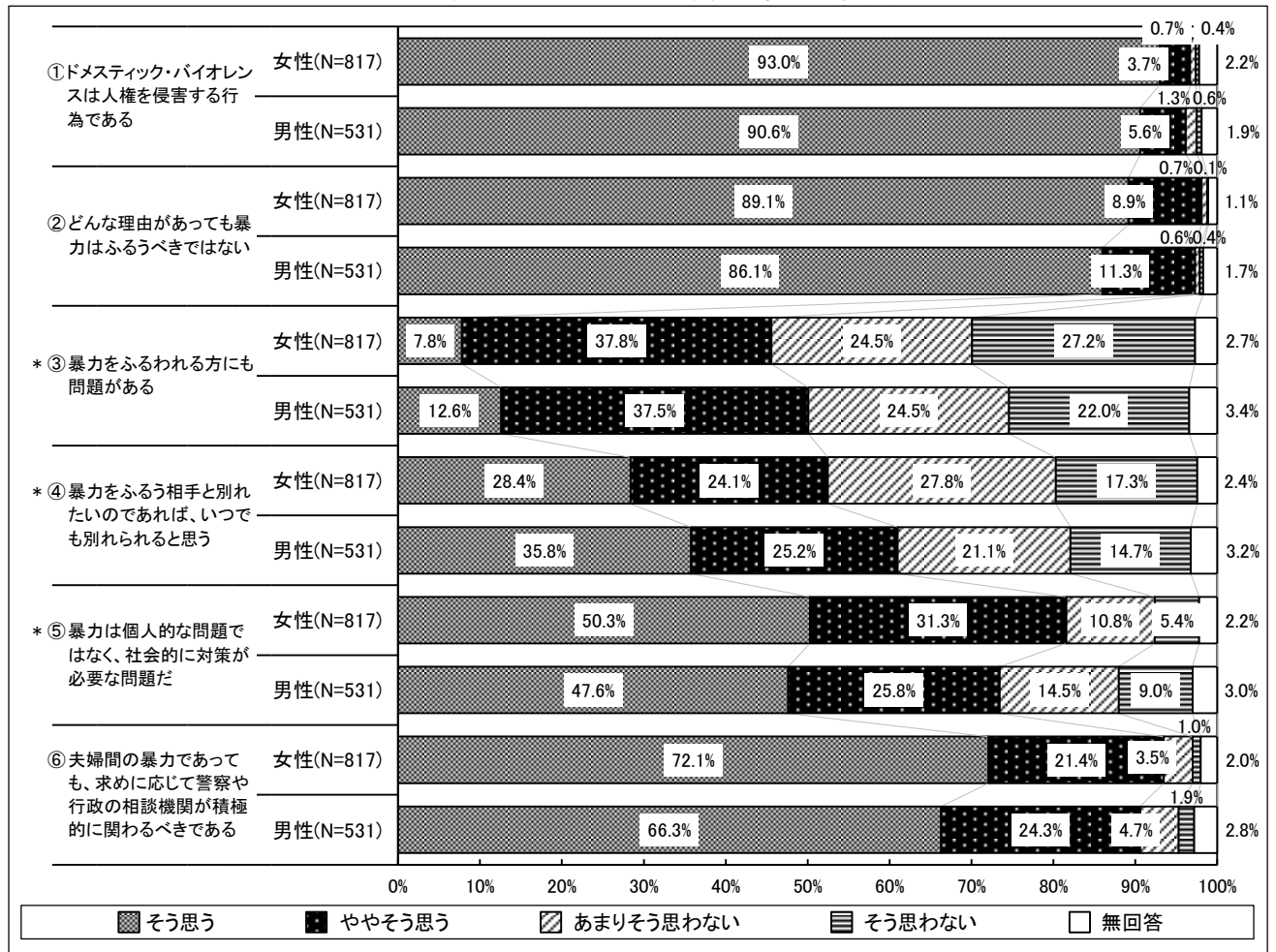
ドメスティック・バイオレンスに対する考え方(全体)

(N=1452)



性別にみると、『そう思う』の割合は「③暴力をふるわれる方にも問題がある」(女性：45.6%、男性：50.1%)「④暴力をふるう相手と別れたいのであれば、いつでも別れられると思う」(女性：52.5%、男性：61.0%)で男性の割合が女性より高くなっている。一方、「⑤暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ」(女性：81.6%、男性：73.4%)では女性の割合が男性より高くなっている。

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方(性別)



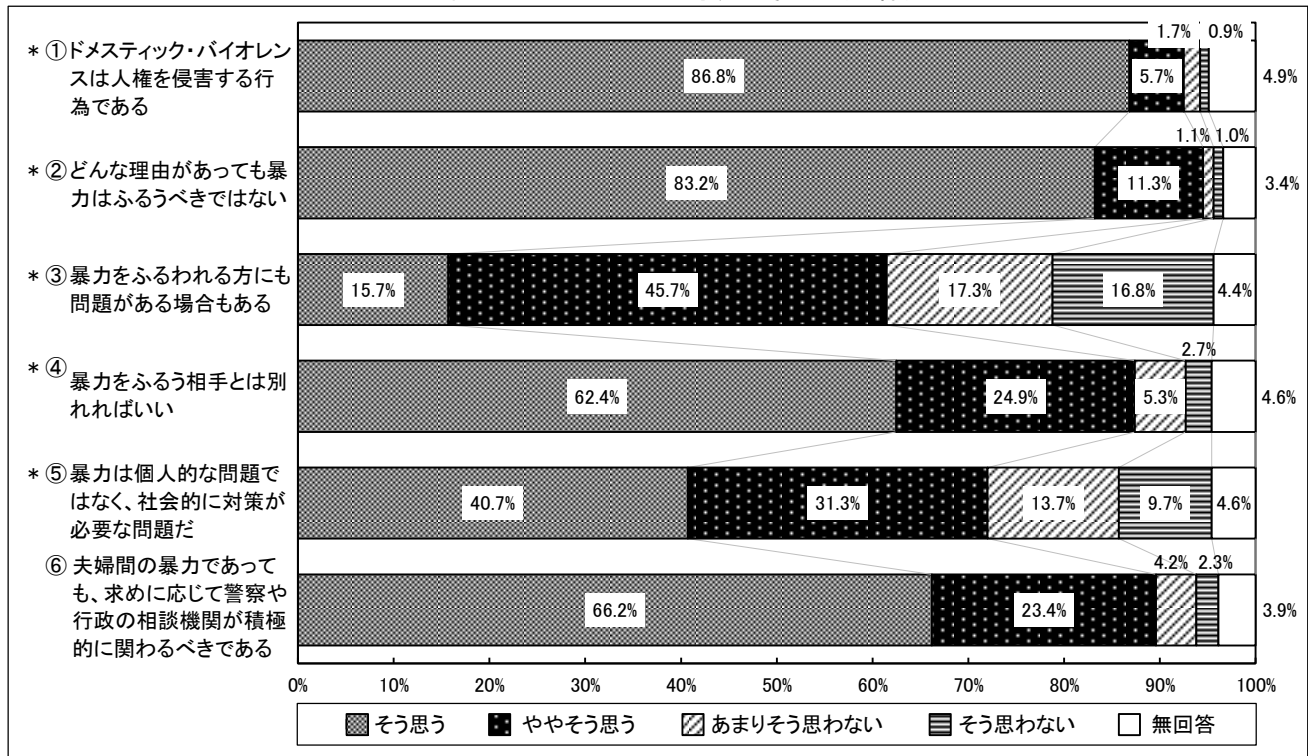
* : 性別で有意差あり

前回調査と比較すると、「③暴力をふるわれる方にも問題がある」において『そう思う』(今回:46.9%、前回:61.4%)の割合が減少し、『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)(今回:49.0%、前回:34.1%)の割合が増加している。

【前回調査】

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方(全体)

(N=1395)



* : 今回調査と有意差あり

※ 前回調査の「③暴力をふるわれる方にも問題がある場合もある」の項目は、今回調査の「③暴力をふるわれる方にも問題がある」と比較している。

※ 前回調査の「④暴力をふるう相手とは別れたらいい」の項目は、今回調査の「④暴力をふるう相手と別れたいのであれば、いつでも別れられると思う」と比較している。

性別役割分担に対する考え方別にみると、「①ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為である」「⑤暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ」「⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである」で性別役割分担に『反対』の方が『賛成』より『そう思う』の割合が高く、「③暴力をふるわれる方にも問題がある」で『反対』が『賛成』より『そう思う』の割合が低くなっている。

※ 『賛成』、『反対』については、19 ページ参照。

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方(性・性別役割分担に対する考え方別) 1/3

		サンプル数	* ①ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為である					②どんな理由があっても暴力はふるうべきではない				
			そう思う	うややそう思う	あまり思わない	いそう思わない	無回答	そう思う	うややそう思う	あまり思わない	いそう思わない	無回答
全体		100.0% 1,452	91.0% 1,321	4.4% 64	0.9% 13	0.6% 8	3.2% 46	86.8% 1,261	9.9% 144	0.6% 9	0.2% 3	2.4% 35
性別	女性	100.0% 817	93.0% 760	3.7% 30	0.7% 6	0.4% 3	2.2% 18	89.1% 728	8.9% 73	0.7% 6	0.1% 1	1.1% 9
	男性	100.0% 531	90.6% 481	5.6% 30	1.3% 7	0.6% 3	1.9% 10	86.1% 457	11.3% 60	0.6% 3	0.4% 2	1.7% 9
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0% 504	88.7% 447	5.8% 29	1.6% 8	0.6% 3	3.4% 17	86.5% 436	9.7% 49	1.4% 7	0.2% 1	2.2% 11
	『反対』	100.0% 757	94.8% 718	3.3% 25	0.3% 2	0.3% 2	1.3% 10	88.5% 670	10.0% 76	0.3% 2	0.3% 2	0.9% 7
	わからない	100.0% 175	84.0% 147	5.1% 9	1.7% 3	1.7% 3	7.4% 13	83.4% 146	10.3% 18	0.0% 0	0.0% 0	6.3% 11

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

* : 性別役割分担に対する考え方別で有意差あり

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方(性・性別役割分担に対する考え方別) 2/3

	サンプル数	* ③暴力をふるわれる方にも問題がある					④暴力をふるう相手と別れたいので あれば、いつでも別れられると思う					
		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	いそう思わない	無回答	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	いそう思わない	無回答	
全体	100.0% 1,452	9.7% 141	37.2% 540	24.4% 354	24.6% 357	4.1% 60	30.7% 446	24.0% 349	25.6% 372	15.8% 229	3.9% 56	
性別	女性	100.0% 817	7.8% 64	37.8% 309	24.5% 200	27.2% 222	2.7% 22	28.4% 232	24.1% 197	27.8% 227	17.3% 141	2.4% 20
	男性	100.0% 531	12.6% 67	37.5% 199	24.5% 130	22.0% 117	3.4% 18	35.8% 190	25.2% 134	21.1% 112	14.7% 78	3.2% 17
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0% 504	10.1% 51	44.0% 222	23.4% 118	19.0% 96	3.4% 17	33.7% 170	25.2% 127	23.0% 116	14.1% 71	4.0% 20
	『反対』	100.0% 757	9.5% 72	35.4% 268	22.5% 170	29.7% 225	2.9% 22	30.3% 229	22.9% 173	28.0% 212	16.5% 125	2.4% 18
	わからない	100.0% 175	9.7% 17	25.7% 45	36.0% 63	20.0% 35	8.6% 15	24.0% 42	26.9% 47	23.4% 41	18.9% 33	6.9% 12

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方(性・性別役割分担に対する考え方別) 3/3

	サンプル数	* ⑤暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ					* ⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである					
		そう思う	ややそう思う	あまり思わない	いそう思わない	無回答	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	いそう思わない	無回答	
全体	100.0% 1,452	48.2% 700	28.9% 420	12.1% 176	7.2% 104	3.6% 52	69.0% 1,002	22.4% 325	3.9% 57	1.3% 19	3.4% 49	
性別	女性	100.0% 817	50.3% 411	31.3% 256	10.8% 88	5.4% 44	2.2% 18	72.1% 589	21.4% 175	3.5% 29	1.0% 8	2.0% 16
	男性	100.0% 531	47.6% 253	25.8% 137	14.5% 77	9.0% 48	3.0% 16	66.3% 352	24.3% 129	4.7% 25	1.9% 10	2.8% 15
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0% 504	39.9% 201	31.2% 157	14.9% 75	10.1% 51	4.0% 20	61.9% 312	27.6% 139	6.0% 30	1.2% 6	3.4% 17
	『反対』	100.0% 757	53.2% 403	28.8% 218	10.4% 79	5.8% 44	1.7% 13	75.2% 569	18.6% 141	2.9% 22	1.2% 9	2.1% 16
	わからない	100.0% 175	52.6% 92	22.9% 40	12.0% 21	5.1% 9	7.4% 13	65.7% 115	23.4% 41	2.9% 5	2.3% 4	5.7% 10

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

* : 性別役割分担に対する考え方別で有意差あり

- (2) 配偶者等からのDVの被害経験の有無
- (3) 配偶者等からのDVにより命の危険を感じたことの有無
- (4) この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無

【問27】 現在または過去に配偶者(結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む)がいる(いた)方におたずねします。

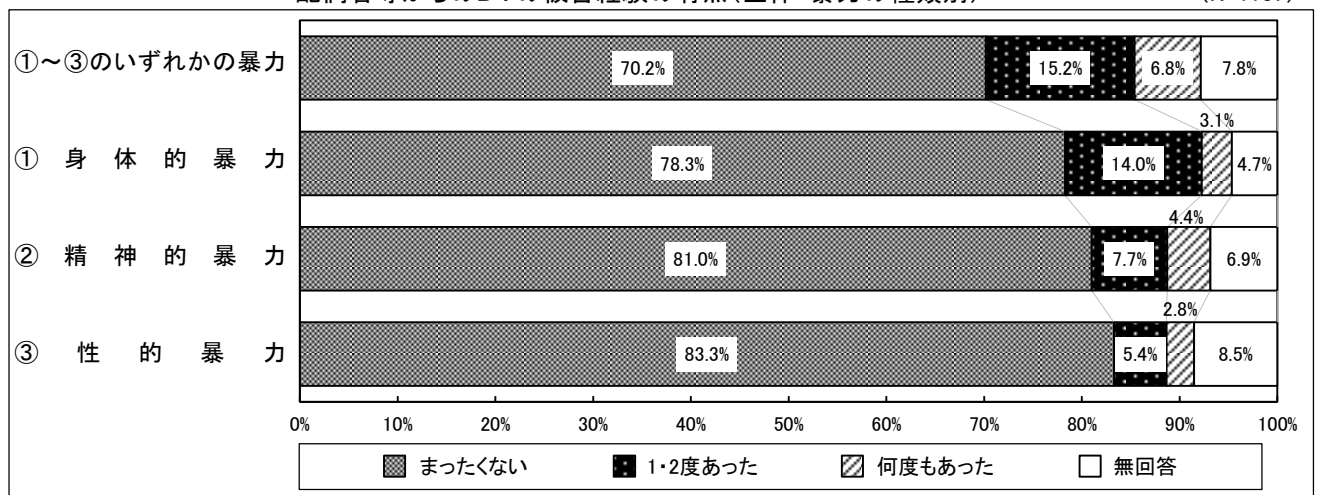
～ 何らかの被害経験が『あった』と答えたのは、女性の4人に1人、男性の7人に1人 ～

- (1) これまでに、あなたの配偶者(結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む)から次の①～③のようなことをされたことがありますか。
- ① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた
 - ② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた
 - ③ 避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された

配偶者等からのDVの被害経験の有無についてみると、全体では何らかの被害経験が『あった』(「1・2度あった」+「何度もあった」と答えた割合は22.0%となっている。暴力の種類別にみると被害経験が『あった』の割合は「①身体的暴力」(17.1%)が最も高く、次いで「②精神的暴力」(12.1%)、「③性的暴力」(8.2%)となっている。

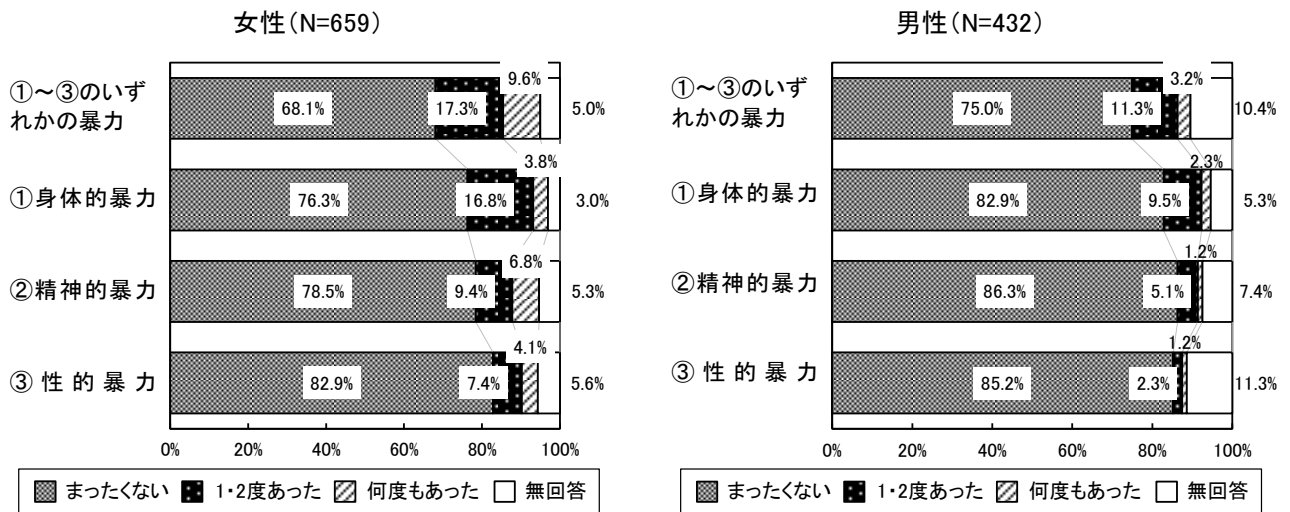
配偶者等からのDVの被害経験の有無(全体・暴力の種類別)

(N=1137)



性別にみると、何らかの被害経験が『あった』と答えた割合は女性が26.9%、男性が14.5%となっている。暴力の種類別にみると「①身体的暴力」(女性：20.6%、男性：11.8%)、「②精神的暴力」(女性：16.2%、男性：6.3%)、「③性的暴力」(女性：11.5%、男性：3.5%)で、いずれの種類についても女性の方が被害経験者の割合が高くなっている。

配偶者等からのDVの被害経験の有無(暴力の種類別・性別)



配偶者等からのDVの被害経験がある人(250人)について、それぞれの行為の被害をみると重複した被害を受けている人は50.8%(女性：57.6%、男性：36.5%)となっている。

配偶者等からのDVの被害の重複

	①身体的暴力	②精神的暴力	③性的暴力	全体 (250人)	女性 (177人)	男性 (63人)
重複あり				50.8%	57.6%	36.5%
	●	●		20.8%	22.6%	17.5%
	●		●	6.4%	7.3%	4.8%
		●	●	4.4%	5.1%	3.2%
	●	●	●	19.2%	22.6%	11.1%
重複なし				49.2%	42.4%	63.5%
	●			31.2%	24.3%	47.6%
		●		10.8%	10.2%	11.1%
			●	7.2%	7.9%	4.8%

※ 全体(250人)には、性別の無回答者(10人)を含む

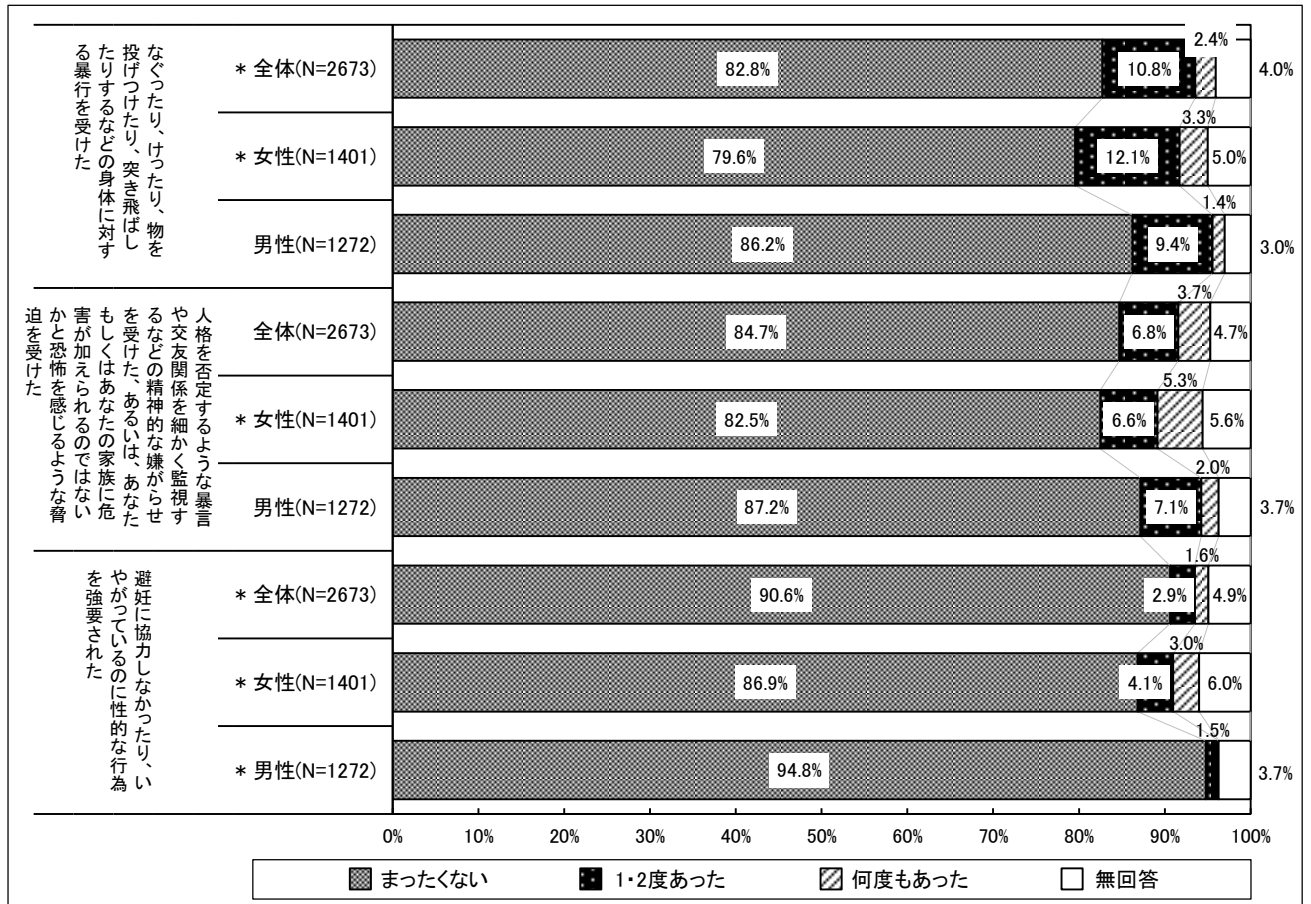
内閣府DV調査と比較すると、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」について『あった』と回答した人は、全体（鹿児島市：17.1%、内閣府：13.2%）、女性（鹿児島市：20.6%、内閣府：15.4%）で鹿児島市が内閣府より割合が高くなっている。

「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」について『あった』と回答した人は、女性（鹿児島市：16.2%、内閣府：11.9%）で鹿児島市が内閣府より割合が高くなっている。

「避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された」について『あった』と回答した人は、全体（鹿児島市：8.2%、内閣府：4.5%）、女性（鹿児島市：11.5%、内閣府：7.1%）、男性（鹿児島市：3.5%、内閣府：1.5%）で鹿児島市が内閣府より割合が高くなっている。

【内閣府DV調査】

配偶者からの被害経験(全体・暴力の種類別・性別)



* : 鹿児島市調査と有意差あり

配偶者等からのDVの被害経験の有無(性・年代別)

	サンプル数	①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた				②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた				③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された				
		まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	
全体	100.0% 1,137	78.3% 890	14.0% 159	3.1% 35	4.7% 53	81.0% 921	7.7% 88	4.4% 50	6.9% 78	83.3% 947	5.4% 61	2.8% 32	8.5% 97	
性・年代別	女性 計	100.0% 659	76.3% 503	16.8% 111	3.8% 25	3.0% 20	78.5% 517	9.4% 62	6.8% 45	5.3% 35	82.9% 546	7.4% 49	4.1% 27	5.6% 37
	20代	100.0% 25	76.0% 19	20.0% 5	4.0% 1	0.0% 0	80.0% 20	8.0% 2	12.0% 3	0.0% 0	76.0% 19	20.0% 5	4.0% 1	0.0% 0
	30代	100.0% 93	77.4% 72	17.2% 16	4.3% 4	1.1% 1	83.9% 78	6.5% 6	8.6% 8	1.1% 1	90.3% 84	6.5% 6	2.2% 2	1.1% 1
	40代	100.0% 131	83.2% 109	11.5% 15	4.6% 6	0.8% 1	84.0% 110	8.4% 11	6.9% 9	0.8% 1	90.1% 118	3.8% 5	5.3% 7	0.8% 1
	50代	100.0% 146	74.0% 108	21.2% 31	3.4% 5	1.4% 2	76.7% 112	11.6% 17	8.9% 13	2.7% 4	80.8% 118	11.0% 16	4.8% 7	3.4% 5
	60代	100.0% 165	77.0% 127	17.0% 28	3.0% 5	3.0% 5	78.8% 130	9.1% 15	4.8% 8	7.3% 12	82.4% 136	6.1% 10	3.6% 6	7.9% 13
	70歳以上	100.0% 99	68.7% 68	16.2% 16	4.0% 4	11.1% 11	67.7% 67	11.1% 11	4.0% 4	17.2% 17	71.7% 71	7.1% 7	4.0% 4	17.2% 17
	男性 計	100.0% 432	82.9% 358	9.5% 41	2.3% 10	5.3% 23	86.3% 373	5.1% 22	1.2% 5	7.4% 32	85.2% 368	2.3% 10	1.2% 5	11.3% 49
	20代	100.0% 11	81.8% 9	18.2% 2	0.0% 0	0.0% 0	81.8% 9	18.2% 2	0.0% 0	0.0% 0	90.9% 10	0.0% 0	9.1% 1	0.0% 0
	30代	100.0% 46	91.3% 42	6.5% 3	2.2% 1	0.0% 0	91.3% 42	8.7% 4	0.0% 0	0.0% 0	97.8% 45	0.0% 0	0.0% 0	2.2% 1
	40代	100.0% 73	91.8% 67	5.5% 4	1.4% 1	1.4% 1	91.8% 67	4.1% 3	2.7% 2	1.4% 1	95.9% 70	0.0% 0	0.0% 0	4.1% 3
	50代	100.0% 84	81.0% 68	10.7% 9	4.8% 4	3.6% 3	89.3% 75	4.8% 4	2.4% 2	3.6% 3	90.5% 76	3.6% 3	2.4% 2	3.6% 3
	60代	100.0% 124	81.5% 101	8.1% 10	1.6% 2	8.9% 11	85.5% 106	4.0% 5	0.8% 1	9.7% 12	80.6% 100	3.2% 4	0.8% 1	15.3% 19
	70歳以上	100.0% 94	75.5% 71	13.8% 13	2.1% 2	8.5% 8	78.7% 74	4.3% 4	0.0% 0	17.0% 16	71.3% 67	3.2% 3	1.1% 1	24.5% 23

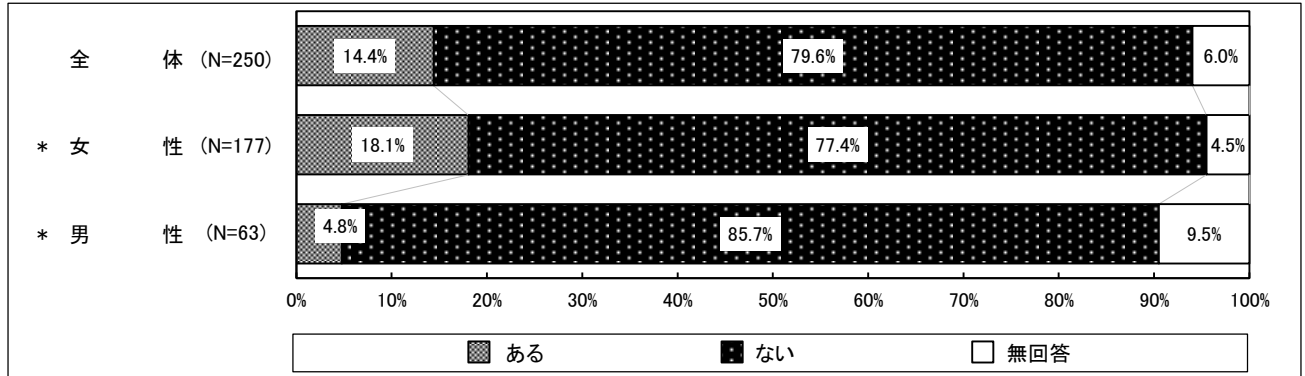
——% : 各属性内での回答割合が最も高い

(2) ①その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。

配偶者等からのDVによって命の危険を感じたことの有無についてみると、全体では「ある」が14.4%、「ない」が79.6%となっている。

性別にみると、「ある」(女性:18.1%、男性:4.8%)と答えた割合は女性が男性より高くなっている。

配偶者等からのDVによって命の危険を感じたことの有無(全体・性別)

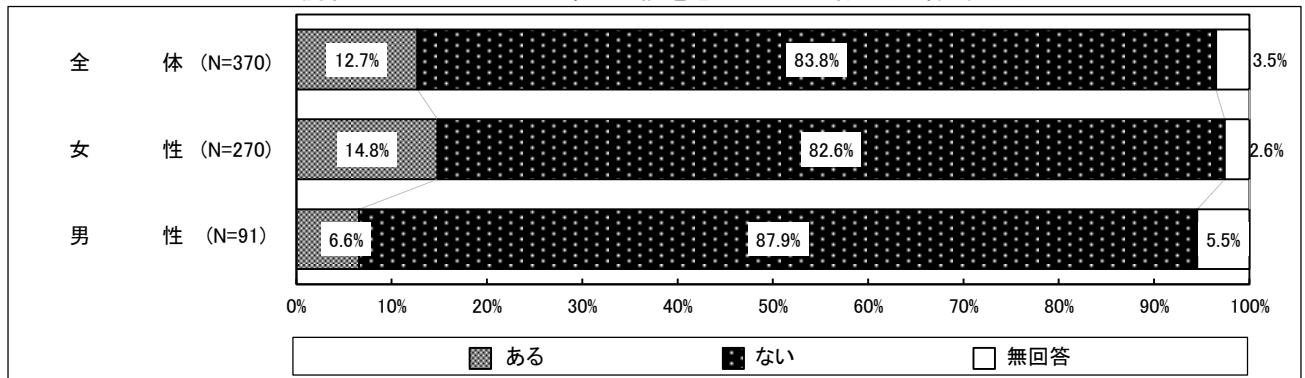


* : 性別で有意差あり

前回調査との有意差はみられなかった。

【前回調査】

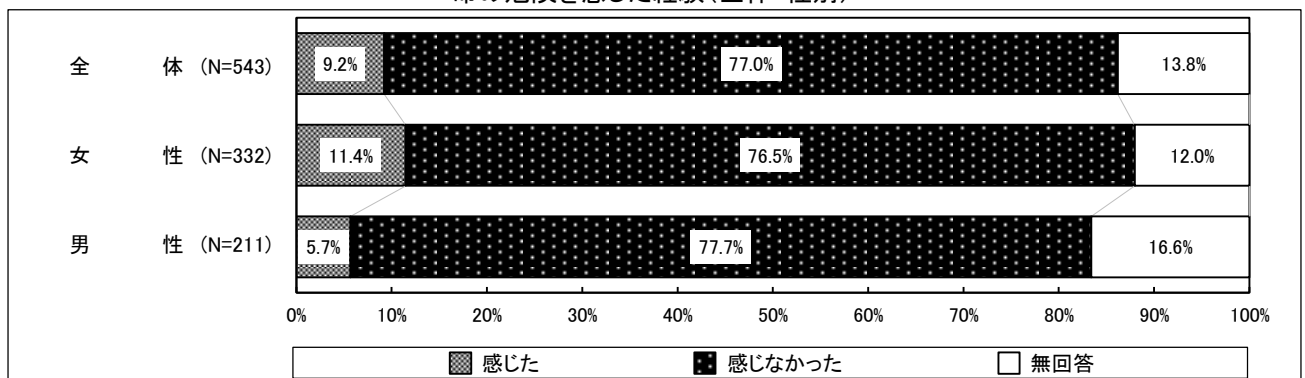
配偶者からのDVによって命の危険を感じたことの有無(全体・性別)



内閣府DV調査との有意差はみられなかった。

【内閣府DV調査】

命の危険を感じた経験(全体・性別)



配偶者等からのDVIによって命の危険を感じたことの有無(性・年代別) 1/2

	サンプル数	全体			サンプル数	①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた			
		ある	ない	無回答		ある	ない	無回答	
全体	100.0% 250	14.4% 36	79.6% 199	6.0% 15	100.0% 194	17.5% 34	78.4% 152	4.1% 8	
性・年代別	女性 計	100.0% 177	18.1% 32	77.4% 137	4.5% 8	100.0% 136	22.8% 31	75.0% 102	2.2% 3
	20代	100.0% 9	44.4% 4	55.6% 5	0.0% 0	100.0% 6	66.7% 4	33.3% 2	0.0% 0
	30代	100.0% 26	15.4% 4	84.6% 22	0.0% 0	100.0% 20	20.0% 4	80.0% 16	0.0% 0
	40代	100.0% 30	23.3% 7	70.0% 21	6.7% 2	100.0% 21	28.6% 6	71.4% 15	0.0% 0
	50代	100.0% 46	19.6% 9	76.1% 35	4.3% 2	100.0% 36	25.0% 9	72.2% 26	2.8% 1
	60代	100.0% 41	14.6% 6	78.0% 32	7.3% 3	100.0% 33	18.2% 6	75.8% 25	6.1% 2
	70歳以上	100.0% 25	8.0% 2	88.0% 22	4.0% 1	100.0% 20	10.0% 2	90.0% 18	0.0% 0
	男性 計	100.0% 63	4.8% 3	85.7% 54	9.5% 6	100.0% 51	3.9% 2	86.3% 44	9.8% 5
	20代	100.0% 3	33.3% 1	66.7% 2	0.0% 0	100.0% 2	0.0% 0	100.0% 2	0.0% 0
	30代	100.0% 6	0.0% 0	100.0% 6	0.0% 0	100.0% 4	0.0% 0	100.0% 4	0.0% 0
	40代	100.0% 8	0.0% 0	75.0% 6	25.0% 2	100.0% 5	0.0% 0	80.0% 4	20.0% 1
	50代	100.0% 13	7.7% 1	84.6% 11	7.7% 1	100.0% 13	7.7% 1	84.6% 11	7.7% 1
	60代	100.0% 18	5.6% 1	88.9% 16	5.6% 1	100.0% 12	8.3% 1	83.3% 10	8.3% 1
	70歳以上	100.0% 15	0.0% 0	86.7% 13	13.3% 2	100.0% 15	0.0% 0	86.7% 13	13.3% 2

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

配偶者等からのDVによって命の危険を感じたことの有無(性・年代別) 2/2

	サンプル数	②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた			サンプル数	③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された			
		ある	ない	無回答		ある	ない	無回答	
全体	100.0% 138	23.9% 33	68.8% 95	7.2% 10	100.0% 93	25.8% 24	68.8% 64	5.4% 5	
性・年代別	女性計	100.0% 107	28.0% 30	66.4% 71	5.6% 6	100.0% 76	27.6% 21	68.4% 52	3.9% 3
	20代	100.0% 5	80.0% 4	20.0% 1	0.0% 0	100.0% 6	50.0% 3	50.0% 3	0.0% 0
	30代	100.0% 14	28.6% 4	71.4% 10	0.0% 0	100.0% 8	12.5% 1	87.5% 7	0.0% 0
	40代	100.0% 20	30.0% 6	65.0% 13	5.0% 1	100.0% 12	33.3% 4	58.3% 7	8.3% 1
	50代	100.0% 30	30.0% 9	66.7% 20	3.3% 1	100.0% 23	30.4% 7	69.6% 16	0.0% 0
	60代	100.0% 23	21.7% 5	65.2% 15	13.0% 3	100.0% 16	31.3% 5	56.3% 9	12.5% 2
	70歳以上	100.0% 15	13.3% 2	80.0% 12	6.7% 1	100.0% 11	9.1% 1	90.9% 10	0.0% 0
	男性計	100.0% 27	11.1% 3	74.1% 20	14.8% 4	100.0% 15	20.0% 3	73.3% 11	6.7% 1
	20代	100.0% 2	50.0% 1	50.0% 1	0.0% 0	100.0% 1	100.0% 1	0.0% 0	0.0% 0
	30代	100.0% 4	0.0% 0	100.0% 4	0.0% 0	100.0% 0	0.0% 0	0.0% 0	0.0% 0
	40代	100.0% 5	0.0% 0	60.0% 3	40.0% 2	100.0% 0	0.0% 0	0.0% 0	0.0% 0
	50代	100.0% 6	16.7% 1	83.3% 5	0.0% 0	100.0% 5	20.0% 1	80.0% 4	0.0% 0
	60代	100.0% 6	16.7% 1	83.3% 5	0.0% 0	100.0% 5	20.0% 1	80.0% 4	0.0% 0
	70歳以上	100.0% 4	0.0% 0	50.0% 2	50.0% 2	100.0% 4	0.0% 0	75.0% 3	25.0% 1

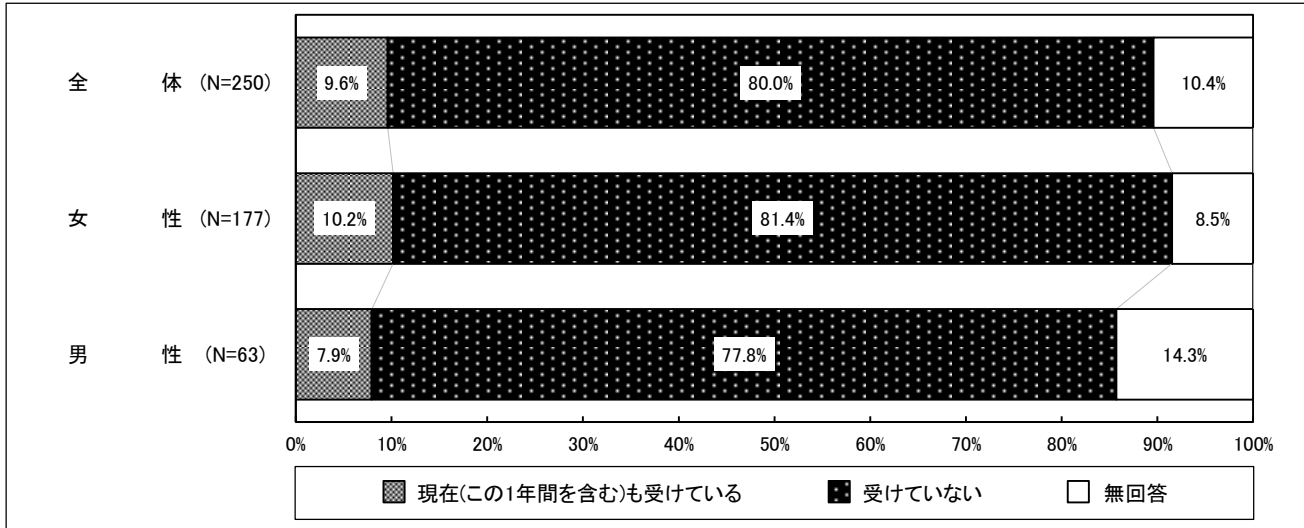
％：各属性内での回答割合が最も高い

(2) ②問 27 (1) のような暴力を、現在 (この1年間を含む) も受けていますか。

この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無についてみると、全体では「現在 (この1年間を含む) も受けている」が9.6%、「受けていない」が80.0%となっている。

性別で有意差はみられなかった。

この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無(全体・性別)



この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無(性・年代別)

		サンプル数	この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無		
			現在 (この1年間を含む) も受けている	受けていない	無回答
全体		100.0% 250	9.6% 24	80.0% 200	10.4% 26
性・年代別	女性計	100.0% 177	10.2% 18	81.4% 144	8.5% 15
	20代	100.0% 9	11.1% 1	88.9% 8	0.0% 0
	30代	100.0% 26	19.2% 5	80.8% 21	0.0% 0
	40代	100.0% 30	3.3% 1	90.0% 27	6.7% 2
	50代	100.0% 46	15.2% 7	73.9% 34	10.9% 5
	60代	100.0% 41	4.9% 2	78.0% 32	17.1% 7
	70歳以上	100.0% 25	8.0% 2	88.0% 22	4.0% 1
	男性計	100.0% 63	7.9% 5	77.8% 49	14.3% 9
	20代	100.0% 3	33.3% 1	66.7% 2	0.0% 0
	30代	100.0% 6	33.3% 2	50.0% 3	16.7% 1
	40代	100.0% 8	12.5% 1	62.5% 5	25.0% 2
	50代	100.0% 13	0.0% 0	92.3% 12	7.7% 1
	60代	100.0% 18	5.6% 1	88.9% 16	5.6% 1
	70歳以上	100.0% 15	0.0% 0	73.3% 11	26.7% 4

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

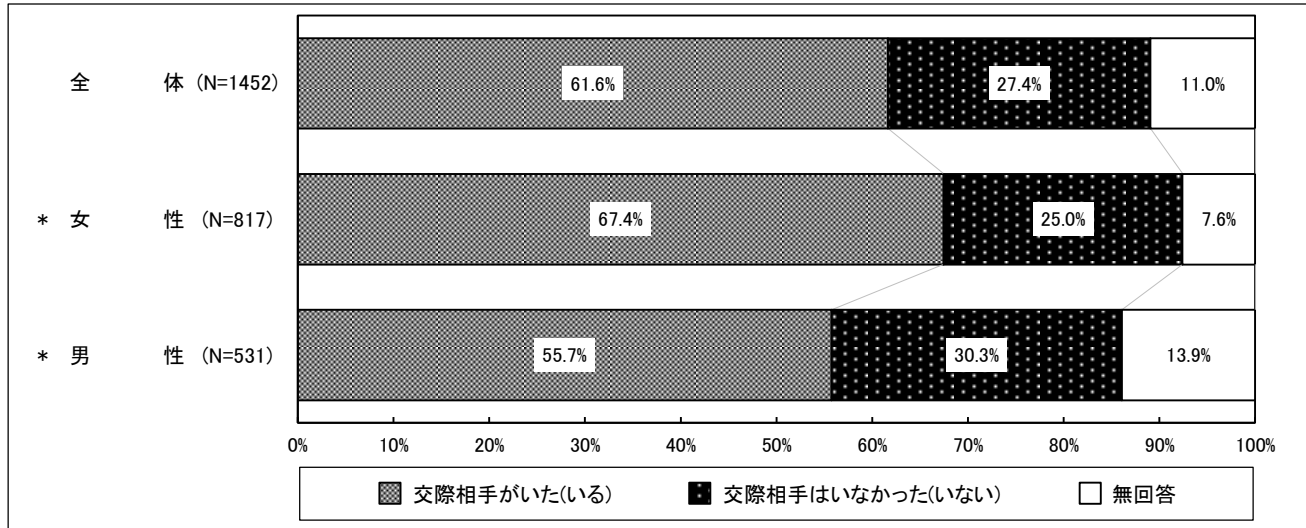
(5) 10歳代から20歳代における交際相手の有無

【問28】 あなたの10歳代から20歳代の経験についてお聞きします。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。あなたは、その当時、交際相手がいきましたか。

10歳代から20歳代における交際相手の有無についてみると、全体では「交際相手があった(いる)」が61.6%、「交際相手はいなかった(いない)」が27.4%となっている。

性別にみると、「交際相手がいなかった(いない)」(女性：25.0%、男性：30.3%)の割合は男性が女性より高くなっている。

10歳代から20歳代における交際相手の有無(全体・性別)



*：性別で有意差あり

10歳代から20歳代における交際相手の有無(性・年代別)

	サンプル数	10歳代から20歳代における交際相手の有無			
		交際相手がいた(いる)	交際相手はいなかった(いない)	無回答	
全体	100.0% 1,452	61.6% 895	27.4% 398	11.0% 159	
性・年代別	女性計	100.0% 817	67.4% 551	25.0% 204	7.6% 62
	20代	100.0% 80	70.0% 56	17.5% 14	12.5% 10
	30代	100.0% 134	82.1% 110	11.9% 16	6.0% 8
	40代	100.0% 161	85.1% 137	12.4% 20	2.5% 4
	50代	100.0% 158	70.3% 111	24.7% 39	5.1% 8
	60代	100.0% 180	56.1% 101	34.4% 62	9.4% 17
	70歳以上	100.0% 104	34.6% 36	51.0% 53	14.4% 15
	男性計	100.0% 531	55.7% 296	30.3% 161	13.9% 74
	20代	100.0% 45	66.7% 30	26.7% 12	6.7% 3
	30代	100.0% 62	80.6% 50	16.1% 10	3.2% 2
	40代	100.0% 97	68.0% 66	20.6% 20	11.3% 11
	50代	100.0% 97	58.8% 57	30.9% 30	10.3% 10
	60代	100.0% 134	44.8% 60	33.6% 45	21.6% 29
	70歳以上	100.0% 96	34.4% 33	45.8% 44	19.8% 19

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

(6) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無

(7) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無

【問29】 問28で「交際相手がいた(いる)」と答えた方におたずねします。

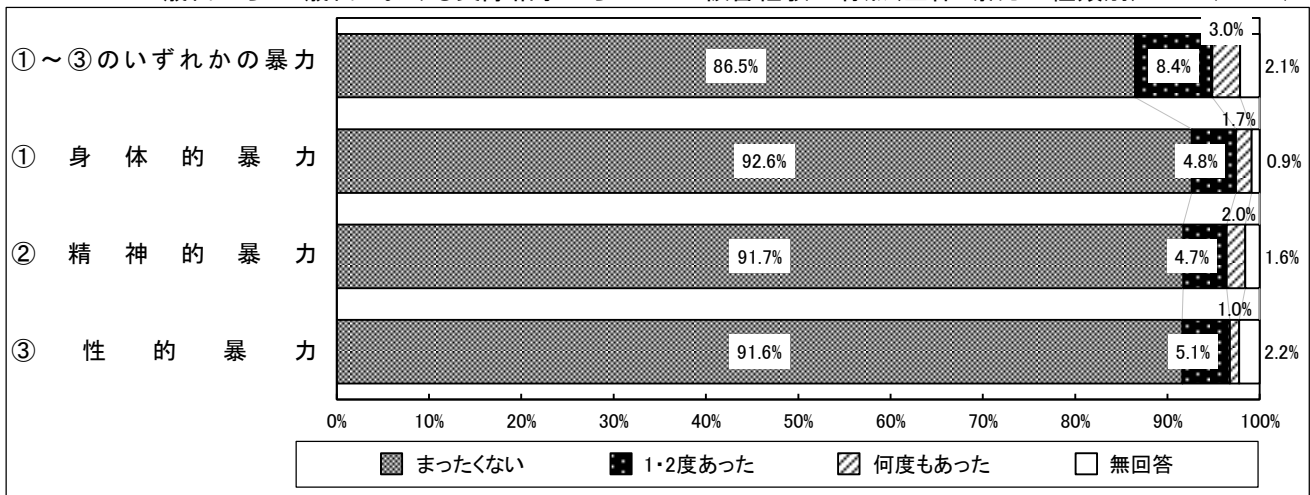
～ 何らかの被害経験が『あった』と答えたのは、女性の6人に1人 ～

(1) あなたは、10歳代または20歳代に、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次の①～③のようなことをされたことがありますか。

- ① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた
- ② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた
- ③ 避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された

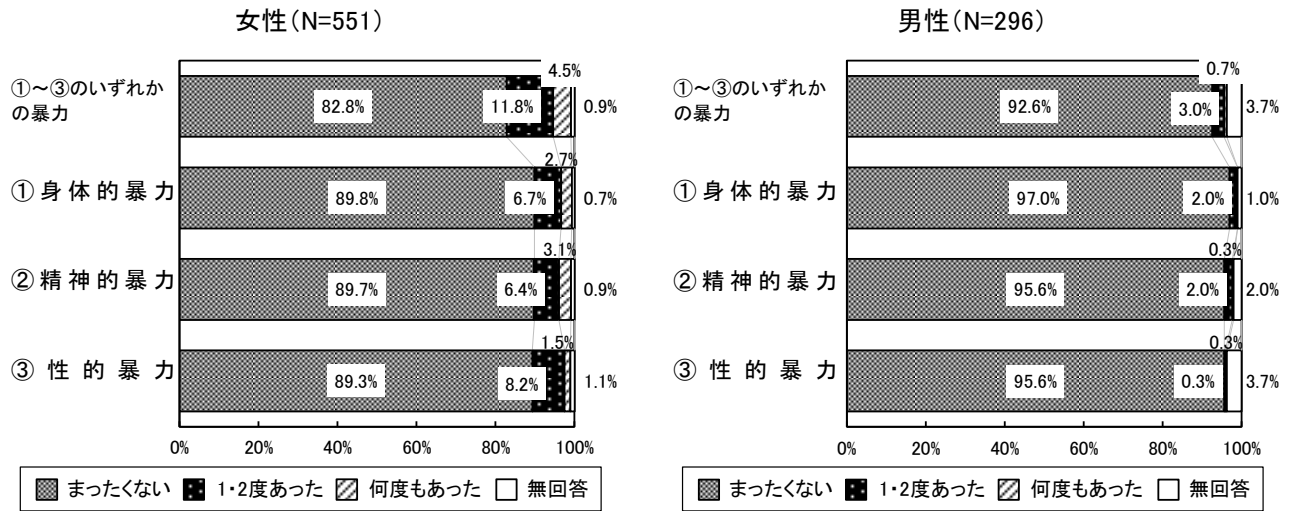
10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無についてみると、全体では何らかの被害経験が『あった』(「1・2度あった」+「何度もあった」)と答えた割合は11.4%となっている。暴力の種類別にみると、被害経験が『あった』の割合は「②精神的暴力」(6.7%)が最も高く、次いで「①身体的暴力」(6.5%)、「③性的暴力」(6.1%)となっている。

10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無(全体・暴力の種類別) (N=895)



性別にみると、何らかの被害経験が『あった』と答えた割合は女性が16.3%、男性が3.7%となっている。暴力の種類別にみると、「①身体的暴力」(女性：9.4%、男性：2.0%)、「②精神的暴力」(女性：9.5%、男性：2.3%)、「③性的暴力」(女性：9.7%、男性：0.6%)で、いずれの種類暴力についても女性の方が被害経験者の割合が高くなっている。

10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無(性別・暴力の種類別・性別)



10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験がある人(102人)について、それぞれの行為の被害をみると重複した被害を受けている人は48.0%(女性：51.1%、男性：27.3%)となっている。

10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害の重複

	①身体的暴力	②精神的暴力	③性的暴力	全体 (102人)	女性 (90人)	男性 (11人)
重複あり				48.0%	51.1%	27.3%
	●	●		10.8%	11.1%	9.1%
	●		●	2.9%	3.3%	0.0%
	●	●	●	12.7%	13.3%	9.1%
重複なし	●	●	●	21.6%	23.3%	9.1%
				52.0%	48.9%	72.7%
	●			21.6%	20.0%	36.4%
		●		13.7%	10.0%	36.4%
		●	16.7%	18.9%	0.0%	

※ 全体(102人)には、性別の無回答(1人)を含む

10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無(性・年代別)

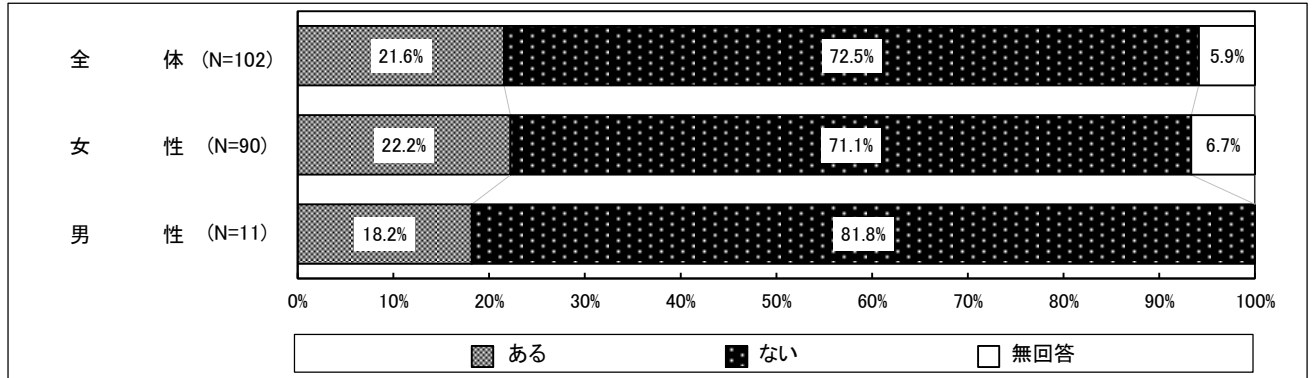
	サンプル数	①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた				②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた				③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された				
		まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	
全体	100.0% 895	92.6% 829	4.8% 43	1.7% 15	0.9% 8	91.7% 821	4.7% 42	2.0% 18	1.6% 14	91.6% 820	5.1% 46	1.0% 9	2.2% 20	
性・年代別	女性計	100.0% 551	89.8% 495	6.7% 37	2.7% 15	0.7% 4	89.7% 494	6.4% 35	3.1% 17	0.9% 5	89.3% 492	8.2% 45	1.5% 8	1.1% 6
	20代	100.0% 56	83.9% 47	10.7% 6	3.6% 2	1.8% 1	83.9% 47	7.1% 4	7.1% 4	1.8% 1	85.7% 48	14.3% 8	0.0% 0	0.0% 0
	30代	100.0% 110	88.2% 97	7.3% 8	3.6% 4	0.9% 1	90.0% 99	6.4% 7	2.7% 3	0.9% 1	86.4% 95	10.9% 12	1.8% 2	0.9% 1
	40代	100.0% 137	87.6% 120	8.8% 12	3.6% 5	0.0% 0	88.3% 121	8.8% 12	2.9% 4	0.0% 0	90.5% 124	5.1% 7	3.6% 5	0.7% 1
	50代	100.0% 111	90.1% 100	7.2% 8	2.7% 3	0.0% 0	87.4% 97	7.2% 8	4.5% 5	0.9% 1	89.2% 99	9.9% 11	0.9% 1	0.0% 0
	60代	100.0% 101	97.0% 98	1.0% 1	1.0% 1	1.0% 1	96.0% 97	2.0% 2	1.0% 1	1.0% 1	92.1% 93	5.0% 5	0.0% 0	3.0% 3
	70歳以上	100.0% 36	91.7% 33	5.6% 2	0.0% 0	2.8% 1	91.7% 33	5.6% 2	0.0% 0	2.8% 1	91.7% 33	5.6% 2	0.0% 0	2.8% 1
	男性計	100.0% 296	97.0% 287	2.0% 6	0.0% 0	1.0% 3	95.6% 283	2.0% 6	0.3% 1	2.0% 6	95.6% 283	0.3% 1	0.3% 1	3.7% 11
	20代	100.0% 30	100.0% 30	0.0% 0	0.0% 0	0.0% 0	90.0% 27	6.7% 2	3.3% 1	0.0% 0	96.7% 29	0.0% 0	3.3% 1	0.0% 0
	30代	100.0% 50	98.0% 49	2.0% 1	0.0% 0	0.0% 0	94.0% 47	4.0% 2	0.0% 0	2.0% 1	98.0% 49	0.0% 0	0.0% 0	2.0% 1
	40代	100.0% 66	95.5% 63	3.0% 2	0.0% 0	1.5% 1	98.5% 65	0.0% 0	0.0% 0	1.5% 1	97.0% 64	0.0% 0	0.0% 0	3.0% 2
	50代	100.0% 57	94.7% 54	5.3% 3	0.0% 0	0.0% 0	94.7% 54	3.5% 2	0.0% 0	1.8% 1	96.5% 55	1.8% 1	0.0% 0	1.8% 1
	60代	100.0% 60	96.7% 58	0.0% 0	0.0% 0	3.3% 2	96.7% 58	0.0% 0	0.0% 0	3.3% 2	91.7% 55	0.0% 0	0.0% 0	8.3% 5
	70歳以上	100.0% 33	100.0% 33	0.0% 0	0.0% 0	0.0% 0	97.0% 32	0.0% 0	0.0% 0	3.0% 1	93.9% 31	0.0% 0	0.0% 0	6.1% 2

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

(2) その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。

交際相手からのDVによって命の危険を感じたことの有無についてみると、全体では「ある」が21.6%、「ない」が72.5%となっている。
性別で有意差はみられなかった。

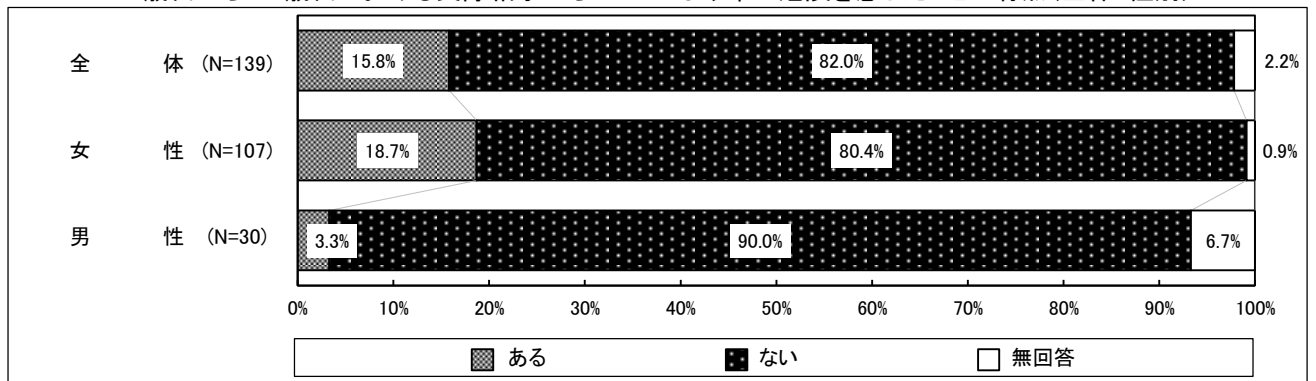
10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無(全体・性別)



前回調査との有意差はみられなかった。

【前回調査】

10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無(全体・性別)



10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無(性・年代別)

		サンプル数	10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無		
			ある	ない	無回答
全体		100.0%	21.6%	72.5%	5.9%
		102	22	74	6
性・年代別	女性計	100.0%	22.2%	71.1%	6.7%
		90	20	64	6
	20代	100.0%	54.5%	36.4%	9.1%
		11	6	4	1
	30代	100.0%	12.5%	83.3%	4.2%
		24	3	20	1
	40代	100.0%	18.5%	70.4%	11.1%
		27	5	19	3
	50代	100.0%	22.2%	72.2%	5.6%
		18	4	13	1
	60代	100.0%	14.3%	85.7%	0.0%
		7	1	6	0
	70歳以上	100.0%	33.3%	66.7%	0.0%
		3	1	2	0
	男性計	100.0%	18.2%	81.8%	0.0%
		11	2	9	0
	20代	100.0%	33.3%	66.7%	0.0%
		3	1	2	0
	30代	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	3	0	3	0	
40代	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	2	0	2	0	
50代	100.0%	33.3%	66.7%	0.0%	
	3	1	2	0	
60代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	0	0	0	0	
70歳以上	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	0	0	0	0	

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

(8) DVにあった際の相談の有無

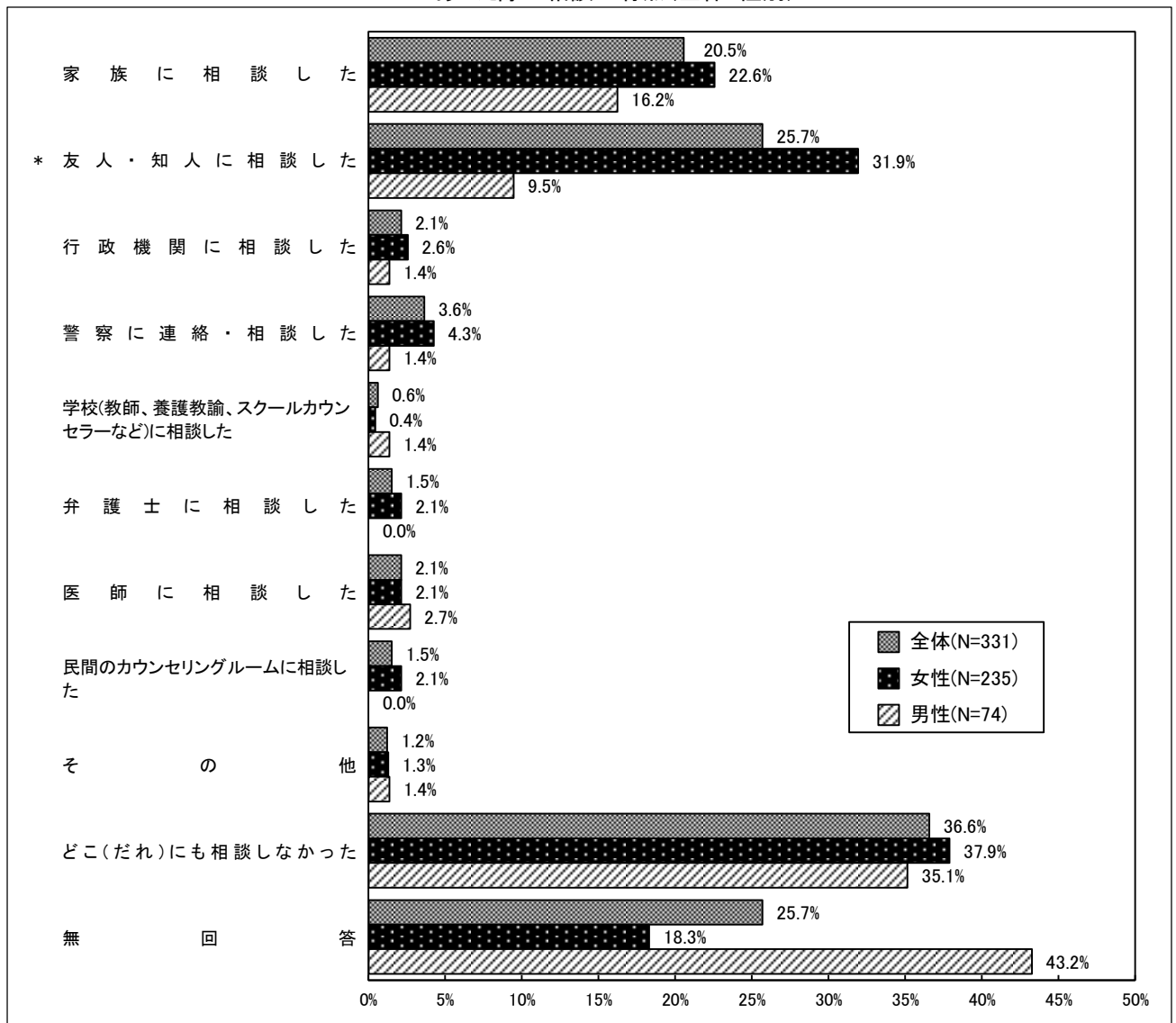
【問30】 問27(1) または問29(1) で「1・2度あった」「何度もあった」と答えた方におたずねします。あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答)

～ DV被害者の5割近くが友人・知人・家族に相談 ～

DVにあった際の相談の有無についてみると、全体では「どこ(だれ)にも相談しなかった」(36.6%)の割合が最も高く、次いで「友人・知人に相談した」(25.7%)、「家族に相談した」(20.5%)となっており、その他の項目の割合は4%未満に留まっている。

性別にみると、「友人・知人に相談した」(女性：31.9%、男性：9.5%)は女性の割合が男性より高くなっている。

DVにあった際の相談の有無(全体・性別)



* : 性別で有意差あり

DVIにあった際の相談の有無(性・年代別)(複数回答)

	サンプル数	DVにあった際の相談の有無											
		家族に相談した	友人・知人に相談した	行政機関に相談した	警察に連絡・相談した	学校(教師、養護教諭、スクールカウンセラーなどに相談した)	弁護士に相談した	医師に相談した	民間のカウンセリングルームに相談した	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった	無回答	
全体	100.0%	20.5%	25.7%	2.1%	3.6%	0.6%	1.5%	2.1%	1.5%	1.2%	36.6%	25.7%	
	331	68	85	7	12	2	5	7	5	4	121	85	
性・年代別	女性計	100.0%	22.6%	31.9%	2.6%	4.3%	0.4%	2.1%	2.1%	2.1%	1.3%	37.9%	18.3%
		235	53	75	6	10	1	5	5	5	3	89	43
	20代	100.0%	0.0%	62.5%	6.3%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	31.3%	6.3%
		16	0	10	1	0	0	1	0	0	0	5	1
	30代	100.0%	30.0%	35.0%	0.0%	7.5%	0.0%	2.5%	2.5%	5.0%	2.5%	32.5%	20.0%
		40	12	14	0	3	0	1	1	2	1	13	8
	40代	100.0%	32.7%	49.0%	2.0%	6.1%	0.0%	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%	30.6%	8.2%
		49	16	24	1	3	0	1	1	1	1	15	4
	50代	100.0%	21.8%	32.7%	3.6%	5.5%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	47.3%	10.9%
		55	12	18	2	3	0	1	0	0	0	26	6
	60代	100.0%	14.6%	8.3%	4.2%	2.1%	0.0%	0.0%	4.2%	2.1%	2.1%	35.4%	41.7%
		48	7	4	2	1	0	0	2	1	1	17	20
	70歳以上	100.0%	22.2%	18.5%	0.0%	0.0%	3.7%	3.7%	3.7%	3.7%	0.0%	48.1%	14.8%
		27	6	5	0	0	1	1	1	1	0	13	4
	男性計	100.0%	16.2%	9.5%	1.4%	1.4%	1.4%	0.0%	2.7%	0.0%	1.4%	35.1%	43.2%
		74	12	7	1	1	1	0	2	0	1	26	32
20代	100.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	
	4	1	0	1	0	1	0	1	0	1	3	0	
30代	100.0%	25.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	12.5%	
	8	2	3	0	0	0	0	0	0	0	4	1	
40代	100.0%	23.1%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	30.8%	38.5%	
	13	3	0	0	1	0	0	1	0	0	4	5	
50代	100.0%	20.0%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	33.3%	
	15	3	2	0	0	0	0	0	0	0	6	5	
60代	100.0%	10.5%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.1%	63.2%	
	19	2	2	0	0	0	0	0	0	0	4	12	
70歳以上	100.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	60.0%	
	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	9	

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

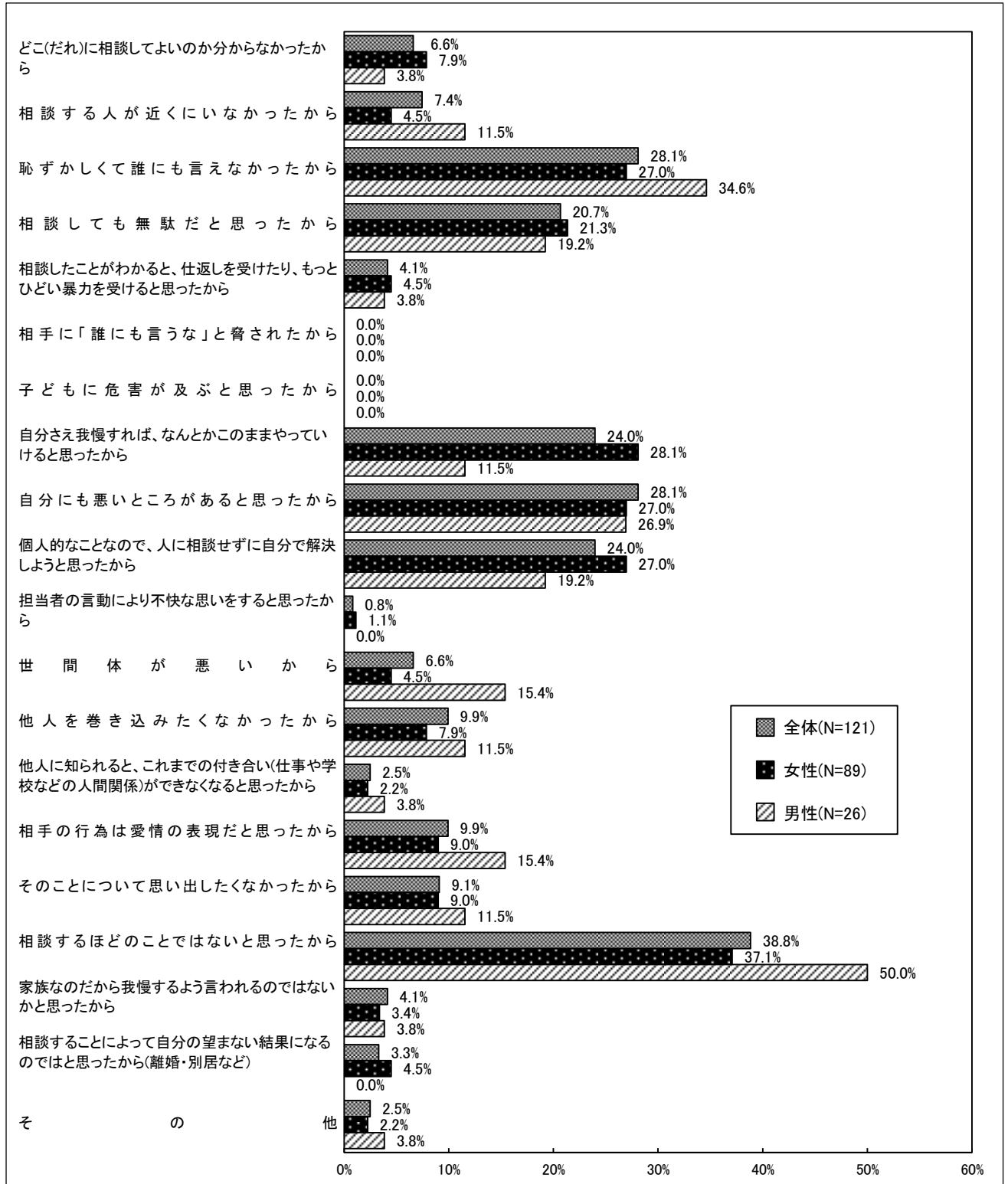
(9) DVにあった際、どこ(だれ)にも相談しなかった理由

【問31】 問30で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(複数回答)

～ 相談するほどではないと思ったから ～

DVにあった際、どこ(だれ)にも相談しなかった理由についてみると、全体では「相談するほどのことではないと思ったから」(38.8%)の割合が最も高く、次いで「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(28.1%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(28.1%)となっている。
性別で有意差はみられなかった。

DVにあった際、どこ(だれ)にも相談しなかった理由(全体・性別)



DVにあった際、どこ(だれ)にも相談しなかった理由(性・年代別)(複数回答) 1/2

	サンプル数	DVにあった際、どこ(だれ)にも相談しなかった理由										
		どこ(だれ)に相談してよいか分からなかったから	相談する人が近くにいなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	相手に「誰にも言うな」と脅されたから	子どもに危害が及ぶと思ったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	個人的なことなので、人に相談せずに自分で解決しようと思ったから	
全体	121	6.6%	7.4%	28.1%	20.7%	4.1%	0.0%	0.0%	24.0%	28.1%	24.0%	
		8	9	34	25	5	0	0	29	34	29	
性・年代別	女性計	7.9%	4.5%	27.0%	21.3%	4.5%	0.0%	0.0%	28.1%	27.0%	27.0%	
		89	7	4	24	19	4	0	0	25	24	24
	20代	0.0%	0.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	
		5	0	0	2	2	0	0	1	2	0	
	30代	7.7%	7.7%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	38.5%	30.8%	38.5%	
		13	1	1	0	1	0	0	5	4	5	
	40代	13.3%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	13.3%	
		15	2	0	3	3	0	0	3	6	2	
	50代	7.7%	11.5%	26.9%	30.8%	11.5%	0.0%	0.0%	23.1%	7.7%	34.6%	
		26	2	3	7	8	3	0	6	2	9	
	60代	11.8%	0.0%	35.3%	29.4%	5.9%	0.0%	0.0%	41.2%	23.5%	29.4%	
		17	2	0	6	5	1	0	7	4	5	
	70歳以上	0.0%	0.0%	46.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	23.1%	46.2%	23.1%	
		13	0	0	6	0	0	0	3	6	3	
	男性計	3.8%	11.5%	34.6%	19.2%	3.8%	0.0%	0.0%	11.5%	26.9%	19.2%	
		26	1	3	9	5	1	0	3	7	5	
	20代	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	
	3	1	0	1	1	0	0	0	1	1		
30代	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%		
	4	0	0	1	1	0	0	1	2	1		
40代	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%		
	4	0	1	1	1	0	0	1	1	0		
50代	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%		
	6	0	2	2	2	1	0	0	1	0		
60代	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%		
	4	0	0	2	0	0	0	1	1	1		
70歳以上	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%		
	5	0	0	2	0	0	0	0	1	2		

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

DVにあった際、どこ(だれ)にも相談しなかった理由(性・年代別)(複数回答) 2/2

	サンプル数	DVにあった際、どこ(だれ)にも相談しなかった理由										
		担当者 の言動 により 不快な 思いを する と思っ たか	世間 体が 悪い から	他人 を巻 き込 みた くな った から	学校 など の人 間関 係)が でき なく なると 思っ たか	他人 に知 られ ると、 これ まで の付 き合 い(仕 事や 仕事 など)	相手 の行 為は 愛情 の表 現だ と思 った から	その こと につ いて 思い 出し たく なかつ たから	相談 する ほど のこと では ない と思 った から	家族 なの だか ら我 慢す るよ う言 われ るの では ない かと思 った から	相談 する こと によ って 自分 の望 まな い結 果に なる ので はと 思っ たか ら(離 婚・ 別居 など)	その他
全体	121	0.8%	6.6%	9.9%	2.5%	9.9%	9.1%	38.8%	4.1%	3.3%	2.5%	
		1	8	12	3	12	11	47	5	4	3	
性・年代別	女性計	100.0%	1.1%	4.5%	7.9%	2.2%	9.0%	9.0%	37.1%	3.4%	4.5%	2.2%
		89	1	4	7	2	8	8	33	3	4	2
	20代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%
		5	0	0	0	0	2	0	3	1	1	0
	30代	100.0%	0.0%	0.0%	30.8%	7.7%	0.0%	15.4%	46.2%	0.0%	0.0%	0.0%
		13	0	0	4	1	0	2	6	0	0	0
	40代	100.0%	0.0%	6.7%	6.7%	0.0%	6.7%	6.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
		15	0	1	1	0	1	1	5	0	0	0
	50代	100.0%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	7.7%	11.5%	30.8%	0.0%	0.0%	7.7%
		26	0	0	1	0	2	3	8	0	0	2
	60代	100.0%	0.0%	5.9%	5.9%	5.9%	17.6%	5.9%	35.3%	5.9%	5.9%	0.0%
		17	0	1	1	1	3	1	6	1	1	0
	70歳以上	100.0%	7.7%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	38.5%	7.7%	15.4%	0.0%
		13	1	2	0	0	0	1	5	1	2	0
	男性計	100.0%	0.0%	15.4%	11.5%	3.8%	15.4%	11.5%	50.0%	3.8%	0.0%	3.8%
	26	0	4	3	1	4	3	13	1	0	1	
20代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
	3	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	
30代	100.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	
	4	0	1	1	1	1	1	2	0	0	1	
40代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
50代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
	6	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	
60代	100.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
	4	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	
70歳以上	100.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	40.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	5	0	1	1	0	1	2	4	0	0	0	

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

(10) DVの未然防止にとって必要なこと

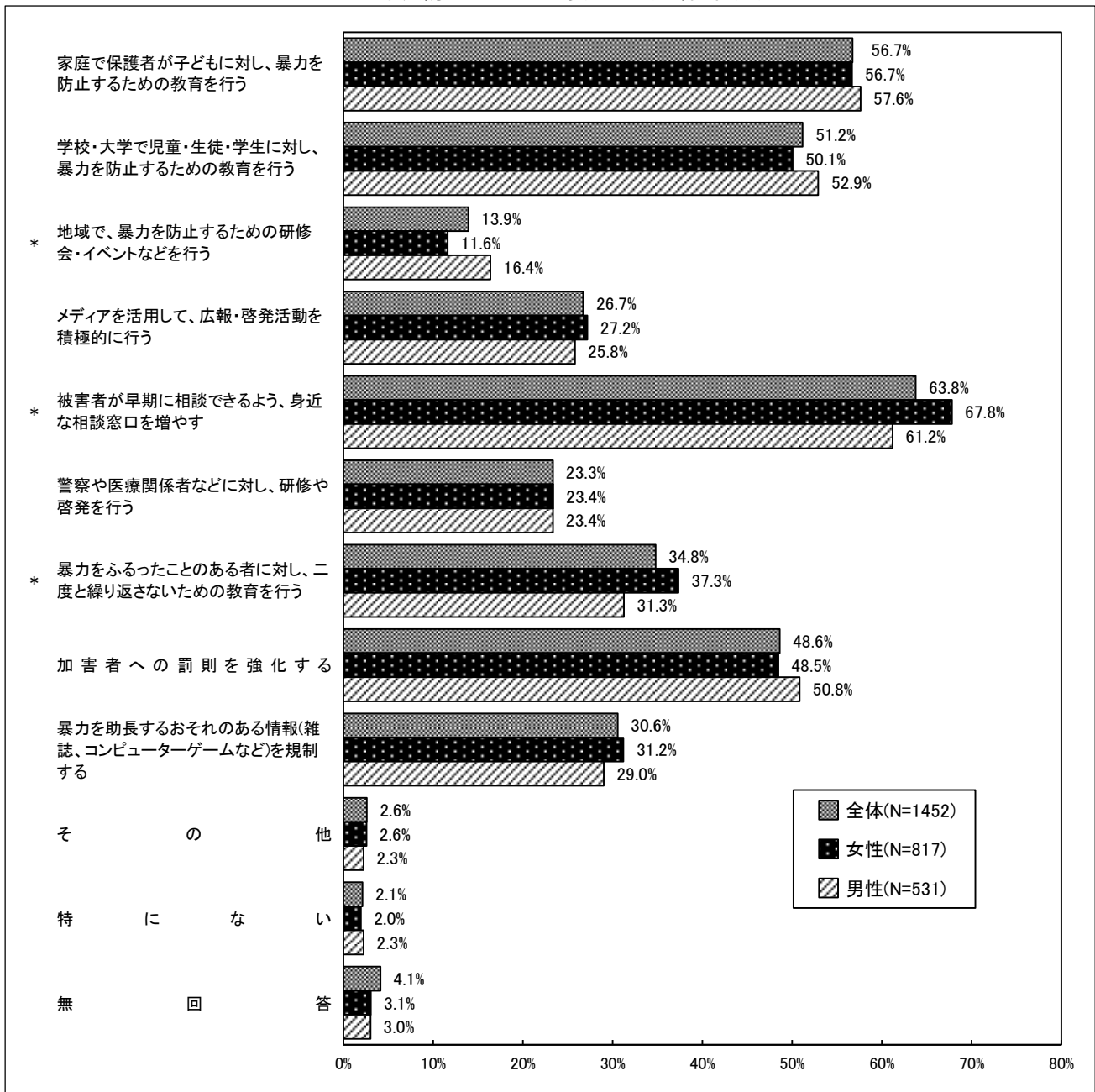
【問32】 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答)

～ 身近な相談窓口を増やすことや家庭、学校などにおける教育が必要 ～

DVの未然防止にとって必要なことについてみると、全体では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(63.8%)の割合が最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(56.7%)、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」(51.2%)と続いている。

性別にみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(女性：67.8%、男性：61.2%)、「暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」(女性：37.3%、男性：31.3%)で女性の割合が男性より高く、「地域で、暴力を防止するための研修会・イベントなどを行う」(女性：11.6%、男性：16.4%)は男性の割合が女性より高くなっている。

DVの未然防止にとって必要なこと(全体・性別)



*：性別で有意差あり

DVの未然防止にとって必要なこと(性・年代別)(複数回答) 1/2

	サンプル数	DVの未然防止にとって必要なこと						
		家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	地域で、暴力を防止するための研修会・イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者が早期に相談できるように、身近な相談窓口を増やす	警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	
全体	100.0% 1,452	56.7% 824	51.2% 743	13.9% 202	26.7% 388	63.8% 926	23.3% 339	
性・年代別	女性計	100.0% 817	56.7% 463	50.1% 409	11.6% 95	27.2% 222	67.8% 554	23.4% 191
	20代	100.0% 80	40.0% 32	35.0% 28	6.3% 5	28.8% 23	78.8% 63	31.3% 25
	30代	100.0% 134	59.7% 80	47.0% 63	12.7% 17	18.7% 25	69.4% 93	29.9% 40
	40代	100.0% 161	55.9% 90	48.4% 78	9.3% 15	25.5% 41	65.8% 106	28.6% 46
	50代	100.0% 158	62.7% 99	62.0% 98	8.9% 14	34.8% 55	75.3% 119	22.8% 36
	60代	100.0% 180	56.1% 101	49.4% 89	12.2% 22	26.7% 48	63.3% 114	15.6% 28
	70歳以上	100.0% 104	58.7% 61	51.0% 53	21.2% 22	28.8% 30	56.7% 59	15.4% 16
	男性計	100.0% 531	57.6% 306	52.9% 281	16.4% 87	25.8% 137	61.2% 325	23.4% 124
	20代	100.0% 45	48.9% 22	42.2% 19	15.6% 7	31.1% 14	62.2% 28	35.6% 16
	30代	100.0% 62	58.1% 36	51.6% 32	11.3% 7	17.7% 11	66.1% 41	40.3% 25
	40代	100.0% 97	54.6% 53	56.7% 55	18.6% 18	29.9% 29	62.9% 61	22.7% 22
	50代	100.0% 97	60.8% 59	56.7% 55	23.7% 23	33.0% 32	68.0% 66	28.9% 28
	60代	100.0% 134	54.5% 73	47.0% 63	14.2% 19	16.4% 22	59.7% 80	15.7% 21
	70歳以上	100.0% 96	65.6% 63	59.4% 57	13.5% 13	30.2% 29	51.0% 49	12.5% 12

※ : 各属性内での回答割合が最も高い

DVの未然防止にとって必要なこと(性・年代別)(複数回答) 2/2

	サンプル数	DVの未然防止にとって必要なこと					
		暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータゲームなど)を規制する	その他	特にない	無回答
全体	100.0%	34.8%	48.6%	30.6%	2.6%	2.1%	4.1%
	1,452	505	706	444	38	31	60
女性 計	100.0%	37.3%	48.5%	31.2%	2.6%	2.0%	3.1%
	817	305	396	255	21	16	25
20代	100.0%	35.0%	66.3%	16.3%	2.5%	1.3%	1.3%
	80	28	53	13	2	1	1
30代	100.0%	44.0%	52.2%	28.4%	3.0%	1.5%	1.5%
	134	59	70	38	4	2	2
40代	100.0%	35.4%	57.1%	27.3%	5.0%	1.9%	0.0%
	161	57	92	44	8	3	0
50代	100.0%	38.6%	50.0%	39.9%	1.9%	0.6%	1.9%
	158	61	79	63	3	1	3
60代	100.0%	33.9%	34.4%	34.4%	1.7%	1.1%	6.1%
	180	61	62	62	3	2	11
70歳以上	100.0%	37.5%	38.5%	33.7%	1.0%	6.7%	7.7%
	104	39	40	35	1	7	8
男性 計	100.0%	31.3%	50.8%	29.0%	2.3%	2.3%	3.0%
	531	166	270	154	12	12	16
20代	100.0%	40.0%	51.1%	17.8%	4.4%	2.2%	2.2%
	45	18	23	8	2	1	1
30代	100.0%	27.4%	59.7%	16.1%	3.2%	1.6%	3.2%
	62	17	37	10	2	1	2
40代	100.0%	29.9%	56.7%	25.8%	1.0%	4.1%	1.0%
	97	29	55	25	1	4	1
50代	100.0%	43.3%	59.8%	35.1%	4.1%	0.0%	3.1%
	97	42	58	34	4	0	3
60代	100.0%	23.9%	45.5%	31.3%	2.2%	3.0%	2.2%
	134	32	61	42	3	4	3
70歳以上	100.0%	29.2%	37.5%	36.5%	0.0%	2.1%	6.3%
	96	28	36	35	0	2	6

(11) メディアにおける性・暴力表現についての考え

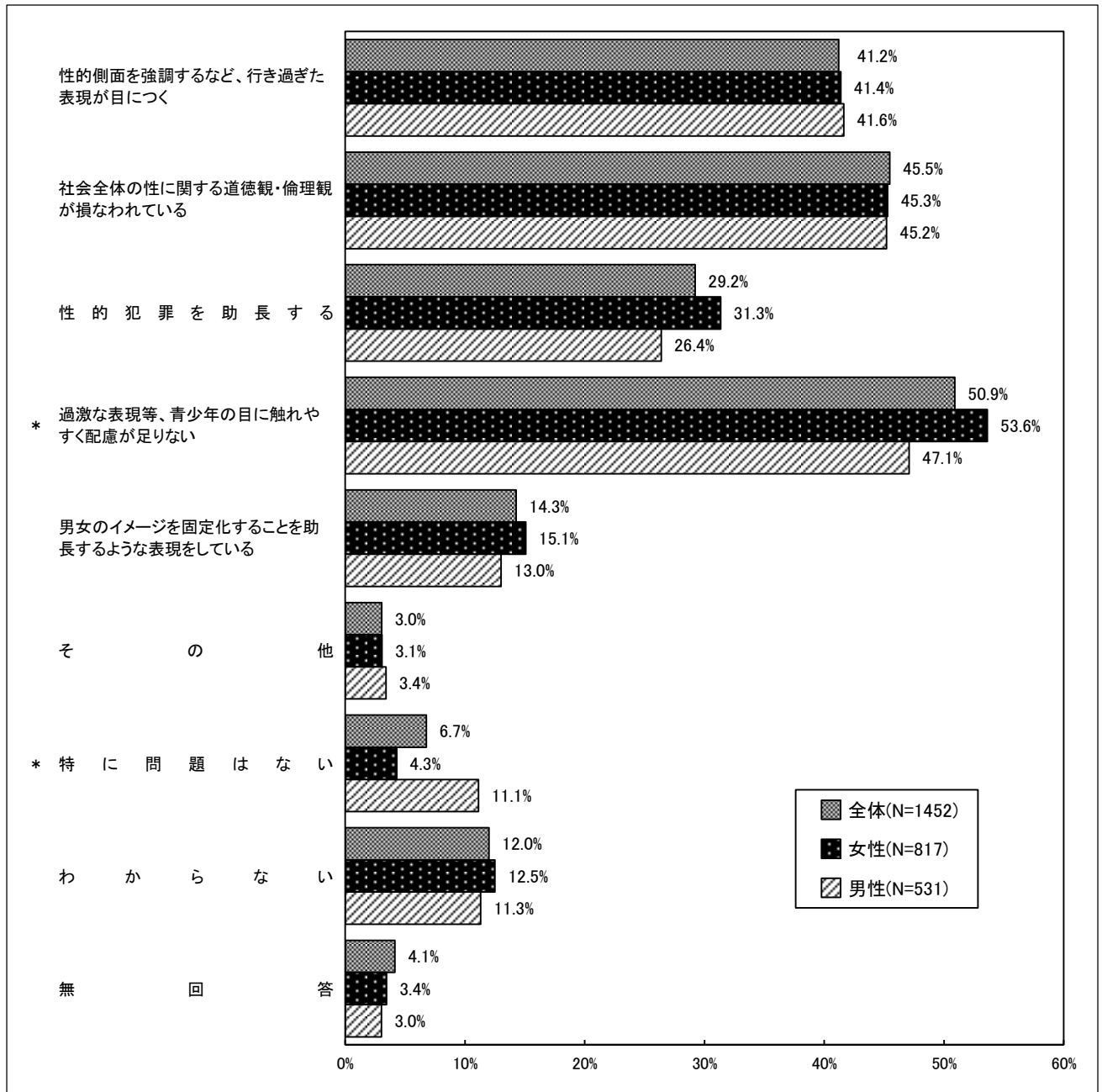
【問33】 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピューターゲーム等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。(複数回答)

～ 過激な表現等があり、配慮が足りないと感じる人が多い ～

メディアにおける性・暴力表現についての考えについてみると、全体では「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」(50.9%)の割合が最も高く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」(45.5%)、「性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく」(41.2%)となっている。

性別にみると、「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」(女性:53.6%、男性:47.1%)は女性の割合が男性より高く、「特に問題ない」(女性:4.3%、男性:11.1%)は男性の割合が女性より高くなっている。

メディアにおける性・暴力表現についての考え(全体・性別)



* : 性別で有意差あり

メディアにおける性・暴力表現についての考え(性・年代別)(複数回答)

	サンプル数	メディアにおける性・暴力表現についての意識									
		性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	性的犯罪を助長する	過度な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない	男女のイメージを固定化することを助長するような表現をしている	その他	特に問題はない	わからない	無回答	
全体	100.0%	41.2%	45.5%	29.2%	50.9%	14.3%	3.0%	6.7%	12.0%	4.1%	
	1,452	598	660	424	739	207	44	98	174	60	
性・年代別	女性計	100.0%	41.4%	45.3%	31.3%	53.6%	15.1%	3.1%	4.3%	12.5%	3.4%
		817	338	370	256	438	123	25	35	102	28
	20代	100.0%	26.3%	18.8%	16.3%	40.0%	21.3%	3.8%	16.3%	22.5%	0.0%
		80	21	15	13	32	17	3	13	18	0
	30代	100.0%	38.1%	36.6%	28.4%	58.2%	9.7%	2.2%	4.5%	14.2%	1.5%
		134	51	49	38	78	13	3	6	19	2
	40代	100.0%	37.3%	34.8%	34.2%	55.9%	17.4%	5.0%	1.9%	13.0%	0.6%
		161	60	56	55	90	28	8	3	21	1
	50代	100.0%	47.5%	58.9%	36.7%	58.9%	21.5%	3.2%	5.1%	5.7%	3.2%
		158	75	93	58	93	34	5	8	9	5
	60代	100.0%	42.8%	56.1%	31.7%	50.0%	10.6%	2.2%	1.7%	12.2%	6.1%
		180	77	101	57	90	19	4	3	22	11
	70歳以上	100.0%	51.9%	53.8%	33.7%	52.9%	11.5%	1.9%	1.9%	12.5%	8.7%
		104	54	56	35	55	12	2	2	13	9
	男性計	100.0%	41.6%	45.2%	26.4%	47.1%	13.0%	3.4%	11.1%	11.3%	3.0%
		531	221	240	140	250	69	18	59	60	16
	20代	100.0%	22.2%	22.2%	24.4%	24.4%	17.8%	8.9%	35.6%	13.3%	0.0%
	45	10	10	11	11	8	4	16	6	0	
30代	100.0%	29.0%	24.2%	16.1%	27.4%	8.1%	4.8%	24.2%	17.7%	1.6%	
	62	18	15	10	17	5	3	15	11	1	
40代	100.0%	33.0%	40.2%	23.7%	43.3%	8.2%	3.1%	7.2%	15.5%	3.1%	
	97	32	39	23	42	8	3	7	15	3	
50代	100.0%	43.3%	52.6%	32.0%	51.5%	18.6%	5.2%	5.2%	7.2%	3.1%	
	97	42	51	31	50	18	5	5	7	3	
60代	100.0%	47.8%	51.5%	31.3%	53.0%	14.9%	1.5%	6.7%	10.4%	3.0%	
	134	64	69	42	71	20	2	9	14	4	
70歳以上	100.0%	57.3%	58.3%	24.0%	61.5%	10.4%	1.0%	7.3%	7.3%	5.2%	
	96	55	56	23	59	10	1	7	7	5	

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

9. 男女共同参画に関する用語

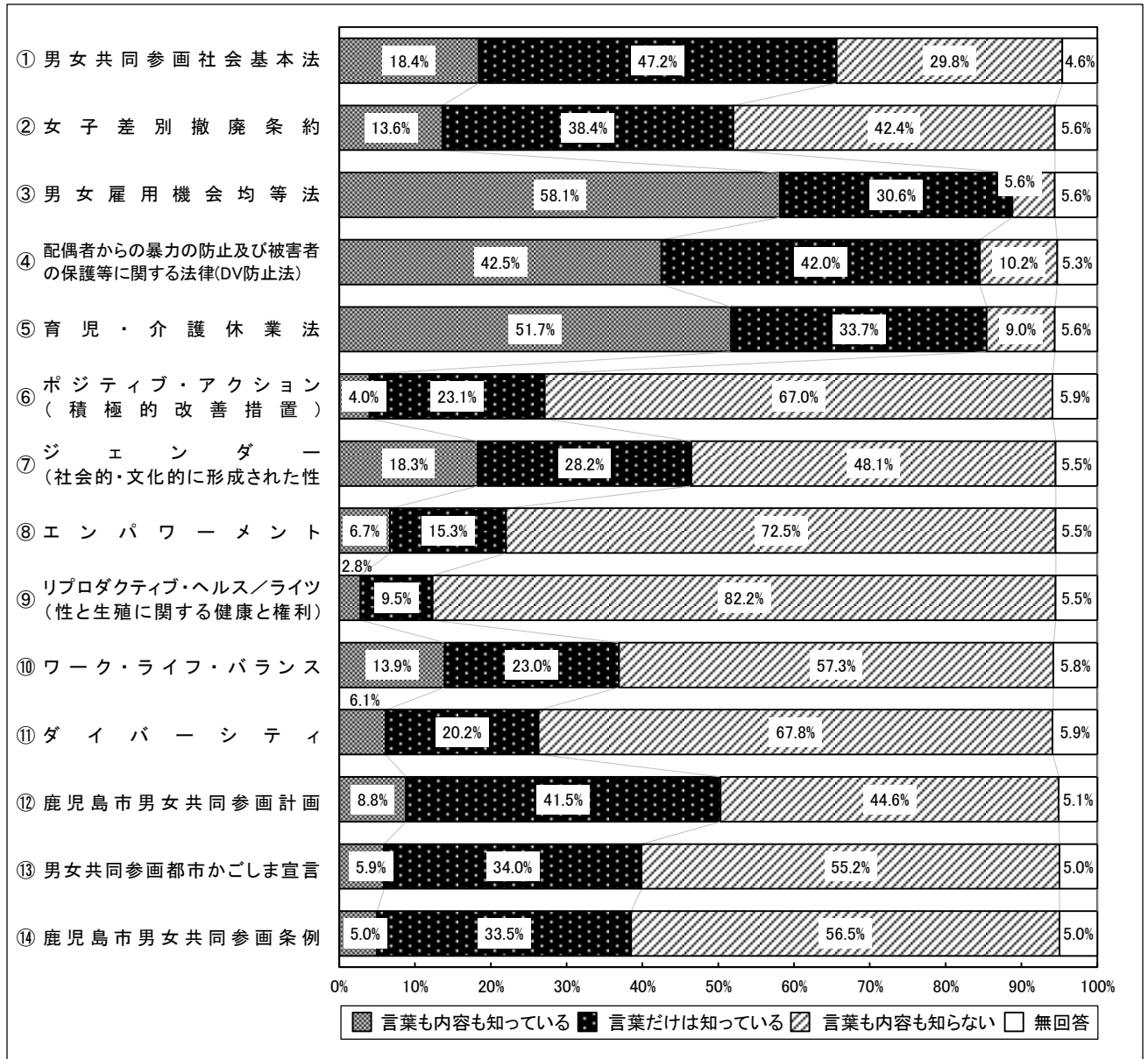
(1) 用語の認知度

【問34】 男女共同参画に関連の深い次の言葉をこれまで知っていましたか。①～⑭それぞれについてお答えください。

男女共同参画に関する用語については、「③男女雇用機会均等法」「⑤育児・介護休業法」「④配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」の認知度が特に高くなっている。

用語の認知度(全体)

(N=1452)

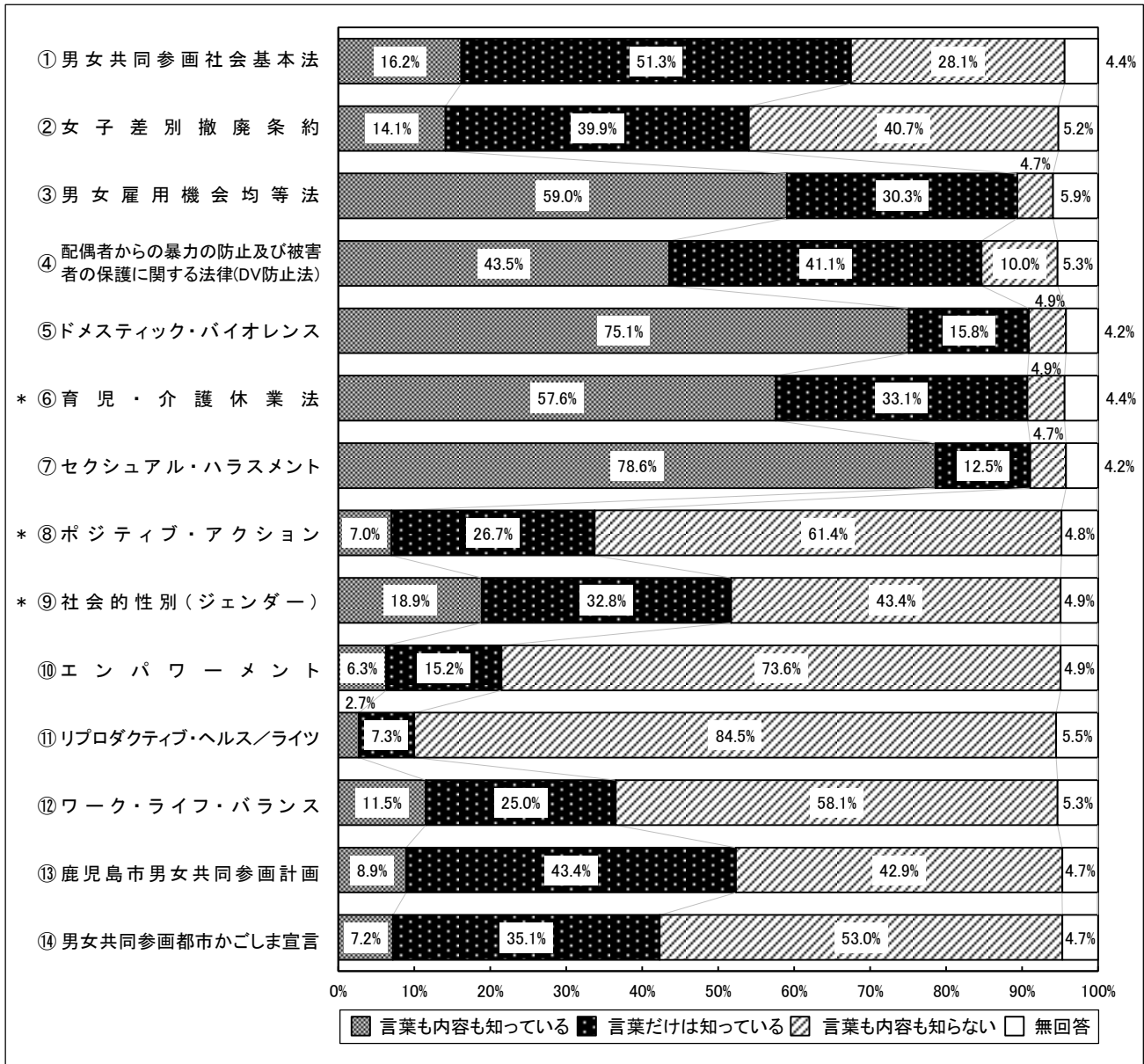


前回調査と比較すると、今回調査では「育児・介護休業法」「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」の認知度が低下している。

【前回調査】

用語の認知度(全体)

(N=1395)



*: 今回調査と有意差あり

用語の認知度(性別) 1/5

	サンプル数	* ①男女共同参画社会基本法				②女子差別撤廃条約				③男女雇用機会均等法				
		知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	
全体	100.0% 1,452	18.4% 267	47.2% 685	29.8% 433	4.6% 67	13.6% 197	38.4% 558	42.4% 616	5.6% 81	58.1% 844	30.6% 445	5.6% 81	5.6% 82	
性別	女性 計	100.0% 817	16.3% 133	47.4% 387	33.4% 273	2.9% 24	13.7% 112	37.3% 305	44.9% 367	4.0% 33	57.8% 472	31.8% 260	6.9% 56	3.5% 29
	男性 計	100.0% 531	21.5% 114	49.5% 263	26.2% 139	2.8% 15	13.4% 71	41.4% 220	41.4% 220	3.8% 20	60.3% 320	30.9% 164	4.1% 22	4.7% 25

用語の認知度(性別) 2/5

	サンプル数	④配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)				* ⑤育児・介護休業法				⑥ポジティブ・アクション(積極的改善措置)				
		知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	
全体	100.0% 1,452	42.5% 617	42.0% 610	10.2% 148	5.3% 77	51.7% 751	33.7% 490	9.0% 130	5.6% 81	4.0% 58	23.1% 336	67.0% 973	5.9% 85	
性別	女性 計	100.0% 817	44.1% 360	43.1% 352	9.5% 78	3.3% 27	56.4% 461	30.2% 247	9.5% 78	3.8% 31	3.2% 26	23.1% 189	69.8% 570	3.9% 32
	男性 計	100.0% 531	42.4% 225	41.8% 222	11.7% 62	4.1% 22	47.3% 251	40.1% 213	8.7% 46	4.0% 21	5.3% 28	24.1% 128	66.1% 351	4.5% 24

用語の認知度(性別) 3/5

	サンプル数	⑦ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)				⑧エンパワーメント				⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)				
		知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	
全体	100.0% 1,452	18.3% 265	28.2% 409	48.1% 698	5.5% 80	6.7% 98	15.3% 222	72.5% 1,052	5.5% 80	2.8% 41	9.5% 138	82.2% 1,193	5.5% 80	
性別	女性 計	100.0% 817	19.5% 159	26.8% 219	50.2% 410	3.5% 29	7.0% 57	15.8% 129	73.8% 603	3.4% 28	2.8% 23	8.7% 71	84.8% 693	3.7% 30
	男性 計	100.0% 531	17.1% 91	30.9% 164	47.8% 254	4.1% 22	6.4% 34	14.9% 79	74.4% 395	4.3% 23	3.0% 16	10.5% 56	82.5% 438	4.0% 21

— % : 各属性内での回答割合が最も高い

* : 性別で有意差あり

用語の認知度(性別) 4/5

	サンプル数	⑩ワーク・ライフ・バランス				⑪ダイバーシティ				⑫鹿児島市男女共同参画計画				
		知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	
全体	100.0%	13.9%	23.0%	57.3%	5.8%	6.1%	20.2%	67.8%	5.9%	8.8%	41.5%	44.6%	5.1%	
	1,452	202	334	832	84	89	294	984	85	128	603	647	74	
性別	女性計	100.0%	13.8%	21.7%	60.5%	4.0%	5.1%	20.6%	69.9%	4.4%	9.1%	42.2%	45.5%	3.2%
	817	113	177	494	33	42	168	571	36	74	345	372	26	
性別	男性計	100.0%	14.3%	26.0%	55.7%	4.0%	7.3%	20.7%	68.0%	4.0%	8.7%	42.9%	45.2%	3.2%
	531	76	138	296	21	39	110	361	21	46	228	240	17	

用語の認知度(性別) 5/5

	サンプル数	⑬男女共同参画都市かごしま宣言				⑭鹿児島市男女共同参画条例				
		知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	知っている言葉も内容も	知っている言葉だけは	知らない言葉も内容も	無回答	
全体	100.0%	5.9%	34.0%	55.2%	5.0%	5.0%	33.5%	56.5%	5.0%	
	1,452	85	493	801	73	72	487	821	72	
性別	女性計	100.0%	5.6%	34.6%	56.3%	3.4%	4.2%	33.4%	59.4%	3.1%
	817	46	283	460	28	34	273	485	25	
性別	男性計	100.0%	6.2%	35.0%	55.6%	3.2%	5.8%	35.8%	55.0%	3.4%
	531	33	186	295	17	31	190	292	18	

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

10. 行政について

(1) 男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきこと

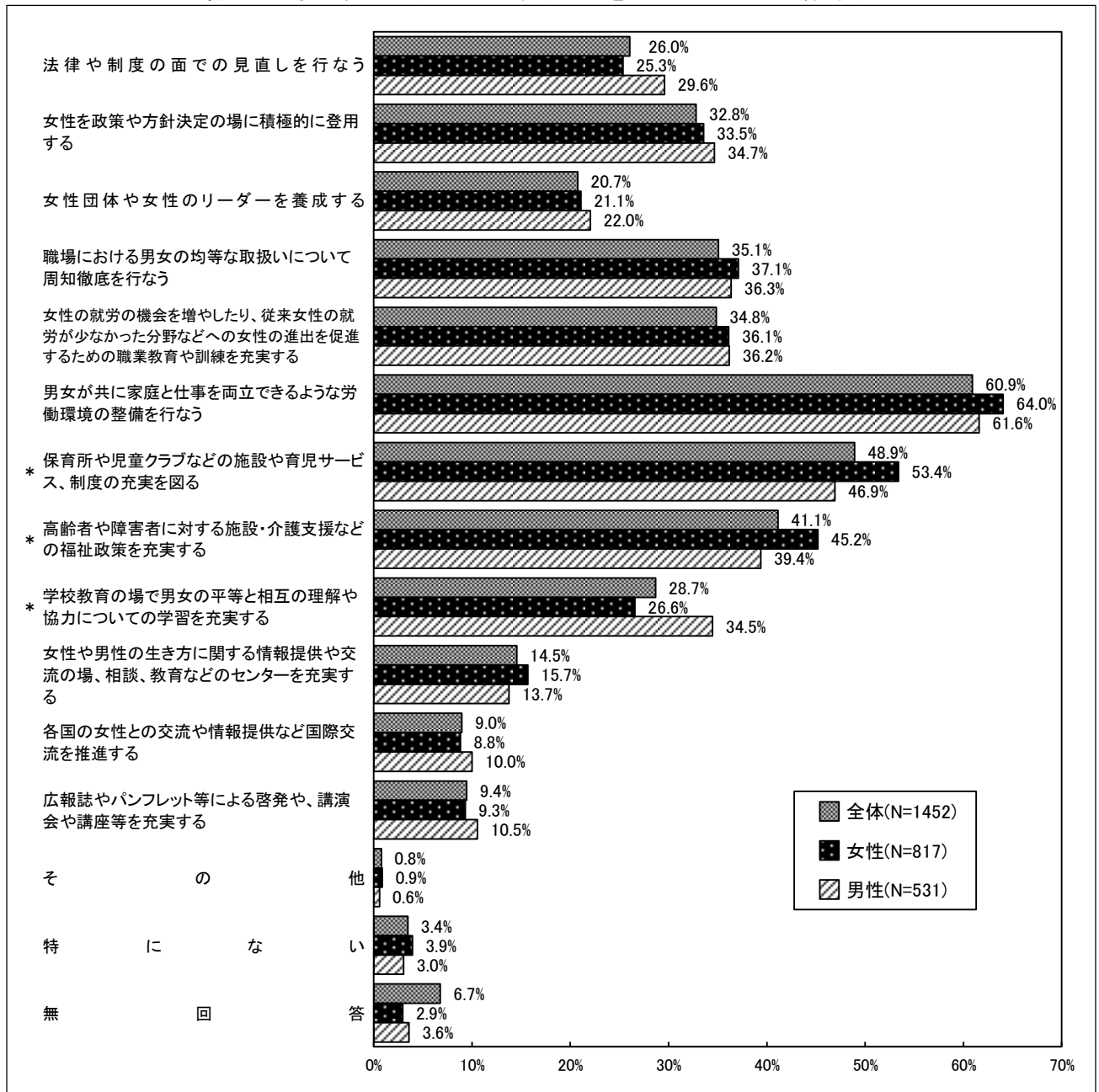
【問35】 「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、行政はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。(複数回答)

～ 労働環境の整備や育児サービスの充実、高齢者や障害者に対する福祉政策の充実が望まれている ～

男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきことについてみると、全体では「男女が共に家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行なう」(60.9%)の割合が最も高く、次いで「保育所や児童クラブなどの施設や育児サービス、制度の充実を図る」(48.9%)、「高齢者や障害者に対する施設・介護支援などの福祉政策を充実する」(41.1%)の順となっている。

性別にみると、「保育所や児童クラブなどの施設や育児サービス、制度の充実を図る」(女性:53.4%、男性:46.9%)、「高齢者や障害者に対する施設・介護支援などの福祉政策を充実する」(女性:45.2%、男性:39.4%)で女性の割合が男性より高く、「学校教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」(女性:26.6%、男性:34.5%)で男性の割合が女性より高くなっている。

男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきこと(全体・性別)



* : 性別で有意差あり

男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきこと
 (性・年代・性別役割分担に対する考え方別)(複数回答) 1/2

		サンプル数	男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきこと								
			う法律や制度の面での見直しを行な	的女性を政策や方針決定の場に積極	する女性団体や女性のリーダーを養成	に職場において周知徹底を行なう取扱い	めな従女性の職業への教育や訓練を充実するた	る男女性の労働環境と仕事の整備を両行なう	育保育所や児童クラブなどの施設や	護高年齢者や障害者に対する施策を充実する	
全体		100.0% 1,452	26.0% 378	32.8% 476	20.7% 301	35.1% 509	34.8% 506	60.9% 884	48.9% 710	41.1% 597	
性・年代別	女性計	100.0% 817	25.3% 207	33.5% 274	21.1% 172	37.1% 303	36.1% 295	64.0% 523	53.4% 436	45.2% 369	
	20代	100.0% 80	26.3% 21	28.8% 23	21.3% 17	41.3% 33	41.3% 33	65.0% 52	62.5% 50	32.5% 26	
	30代	100.0% 134	23.9% 32	37.3% 50	23.1% 31	35.1% 47	39.6% 53	63.4% 85	61.9% 83	35.8% 48	
	40代	100.0% 161	25.5% 41	29.8% 48	18.0% 29	35.4% 57	29.8% 48	63.4% 102	49.7% 80	38.5% 62	
	50代	100.0% 158	30.4% 48	38.6% 61	27.8% 44	42.4% 67	41.1% 65	69.0% 109	59.5% 94	53.8% 85	
	60代	100.0% 180	21.1% 38	31.1% 56	15.0% 27	33.3% 60	32.2% 58	62.8% 113	47.8% 86	49.4% 89	
	70歳以上	100.0% 104	26.0% 27	34.6% 36	23.1% 24	37.5% 39	36.5% 38	59.6% 62	41.3% 43	56.7% 59	
	男性計	100.0% 531	29.6% 157	34.7% 184	22.0% 117	36.3% 193	36.2% 192	61.6% 327	46.9% 249	39.4% 209	
	20代	100.0% 45	31.1% 14	28.9% 13	22.2% 10	46.7% 21	35.6% 16	64.4% 29	40.0% 18	24.4% 11	
	30代	100.0% 62	38.7% 24	21.0% 13	17.7% 11	32.3% 20	27.4% 17	56.5% 35	48.4% 30	29.0% 18	
	40代	100.0% 97	37.1% 36	28.9% 28	14.4% 14	35.1% 34	36.1% 35	69.1% 67	49.5% 48	38.1% 37	
	50代	100.0% 97	29.9% 29	41.2% 40	25.8% 25	38.1% 37	36.1% 35	58.8% 57	55.7% 54	43.3% 42	
	60代	100.0% 134	25.4% 34	31.3% 42	20.1% 27	34.3% 46	35.8% 48	59.7% 80	42.5% 57	39.6% 53	
	70歳以上	100.0% 96	20.8% 20	50.0% 48	31.3% 30	36.5% 35	42.7% 41	61.5% 59	43.8% 42	50.0% 48	
	性別役割分担に対する考え方	『賛成』	100.0% 504	22.2% 112	28.8% 145	21.2% 107	31.3% 158	29.0% 146	56.3% 284	40.5% 204	39.1% 197
		『反対』	100.0% 757	28.9% 219	36.5% 276	22.5% 170	38.8% 294	40.4% 306	66.3% 502	56.0% 424	43.2% 327
わからない		100.0% 175	25.1% 44	29.7% 52	12.6% 22	30.3% 53	30.9% 54	52.0% 91	45.1% 79	38.3% 67	

——% : 各属性内での回答割合が最も高い

男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきこと
 (性・年代・性別役割分担に対する考え方別)(複数回答) 2/2

		サンプル数	男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきこと						無回答
			実の学 す理校 解教 や育 協の 力場 につ いで の平 等と を相 充互	の提女 セ供性 ンやや タ交男 ー流性 をの 充場 実、 相方 すに る関 、 教育 する な情 報	ど各 国国 際の 交女 流性 をとの 推交 進流 するや 情 報 提 供 な	発広 や報 誌や 講演 会や 講座 等を 充実 する 啓	そ の 他	特 に な い	
全体		100.0%	28.7%	14.5%	9.0%	9.4%	0.8%	3.4%	6.7%
		1,452	416	211	130	137	11	50	98
性・年代別	女性 計	100.0%	26.6%	15.7%	8.8%	9.3%	0.9%	3.9%	2.9%
		817	217	128	72	76	7	32	24
	20代	100.0%	23.8%	20.0%	12.5%	2.5%	0.0%	1.3%	1.3%
		80	19	16	10	2	0	1	1
	30代	100.0%	23.1%	11.2%	10.4%	8.2%	0.7%	3.0%	1.5%
		134	31	15	14	11	1	4	2
	40代	100.0%	23.0%	15.5%	5.6%	6.8%	1.9%	4.3%	1.2%
		161	37	25	9	11	3	7	2
	50代	100.0%	31.0%	15.2%	10.8%	10.8%	0.6%	3.8%	2.5%
		158	49	24	17	17	1	6	4
	60代	100.0%	29.4%	15.6%	6.7%	10.0%	0.6%	3.3%	5.6%
		180	53	28	12	18	1	6	10
	70歳以上	100.0%	26.9%	19.2%	9.6%	16.3%	1.0%	7.7%	4.8%
		104	28	20	10	17	1	8	5
	男性 計	100.0%	34.5%	13.7%	10.0%	10.5%	0.6%	3.0%	3.6%
		531	183	73	53	56	3	16	19
	20代	100.0%	31.1%	17.8%	13.3%	6.7%	2.2%	6.7%	2.2%
		45	14	8	6	3	1	3	1
30代	100.0%	22.6%	8.1%	9.7%	8.1%	1.6%	6.5%	0.0%	
	62	14	5	6	5	1	4	0	
40代	100.0%	35.1%	12.4%	6.2%	11.3%	0.0%	3.1%	3.1%	
	97	34	12	6	11	0	3	3	
50代	100.0%	39.2%	15.5%	10.3%	11.3%	0.0%	2.1%	1.0%	
	97	38	15	10	11	0	2	1	
60代	100.0%	33.6%	12.7%	5.2%	9.0%	0.7%	2.2%	6.7%	
	134	45	17	7	12	1	3	9	
70歳以上	100.0%	39.6%	16.7%	18.8%	14.6%	0.0%	1.0%	5.2%	
	96	38	16	18	14	0	1	5	
性別役割分担 に対する考え方	『賛成』	100.0%	29.0%	14.9%	7.5%	9.9%	1.0%	4.0%	7.5%
		504	146	75	38	50	5	20	38
	『反対』	100.0%	30.0%	14.7%	10.6%	10.6%	0.7%	2.6%	4.8%
757		227	111	80	80	5	20	36	
わからない	100.0%	23.4%	13.7%	6.9%	3.4%	0.6%	5.1%	11.4%	
		175	41	24	12	6	1	9	20

1.1. 自由意見

【問36】 男女共同参画に対するご意見やお考えを自由にお書きください。

寄せられた多くの意見の中から、本調査に直接関係のないものや要望、重複意見等を除き、一部を紹介する。

(20代・女性)

- 特に鹿児島県は昔ながらの慣習に縛られているような気がします。結婚したら妻は家庭を支えることに専念するのが当たり前というような感じがします。このことが、晩婚化や少子化等に結びついてくるのだと思います。「区別」と「差別」は全く違うし、性別に優位性は無いのだということをもっと社会全体で広く認識、理解していくべきだと思います。
- 妊娠・出産は女性にしかできず、妊娠期間中は身体的にも精神的にも様々な変化がある。しかし、その変化をパートナーにすら理解されないときもある。それは男性が女性に対して理解力、知識がないからだと思う。学校教育だけでなく、職場でもお互いの「違い」を知る機会をつくって欲しい。今の政治の考えでは女性はたくさん子を生み、そして働けと言われてるようにしか思えない。お金がなく、苦しい生活の中でこれらを女性にだけ求めるのはあまりにも酷だと思う。本当に男女平等にしたいなら、女性が安心して妊娠・出産、そして子育てができ、男性が家族を養っていただけるだけの給料をもらえるような世の中にするのではないだろうか。それが出来ないのなら、男性が子どもを生めるようになる研究をするしかないと思ってしまう。
- 昔からの男女のイメージや慣習・しきたりなどがなかなかなくならないので、男女が平等になるのには時間がかかると思うが、これから働き、結婚・家庭を作る世代としては、男女ともに社会で活躍できる場ができてほしいと思います。
- 今回のアンケートが、先日の県知事の「女の子にサイン・コサインを教えて何になるのか」というような内容の発言を受けてのものなのかと少し考えてしまいましたが、まずは県知事の意識を再度確認させるのが先かと思われます。また、回答内容も意図的に感じられるものが少なからずあったように感じます。男女互いに協力しあうことで、男女互いに活躍の場が広がればと思います。
- 女性は家庭・子どもをもつと、自分自身（女性）もだが、周りからも、女性が子どもの面倒を見るべき、家庭の用事をするべきという考えがあり、どうしても社会中心に生活しにくい環境にあるかと思う。その様な環境・考え方なのに、“女性は家庭があるから…”などと、男性・会社から見られるのは、どうかと思う。女性の意識もだが、男女で子ども・家庭をみる、頼れるサービスを充実し、会社・社会の考えも同時にすすめていかなければ、変わっていかないと感じています。この5～10年は、上記の変化はあまり感じていない。
- 男性が育児休暇など取得しやすくするべきだと思う。
- 法律により、女性も社会で平等に働く機会を設ける動きがあるが、その法律そのものが、女性を優遇した不平等な法律である。国会、政治家、古くから働く年配の方に偏った男女差別が多く感じられるが、世間的には、女性も女性にしかできない観点を見つけ、積極的に社会で活躍している人は多い。法律によって女性が活躍する機会を与えようとする必要は無い。

(20代・男性)

- 男女がいろいろな分野で平等になっていく。女性がいろんな分野に進出することはいいことだと思う。だけど、そういうことだからといって、女性が高圧的な態度や自意識過剰になることだけは防いで欲しい。
- 男性の育児場面での参加を法的にも積極的に行えるようにして欲しい。
- 世の中の目に見える形で女性が高い役職についていれば、世間の人々が男女が平等に近づいていると実感することができ、ますます男女が平等な立ち位置になっていくことができると思います。
- あまり理解しきれていないので、もう少し理解する必要があると本アンケートで思いました。(単に自分のまわりでありあまりそのような状況がなかったこともあって考える機会がなかったんじゃないかと思います)

(30代・女性)

- 私は以前は関東に住んでおり、結婚を機に5年ほど前に鹿児島に引越してきました。比較してしまうと、やっぱり鹿児島は女性にとってまだ働きにくいと感じています。私も実際、就職活動した時に、「新婚で子どもが出来てすぐに辞められると困る」とはっきり言われたことがあります。
- 小学校入学後の放課後や夏休みに面倒をみてくれる施設が無いと、父親、母親のどちらかが負担しないとイケなく、必然的に母親の仕事に影響が出ます。行政には施設の充実を、企業には男性社員の育児への理解の充実を望みます。特に企業においては年齢の高い人ほど、男は仕事という意識が強く迷惑です。今の20～30代の男性にはそういう意識がない人が多いと思います。小学校等でのPTA参加が任意であることを周知して下さい。PTA活動は仕事をしていると参加しづらいし、かと言って参加しないと色々言われそうだし、自由参加であることを皆が知れば良いと思います。
- 社会全体から見ても、会社組織は人が一番長く属しているもので、歴史や慣習が重んじられる傾向が強いと思います。意識調査を行っても、実態や現場を知らずに「当社はまあよくできているよ」という責任者も多いのではないのでしょうか。そのような会社に対して、行政の方々が実態調査、結果提示、指導を行ってくださると有り難いです。経営者が何をしていったら良いのか「経営者のための男女共同参画ガイドブック」を作成し、社員研修、職業訓練助成、女性登用の準備・育児休業の推進、社内交流会企画など、具体的に教えて頂ける資料があると幸いです。考えるだけでワクワク楽しくなります。男女共同参画社会に向けて、私ももっと勉強してみたいと思いました。考える機会を下さりありがとうございます!!
- 男女共同参画において一番大切なのは、男女に関係なく個人が自分の能力に合った働き方、生き方を選べるような社会になることだと思う。そのために行政のサポート(周知徹底など)が必要。女性管理職、女性議員が少ないことが問題になることがあるが、個々の希望や能力もあるので男女問わず平等に同じ機会が与えられていけば問題ではないと思う。(管理職に向いていない人もいるので。女性をムリに増やす必要もない)ただ、女性にはまだまだ消極的な人も多いので、女性も積極的・主体的に動けるように教育することは必要だと思う。
- 男女共同参画という言葉だけが、やみくもに叫ばれているだけのような印象を持っています。男女という性別の違いを重視するのではなく、すべての人が社会に参画するという意思をもつこと。また、その意思を持って活動する人たちを排除することのない社会を作っていく後押しを行政にはしてもらいたいです。
- ただのお飾りである女性トップを増やしても何の意味もないと思う。日本、特に鹿児島は男尊女卑の考えが強く感じる。強制的に数字だけ女性の数を増やしてもその女性の能力、考え方が未来の男女共同参画の意味から逸れていたり、女性の考え、発言が抑制されるような環境システムであったりすると現状は変わらないと思う。意見を聞ける体制を作ること(主に男性)。女性自身が、女性差別を女性優遇と思えないことなく積極的になること。男女ともに「対立」的でなく、「受け入れる」立場をめざすこと。以上3点が大切かなと思う。
- 男女共同参画はこれからの時代、とても重要なものになっていくと思います。身近な媒体(TVや新聞)で具体的な事例を上げてわかりやすく提示してもらいたいです。
- 子どもがいる家庭で女性が働いている場合、仕事も大事ですが家庭優先になります。(病気、学校の休みや行事)そうなった場合に、会社側の反応(職場の方々)の対応や環境が作れていない会社がまだまだ多いと思います。結婚していない方、家で何も無い方は家庭のある女性に対して理解不足な方が多いです。
- 男女といっても考え方や価値観は人それぞれ。性別に固定した制度ではなく、一人の人間として、その時の状況によって変動できるものであって欲しい。完璧な平等化は身体的に難しい。互いを尊重しあうことが大切だと感じる。
- アンケートの内容を見て、男女平等に対する質問に答えながら、男女の差(心身的な)は必ずあるので男性らしさ、女性らしさを活かせる社会づくりがとても大事だと感じた。女性は子どもを生む時期があり、その後の社会復帰の場は大切。男性がリードしながらも女性の声、女性を大切にすることに力を注いで欲しい。
- 男と女の給料の差がない家庭でも、“家事は女”との考えが根強いと思います。実際、私たち夫婦は妻の方が夫よりも給料が良いのに、そのほとんどの家事を妻がしています。“家事は女”という

考えが社会全体に根強く残っており、なかなか夫の考え方を变えることはできません。それは、夫が悪いというよりかは、そういう風潮であること自体に問題があると私は思っております。

- 女性は妊娠や出産などがあり、全て平等というのは無理だと思う。妊娠や出産・育児を経験した人がリーダーや上司になれば、部下や後輩になる女性の気持ちを理解したり、環境も整えてあげられると思うので、女性の妊娠、出産による職離れを減らすことが出来る。結果、能力のある女性が社会で活躍する場が増えると思う。また、女性が安心して働けるよう、保育施設等も充実させる。

(30代・男性)

- 男女共同参画で積極的に女性登用を推進するあまり「女性だから」との理由で登用することは、逆差別になる可能性があると思う。ただ能力が伴っていれば、女性も積極的に登用すべきである。
- 女性が社会で活躍できるようにするためには、子どもが熱を出してしまった時などにお休み出来るような労働環境が不可欠になると思います。また、母親が休めない時は父親が休んで面倒を見るなど、父親の職場にも理解が無いと男女で助け合うことが出来ません。会社は利潤を追求するので、会社任せでは理想的な労働環境を構築することは出来ないと思います。その点では、法律や制度の面で政治や行政に大いに期待しています。
- 男女平等といっても、男は「女だからムリでしょ」と言って差別する。女は「私、女だからムリ」と言って逃げる。一人一人が考え方を変えないとこの問題は周りから動いてもムリだと思う。まず、国の政治の考え方からやり直さないと、国民はついていけないと思います。
- 生活の中で男女の間に差が出ないようにお互い5:5の関係が良いと思います。夫婦の場合は立場で時と場合によって夫を立てたり、妻を立てたり、お互いがやりやすい環境になってほしいと私は思います。
- 男女共同参画に対する鹿児島市の活動や組織があまりにも知られていないように感じます。活動のPR等の機会や媒体を増やしてはどうでしょうか。
- 乳児や子どもを一時的にでも預かって下さる場所がもっと増えたら仕事の両立や家庭内での育児ストレスの減少に繋がると思います。実際あったとしても、その場所を知るツールが男性側に分かれば提案もできるし、夫婦の時間を作ることができると思います。嫁が知っていても夫が知らない提案しにくいし、こちら側としても協力しづらいので。
- 男女平等、均等とは何でしょう？それぞれ男女の性格および体格が違い、同じにする事は無理に近いと思います。平等、均等を望まない人もいると思います。
- 女性優遇も度が過ぎると、男性の立場が低くなると思うので、注意が必要だと思う。

(40代・女性)

- 昔のような男尊女卑は良くないが、男性らしさ、女性らしさの部分は大事にしていけたらと思います。
- このアンケートが意味のあるものになるよう願っています。家庭でも、職場でも、男女平等は難しいことだと思います。出来ることがお互い違うから、どうしても偏りが出ると思います。まずは、女性を見下す事を言う人間を改善すべきかと思います。女がやれば、女のすることだ、などと口走る人間がいては男女平等など無いでしょう。ただ、父子家庭に関しては、もっと家庭的な援助・助成すべきだと思います。大変なのは、母子家庭だけではありません。子育てもお金があつてこそです。宜しく願います。
- 女性は妊娠、出産で体力を使い、体質が変化したりするので男性と同等に社会参加は出来ないと思います。(あまり影響を受けない女性もいますが) 子育ても我が家の場合は主人の残業時間が長く、平日は協力出来ませんでした。保育園の頃はフルタイムで仕事を続けていましたが、小学校入学を機に子どもの帰宅時に家にいてあげたい事や、行事の参加など考えパート勤務になりました。共働き世帯が増え、大切な子育てが蔑ろになっては子供達がかわいそうです。健全な育成が出来ないと思います。男性は就労時間が長いと仕事だけで疲れてしまい、家事や育児まで出来ないと思います。結局、女性が仕事・家事・育児を頑張るしかなく、平等には行かないと思います。日本人は働きすぎなので、ワークライフバランスが改善されればもっと豊かな生活が送れると思います。

- 「女女格差」も存在する。女性リーダー達の構成（既婚、未婚、子あり、子なし）によってパワーバランスが出来上がる現実は少なくない。単にリーダーとなる女性人数を増加するだけでなく、理想とする女性のリターン像、ロールモデルを明確にし（モーレツ女性職員がそうならないように祈る）教育することが最も優先されるべき課題だと思う。女性リーダーが複数いる場合には、既婚、未婚を同率にする等の配慮は必須。
- つい最近もこの県内であったことなのですが女性軽視と捉えられる発言問題がありました。すごく残念で怒り心頭です。このような発言（女性に難解な専門的学術を教える必要があるのかといった旨）はこれまでの事例を見ても分かる通り大問題となるのは明白な筈です。なのに何故発言する側は理解していないのでしょうか？ましてや立場上、自分の発言が世に与える影響がいかなるものかを考えて然るべきではないのでしょうか？鹿児島はただでさえ「男尊女卑の国」と叩かれているのに…男女共同参画の思想や活動は立派だと思いますので、上の立場の方から先ず手本となるような行動を示して頂きたいものです。
- 地域には青年部や子ども会と同様に婦人部とか婦人会というのがあります。これが女性の意識を「いわゆる女性の役割（昔ながらの）」に固定してしまっている元になっているような気がしてなりません。何か行事がある度に婦人部が湯茶の接待を率先してやっていることが、男女の役割差別を助長しなかなか無くせなくしていると思います。女性だから、婦人部に所属しないとイケないという暗黙のルールもストレスの一つです。男女が真に平等である社会を目指すなら、婦人会は必要ないと思います。
- 男女平等は全てを平等にする。という考えでいくのは違うと思います。会社や政治などは能力があれば平等の立場にあるべきだと思いますが、男女は基本性別が違うので平等になれるはずがない、と私は思います。子どもは女性にしか産めません。でも育児ができない女性もいるので、男性が育児しやすい環境づくりも必要だと思います。ケースバイケースで進めていくことが良いと思います。
- 本当に、女性が社会へ進出することが女性の幸せに繋がるのでしょうか？仕事をして、家事・育児をして自分の時間もあまり持たず、子どもの成長も十分に見られず、子どもに寂しい思いをさせ、でも子供の教育のため、少しの贅沢のため、将来の年金のため、頑張っている。昔のように、終身雇用できちんと昇進できて男性が一人で家族を養っていきけるだけの収入が得られれば、家事くらいは頑張って子どもの近くで子どもの成長をじっくり見られるのにとします。もちろん働きたい女性が働きたい社会になった方が良いと思いますが、そのことにより「働かない」という選択をしづらくなっている気がします。女性が働きやすい社会よりも、男性が十分稼げる社会にして欲しいと思います。
- 男女問わず、得意分野とそうでない部分があると思います。「男性でも家事、育児をメインとされる方や、女性で仕事を優先したい方」の個性や意思を反映できる社会になるといいなと思います。
- 鹿児島は特に県民性なのか、男性よりも女性の方が「女性は社会的に活動することを「良い」としない」傾向にあると思う。「さつまおごじょ」という言葉は嫌いです。

(40代・男性)

- 世の中の考え方と逆行するかもしれませんが、男女共同参画が進むほど結婚が遅くなり、少子化に繋がる悪循環のような気がします。職場によってはこの法律によって女性の入社が増えるものの、体力や体調の問題で仕事が制限され、結果比較的容易な仕事のみを女性に対応し、男性の作業量が目に見えないスピードで増加していると思う。まずは働く職場によって導入が望ましいと思う。
- まず、女性がはたらきやすくする制度。託児設備、介護設備を早急に準備することが先決。多少税金が上がってもしかたないのではないかな。
- 個々への認識度向上の施策が必要であると感じます。意識が変われば、行動も変わるとします。
- 性別の違いで差別するのは良くないことだが、男と女とは身体的、思想的に差があること、違うということを差別ではなく差違であることを理解しないとイケないと思う。また、教育の場でも指導が必要だと考える。差別ではなく、異性に対し異性としての敬いが必要だと思う。

- このアンケートの質問や回答に偏見があると感じました。社会の制度では女性のほうが優遇されていると思います。女性の社会進出は、本人の考え（本人次第、能力）であると思います。もちろん女性の社会進出はたいへん良いことだと思います。男性、女性に関係なく適材適所で能力を發揮できれば良いと思います。
- 県のトップがあのような発言（素直に謝る姿を見せて欲しい。こどもの教育に悪影響である）を、男女共同参画が推進できるのか疑問であり、鹿児島県の恥である。口では男女平等といっても話していく中で本音が出るもので人の心にあるものはなかなか変えられないものだと思うが、いろんな場で男女共同参画を推し進める必要があるのではないだろうか。
- メディアにおいても政治においても男性が主となる場面がほとんどである。いくら男女平等といわれてもそういう場面を幼児期から見ているとどうしてもそのような考え方が意識づけされ、「男尊女卑」ではないが「男高女低」に近い考え方が根強く残っていると思います。

(50代・女性)

- 教員が管理職になった場合の男女の不平等性を解消して欲しい。
- 女性はただでさえ、育児・家事等忙しいのに、身近に不幸があった時にさえ、男性が仕事を休めないです。遺品整理や手続き等、全部のしかかってきます。役所などの手続き等は女性の方が多いと思います。息子の職場でさえ、そういう休みが取れません。もう少し、男性の職場有休等、考慮していただきたいです。
- H27.8.27に「サイン、コサイン、タンジェントを女の子に教えて何になる？」と発言した我が鹿児島県知事の、男女平等理念に真っ向から反対する発言に只々驚きました。このような人が行政のトップでいらっしゃる事が根本的な問題だと思いました。「女性」という性をひとくくりにしてることが差別で、時代錯誤だと思いました。残念な本心でした。
- わざわざ女性を議員に、管理職に、職場のリーダーにすることは無いと思います。男女を問わず同じ能力を持っているのなら双方に同等の役職や地位を得るチャンスを作り、適格であるなら登用すれば良いことだと思います。ただ、どうしても女性には子どもを産むという大切な役割があります。出産してからもいろいろ大変ですが、お腹にいる期間も子育ての時期に含めて欲しいと思います。男女共同参画社会、とても素晴らしいことですが、子育てはお母さんだけでなくお父さんにもできますが、妊娠・出産は残念ながら女性にしか出来ません。そのことが社会的に不利になることだけは避けていただきたいと思います。ただ…ここ鹿児島では今はそんな事ないよと言われますが知事の発言でもあるように男尊女卑の考え方が根底にまだ一部あると痛感しています。
- 男性・女性それぞれ役割はあると思うが、お互いに対「人」という意識改革が必要だと思う。
- 男だから、女だからという考え方に囚われているうちはダメだと思います。一人一人が家庭で、職場で、社会で自分の役割を考え、自分のやるべきことを課していくことが本当に生きやすい社会になっていくと思います。
- いろいろ勉強不足で、実態が分からない部分もありますが、無理やりに何でも「女性を女性を」と言われている感じがしています。全ての事に平等である必要があるのだろうかと思っていて、主に男性ならではの部分はあります。主に男性がした方が良いことは男性、女性がした方が良いことは女性、どちらでも良い事について、そこで男女の差をはじめからつけることなく、個々の能力で当たり前のように参加すれば、出来れば良いとおもいます。そういう偏見の無い世の中、これまでの歴史的な意識、社会通念を変えていき、個人の才能が、自由に發揮できるようになれば良いと思います。今は少しずつ、それに向かって行く途中なので、多少の無理な登用があるのかなとも思いますが、登用された方が、男性には負けない！！とばかり、肩に力が入り、どうも、女性を登用したにも係らず、男性の様な物言いであったりする場面を見る時、登用された方の考え方の中に、女性であることの大切さを無くさないで欲しいと思います。

(50代・男性)

- 男女の差別は良くないが、「男らしさ」「女らしさ」という教育は必要だと思う。

- 企業による「男女共同参画社会の実現」への取り組みが不十分であると感じます。その理由を「経営不振のため」とするが、こういった企業への実態調査、促進策をとるべきと考えます。働きたくても働けない実態もありますので、雇用の確保策を講ずる事も必要だと考えます。
- 男性は男性の役割、女性は女性の役割を心得、相互に尊重することが全ての問題を解決できる。親の教育、学校、社会の教育が相互を尊重する人間を育てる。
- リーダーに男女は関係ないと思う。現状では適性があってもリーダーとなって働いて欲しくても、育児や介護で働けない方が多いのではないかと感じています。育児や介護に対するサービスの充実が第一かと思います。老人ホーム不足、保育所（共働き家庭でも預けられる）放課後児童デイサービスの不足等、行政にできていない所を考えたいところです。まずは公務員の職場に保育所を作ると（私企業大手にも協力を求めながら）私企業も例にならうのではないのでしょうか。課税や減免措置等は必要でしょうけれども。
- 学校教育の場とか、PTAに関する考えがあります。私は男でありながらPTAに参加してきましたが、99.9%が母親です。父親は父子家庭かシフト制の仕事の方だけで変な目で見られます。鹿児島市の男性職員が全員、通常の（日曜参観は不可）PTAに参加すると良いのですが、結局仕事で出席できないと言われるだけだと思います。アンケートより、自分たちの行動が先だと思います。
- 単なる平等はかえって不平等をもたらす。身体的に異なるので、女性を考慮した平等にすべき。このままの平等はかえって少子化というさらに重要な問題を生じる。
- 「男性」「女性」ではなく、一人の個人（人間）として捉えられるような社会のシステムになっていけば良いと思います。
- 本県の保守的な状況や、慣例の様相により、全国や国際的レベルでの改善は難しい面が多いと思われる。同時に、女性の中にも男性に任せることを限定することで、ステータスを保つという考え方が未だ根強いようにも思う。ただ、個人的には、性差別的要素の問題点が、様々な面で歪曲されて、自己都合を主張する理由に利用されている状況が少なくないと考えている。男性・女性のそれぞれの特性を活かすことの大事さも、今だからこそ考えるべきだと思っている。
- 女性参画を推し進める上で、女性自身がパートだから、夫がいるからといった意見が多い。女性の意識改革も必要だと強く思う。

(60代・女性)

- 保育所を増やしてほしい（病児保育付）・配偶者控除の廃止を希望します。中高生に働くことの大切さの授業をする。（正社員として）納税の意味、健康保険や年金等、社会人としての権利と義務の教育・大切さを知ってもらおう。（社会保険に関することを知らない若者が多いです。）働きがいがあり、夢のもてる社会にしていきたいです。
- 昔と比べれば、かなりの女性進出がなされていると思うがその事が女性の男化、男性の女化の増加要因になっているような気がする。性的に両性の方の存在はもちろん認めた上であくまでも女性として、男性として、平等に参画できることが理想で、女性を忘れて、家庭を忘れての参画ではない。お茶出しは女性がする、という決め方ではなく、この場ではあなたにお茶を出して頂いたほうが場も和むし適切だから、という理由で決めれば良い。男女平等というのは、男らしさ、女らしさを失くすことではない。その意識の教育が必要だと思う。
- 女性が発言しやすい環境を作ることが一番求められていると実感します。
- 女性、男性問わずお互いを認め合える立場の人になって欲しいものです。能力がある人には活躍できる場を提供して欲しい。
- 女性団体や女性のリーダーを育成するだけでなく、そこから活用と育成をしていかなければ何もならない。行政の例も具体的にどのようなポジションに育成リーダーをあてたいのか。リーダーがみつければ目的地点にまで到達させる目標を具体的に持つことが大事だと思う。烏合の衆あつめでは意味がないのでは？そして大事にしたいのはあくまで行政の手足となるリーダー探しではなく、市民の女性の代表者を育ててくださることを希望します。
- 男女は身体的、生理的な差があることは事実なので、まったく同じようにはできないと思う。それを認識した上で、お互いを尊重しつつそれぞれの特性を活かしたことができれば良いと思う。

- 仕事をしている時、常に男性上司のみ。女性が発言すると、会では理解したふりしていましたが、いざ発表されるときは1割ほどしか取り上げられなかった思いがあります。この機会を大事に男女均等の教育、社会環境を充実したものにと切に願っています。
- 夫婦で働かないと生活できない時代です。子どもも産んでもらわないといけないので育児サービスを充実させてもらいたい。

(60代・男性)

- まず女性の経済的自立をはかる行政。その次に圧倒的に女性が多い「非正規雇用」というシステムをなくし、均等待遇の実現（短時間就労ふくめて）。充実したセーフティネットの整備（病気、失業、家事都合などに対応）。
- 鹿児島は、男尊女卑が根強くあり「おなごは黙っている」「口出しするな」「おなごのくせに」「おなごはでしゃばんな」を耳にすることがあります。男性におかげ様、感謝の念がないかと思われまます。一人で生きていくことは片時も出来ない我々人間チンケなプライド、自尊心は妨げです。また、世間体と妬みの根強さも鹿児島の発展の妨げの一因と考えます。
- 男女共同参画社会は、10年前からすると随分改善されて良くなってきている。男女平等と言っても性別的な特徴があるのでその利点を活かした社会が望ましい。近年は女性が参加する施策が多く取り入れられているが、この程度で十分と考える。
- 男女がお互いに理解し、各種リーダー等が男女ハーフハーフになるような社会が実現したら良いと思います。
- 女性は随分積極的に行動するようになったが、時に控え目過ぎる（それを美德とする）女性自身が居る。
- 各分野に区別なく男女が同じ立場で参画するため、今までの概念をそれぞれが取り払うことが大切と思う。これは、男の仕事・女の仕事などどちらかがやれる、やる気持ちになること。また周りの人がそう思わない社会になることがいい。
- 高齢化とともに労働環境が変化していく中で女性の社会進出は必須だと思います。そのための環境整備を期待しています。
- 女性自身が意欲を持つような環境になればと思います。一方では男性に負けてなるとばかりに頑張りすぎている女性も見かけました。力まずに役職がこなせるような状況になって欲しいです。
- 女性が社会の中で男性同様に認められ、処遇されることは大切だと思います。まだ具体的な内容が足りないと思います。女性が活躍できるよう、能力開発、自覚、責任を育成し、良い所だけをとるのではなく、現社会が受け入れやすい状況を作り皆で育てていかないといけない。男女平等は当然重要な事です。内容が伴わないといろいろとともに負担になることもあると思います。
- 女性をもっと勉強して一人前になること。

(70歳以上・女性)

- 子どもができたらどちらかが専業として10年ぐらいは仕事をやめて、家事・育児にゆとりを持って携わって欲しい。子供もしっかり愛して育てるほうが社会にとって大切だと思う。その後、復職すれば良いと思う。女性の出産・育児は大きな社会貢献である。男性もこの点をよく理解し、感謝し、尊重すべき。家庭円満に繋がる。独身で働きたい女性については男女共同参画社会が必要。
- 男女共同参画という言葉は随分前から聞いております。地域の中で行事等に参画して意見を言い合い、お互いに納得して行事を遂行していつている状態ではあるが女性の参加が少ないのが現状である。
- 男女共同参画、この言葉は知っていましたが用語解説で基本法・条約等知りました。このような人が多いのではないのでしょうか。
- 優秀な女性がそれ相当の評価を受け、活躍できる世の中になるようにしたら良い。男性から見た評価だけではなく女性の評価。
- 男女共同参画社会は、良い事ですが、お互いに特性がありますので、それを尊重した上での個性と能力が発揮できる社会が望ましいと思います。男性に負けるものかという気持ちはあまり好ましくありません。

(70歳以上・男性)

- 今後、日本がさらなる発展を望むのであれば女性の社会進出を促しこれを成功するための法律等を整備すべきである。
- まず第一に女性の自覚と、女性が参画するという積極性が必要。いくら男女共同参画と言っても参画する意思を女性自身が持ち要求する必要がある。
- 男女共同参画社会基本法については、実に時代にあった基本法だと思います。「男子厨房に入らず」では無いですが、たしかに男社会であったことは否めません。先進国（日本も先進国と呼ばれていますが）のあらゆる情報、テレビ等による報道を見ているとまだまだ人権等に関しては遅れているように思います。今後は一步一步地道な活動により、より良い社会になっていくことを願ってやみません。
- 男女の差別についてはほとんど無いように感じる。ただ、男女の体力差はあるので仕事内容の差などは仕方ない部分もあると思う。

(不明)

- 男女の個性・特性を十分考えるべきで、男も子どもを生めごときの考えは良くない。子育ては社会にとって大変重要なこと、社長や課長になるより大事な仕事である。
- 女性が社会に進出し、男女の差なく能力を発揮することはすばらしいことです。大いに賛成です。ですが、社会に女性が進出するにあたっては、女性は女性としての持って生まれた、優しさやしなやかさ、美しさ？という特性を失わず男性に負けない責任ある仕事をしてもらいたいと思います。例えば、職場において、男女平等ということで時に男性がお茶を出し、女性の管理職はふんぞり返っている姿はどうもいただけない。お茶はやはり、優しさを持った女性が出してくれた方が仕事もスムーズに行きます。（お茶くみだって立派な仕事と思います）また、男女共同参画と直接関係ないと思いますが、女性の喫煙の多いこと。特に子育て中の喫煙が子どもに与える影響を考えて欲しいし、たばこを啜るの運転等、目に余るものがあります。何も男女同権だからといってこのようなことまで同権でなくても良いと思う次第です。
- 妊娠、出産後も安心して働けるような体制づくりが必要。配偶者が朝早く仕事に行き、夜遅く帰ってくると結局、家事育児は全て女性がしなければならず、働きたくても働けない。小学校の児童クラブも定員オーバーになると入れない。小4からは児童クラブに入れず、一人でお留守番は難しい。働きたくても働けない。家族（祖父母）の協力が得られる人でなければ働けないのが現状です。働きたいのに働けない人がたくさんいます。
- 色んな面で、社会全体的にまだまだ男性主導の機運が残っており、これからは、女性のリーダー育成、教育等を官民一体となって推し進めていく必要があると思います。
- 性別による区分にこだわっている時点で違和感がある。むしろマイノリティに対する対応、声をどう拾うかを議論すべき。性別による、身体的構造（脳など）もあり、向き不向きがあるはず。男女の参画はおそらく管理職や役員の数や割合等で計られるため、目的を達したいのなら条例等できめたらどうか？多様な声を反映できる政治を期待したい。
- 法律や会社で制度をつくっても無理やりに思う。社会慣行が変化しなければ、理想論のみになると思う。男性が育休を取得しなければ、降格や減給や人事評価に対してマイナスになるなど、社会慣行が無理やり変化するような政策を期待する。
- 男性の意識の改善として、社会・地域活動に参加する様にする。家事・育児を積極的に行うなど、今までの通念を越えた活動をしなければならない。それと同時に女性も仕事に参加し、責任のある役職を経験し、新しいことに挑戦し、社会の大きな部分に貢献する意識が欲しい。（身近にいる女性は、比較的に就労の意識が低い人が多い気がする）
- 子供への教育は大事。家庭で、父も母も一緒に家事をしたり仕事をしたりする姿を見れば、この姿が当然と思うはず。学校ではよく教育して頂いていると思う。家庭での夫婦のあり方がこれかの時代を担うと思う。

第 3 章

資 料

だんじょきょうどうさんかく
男女共同参画に関する市民意識調査

調査ご協力をお願い

日頃から、鹿児島市政に対しましてご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

本市では、男女が対等なパートナーとして、お互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現をめざして、鹿児島市男女共同参画計画を策定し、様々な取組を進めています。

今回、市民の皆様のお考えや生活の実情などを調査させていただき、今後の男女共同参画の施策に活かしてまいりたいと考えております。

この調査は、市内にお住まいの20歳以上の方の中から無作為に選ばせていただいた3,000人の方にお願いしております。調査の結果はすべて統計的に処理いたしますので、ご回答くださったことをご迷惑をおかけすることは一切ございません。

ご多忙のところ恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。
平成27年9月

鹿児島市長 森 博幸

<ご記入にあたって>

<注意事項>

- 調査票は無記名でご回答ください。調査の結果はすべて統計的に処理し、個々の内容を公表するものではございません。ご回答くださった方にご迷惑をおかけすることはございませんので、お考えや実情をありのままにお答えください。
- 調査票は封筒のあて名の方ご本人がお答えください。
- 回答については、特別に指定がない場合、それぞれの質問項目ごとに該当する番号に○印をつけてください。また、お答えが「その他」に該当する場合は、その番号に○印をつけ、()の中になるべく具体的にご記入ください。
- ご記入後、お手数ですが三つ折にして、同封の返信用封筒（切手不要）にて、**9月25日（金）まで**にご返送ください。

※この調査票の内容についてのお問い合わせは、下記にお願いします。

鹿児島市 市民局市民文化部 男女共同参画推進課

電話：099-813-0852

FAX：099-813-0937

メール：danjokyodo@city.kagoshima.lg.jp

調査（調査票回収）委託機関：アシスト株式会社

電話：099-243-6776

FAX：099-243-6673

《男女平等意識についておたずねします》

問1. 男性と女性は憲法上では平等となっていますが、次にあげる①～⑦の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	平等 になっている	不平等 な点がある	どちら ともいえない	わから ない
① 家庭で	1	2	3	4
② 職場で	1	2	3	4
③ 学校(学校教育)の中で	1	2	3	4
④ 地域社会の中で	1	2	3	4
⑤ 政治の場で	1	2	3	4
⑥ 法律や制度の上で	1	2	3	4
⑦ 社会通念や慣習、しきたりの中で	1	2	3	4

問2. 社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。(○印は1つ)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 男性の方が非常に優遇されている 2. どちらかといえば男性の方が優遇されている 3. 平等 4. どちらかといえば女性の方が優遇されている 5. 女性の方が非常に優遇されている 6. わからない |
|---|

問3. 問1で「不平等な点がある」、問2で「1. 2. 4. 5.」のいずれかを選んだ方におたずねします。その主な原因はどこにあると思いますか。(○印は3つまで)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 男女の役割に対する考え方 2. 身体的・生理的な差 3. 男性・女性の性別にまつわる偏見 4. 社会的な慣行・しきたり 5. 女性の理解不足 6. 男性の理解不足 7. 法律や制度 8. その他(具体的に:) 9. わからない |
|---|

問4. 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが重要であると思いますか。(○印は3つまで)

1. 法律や制度面の見直し
2. 女性／男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し
3. 女性の経済力の向上
4. 女性自身の自覚と知識・能力の向上
5. 女性の政治・職場・社会活動への積極的な参画
6. 企業や政府などの重要な役職への女性の登用
7. 家庭・学校での男女平等教育の充実
8. 職場内での男女平等処遇の徹底
9. 男性の理解や協力
10. 女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実
11. その他(具体的に: _____)
12. わからない
13. 特になし

問5. 現在の法律では、夫または妻のどちらかの姓を選び、夫婦は同じ姓を名乗るようになっていますが、「夫婦は同じ姓を名乗る」か「別々の姓を名乗る」か選択できるようにすることについてどう思いますか。(○印は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. そうすべきだと思う | 3. どちらともいえない |
| 2. そうすべきでない | 4. わからない |

《家庭生活についておたずねします》

問6. 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○印は1つ)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

問7. 問6で「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。(○印はいくつでも)

1. 男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから
2. 家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから
3. 子どもの頃からそうした教育をされているから
4. 女性は仕事を持っても不利な条件に置かれるから
5. 男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから
6. 社会全体にそうした風潮があるから
7. その他(具体的に: _____)

問8. 日常生活における役割分担についておたずねします。

(1) ①～⑧について、あなたの理想とする分担をお答えください。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	女性が主	男性が主	男女同程度	その他の人	わからない
① 生活費を得ること	1	2	3	4	5
② 炊事、掃除、洗濯などの家事	1	2	3	4	5
③ 育児や子どものしつけ	1	2	3	4	5
④ 子どもの教育方針や進学目標の決定	1	2	3	4	5
⑤ PTA への参加	1	2	3	4	5
⑥ 家族の介護	1	2	3	4	5
⑦ 近所づきあい	1	2	3	4	5
⑧ 町内会や自治会などへの参加	1	2	3	4	5

(2) 結婚している方、結婚してはいないがパートナーと暮らしている方におたずねします。

①～⑧について、実際にあなたの家庭では主にだれが分担していますか。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	女性が主	男性が主	男女同程度	その他の人	誰もしていない	わからない
① 生活費を得ること	1	2	3	4	5	6
② 炊事、掃除、洗濯などの家事	1	2	3	4	5	6
③ 育児や子どものしつけ	1	2	3	4	5	6
④ 子どもの教育方針や進学目標の決定	1	2	3	4	5	6
⑤ PTA への参加	1	2	3	4	5	6
⑥ 家族の介護	1	2	3	4	5	6
⑦ 近所づきあい	1	2	3	4	5	6
⑧ 町内会や自治会などへの参加	1	2	3	4	5	6

問9. 男性が家事、育児などをする事についてどう思いますか。(○印は1つ)

- | | |
|--|---|
| 1. 男性も積極的にする方がよい
2. 男性もできるだけする方がよい
3. 男性はあまりしない方がよい
4. 男性はやるべきでない
5. その他(具体的に: |) |
|--|---|

問10. 現在、家庭での高齢者介護は、多くの場合女性が担っていますが、これについてどう思いますか。

(○印は1つ)

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 当然だと思う | |
| 2. 現状ではやむをえない | |
| 3. 夫や息子など男性も分担すべきである | |
| 4. その他(具体的に: _____) | |
| 5. わからない | |

問11. 生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度についておたずねします。

(1) あなたの希望に最も近いものはどれですか。(○印は1つ)

- | | |
|------------------------------------|--|
| 1. 「仕事」を優先したい | |
| 2. 「家庭生活」を優先したい | |
| 3. 「地域・個人の生活」を優先したい | |
| 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい | |
| 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい | |
| 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい | |
| 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい | |
| 8. わからない | |

(2) それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか。(○印は1つ)

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1. 「仕事」を優先している | |
| 2. 「家庭生活」を優先している | |
| 3. 「地域・個人の生活」を優先している | |
| 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している | |
| 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している | |
| 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している | |
| 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している | |
| 8. わからない | |

問1 2. 今後、男女がともに家事や子育て、介護、地域活動に積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印はいくつでも)

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
4. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること
5. 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を充実すること
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及させること
7. 夫婦や家族でのコミュニケーションをはかること
8. 子どもに対して、性別に関わらず家事などを積極的に行うようなしつけや育て方をすること
9. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行なうこと
10. 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
11. 特に必要ない
12. その他(具体的に: _____)
13. わからない

《社会活動・地域活動への参加・参画についておたずねします》

問1 3. あなたは現在、次のような活動に参加していますか。(○印はいくつでも)

1. 町内会・自治会の活動
2. 女性団体や老人クラブなどの団体活動
3. PTA や子ども会などの青少年育成活動
4. レクリエーションや趣味、スポーツなどのサークル活動
5. 市民講座、教養講座などの講座受講
6. ボランティア活動
7. 消費者活動、住民活動
8. 政治活動、労働運動
9. 職場や学校のグループ活動
10. その他(具体的に: _____)
11. 特にない

問14. 特に、女性が社会活動・地域活動に参画していく上ではどのようなことが必要だと思いますか。
 (○印は3つまで)

※ 参画とは、単なる参加ではなく、より積極的に意思決定過程に加わるという意味です。

- | | |
|-----------------------------|---|
| 1. 女性も積極的に役職に登用する | |
| 2. 女性が発言しやすい雰囲気づくりをする | |
| 3. 男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする | |
| 4. 活動するための施設等を整備する | |
| 5. 女性の地域活動に対する家族や周囲の理解を促進する | |
| 6. 接待や後片付け等を女性の役割としない | |
| 7. 女性リーダーを育成する | |
| 8. 活動する上で必要な情報を提供する | |
| 9. 資金的な援助を行う | |
| 10. その他(具体的に: _____) |) |
| 11. 特に必要ない | |
| 12. わからない | |

《就労についておたずねします》

問15. 女性の仕事についてのあなたの考えをおたずねします。自分の理想と現実において、あなたの考えに一番近いものは1～7のうちどれですか。なお、男性の場合はあなたのパートナー(いない場合はいると仮定して)についてお答えください。

① 自分の 理想	② 現 実	※各項目ごと縦に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)
1	1	結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける
2	2	子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
3	3	子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
4	4	子どもができたら仕事はやめる
5	5	結婚したら仕事はやめる
6	6	仕事はもたない
7	7	わからない

↓
問16へ

問16. 問15の「②現実」で、2～6を選んだ方におたずねします。その理由は何ですか。

(○印はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1. 家事・育児に専念したい(したかった)から | |
| 2. 保育施設等が充実していない(いなかった)から | |
| 3. 夫や家族の理解が得られない(得られなかった)から | |
| 4. 職場の慣行や雰囲気です仕事を続けることはできない(できなかった)から | |
| 5. 仕事と家事・育児の両立は大変だ(だった)から | |
| 6. その他(具体的に: _____) |) |

問17. 働いている方(パートタイマー、派遣、アルバイトをしている学生も含む)におたずねします。

あなたの職場で現在次のような男女格差がありますか。該当するものに○をつけてください。

(○印はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 同期に同年齢で入社した男女で賃金昇給の差がある | |
| 2. 社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある | |
| 3. 定年の年齢に男女差がある(慣行を含む) | |
| 4. 女性は昇進・昇給が遅い、または望めない | |
| 5. 女性が結婚や出産を機に退職する慣行がある | |
| 6. 女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある | |
| 7. 女性は補助的な仕事に従事する傾向がある | |
| 8. お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い | |
| 9. その他(具体的に: _____) |) |
| 10. 特に男女格差はない | |

問18. 社会全体として女性が働きやすい状況にあると思いますか。(○印は1つ)

- | | | |
|--------------|--------------------|----------|
| 1. 働きやすい | 3. あまり働きやすいとはいええない | 5. わからない |
| 2. ある程度働きやすい | 4. 働きにくい | |

問19. 問18で「あまり働きやすいとはいええない」「働きにくい」と答えた方におたずねします。そう思う理由は何ですか。(○印は3つまで)

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない | |
| 2. 能力発揮の場が少ない | |
| 3. 働く場が限られている | |
| 4. 育児施設・サービスが十分でない | |
| 5. 昇進・教育訓練などで男女に差がある | |
| 6. 結婚・出産退職の慣行がある | |
| 7. 男性は仕事、女性は家庭という社会通念がある | |
| 8. 家族の理解、協力が得にくい | |
| 9. 職場や職場の周りの人々の協力が得られにくい | |
| 10. セクシュアル・ハラスメントの被害にあうことがある | |
| 11. その他(具体的に: _____) |) |

問20. あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えることのような影響があると思いますか。(○印はいくつでも)

1. 多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
2. 人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる
3. 女性の声が反映されやすくなる
4. 国際社会から好印象を得ることができる
5. 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
6. 男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる
7. 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
8. 男性の家事・育児などへの参加が増える
9. 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる
10. 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
11. 保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する
12. その他(具体的に: _____)
13. 特にない
14. わからない

《教育についておたずねします》

問21. 子どもの育て方についてのあなたの考えをおたずねします。(○印は1つ)

1. 男の子だから、女の子だからということを重視して育てる方がよい
2. 性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい
3. どちらともいえない
4. その他(具体的に: _____)

問22. 男女共同参画社会を実現するために、学校教育の場でどのようなことが大切だと思いますか。(○印は3つまで)

1. 心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する
2. 互いのよさを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する
3. 性別にかかわらず生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う
4. 学校生活で性別により固定化された役割分担をなくす
5. 教職員の男女共同参画意識を高める研修を充実する
6. PTAなどを通じて、男女共同参画意識を高めるための啓発活動を充実する
7. 学校のクラス名簿に男女別名簿でなく男女混合名簿の導入を推進する
8. 女性の校長や教頭を増やす
9. 今のままでよい
10. その他(具体的に: _____)

《女性の政策参画についておたずねします》

問23. 次の①～④の各分野でその方針や政策を決めるとき、女性の意見はどの程度反映されていると思いますか。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらでもない	わからない
①職場で	1	2	3	4	5	6
②地域社会で	1	2	3	4	5	6
③市政・県政の場で	1	2	3	4	5	6
④国政の場で	1	2	3	4	5	6

問24. 現在、わが国の政策や方針決定過程への女性の参画状況は先進国の中で特に低くなっています。政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由はなんだと思いますか。(○印はいくつでも)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識 2. 男性中心の組織運営 3. 女性の能力開発の機会が不十分 4. 女性の活動を支援するネットワークの不足 5. 女性が積極的でない 6. 家族の理解や協力が無い 7. その他(具体的に: _____) 8. わからない

問25. 女性の意見を政治や行政に十分反映させるためには、どのようなことが最も効果があると思いますか。(○印は2つまで)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性議員が多くなること 2. 官公庁での管理職や審議会等の委員など公職に就く女性が増えること 3. 一般の女性の自主的な活動が盛んになること 4. 女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること 5. 女性の能力開発の機会を設けること 6. 女性自身の政治への関心を高めること 7. その他(具体的に: _____) 8. わからない
--

《人権・暴力についておたずねします》

次のドメスティック・バイオレンス（DV）についての説明を読んだうえで、お答えください。

ドメスティック・バイオレンスとは、一般的には、配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者からふるわれる暴力をいい、身体的（なぐる、物を投げつける等）、精神的（暴言をはく等）、経済的（生活費を渡さない等）、性的（性的行為を強要する等）行為など様々な形態があります。

問26. 配偶者等からの暴力は、多くの場合、女性が被害者となっています。このような配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、あなたはどのように思いますか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)				
① ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為である	1	2	3	4
② どんな理由があっても暴力はふるうべきではない	1	2	3	4
③ 暴力をふるわれる方にも問題がある	1	2	3	4
④ 暴力をふるう相手と別れたいのであれば、いつでも別れられると思う	1	2	3	4
⑤ 暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ	1	2	3	4
⑥ 夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである	1	2	3	4

問27. 現在または過去に配偶者（結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む）がいる（いた）方におたずねします。

(1) これまでに、あなたの配偶者（結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む）から次の①～③のようなことをされたことがありますか。

	まったくない	1・2度あった	何度もあった
※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)			
① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3
② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
③ 避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

↓
次ページの(2)へ

(2) 問27(1)で「1・2度あった」「何度もあった」と答えた方におたずねします。

① その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。(○印は1つ)

- | |
|-------|
| 1. ある |
| 2. ない |

② 問27(1)のような暴力を、現在(この1年間を含む)も受けていますか。(○印は1つ)

- | |
|-----------------------|
| 1. 現在(この1年間を含む)も受けている |
| 2. 受けていない |

問28. あなたの10歳代から20歳代の経験についてお聞きします。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。あなたは、その当時、交際相手がありましたか。あてはまる番号に○をつけてください。(○印は1つ)

- | |
|--------------------|
| 1. 交際相手があった(いる) |
| 2. 交際相手はいなかった(いない) |

問29. 問28で「交際相手があった(いる)」と答えた方におたずねします。

(1) あなたは、10歳代または20歳代に、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次の①～③のようなことをされたことがありますか。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	まったく ない	1・2 度あ った	何 度 も あ っ た
① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3
② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
③ 避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

(2) 問29(1)で「1・2度あった」「何度もあった」と答えた方におたずねします。

その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。(○印は1つ)

- | |
|-------|
| 1. ある |
| 2. ない |

問30. 問27(1)または問29(1)で「1・2度あった」「何度もあった」と答えた方におたずねします。

あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○印はいくつでも)

1. 家族に相談した
2. 友人・知人に相談した
3. 行政機関(鹿児島市男女共同参画センター(サンエールかごしま相談室)、鹿児島県男女共同参画センター、鹿児島市女性相談室、鹿児島県女性相談センター、福祉事務所、保健所、法務局など)に相談した
4. 警察に連絡・相談した
5. 学校(教師、養護教諭、スクールカウンセラーなど)に相談した
6. 弁護士に相談した
7. 医師に相談した
8. 民間のカウンセリングルームに相談した
9. その他(具体的に: _____)
10. どこ(だれ)にも相談しなかった

問31. 問30で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。

どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(○印はいくつでも)

1. どこ(だれ)に相談してよいのか分からなかったから
2. 相談する人が近くにいなかったから
3. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
4. 相談しても無駄だと思ったから
5. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
6. 相手に「誰にも言うな」と脅されたから
7. 子どもに危害が及ぶと思ったから
8. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
9. 自分にも悪いところがあると思ったから
10. 個人的なことなので、人に相談せずに自分で解決しようと思ったから
11. 担当者の言動により不快な思いをすと思ったから
12. 世間体が悪いから
13. 他人を巻き込みたくなかったから
14. 他人に知られると、これまでの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから
15. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
16. そのことについて思い出したくなかったから
17. 相談するほどのことではないと思ったから
18. 家族なのだから我慢するよう言われるのではないかと思ったから
19. 相談することによって自分の望まない結果になるのではと思ったから(離婚・別居など)
20. その他(具体的に: _____)

問32. 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(○印はいくつでも)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う2. 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う3. 地域で、暴力を防止するための研修会・イベントなどを行う4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす6. 警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う7. 暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う8. 加害者への罰則を強化する9. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターゲームなど）を規制する10. その他（具体的に： _____)11. 特になし |
|--|

問33. テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピューターゲーム等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。(○印はいくつでも)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく2. 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている3. 性的犯罪を助長する4. 過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない5. 男女のイメージを固定化することを助長するような表現をしている6. その他（具体的に： _____)7. 特に問題はない8. わからない |
|---|

《男女共同参画に関する用語についておたずねします》

問34. 男女共同参画に関連の深い次の言葉をこれまで知っていましたか。①～⑭それぞれについてお答えください。

	言葉も内容も知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない
※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)			
① 男女共同参画社会基本法	1	2	3
② 女子差別撤廃条約	1	2	3
③ 男女雇用機会均等法	1	2	3
④ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)	1	2	3
⑤ 育児・介護休業法	1	2	3
⑥ ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3
⑦ ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)	1	2	3
⑧ エンパワーメント	1	2	3
⑨ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	1	2	3
⑩ ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
⑪ ダイバーシティ	1	2	3
⑫ 鹿児島市男女共同参画計画	1	2	3
⑬ 男女共同参画都市かごしま宣言	1	2	3
⑭ 鹿児島市男女共同参画条例	1	2	3

※ 別紙で用語解説を同封しています。

《行政についておたずねします》

問35. 「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、行政はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。(〇印はいくつでも)

1. 法律や制度の面での見直しを行なう
2. 女性を政策や方針決定の場に積極的に登用する
3. 女性団体や女性のリーダーを養成する
4. 職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行なう
5. 女性の就労の機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促進するための職業教育や訓練を充実する
6. 男女が共に家庭と仕事を両立できるような労働環境の整備を行なう
7. 保育所や児童クラブなどの施設や育児サービス、制度の充実を図る
8. 高齢者や障害者に対する施設・介護支援などの福祉政策を充実する
9. 学校教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
10. 女性や男性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実する
11. 各国の女性との交流や情報提供など国際交流を推進する
12. 広報誌やパンフレット等による啓発や、講演会や講座等を充実する
13. その他(具体的に：)
14. 特にない

問36. 男女共同参画に対するご意見やお考えを自由にお書きください。

※ 本調査は、ご回答者のプライバシーを尊重する観点から無記名方式でお願いしております。個別の回答が必要な「相談」や「質問」については、鹿児島市男女共同参画推進課へ直接お問い合わせください。

《あなたやあなたのご家族についておたずねします》

F 1. あなたの性別はどちらですか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F 2. あなたの年齢（満年齢）を教えてください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1. 20～24歳 | 4. 35～39歳 | 7. 50～54歳 | 10. 65～69歳 |
| 2. 25～29歳 | 5. 40～44歳 | 8. 55～59歳 | 11. 70歳以上 |
| 3. 30～34歳 | 6. 45～49歳 | 9. 60～64歳 | |

F 3. あなたのお仕事についておたずねします。

あなたは、この中のどれにあたりますか。（○印は1つ）

- | | | |
|---|----------|------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 雇用者（役員を含む） | 3. 家族従業者 | 5. その他の無職（学生を含む） |
| 2. 自営業主（家庭内職者を含む） | 4. 主婦・主夫 | |

F 4. F 3で「雇用者（役員を含む）」と答えた方へおたずねします。そのお仕事は常勤（フルタイム）ですか、パートタイムですか。

- | | |
|----------------------------|--------|
| 1. 常勤（フルタイム） | 3. その他 |
| 2. パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他） | |

F 5. あなたは結婚していらっしゃいますか。（○印は1つ）

- | | | | |
|--|-------|------------|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 結婚している（結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む） | | | |
| 2. 離別 | 3. 死別 | 4. 結婚していない | |

F 6. F 5で「結婚している（結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む）」と答えた方へおたずねします。ご夫婦の職業の有無について、この中のどれにあたりますか。（F 3で雇用者（役員含む）、自営業主（家庭内職者を含む）、家族従業者と答えた方は職業があるものとしてご回答ください。）

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. どちらにも職業がある | 3. 配偶者にのみ職業がある |
| 2. 自分にのみ職業がある | 4. どちらも職業がない |

F 7. あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

～ご協力ありがとうございました～

ご記入漏れがないかももう一度ご確認の上、同封の返信用封筒に入れ、
9月25日（金）までにご返送くださいますようお願いいたします。

●用語解説●

用語	内容
男女共同参画社会基本法	男女共同参画社会の形成を推進する上で、法的根拠となる法律です。1999年6月に制定されました。前文では、男女共同参画社会の実現を21世紀のわが国社会を決定する最重要課題と位置づけ、社会のあらゆる分野において、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の推進を図っていくことが明確にされています。
女子差別撤廃条約	1979年に国連総会で採択されました。わが国は、1984年の国籍法の改正、1985年の男女雇用機会均等法の制定、家庭科教育の見直しなどの条件整備を経て、1985年に批准しています。あらゆる分野の性差別を許さず、男女平等の実現には男女の伝統的役割の変更が不可欠であるとしています。
男女雇用機会均等法	雇用分野における男女の均等な機会及び待遇の確保を図るとともに、女性労働者が性別により差別されることなく、かつ母性を尊重されつつ充実した職業生活を営むことができることを目的としています。1986年4月に施行されました。
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）	配偶者からの暴力についての通報、相談、保護、自立支援等の体制を整備し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的とする法律です。被害者が男性の場合や、同居の恋人からの暴力もこの法律の対象となります。
育児・介護休業法	仕事と家庭の両立を図るため、1991年に育児休業法が成立し、その後介護休業が加えられました。育児や介護を行う労働者の仕事と家庭との両立をより一層推進するため、両立を支援する各種制度の充実が進められています。
ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	様々な分野において、活動に参画する機会の男女間の格差を解消するため、必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するものです。例として、審議会等委員への女性の登用のための目標の設定などがあります。
ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）があります。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー／gender）といいます。「社会的・文化的に形成された性別」は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われています。
エンパワーメント	政治、経済、社会、家庭などのあらゆる分野で、自分たちのことは自分たちで決め行動できるような能力を身につけること。またはその能力を引き出すこと。女性自身が企画や政策・方針決定の場に参画し、社会を変えていく力を身につけることとして、女性問題の取組の中で重要視されています。
リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）	人間の性と生殖に関するすべての側面において、単に疾病や障害がないというだけでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態にあること。また、安全で満ち足りた性生活を営むことができ、いつ何人子どもを産むか（産まないか）を決める自由と責任を持ち、そのための情報と手段を得ることができるという基本的権利。
ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活の調和のことで、実現に向けて官民一体となった取組が進められています。仕事と生活の調和が実現することにより、男性も女性もあらゆる世代の誰もが仕事や子育て、介護、自己啓発、地域活動など様々な活動を自分の希望するバランスで展開でき、仕事の充実と仕事以外の生活の充実が好循環をもたらすとされています。
ダイバーシティ	「多様性」のことで、性別や国籍、年齢などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会といいます。
鹿児島市男女共同参画計画	本市の男女共同参画社会の形成を目指す行動計画で、現在の第2次計画は、平成24年度から33年度までを計画期間としています。3つの基本目標の実現に向け、5つの視点に立って市民と行政が一体となった取組を進めています。
男女共同参画都市かごしま宣言	鹿児島市男女共同参画センターの開館を機に、平成13年1月30日、本市における男女共同参画社会の実現を目指して市民と行政が一体となって推進することを宣言しています。
鹿児島市男女共同参画推進条例	男女共同参画の基本理念を明確にし、市民、事業者、行政が一体となった取組をより一層推進するため、平成26年4月1日に施行されました。市、市民、事業者、市民団体、教育に携わる者の役割や、男女共同参画を阻害する行為の禁止などが盛り込まれています。

男女共同参画に関する市民意識調査
報 告 書

鹿児島市市民局市民文化部
男女共同参画推進課

〒890-0054 鹿児島市荒田1丁目4番1号

TEL 099-813-0852

FAX 099-813-0937